

日本会創立五十周年

記念誌

日本鍍金協会十日会



# 十日会創立50周年を迎えて



十日会 会長  
遠藤 清孝

十日会は創立以来ここに50年を迎えます。

半世紀という大きな節目に際し、50年の歴史をここで一度ふり返り、先人が歩まれた足跡を道しるべとして記念誌を発刊することとなりました。

歴史は進歩の鏡であり、人類だけがもつ貴重な財産です。人の記憶は月日とともに薄れがちですが、これを記録にとどめ発展と融和の礎としていくことは大変意義深いことあります。50年が経過した今、二世三世の若い会員にとって会の歴史を顧み、先人の足跡を辿ることは非常によい機会となりました。

十日会は、故高浜二郎先生の呼びかけにより昭和23年11月15日小石川後楽園涵徳亭において、志を同じくする者9名が会合したのが始まりであります。引き続いて二回目の会合を東京鍍金組合の事務所を開き、毎月十日を例会日と定め、会の名称をこれに因んで十日会と名付けたのであります。

当時のことを記念誌「十日会20年の回顧」の中でこう記してあります。『まだ戦後の混迷期で、戦火の傷痕がそのままであり、総べての日本国民が失意のどん底の時代がありました。このような時、高浜二郎先生は「青年が決起せねばならない時がきている」と意気に燃え、若き青年の団結を呼びかけたのであります。こうした会合の目的は、長い戦争によって諸外国との間につけられためっき技術の格差を一日も早く取り戻すことにあったことは勿論であります。たとえ学んだ学校が別々であっても、一堂に会して勉強するならば、新しい技術に関する理解はさらに早まるはずであり、また同業者として親睦の度が深まるならば、きっとめっきの業界を勇気づけるであろう。そして、将来、公私の行動においてお互いに意見を討論すること、それらの意見がうまく噛み合うように司会すること、また、一旦決まることに対する積極的に協力することという、これらの修練を技術研究の場において、さり気なくやっているこうとしたのであります』これが十日会の創立の精神であり、現在の会活動の基本となっています。

その後、会員の増加とともに昭和25年に本郷湯島に会員の拠出金によって東京鍍金会館が建設されました。先輩諸兄はここを修練の場として、また心の拠りどころとして思う存分の活動をされました。昭和36年には大阪鍍友会（現在の青研会）、名古屋名鍍会とともに日本鍍金協会を結成し、互いの交流が始まり、以降も業界の次代を担う若き経営者、指導者の全国的な業界団体組織として活発な交流が続いている。そして、昭和42年に、東京の四つの組合が大同団結して東京都鍍金工業組合に一本化されると、会館を売却して同組合に教育機材、研究機材を寄贈したのであります。また、このとき十日会創立20周年基金を設立し、この基金の表彰が『十日会賞』となったのであります。

その後も、十日会が歩み続けた50年の星霜には、時代、時代の社会、経済情勢を反映した数々の活動の歴史が刻まれています。

これまでの先輩諸兄が常に業界の先駆者として活動された偉大な事跡に対しまして、深い感謝と深甚なる敬意を表するものであります。

“温故知新” ということばがあります。昨日よりも今日、今日よりも明日へと着実に前進するための

大切なおしえであります。十日会が歩んできた道程をふり返り、どのようにして今日があったかを知り、十日会のこの50年を次の60年のためにつなげていくことは非常に重要なことであり、次代を担う者にとっての大きな使命であります。このことを肝に銘じ、これからの中日会の新たなる10年の歴史を築いていきたいと思います。

さて、現在の日本経済は平成大不況の最中にあり戦後最悪の状態にあります。大倒産時代の到来といわれ、淘汰の波が押し寄せています。このような歴史的な変革の時に私たちめっき業は、どんな生き方をすればいいのか、どうすればこの危機を乗り越え、新しい時代を迎えることができるのか。業界全体が大きな岐路に立たされています。

私たちはこのときあたり、創立の精神を思い起こし、十日会の歴史と伝統を誇りとし、先輩諸兄が残された足跡を絶やすことなく、団結をいっそう強固にし、21世紀に向けて業界発展の推進力として活動していきたいと思います。

最後にこの記念誌の編集にあたり、会員ならびに関連業界各位から賜りましたご協力に対し、衷心より感謝申し上げ発刊のことばといたします。

# 十日会50周年を迎えて



十日会50周年実行委員会 委員長  
山田 英佐夫

ついに十日会も創立以来50年を迎えることができた。50年前といえば私はまだ生れておらず、戦後まだ間もない頃、原材料も設備もない頃だった。高浜先生と当時の会員たちは熱心な研究とお互いの研鑽で幾多の困難を乗り越え、現在の十日会の礎を築いた。創立の精神は「めっきを天職とすることによって、日本に奉仕する」だった。当時の時代背景を考えるとその精神は非常に高潔に思える。

その後、会館設立、ブラウント氏の指導、日本鍍金協会の設立と順調に発展していった。研究のテーマも設立当時の個別技術から光沢めっき、自動機械、経営手法等と変化した。その経過を見るとめっき業界の技術の向上と組織の進化をうかがい知ることが出来る。

この50年の間、十日会は着実に発展してきたが、世の中の景気は好不況を繰り返してきた。神武景気、金融引き締め、ナベ底景気、岩戸景気、石油危機そしてバブル。会員は世の中の荒波にもまれながらも着実に会の発展に寄与してきた。あらためて十日会の歴史をひも解くと会員の熱意と努力には頭の下がる思いがする。

この度、50周年実行委員長を拝命し、十日会の歴史に新たな一步を刻むことになり、その重責に日夜思い悩んでいる。幸い多くの諸先輩の励ましと実行委員諸氏のご協力に支えられ準備は順調に進んでいる。

この記念誌を発刊するに当たっては編集委員長の繩田敏治氏のご努力は大変であった。また、編集委員諸氏の努力もそれに劣らぬものがあった。記念誌発刊という作業は会員としては十日会を振り返る良い機会となった。委員の中には十日会の歴史の中に自分の父親の名前を見出し、その功績をあらためて確認したものもいる。委員諸氏はこれを機会に十日会に対する思い入れを新たにすることが出来たであろう。今後の十日会を担っていく人たちの前途を祝福したい。

さて、わたしたちは十日会の諸先輩同様、めっきを使命として生きているわけであるが、十日会設立当初およびそれ以降に比べバブル崩壊以後、世の中の流れが急に変わってしまった。ものづくりの構造が変化し、ものづくりの喜びが失われつつあると思われる。ものづくりの充実感、達成感を体験することなく一生を終えてしまうひとも大勢いるであろう。すべての面で行き詰まり、混迷を深めているこの時代にあって、わたしたちはものづくりとは何なのか、ものづくりを通して世の中にどれだけ貢献できるのかを考えてみたい。十日会の設立時の精神、日本鍍金協会の綱領の精神をもう一度かみしめることが必要である。その経過を通して今後の十日会の方向性が見えてくるのではないだろうか。

最後になるが、十日会をここまで発展させてくださった、諸先生、諸先輩、また、側方から支援していただいた東京都鍍金工業組合、事務局の方々に感謝申し上げる。

## 目 次

【題字は福井通祐氏揮毫】

十日会創立50周年を迎えて	十日会 会長	遠藤清孝…… 1
十日会50周年を迎えて	十日会50周年実行委員会 委員長	山田英佐夫…… 3
目 次		4
祝 辞		7
創立50周年を祝う	東京都鍍金工業組合 理事長	瀬田新二…… 9
十日会創立50周年を迎えて	東京都鍍金工業組合 名誉顧問	吉川弘二…… 11
技術・経営集団「十日会」に期待する	東京都立大学名誉教授 理学博士	田島 栄…… 13
50年史発刊に寄せて	社団法人日本表面処理機材工業会 会長	橋本康彦…… 15
「50周年記念誌」の発刊に寄せて	日本鍍金材料協同組合 理事長	小松康宏…… 16
十日会50周年に向けて	日本鍍金協会 会長	神谷博行…… 17
十日会50周年にむけて	名鍍会 会長	鈴木泰造…… 18
50周年おめでとうございます	青研会 会長	野村重之…… 19
 年 表		21
回 顧 錄		41
昭和63年度会活動の回顧	光陽鍍金(株)	菊池忠男…… 43
平成元年度会活動の回顧	"	..... 53
平成 2 年度会活動の回顧	(株)三恵工業所	石川雅一…… 63
平成 3 年度会活動の回顧	"	..... 76
平成 4 年度会活動の回顧	(株)東電工舎	山田英佐夫…… 86
平成 5 年度会活動の回顧	"	..... 102
平成 6 年度会活動の回顧	"	..... 114
平成 7 年度会活動の回顧	(有)繩田鍍金工業所	繩田敏治…… 131
平成 8 年度会活動の回顧	"	..... 142
平成 9 年度会活動の回顧	(有)朝日鍍金工場	遠藤清孝…… 153
 寄 稿 文		171
創立当時の会員の一人として	福井電化工業(株)	福井通祐…… 173
十日会50周年に想う	株中央メタル	仲俣一三…… 175
創立50周年に向けて	デグサジャパン(株)	村楨利弘…… 177
さまざまな50年	東京都立産業技術研究所	土井 正…… 179
十日会五十周年	八幡鍍金工業(株)	八幡順一…… 181
十日会と青春	トキワ(株)	小林邦雄…… 183
十日会で出会った人々	(株)梅田鍍金工業所	永田一雄…… 185
想いで	光陽鍍金(株)	菊池忠男…… 187
十日会と自分への反省	(株)三恵工業所	石川雅一…… 189

私と十日会	(株)大沢鍍金工業所	大沢俊孝……191
十日会との出会い	(株)中央メタル	仲俣雅行……192
更なる自己啓発を誓う	シルバーメッキ工業(株)	斎藤晴久……194
おいしい十日会	菊地鍍金工業	菊地利博……196
五十周年に思う五十年後	(有)大森広尾鍍金工場	志田和陽……198
十日会、偉大なる五十周年とこれから	光鍍金工業(株)	内田悦美……200
私にとっての十日会	(有)小島鍍金工業所	小島一浩……201
十日会と私	ミナモト電機(株)	梅田高広……203
 思いでのスナップ .....		205
THE TENDEES .....		217
十日会ゴルフコンペ成績表 .....		219
十日会賞 .....		223
十日会会則 .....		227
十日会会員名簿 .....		229
編集後記 .....		249



# 祝辭



# 創立50周年を祝う



東京都鍍金工業組合 理事長

瀬田 新二

創立50周年を迎えるにあたり、誠におめでとうございます。また、式典の挙行に加えて、記念誌を刊行されることに対して、重ねてお祝い申し上げますとともに、実行委員会のみなさまのご労苦に、深く敬意と感謝をいたす次第です。

私と十日会との関係は、さして深いものはございませんが、思い出しますと昭和30年代だったでしょうか、皆さんと一緒にあちこちとまわった記憶があります。十日会との繋がりはその程度でしたから、あまりお役には立てなかった訳ですが、しかし、創立して早くも50年と伺うと、そんなにたったか、と自分の年齢を忘れて、率直に驚きの気持ちが湧いてきます。過去に創立30年記念に「30年の歩み」、40年に「40年の足跡」が刊行されています。いま、改めて取り出して拾い読みをしてみると、そういうこともあったな、などと当時が懐かしく思い起こされ、感慨深いものがあります。

会を創立した昭和23年は、敗戦の年から僅か3年目でしたから、世相も混乱を極め、灰燼の中からやっと復興に向けて新生日本が動きだした時期です。そういう時代背景のもとに「めっきを天職とすることによって、日本に奉仕する」を創立精神とした十日会が発足したのですが、いまと違って何でも無い無いづくしの中での行動ですから、なおさら精神の崇高さが光ります。先人たちのご苦労が偲ばれるとともに、若々しさを感じるのはおそらく私だけではないと思われます。

50年が経過したいま、この崇高な創立精神は脈々として、十日会に受け継がれ、生きていることを、私は信じてやみません。

この半世紀、めっき業界も山あり、谷ありで、概して多難な時代の連続でした。十日会も同様です。その時に会の運営に当たってこられた多くの先輩諸氏に、改めて感謝せざるを得ません。

今日、我々めっき業界を取り巻く経営環境は、誠に厳しいものがあります。バブル経済の崩壊後に迎えた不況は、政府が言う緩やかな回復が期待されたものの、昨年の消費税率改訂で実現せず、さらにアジア各国の通貨の混乱もあって、最近は不況色が一層、深まった感さえあります。政府は命運をかけて景気回復策を打ち出しましたが、効果はこれからです。このような経済情勢を反映して、組合員の法定脱退が相次いでいます。

環境問題では、大気汚染防止のための自主管理がスタートしていますし、近頃、にわかに俎上に上ってきたニッケル、ほう素については、電気めっき業界がピンチに陥るおそれがあります。特にほう素については、除去技術がなく、対処の方法が見当らないのです。

この問題については、我々として多角的な取り組みが必要だと考えていますが、そのひとつとして、公設試験研究機関に「ほう素を使用しないニッケルめっき浴の開発」をお願いしました。

めっきを天職としたくとも出来なくなってしまった多くの元組合員たちに思いを巡らせると、無念さを隠せません。

我々は、零細企業といえども、受電設備をもっています。排水設備もあります。こんなユニークな業界は他にありません。これを活かさない手はありませんまい。トリクロロエチレンなどの有機溶剤を、めっき作業では前処理と乾燥に使っていま

すが、この工程を地域ごとに特定施設に集約して拠点化し、めっき業界から有機溶剤をなくすのが夢です。もちろん特定の施設は、クローズド化することが前提ですが、ここで元組合員に再登場願えればと考えています。

天職を全うするためには、いろいろと考えなければなりません。そのことは私が理事長を拝命した折りに申し上げ、お願いもいたしました。

ここ一・二年は、業界にとって重要な年になるかもしれません。迫りくる壁の高さ、厚さも過去にないものかもしれません。

十日会は、若々しさを伝統とする会です。かよ

うな時期であればこそ、私は十日会と所属会員の皆様にご期待申し上げるのです。

さて、十日会の次の大きな区切りは、創立百年です。そのときめっき技術と我々業界の様子は、イメージしにくいのですが、めっきを天職とする創立精神に変わりはないと思います。しかし、日本に奉仕するでなく、世界あるいは全人類に奉仕するめっきをめざして頂きたいと思っています。

最後になりましたが、十日会のますますのご発展を祈りまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

# 十日会創立50周年を迎えて



東京都鍍金工業組合 名誉顧問

吉川 弘二

十日会は日本のめっき産業が未だ敗戦の疵痕癒えぬ昭和23年に当時のめっき業界の月刊誌「鍍金」の主筆であり且つ「めっき語源考」の著者であった高浜二郎氏のすすめによって「めっきを天職とすることによって日本に奉仕する」という大変崇高い信条の下に発足しためっき業界の二世の「技術研究団体」とうかがっております。

爾来数多くの立派な足跡を東京の鍍金業界にはもとより日本鍍金協会等の活動を通して日本の鍍金業界にも残してこられましたがこのたび創立50周年を迎えられましたことは誠にお目出度く心からお慶び申しあげます。

私は予てより十日会が残された数多くの足跡のうち次の数点を高く評価いたしております。

(1) 発足当時米国極東空軍の技術セクションに勤務のため在日しておられた当時の米空軍技術中佐エズラ・エー・ブラウント氏の技術指導を何の拘りもなく積極的に受けて長かった戦争によって国際的技術水準から大きく遅れをとっていた我国のめっき技術を短期間のうちに立戻らせた上にアメリカのめっき業界との友好親善の懸橋になられたことであります。

昭和56年3月26日東京の赤坂プリンスホテルでおこなわれた在京有志による「ブラウントご夫妻を囲む会」の席上で私が全鍍連会長の代理として私の友人の娘さんの美事な通訳でブラウントさんに感謝の意を述べ特別功労章をお渡ししたことがつい先頃のことのように思い出されます。

(2) 十日会の活動の拠点となっていた本郷湯島新花町の高台にあった十日会所有の会館建物等を売却されて得たお金をそっくりそのまま東京のめっ

き業界組織が一本化されて誕生した東京都鍍金工業組合に鍍金技術・技能の向上のための資金にと寄贈されたという前代未聞の快挙であります。寄贈された資金の一部は「十日会賞」の基金として活用されることになりましたがそのお蔭で東京のめっき業界の振興発展に夫々の分野で貢献された方々を毎年表彰することが出来ましたし今後も幾久しく表彰しつづけることと存じます。

(3) めっき技術のみならず中小製造業者が生き続けていくために必要な知識全般に亘る勉強会を企業を取り巻く経済・経営・環境の変化に適確に対応して実施し多くの有能な人材を養成しめっき業界に送り出されました。

いまや東京のめっき業界は十日会の二世三世によって指導運営されているといっても決して過言ではありません。

(4) 都道府県の鍍金工業組合によって構成されている全国鍍金工業組合連合会を一枚の布を織りなす縦糸とすれば東京の十日会名古屋の名鍍会大阪の青研会によって構成されている日本鍍金協会は横糸として日本のめっき業界の組織強化や良好な人間関係の構築に多大の貢献をされてこられました。

(5) 逸早くめっき業界の中におくさまや子供さんなどを交えた家族ぐるみのお付き合いという大変ヒューマニティーに富んだ気運を醸成されてされました。

私が東京都鍍金工業組合の理事長を退任した折にはわざわざ送別の宴を催していただいた上に“必ず入るバター”をご寄贈賜りましたが特に“人情の十日会”であります。

今日、めっき業界は明日の見えない平成不況の下、経済のグローバル化に起因する産業の空洞化、少子化、高齢化、若ものものづくり離れ、受注先の優越的地位の濫用、金融機関の貸し渋り等々、大変厳しい局面に立たされております。

どうか創立50年を期に今一度“めっきを天職とすることによって日本に奉仕する”という創立の精神に立ち戻られ50年前と同様に21世紀に向けて

日本のめっき産業の牽引車としての役割を果していただきたく切にお願い申しあげる次第であります。

終りに長年に亘りご指導・ご高説を賜りました今は亡き鶴飼義一・後藤哲夫・小林憲・井上喜夫・八幡健・木下文良・直海和夫さま方のご遺徳を偲び十日会創立50周年を迎えての記といたします。

# 技術・経営集団「十日会」に期待する



東京都立大学名誉教授 理学博士

田 嶋 栄

「十日会」は1948年の創立以来、数回の記念行事と記念誌発行を行ない、追憶・訪米記などは既に多くの方によって記されている。私も本会でいろいろな経験をし且つ学んだが、この機会に本会の将来について、その活動・発展を期待し、最後にその根拠の一つを挙げてみたい。

十日会は創立初期には、戦後の復興の意気込み目ざましく、在来技術の反省、海外技術の調査、講演聴取、訪問、学習、見学などに努力が向けられ、その頃の焦眉の急の技術として、銅、ニッケル、クロムなどの二層、三層、高速度、光沢めっきをとりあげ、これは主として自転車・自動車部品の自動連続装置として定着したが、これに要する機器即ち回転・エレベーターシステム、濾過器、攪拌機、隔膜、分析機器など電源（PR変調波発生装置）治具、光沢剤、レベラーなどのメーカーの督励、学習、見学に、相当部分のエネルギーが費されたことと思う。当時立入ってきた既成業界、商人などのボスが少数いたと聞いたが、若かった十日会の会員はほとんど接触することもなかつたようで大変賢明だったと思う。未曾有の大戦で疲弊の極にあった日本の当時の状況の下に、十日会がその若さを以って結集し、50年の風雲に堪えて基礎を不動のものとし、後継者を着実に得てすることは、月例会を中心とした活動と、家族を含めた和楽の伝統が魅力的であることを物語っている。今後21世紀に向けて自己啓発、進取、相互協力の精神を以って時代の要請に見合った方向に進んでいただきたいものである。

現在電気めっきは無電解めっきに変わるすう勢にあり、プラスチック上のめっき、電磁遮へいめっ

き、硬度、強度、耐食性にすぐれた無電解めっきが次々に現れつつある。この無電解めっきはワシントンのNBS（米標準局）A・ブレンナー博士の発明した「連続型化学ニッケルメッキ法」（1946年）に原理を置いている。私はこれを今世紀最大の発明の一つと思っている。私はNBSを1961年に訪れているが、その立派な人物に感服し、同氏の要請を受けて、昔からある還元法金、銀、銅めっき（厚くできない）を含めて日本に現れた化学めっきの特許（同博士が調査して時々送ってきたもの）の英訳をほぼ10年程かかってし上げた経験がある。彼はソ連の文献も調査しており、イスラエル・インドの協力を得て英訳し、それを発行させている非常に熱心な模範的官僚である。私に対する礼のつもりか、私はソ連本の英訳書を10部位もらった。著名なバクラミアン・トマショフ（硬質クロムめっき、硬質アルマイド、電気防食）などの本である。

近年デンマークあたりからいい出されたニッケルアレルギーの問題は（始めに装身具ピアスから広がって今では欧州で電解ニッケルは禁止的制限ときくが、）米・日にも伝播し、代替として、銅-スズ合金（白銅）めっきなどが行なわれようとしている。このような業界の変容、進歩は絶えずおこっており、在来の銅板・鋼板に代って、プラスチックス、セラミックスのような絶縁体が素地として採用され、無電解は不可欠となり、バンパー、ボディーは塗装に変った。電子機器はテレビ、コンピューターを先頭として小型化をリードし、従つて電池の小型化もリチウム電池を始めとして激しい競争を演じている。つれて電極の合金化、無機導電体化、導電性ポリマー、精密塗装に対する要

求も激しくなり、戦後の大型めっきに対する需要とは逆に、材料が少なくてすみ、単価の高い、いうなれば十日会のメンバーの最も得意としそうな規模の業態に近づくのではないか、或いは、積極的に近づけるべきではないかという予感を私はもっている。

そこで十日会の現実にもどってみると、ここ数年来くすぶっていた動きが、上野・池の端あたりから一拠に具体化して、何とバンド「テンディーズ」の誕生となった。私はこの余裕に心から拍手を送ると共に、この「動」に対する「静」の余裕「習字の稽古」とは誠に對照的で床しい心がけと

かねて思っていたが、本日（編集部注、3月末日）早速原稿依頼状でお手並を拝見した。家内（香琳）〈編集部注、（香琳=雅号、本名美喜様）〉は拝見するなり即座に会員の「直筆」であると断定した。私は御覧のように直ちに御依頼の一文を草した。私は十日会のこの「動」と「静」の新しい動きを業界における「未踏」の「革新的余技」と感歎しており、発想において失礼ながら「ゴルフ・コンペ」の比ではないだろう。このスタミナは自然に本業に向うわけで、かくして十日会は余裕綽綽、新世紀の「技術経営集団」としての片鱗を、はからずもみせてくれたといえるであろう。

## 50年史発刊に寄せて



社団法人日本表面処理機材工業会 会長

橋本 康彦

日本鍍金協会・十日会におかれましては、このたび創立50周年を迎える、また記念誌を発刊されること、誠におめでたく心からお祝い申し上げます。

昭和23年11月、戦後間もない大変苦しい時代に発足され、以来絶えず変動する経済環境のなかにあって、50年の長きにわたり風雪に堪え研鑽を重ねられめっき工業界の技術の発展に大きな役割を果されました。その間歴代会長の方々をはじめ、役員の皆様は並々ならぬご苦労があったこととご推察申し上げます。

昭和30年代めっき工業は技術革新の時代になりました。そのリード役は自動車工業、電気製品産業などであり、その量産化に伴い、光沢めっき技術が急速に普及しました。またそれにつれて新しいめっき用薬品も開発され、めっき設備にも自動めっき装置が次々と設置されるようになりました。

昭和40年代に入ると公害問題に端を発して、めっ

き工場排水の規制基準は毒劇物規制から水質汚濁防止法へと進み、めっき業界あげてその対応に苦慮され、工場設備の全面的な見直しをすることとなりました。

昭和50年代は従来の装飾・防食めっきに続き、各種の機能めっきへとマーケットも拡大され、プリント基板、コネクターなどの電子機器部品・精密機械部品などのめっきが盛んになりました。

50年の歴史の中には、このような大きな節目があり、立派にのりこえてこられました。来るべき21世紀に向かって、めっき技術も各産業の新分野への開発が進むにつれ、より精密な、より高度なめっき皮膜を要求されるようになると考えられます。このような技術革新の時代を迎え、栄える創立50周年を契機とされ、貴会の益々の発展と会員皆様の一層のご繁栄を心から祈念し、お祝いの言葉といたします。

# 「50周年記念誌」の発刊に寄せて



日本鍍金材料協同組合 理事長

小松 康宏

めっき業界の発展に寄与することを目的に、故高浜二郎先生の呼びかけに応えて、昭和23年にめっき業界の若き二世達が集い「十日会」として歩みだしてから、ここに創立50周年の記念すべき節目を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

戦後の混乱期にもかかわらず、技術研究と同志的團結をもって天職に奉仕するとの理想を掲げ、めっき工業の再建と発展に立ち上がった十日会の半世紀の歴史は、まさに戦後のめっき業界の歴史と言ってもよく、業界が今日の隆盛を迎えることができましたのも、会員諸先輩の並々ならぬご努力の賜物といつても過言ではないと存じます。

十日会は開拓者の精神で業界の推進力となることをその精神に、技術の研究団体としてスタートして以来、今日まで、その精神を不変のものとして受け継ぎ、同志的親睦で伝統を築き上げ、貪欲なまでの技術志向というか技術追求という共通の土俵で「討論する、司会する、協力する」という三つの習練を通じて、めっき業界に多くの優秀な人材を生み出してきております。

また、大阪の青研会、名古屋の名鍍会との東西交流をはじめとして、工場視察や海外との親交等活発な事業活動を行ない、さらに、めっき業界の青年を中心に、材料商やメーカー等関連業界にも広く門戸を開放して、対等・平等を原則に、共に語り、学ぶという美風を維持されております。

めっきを「天職」とした同志愛で結ばれ、青年の情熱をもって集い、大いに語り、学ぶという十日会が発足当時から掲げた精神と今日までに培われた伝統は、これから時代を考えるとき、そこに謳われる開拓者精神こそ、きたるべき二十一世紀につながる道標（みちしるべ）となることを感じ入る次第です。

「研究室は研究の為の研究室ではなく、工場と直結した研究室として、外国の新しい技術の停留所とする。調査部は外国の文献を翻訳して、遅れた日本工業を一日も早く世界水準にもって行く、又出来れば外国業界との文通による交流をする。作業に疲れた体をクラブに運び、眼下に街の灯を眺めつつコップ片手に仕事の話をする内には、すてきな新工夫がビールの泡の中から飛び出して来そうである。」とは、湯島の岡の赤い屋根と親しまれた十日会のかつてのシンボル、東京鍍金会館の建設への雰囲気を、十日会二十周年記念誌（二十年の回顧）から引用したものですが、同じく「友有り、遠方より来れば、いつとはなく会員が集まって来て、縦談横談、自然にメリッキ大会になる。」との一文と共に、十日会の性格がよく表現されていると思います。

この精神と伝統を活かし、めっき技術革新の発信地として、十日会がさらなる躍進と歴史を刻み、次代に託すべき責任と使命を果たされますことを祈念し期待するものであります。

# 十日会50周年にむけて

日本鍍金協会 会長  
神谷 博行



十日会創立50周年おめでとうございます。

昭和23年に発足され戦後の物のない時代から十日会の先輩諸氏は、鍍金技術の研究、開発と苦労を重ねられ現在の鍍金業の基盤を作られたと言って良いと思います。

現在、日本経済は相次ぐ金融機関の破綻やアジア経済の混乱から過去に例を見ない危機的状況にあります。めっき業界にとっても受注の落ち込み、受注単価の低迷、収益性の悪化と最悪の時期を迎えていますが、既に経費の節減、リストラ、生産性向上と合理化のための設備投資など行っており、このような不況の状態で企業存続は大変難しい状況下にあり、バブル前に蓄えた資産も底が尽きようとしています。

資産の尽きぬうちに止めようと考えている企業経営者も多くなって来ているのが今の現状ですが、次期後継者が現場に入っている企業ほど止める止められなく悩みが多いと思います。私自身今大学一年生の息子が鍍金業を継ぐと言ってくれましたが、この不況の中で企業存続していくため、新たな考え方をもって取り組まなくてはならないと考えています。このような時に今何をすべきかを、一企業の考えだけでなく日本鍍金協会のような団体の中で、特に十日会をはじめ皆さんの知恵をお借りして今一度討論すべき時ではないかと考えています。

一方、新たな排水規制が掛かろうとしています。その一つにニッケル、ホウ素の問題がありますが、ニッケルの規制は無電解ニッケルなど錯塩を含むめっき液を自社で処理するのは、処理施設の増設する場所もなく回収分離して業者に委託するかイオン交換を使うなど、ホウ素についてはイオン交

換を使っても、その他の物質のほうが多く吸着され経費が掛かりすぎ、ホウ素を使用しない鍍金液の開発を急がないと水で薄めるしかない状況の、東京など下水道に流す所では料金が掛かり大幅なコストアップになってしまいます。特にホウ素は自然界の中で温泉にかなりの量が含まれており、また海の中でも存在しています。この様なことからもニッケル、ホウ素の規制はできる限り避けられるよう政治力を借りてでも阻止しなければ、ニッケルめっきを使うめっき業は存続の危機に直面すると思います。

会の運営も研修会、講演会、親睦会とお忙しいと思いますが、その中で会員相互の親睦を図り、鍍金技術、経営技術の研究、人格形成の場として活躍され、後に続く後輩、企業後継者の育成にも努力して頂き、合わせて日本鍍金協会の東京、名古屋、大阪及び関連諸団体との連携を深めて、十日会ここにありと言われるよう活躍を期待いたします。

終わりに十日会が歴史的にも意義深い50周年を迎えられ、心新たに会員相互の団結を固めて、二十一世紀の鍍金業界の発展向上に寄与されることを祈念して祝辞とさせて頂きます。十日会50周年誠におめでとうございます。

# 十日会50周年にむけて



名鍍会 会長  
鈴木 泰造

十日会創立50周年おめでとうございます。十日会と名鍍会は、創立に10年の開きがあり本年は、十日会の50周年と、我々名鍍会40周年と、10年時期に、一緒に、お祝いが出来ることを、たいへんうれしく思っています。50年間、半世紀を振り返って見た時、10年ごとに、大変な節目の、時期では、なかったでしょうか。

昭和34年3月28日に、名鍍会は、発足しましたが、同年9月26日、名古屋を中心とする東海地方を超大型の台風、伊勢湾台風が襲い、組合員の全員が、多かれ少なかれ被害を受け約半数は浸水、約50社が完全に泥水の中で孤立し、工場や家屋が流出したり、屋根まで浸水して、めっき液がすべて流出した工場もあり、再建までにかなりの年月を有した。

この伊勢湾台風による死者行方不明者は、5200余名で、かつてない大天災であった。昭和41年7月1日、めっき工場は毒劇物取扱責任者を置き、排水中のシアン濃度を2ppm以下と、定めた規制が、適用されたが、44年には、相次いで排水公害事故が発生し、45年12月に、「水質汚濁防止法」を含む、公害関係14法案が制定された。

そして我々めっき企業は、公害企業と言う、烙印を押されてしまった。

昭和54年に生じた、第2次オイルショックで高度成長経済時代は完全に終焉を告げ、低成長時代となって、めっき製品は、重厚長大から軽薄短少へ、少品種大量生産から多品種少量生産へと変わっていた。

昭和64年、1ドル100円まで円高は進み、株は毎日最高値を付け、土地は、庶民が手の届かない

ところまで、高くなり、バブル景気で、人々は財テクに明け暮れ、額に汗して働く事が愚かなようにいわれ、我々めっき業は、3Kで人手不足と、円高に依る材料費の高騰、海外との競争力低下を理由に、親会社よりコストダウン、土地の高騰で、固定資産税があがり、多数の会社が廃業しました。

そして、平成10年日本は、もがけばもがくほど、沈んでいく泥沼のような、不況に落ち込んでいるように思われます。

住専の倒産から始まった、銀行や証券の不祥事による、あいつぐ大型倒産で、経済成長は停滞し、個人消費は落ち込み、失業率も高くまさに、デフレになりつつあります。けれどこんな時こそ、会員同志が、親密な関係を持ち、情報交換ができる「日本鍍金協会、十日会、青研会、名鍍会」がある限り、今まで先輩たちが、どんな苦境も乗り越えてきたように、これからも、乗り越えて行けると思います。

まじかに迫った、21世紀が、我々にとって明るく飛躍する、21世紀になるよう、夢と、希望と、根性で、ともに前進あるのみです。

今回の50周年、半世紀の歩みを、1つの節目として、今までの、伝統を大事にしながら新しい時代に相応した運営を計り、21世紀に向けて、十日会のさらなる発展と、会員の皆々様の益々のご繁栄を、心よりお祈り申し上げます。

「十日会」いしょに、めちゃんこ、がんばろみやあか！

# 50周年おめでとうございます



青研会 会長  
野村 重之

十日会の皆様、50周年おめでとうございます。青研会を代表いたしまして心からお喜び申し上げます。

日本鍍金協会を通じて名鍍会の皆様とともに、秋季大会、年次大会、役員会と年に3回交流がございますが、それ以外でも色々お世話になり有り難うございます。東京、名古屋、大阪と離れていますが、濃いお付き合いをさせていただいておると感じています。これも、この会を通じて、めっき業界で生活する同じ年代の方々と“大いに飲んで大いに語ろう”の精神で、裸のおつきあいをさせていただいているからでしょう。半年ぶりでお会いして、瞬間に楽しい雰囲気にとけ込んでしまう、この会のムードは独特のものと思います。

日本鍍金協会に入会してすぐのころ、工場見学で永田先輩の工場と八幡先輩の工場を拝見させてもらったことをよく覚えております。(株)梅田鍍金工業所様では、新しい量産性のバレルのラインと小物用ラインとのマッチング。自社で簡単な設備など造ってしまうと説明を受けた八幡鍍金工業(株)様。めっき業界に入ったばかりの自分には、大変勉強になりました。あの頃、お二方ともスマートだったことも記憶に残っております。毎年工場見学の機会をいただけるのも、日本鍍金協会のおかげと感謝しております。

秋季大会や、年次大会で楽しみにしておりますのは、各会の現況報告です。自動車産業で好調な名古屋地区、東京地区と同様大阪もいつもうらやましく感じております。生の各地域の情報が分かるのも、会の利点だと思います。このたびの両国での合同役員会では、神谷会長のご提案で、現況

報告の新しい方法として、フリートーキングによる意見交換の時間をもたれました。ニッケル、リン、ホウ素等の規制に関する問題、景気動向の問題等を中心に活発な意見が交わされ、有意義であったと思います。

もうひとつの日本鍍金協会での楽しみは、宴会と2次会です。アルコール濃度が上がるにつれて、宴会の雰囲気が盛り上がりがってきます。東京、名古屋、大阪のエール交換が始まり、各会先輩方のスピーチをいただきます。日本鍍金協会の思い出、歴史。未来に向けての提言。いかにめっき業がすばらしいものであるか。私は、天職を得た者の共通の喜びを味わっています。この頃には家内は、めっき業の私と結婚して間違いなかったと、息子はお父さんの跡を継ぐのだと納得。最後の3本締め、万歳三唱、独特の雰囲気で1次会は終了します。最近、青研会バンドも活発ですが、以前、小林先輩が率いる十日会バンド“テンディーズ”的演奏を宴会で聞かせてもらったのがきっかけでした。

2次会が始まると、東京、名古屋、大阪など地域の隔たりなどありません。学生時代に戻ったようです。私の分析するところ、このムードをリードしているのはやはり、十日会の先輩方の体育会系のノリだと思います。すごく明るく、あっさりしていて、ざっくばらんで、いつも楽しくさせて貰っています。いつの会だったか、活況に入ってくると、菊池先輩や神谷先輩が名古屋の伊藤先輩らと浴衣の上をはだけて、抱き合っていたことを覚えています。これが本当の裸の付き合いだと感じ入りました。

3年くらい前、合同役員会の次の日、阿見G・Cで小林先輩、八幡先輩、山田先輩と同じ組でプレーさせていただいた楽しい思い出があります。先輩方に共通した点は、思い切りの良いショットでした。とくに、小林先輩のアイアンは切れがよく参考になりました。しかし、三先輩とも細かいことが苦手なようで、スコアに結びつかなかったと記憶しております。この時期、GIと重なり、八幡先輩はアプローチとパターでの集中力を欠いておられるみたいでした。また、スタート数時間前、居酒屋の座布団で横になっておられた山田先輩ですが、朝一のティーショットはフェアウェー遙か

彼方、別人のようでした。牛乳瓶の底からラインをにらみヒット、しかし、ボールはカップの横を通過、やっぱり寝不足の影響はこのあたりに出るのでしょうか。

日本鍍金協会を通じて、難しい問題を一緒に考え、出来る限りの情報を交換していきたいと思います。そんな中から楽しい思い出もふえていくでしょう。これからも、十日会殿、名鍍会殿と、めっき業界発展のためにがんばっていきたいと青研会一同思っております。よろしくお願ひ申しあげます。

# 年 表



	役 員	事 業 内 容	備考及び社会ニュース
昭和23年度	幹事 清水竜一	<p>敗戦の混沌とした社会の中で、情報の収集、技術の習得と共に、将来における公私の活動を討論する、司会する、協力するの修練をさりげなく技術研究の場で行うことを目指した同志が、11月15日、高浜二郎氏を中心にして10名が、小石川後楽園涵徳亭ビードロ茶屋で初めて、顔合わせをした。</p> <p>それを機に第2回会合は12月10日組合事務所にて開かれ、毎月10日に例会を開くこととし、「めっきを天職とすることによって、日本に奉仕する」を創立の精神とした十日会が発足した。</p>	<p>十日会創立 向島若葉会発足 城東シアン会発足</p> <p>1. 帝銀毒殺事件 2. 東京裁判の判決 3. 古橋選手の世界最高記録</p>
昭和24年度	幹事 清水竜一 鵜飼義一	<p>会員の増加をみるに及び、会則をつくり、幹事は6ヶ月交代とする。会計、記録係をおく、吉凶見舞をする等を決定した。</p> <p>多年にわたる戦争期の技術的ブランクを埋めるため業務の研さん、討論等を強力に押し進めている大阪鍍友会を通じて、大阪の代表的企業及び名古屋方面の工場を再三見学した。これを機会に大阪との交流の足掛かりとした。</p> <p>一方、例会においては電源関係、濾過機など現場に直結する技術の習得、研究を盛んに行い、会員相互の技術交換をした。</p>	<p>1. 古橋選手が相次ぐ世界新 2. 湯川博士にノーベル賞 3. 三鷹事件</p>
昭和25年度	幹事 福井通祐 中村敏一 後藤哲夫 梅沢茂雄	<p>より善き将来への勇敢な飛躍のため、1月例会で会館建設が立案された。</p> <p>実行第一の十日会の面目躍如、立案から半年たらず、5月末、洋風2階建の会館が竣工、名称を「東京鍍金会館」とされた。</p> <p>立ち遅れた業界を一日も早く世界の水準まで引き上げるべく、会館が大いに利用され、国内外の技術導入のため、講習会を開催し、主として銅、ニッケル、クロムの管理と光沢剤について研究した。</p> <p>9月には、服部講座として、めっきの基礎知識講習会が開催され、会員外に門戸が開かれた。</p>	<p>東京鍍金会館完成 「鍍金」懸賞論文に井上喜夫氏が入選 田島栄博士藍綬褒章受章</p> <p>1. 日共幹部の追放 2. 警察予備隊の発足 3. 日米対抗水上競技</p>
昭和26年度	幹事 能勢楨章 小林 憲	<p>ニッケル助成法に基づく、ニッケル等使用制限規制が公布され、より一層深刻化するニッケル対策として、会員からのニッケル消費の節約、使用済みの再利用の新工夫の紹介がなされた。</p> <p>会館設立以来の念願であった研究のための研究室ではなく工場と直結した研究室が完成した。この研究室には数組みの分析実験が出来るばかりでなく6尺大の黒板が</p>	<p>1. 平和条約締結 2. マッカーサー元帥の解任 3. 貞明皇后の崩御</p>

役員	事業内容	備考及び社会ニュース
昭和26年度	<p>かけてあり、小講演をなしえる。この完成と共に早速不純物除去法の実験、光沢亜鉛めっきの実験、ユニクロ処理の実験など研究が度々実施された。難局突破口とすべく全員の壮烈なる努力が重ねられた。</p> <p>12月20日米空軍技術中佐エズラ・エー・ブラウント氏を招館「隔膜タンクの詳細と電解洗浄」について講演を頂き聴聞した。これがブラント氏との最初の接触である。</p>	
幹事 長谷川正三 昭和27年度	<p>十日会主催のブラウント氏の歓迎講演会は、我が国めっき業界に異常な注意を喚起した。ブラウント氏は米国における中小めっき業者の現状、米国の材料統制下の対策としてニッケルめっきの代用はどんな方法か、及び工員の賃金、並びに不溶性陽極ニッケルめっきなどを論じた。</p> <p>我が国の現状に照しあわせ会員各位の世界水準を目指して奮励努力には目をみはるものがあった。</p> <p>なお、ブラウント氏は10月10日の例会で名誉会員に推薦された。</p>	1. 立太子礼・成人式 2. 衆議院解散・総選挙 3. メーデー騒乱事件
幹事 清水竜一 昭和28年度	<p>湯島の丘の赤い屋根……東京鍍金会館が希望の扉を開いてから満3年になる。十日会が結成され6年目である。僅か10名に過ぎなかった会員が、今では総員で6倍にも達した。いつも新しい行動による業界への貢献は公知せられる事実である。</p> <p>拡大された会員は多岐の業種の分野にわたり、従来の研究所では手狭になり6月10日の例会では研究室の拡充について協議された。その研究室には真空めっき装置、クロマトグラフによる分析装置等が設置され世界水準に迫る第一歩が踏み出された。</p>	5.23 東京鍍金学校第1回入学式 1. 皇太子殿下の外遊 2. 全国的な風水害 3. 衆議院解散総選挙
幹事 綱島清隆 小見山正道 昭和29年度	<p>石田武男先生より我々の良きライバルである大阪めっき業界の現状の講演を聴き、会員諸氏が大いに奮起した。井上喜夫氏を初め次々と研究、工夫がされた実験結果を聴き、会員相互の一層の研究心を駆り立てた。</p> <p>タンクの内張り、床の補強、ポンプ等の器具などのゴムライニング、ビニールライニングの利用を検討した。また、それらについて理解を深めるべく見学会や講習会を行った。</p>	1. 洞爺丸の遭難 2. ビキニ被災と久保山さんの死 3. 陸運、造船、保全汚職
幹事 木下文良 中村敏一 昭和30年度	<p>友野理平氏の交流法・P R法による光沢銅めっき方法について講演があった。</p> <p>この頃より業界にも世相の圧力が加わり、経営面でも問題が出始めた。これらの問題を解決すべく、光沢めっき</p>	9.28 毒物、劇物取締法施行令公布 高浜二郎氏栃木県文化功労賞を受賞

役 員	事 業 内 容	備考及び社会ニュース
昭和30年度	きへの転換、自動化など人件費の削減、生産量の拡大を計る会員工場がみえはじめ、その結果を例会にて発表、大いに会員全般の勇気を新たにした。	1. 紫雲丸沈没事件 2. 保守合同と第3次鳩山内閣 3. 砂川基地闘争
昭和31年度	幹事 羽成利一 山中吉己  会の若返りと前進のため新人会員の増強に努めた。入会金も千円より一万円に改めた。 大企業と中小企業の格差の問題から中小企業における労務問題について、会員各位の関心が高まり、組合結成、人間関係の細論について熱心な聴講がなされた。 また、海外の話題も自由諸国ばかりでなく振興しつつある中国について聴講した。	5.20大沢直太郎氏死去 1. 日ソ交渉妥結 2. 参宮線列車転覆の惨事 3. 弥彦神社惨事
昭和32年度	幹事 井上喜夫 小篠義男  10年を迎えた当会は会員相互の利益のため、経営の本質でもある“大いに儲ける事”を今後の目標と掲げ強調した。 5月10日の総会において、日本鍍金協会の会員工場であることを表示すべき門表を会員番号に基づいて順次配布され、会員は自覚と自信を持って表示した。 金融引締めが浸透し、多難な経済事情のもとで、健全なる経営を行うため、工場の経営管理を重視、会員工場の経営管理の実際を公表し合い、討論を繰り返し最良の結論を出すべく努力した。	11.17鍍友会10周年記念 1. ジラード事件 2. 原子炉に太陽の火 3. 南極基地に日章旗
昭和33年度	幹事 井上喜夫 小篠義男  世相は神武景気を終え、不渡りが増加し、世界的な不況が日本にも押し寄せる中で、当会設立10周年記念事業施行の年に当たると共に、鍍金会館増築、高浜二郎氏著“メッキ語源考”的出版記念と色々な記念事業が山積みしており、役員は我を忘れて会の運営に一丸となり全力を投げる日々が続いた。 その激務の中にも会の本質である新しい技術や設備の研究に、また、東西の交流をも忘れることなく更に多忙な年であった。 10周年記念の式典は10月12日会館に於て厳肅に行われ、次いで赤坂のプリンスホテルで盛大な野外パーティーを行った。なお、鍍金業界人が合同、一家あげて共に楽しむガーデンパーティーは恐らく業界始まって以来のこと、盛観は目をみはらせるものがあった。	4.25高浜二郎氏「メッキ語源考」出版 10.12第2期会館工事完成 10.12十日会10周年記念式典 1. 皇太子妃決定 2. 「南海丸」沈没 3. 勤評反対闘争
昭和34年度	幹事 井上喜夫 小篠義男  前年のナベ底景気が回復して、業界も明るさを取りもどしたが、その反面品質に対し一段ときびしくなり、また従業員も採用しにくくなった。これらに対処すべく講	工場排水等の規制に関する法律公布 下水道法施行令公布

役 員	事 業 内 容	備考及び社会ニュース
昭和34年度	<p>演奏を聴き、対策をねった。</p> <p>30年代に入ってめっき装置も半自動から自動化へ流れを変え、40年代における自動化ブームに大きな影響を与えた。</p> <p>P R 映画としては、我が国初めてのものであると思われる16mm映画「鍍金と生活」が十日会により完成、交通博物館に於て、関係者に披露された。</p>	1. 皇太子殿下ご結婚 2. 伊勢湾台風 3. 東京オリンピック決まる。
昭和35年度	<p>会長 八幡 健</p> <p>岩戸景気がさらに開花し戦後最高の好況を呈した。国内も輸出の伸びと、設備投資に加えて消費ブームははなやかな経済の繁栄をもたらした。</p> <p>十日会では大阪業界の著しい進展を見学するため、有志30名にて、主要工場を見学し、意見の交換を行った。</p> <p>我が国の鍍金技術向上の助言者、ブラウント氏が来日する。前年、鍍金視察団が、渡米の際、いろいろお世話になりその労を報いるために、またその後の我が国鍍金業界の現状を見てもらうために、招待し工場見学・講演会等を行った。</p>	4月10日総会にて会則改正、会長を定む。 初代会長に八幡氏就任 1. 浅沼社会党委員長刺殺事件 2. 浩宮様ご誕生 3. 新安保条約成立と反対闘争
昭和36年度	<p>会長 八幡 健</p> <p>十日会、鍍友会、名鍍会の三団体による、日本鍍金協会が結成された。</p> <p>当団体は、鍍金技術、経営合理化の研究及び会員の親睦を目的とし、これに関する情報の交換、文旨の発刊、研究団体への援助を主事業とすることを約し、初代会長に小嶋政夫氏が推挙された。</p> <p>十日会では幹部教育研修会を開催、中堅幹部の企業に於ける役割、人の扱い方等、有益な勉強をし、参加者も50余名と盛会であった。</p>	最低賃金1日260円に決定 日本鍍金協会結成 1. 松川事件被告に無罪判決 2. 大阪市金ヶ崎の騒ぎ 3. 嶋中事件
昭和37年度	<p>会長 坂手 勇</p> <p>昭和34年頃から、いわゆる岩戸景気が出現して年を追って上昇し、めっき業界もわが世の春を謳歌した。しかし37年度には景気過熱のきさしがでてきたので金融引き締めの措置がとられた。</p> <p>当会では、これらの経済情勢の変化に対処すべく、金融問題と、経済動向を主とした事業計画をたて、講演会の開催と共に会員企業の経営内容を説明し、お互いに率直な意見交換を行い、大いに企業改善に役立った。</p>	鍍友会創立15周年記念 1. 三河島の列車衝突 2. ニセ千円札の横行 3. 堀江青年の太平洋横断
昭和38年度	<p>会長 坂手 勇</p> <p>前年の金融引き締めの効果が、ようやく各方面に浸透し、国際収支も改善されてきた。しかしこの結果、景気沈滞の長期化の懸念が出てきた。</p> <p>十日会は本来めっき技術の研究を主体にして運営され</p>	十日会設立15周年祝典挙行 1. 三池炭鉱爆発事故

役員	事業内容	備考及び社会ニュース
昭和38年度	<p>てきたが、現状の不況を乗り切るため、今年は経営の合理化を目標に会を運営し、現状に甘んじることなく一層合理化を進めるための勉強をした。</p> <p>また、公害防止条例に基づき、めっきの排水処理を重要な問題として取り上げ、簡単にして安価な処理方法の説明会が開かれた。</p>	2. 吉展ちゃん誘拐事件 3. 国鉄鶴見事故
昭和39年度	<p>会長 井上喜夫  副会長 小見山正道  会計 大和田博  庶務 石川 進  幹事 大沢秀夫  山下伊太郎  綱島清隆  大木康弘</p> <p>日本の成長と共に我々十日会も新技術の導入、新しいものへの研究とたえず前進し、発展し続けてきた。今まで経営と技術に分けると主として、技術の方に力を入れ向上を計ってきたが、今年は経営のあり方、労働問題、職場の健康管理、経営者の健康など基礎の拡充に力を入れ、強固な基盤を築き、なお一層の飛躍を成しとげるため例会を開催した。</p> <p>また、当会の創立者である高浜二郎氏には高齢の故を以って騒々しい東京を離れて郷里姫路に帰る事になり、数々の想い出を胸に秘め名残りを惜しんで有志会員見送りの中を帰郷された。</p>	第1回秋季大会開く (浜名湖) 7.10毒劇物取締法改正 1. オリンピック東京大会 2. 新潟大地震 3. 東海道新幹線開通
昭和40年度	<p>会長 福井通祐  副会長 木下文良  会計 遠藤文男  庶務 寒川輝久  幹事 三宅大蔵  山本桂吉</p> <p>英国プロダクトフィニッシュ誌主幹、米国AES会員の来日、またブラウント氏夫妻の来日と外人の来日も著しいこの頃、今後は内外を問わず各会との交流を保つ事により相互の発展を約束すると共に新技術を会員の皆様に紹介したいとの趣旨に沿って、当会の会員である後藤氏がNAMFの団長とし渡米した。また来日のブラウント氏より米国の現状を「人件費の高騰のため、大部分の業者が省力化による三交代制をとり、コストを低減させ、生産性を高める努力をしている」と報告された。この頃から我が国でも自動化の導入に強い関心を示した。</p> <p>今年は海外交流が盛んに行われた。英國プロダクトフィニッシュ誌主幹、AES会員の来日、ブラウント氏夫妻の来日により数々の講演会、見学会が行われた。</p> <p>日本からは、安部東代吉氏が中共視察、後藤哲夫氏が渡米視察を行い、それぞれ帰朝報告会が開かれ、今後の業界の進路が話された。</p>	9.25ブラウント氏来日 1. 日韓条約成立 2. 朝永博士ノーベル賞受賞 3. 吉展ちゃん事件解決
昭和41年度	<p>会長 福井通祐  副会長 木下文良</p> <p>本年度は十日会にとっては試練の年であった。十日会の生みの親でもあり育ての親でもある高浜先生が逝去された。また、会館売却問題などで充分な例会活動が出来なかったことは残念である。</p> <p>十日会の活動としては積年の懸案であった従業員テス</p>	10.25東京都鍍金工業組合創立総会 12.10高浜先生逝く 1. 羽田沖で全日空機

	役 員	事 業 内 容	備考及び社会ニュース
昭和41年度	運営委員長 三宅大蔵 運営委員 植平輝雄 石川 進 会計 遠藤文男 庶務 寒川輝久 山本桂吉	ト問題を作成しそれを実施したのが主な活動であった。技術的な面ではこの頃より排水処理問題がクローズアップされPHメーターなどを用いた処理と管理といったことが早くも登場してきた。  この時期は、十日会にとっては転換期であった。十日会創立当時の会員達は組合活動に忙しく、若手による会の運営が望まれてきた。	墜落 2. 国会の“黒い霧” 3. 鈴木医師の集団チフス事件
昭和42年度	会長 石川 進 副会長 綱島清隆 運営委員長 瀬田新二 教育委員長 小島一郎 運営委員 寒川輝久 植平輝雄 仲俣一三	転換期を迎えた十日会は石川会長の登場により新生十日会として積極的な活動が行われた。想い出多き湯島の会館から新しく落成しためっきセンターへ本拠地が移り、新鮮な気持で会の活動が行われた。運営委員も会長と共に、若返った。  運営方針として例会は経営者のための勉強の場とし研究会は現場管理者の知識修得の場とすることになった。会の活動は会員の利益につながる様に、テーマとして品質管理について、原価の低減について、労務管理について行われた。また、例会ごとの詳しい会報が配布された。  日本鍍金協会主催による韓国視察が行われた。当時視察をした状況から、今日の韓国の発展は驚異的である。	4.23鍍友会創立20周年記念祝賀会 6.15めっきセンター落成 7.22ブラウント氏来日 10.12韓国視察団出発  1. 吉田茂元首相死去 2. 羽田学生デモ事件 3. 小笠原諸島返還決まる
昭和43年度	会長 石川 進 副会長 綱島清隆 運営委員長 瀬田新二 教育委員長 小島一郎 運営委員 寒川輝久 植平輝雄 仲俣一三	本年度は経営面を主体とした基本方針で会の運営が進められた。また、その一貫として広く海外に目を向け米国めっき業界の視察を実施し帰国後報告会が行われた。それと同時に今後の世界情勢についてその推移を学んだ。そして経営者の健康管理の指針ともなるべく講習会がもたれた。会館売却問題も解決し、東京都鍍金工業組合と共に、これからの中日会の発展を願った。研究会においては現場の実際のテクニックについて主に実習をしきた講習会が行われた。	4.13米国鍍金業界視察  1. 日本初の心臓移植 2. 川端氏にノーベル文学賞 3. 飛驒川バス転落惨事
昭和44年度	会長 石川 進 副会長 小見山正道 運営委員長 大木康弘 会計 小松康宏	本年度は十日会が20周年をむかえた記念すべき年である。盛大なる記念行事が行われ輝かしき年度初めであったが業界をとりまく環境は非常に厳しく特に公害規制については、トータルシアンの規制が1ppmとなった。また、公害に対する事業所の考えがまだ充分啓蒙されていらず、必ずしも企業の公害に対する社会的責任が達成されているとはいえないかった時代である。こういった時代背	4.13創立20周年記念祝賀会 10.13組合より十日会への道標が贈呈される  1. 「沖縄72返還」決

役 員	事 業 内 容	備考及び社会ニュース
昭和44年度	<p>庶務 小西陽夫 中井国彰 運営委員 大沢章二 植平輝雄 小島一郎 寒川輝久 仲俣一三</p> <p>景と状況のなか、本年度の十日会は例会においてはシリーズで公害問題に積極的に取り組んでいる。研究会においては経済高度成長の歪みとも言える人手不足が深刻な問題となり、その解消のため自動化についてテーマを絞って講習が行われたのが特徴といえる。</p> <p>この時期で、企業に公害防止に対する技術と責任感を広めたことは大変意義があった。公害防止に対する情報源として当会は業界においてリーダーシップをとり、例会ごとの詳しい会報を発刊、配布し、極めて盛況な年度であった。</p>	<p>まる 2. 東大安田講堂占拠の学生排除 3. 衆院解散・初の師走選挙</p>
昭和45年度	<p>会長 小島一郎 副会長 寒川輝久 庶務 小西陽夫 中井国彰 会計 小松康宏 運営委員 大木康弘 大沢章二 仲俣一三</p> <p>会長は「本年度運営の基本方針として、①公害問題、②経営問題、③その時に起こった問題を取り上げ、①は研究会で、②と③を例会のテーマとして取り上げていきたい。」と発言された。</p> <p>研究会で石川進氏を講師に公害対策シリーズを行う。十日会の門戸を開設しようと、入会案内書を作成する。組合の依頼により十日会賞規定案の作成に取り組む。公害対策シリーズの成果と実地見学を兼ね、組合と初合同で神奈川へ工場見学をした。</p> <p>十日会事務局として組合事務員の大井隆一氏を選任する。</p> <p>都下水道条例の改正による50m<sup>3</sup>以下のすそ切が廃止され銅3 ppm、亜鉛5 ppmの重金属規制が決定、例会は三進の柳下氏に研究会では加瀬氏を講師に勉強を始める。</p> <p>46.3月より大井氏が、十日会事務局として初出席する。46.3月定例総会で会長初め現役員全員留任となる。</p>	<p>工場排水法改正 1. 日航「よど号事件」 2. 日本万国博開催 3. 三島事件</p>
昭和46年度	<p>会長 小島一郎 副会長 寒川輝久 庶務 小西陽夫 中井国彰 会計 小松康宏 運営委員 大木康弘 大沢章二 仲俣一三 研究会委員 大戸勝博 木下義夫</p> <p>発明と工夫という講演で小企業者は大企業の前には手も足も出ないと思われているが、発明によって大企業にも負けない、立派に生きる道が開けるという話しがあった。公害対策シリーズの成果を、実際に排水処理を担当している各社の管理者を招き、その成果と直面している技術的問題点を中心とした討論会を行った。</p> <p>組合と合同で見学会を行った。いわゆる静岡方式を採用している工場、イオン交換樹脂を用いた排水処理の工場等を見学した。山本洋一氏の「これからめっき業界の展望」についての講演で、決して楽なものではなく、公害問題、労働条件の悪化、日米貿易の不均衡など、問題が多く、行く手をはばんでいるとのことであった。</p>	<p>アメリカ鍍金協会会长 来日 十日会賞規程決まる 1. 全日空機と自衛隊機空中衝突 2. 天皇、皇后陛下ご訪欧 3. 大久保清連続女性殺人事件</p>

役 員	事 業 内 容	備考及び社会ニュース	
昭和47年度	会長 寒川輝久 副会長 仲俣一三 大木康弘 運営委員 大沢章二 植平輝夫 金田留雄 木下義夫 八幡順一 直海和夫 会計 大戸勝博 庶務 小松康宏	激動の70年代、国内、国外でも難局な時代を迎えた。経営者はこの事態に何をどの様に対処し、将来についてどの様に見通すか。本年度の特徴はこの様な時代背景のもとに経営者に対しその判断と指針を与えるべく活動が行われた。  例会においては、労働組合問題に対する対処方法、工場の立地規制の見通しについて、技術問題としてはイオン化静電めっきを取り上げている。研究会では未来指向の強い題材を選んで行い、排水処理においてもイオン交換膜を用いた方法など新しい技術を取り上げている。この時期、排水処理でも従来の薬液注入法に代ってクロロゲドシステム指向の方法に目覚めてきたのも特徴といえる。  本年度より20周年記念事業の一環として組合に贈呈した記念基金が「十日会賞」という形で業界に功績のあった人に授与された。第一回十日会賞は静岡方式で業界に貢献した静岡県工業試験場の永井淑晴氏が受賞された。	第11回年次総会にて日本鍍金協会10周年記念式典行われる。 6.1城南処理センター落成 11月ブラウント夫妻来日 48.2.18鍍友会25周年記念式典  1. 連合赤軍事件 2. グアム島で横井さん救出 3. 日中国交正常化
	会長 仲俣一三 副会長 大木康弘 運営委員 大沢章二 山田 茂 植平輝夫 中井久二 直海和夫 小沢栄男 木下義夫 会計 大戸勝博 庶務 小松康宏 八幡順一	本年度は驚異的な上昇を示して来た我が国の経済成長が石油ショック、ドルショックなどによってだんだん翳りを見せはじめ本格的な不景気に突入する直前であった。石油パニックによって生じた物不足とインフレによる物価上昇は人々の心を荒廃させた。この様な時期に人ととの心の触れ合い交流といったものが企業経営者にとって重要な課題になって来た。  十日会ではより良い人と人との触れ合いを求めるため、その実践論として例会では従業員の心理のつかみ方、活かし方について、研究会では対人関係におけるテクニックとしての話し方教室を開催した。  なんといっても企業を発展させる重大な要素はいかに人をうまく活かしていくかにある。その意味において誠に有意義な年であった。	4.29服部久一郎氏勲五等双光旭日章を受章 3.25年次大会、山陰皆生温泉にて  1. 石油危機 2. インフレ世界一 3. 金大中事件
	会長 大木康弘 副会長 直海和夫 会計 大戸勝博 運営委員 中井久二	昨年より引き続き、本格的な不景気の波が我が国をおそい、物価は益々高騰し、業界に与えた影響は大なるものであった。  この様な激動の社会において、先ず原点に戻って物を考える必要があり、当会では、会本来の目標であった技術の研究を徹底し、この不況を乗り切る方針のもと、めっき技術を中心としたテーマを基本に勉強した。また、	石田武男氏勲三等瑞宝章受章 1. 田中退陣、三木内閣誕生 2. 小野田元少尉の救出 3. 公共料金値上げと

役 員	事 業 内 容	備考及び社会ニュース
昭和49年度 木下義夫 八幡順一	研究会においては、益々厳しさを加えた水質規制に対処すべく、めっき排水の現状を見直し、再検討するべく、討論、研究をした。	不況
昭和50年度 会長 大木康弘 副会長 直海和夫 会計 大戸勝博 運営委員 中井久二 木下義夫 八幡順一	打ち続く不況の中、十日会運営にも、斬新な発想が期待される会長のユニークな人柄が發揮された一年であった。 公害処理は、クローズドシステムの研究が発表され、節水と電解による金属の回収が強調された。 この年、最大のニュースは、日本化学工業の六価クロム鉛による公害が大きな問題とされ、めっき業界のうけた打撃は大きかった。 この暗い一年の中にも、めっきセンターに於いて家族ぐるみで新年会を催し大成功を収めたのが印象に残る。	十日会名誉会員、安部東代吉氏死去。 中小企業信用保険に基づき、めっき業が不況業種に指定。 1. 天皇、皇后両陛下ご訪米 2. エリザベス女王来日 3. 沖縄海洋博覧会開催
昭和51年度 会長 直海和夫 副会長 植平輝雄 庶務 大場植寅 小林邦雄 永田一雄 会計 八幡順一 運営委員 木下義夫 三宅 直 大戸勝博	新会長の下に若い役員が4名加わって新しい年度の事業方針が発表された。新しいめっき方法を紹介したり経営問題と自己の健康管理等の講演、見学をした。 新しいめっき方法として、三価クロムによるクロムめっき法。鉄とニッケル合金めっきのナイロンプロセスの講演、実験工場を見学した。特に経営者の健康増進により経営意欲を盛り上げる為に充分な健康管理の見直しをした。数年前より景気の停滞が続いているので、本年度は回復されるだろうと期待されたが、ロッキード疑惑が発覚したり、自民党員6人が離党したりして景気回復のきざしが見えずに終わってしまった。	服部久一郎氏死去 下水道法の一部改正 直罰制度採用 廃棄物の処理及び清掃に関する法律一部改正 1. ロッキード事件 2. 田中角栄前首相逮捕 3. 五つ子誕生
昭和52年度 会長 直海和夫 副会長 八幡順一 幹事 大場植寅 永田一雄 木下義夫 大戸勝博 三宅 直 会計 小林邦雄	5年続きの不況で景気回復どころではなく、受注量の激減、めっき単価の値下げ攻勢にて経営者は忍耐の時代であった。円高ドル安という現象が起きて社会もグラグラしている状態の日本経済である。 ディスカッションを主体として行く事業方針通りに各支部の青年部を招いて、各会の運営について聞いたり当会の事業についても説明しながら、各会が一番悩んでいる事を出し合っていかに会を円滑に運営していくことが出来るか討論した。 執行部が歩き回って新会員を勧誘した。 技術面ではクローズドシステムについての再確認、めっき工場における省資源対策等の講演。本年の月始めに青酸コラ事件が発生して劇毒物を使用するめっき業者	三宅大蔵氏死去 鍍友会30周年 八幡健氏、都産業功労章を受章 200カイリ時代に入る 1. 王選手、世界新756号 2. 日航ハイジャック事件 3. 有珠山爆発

役 員	事 業 内 容	備考及び社会ニュース
昭和52年度	に世間は目を向けた。会期中の退会者ではなく、去年同様56名である。	
昭和53年度	<p>会長 直海和夫 副会長 八幡順一 幹事 大場槌寅 永田一雄 木下義夫 大戸勝博 三宅 直 会計 小林邦雄</p> <p>経営問題を中心に本年度の事業方針を打ち出し、講演、工場見学会を行った。めっき業が不況業種に指定され、「不確実性時代」とか「低成長時代」という言葉が数多く使われて経営者一人一人が身を引き締めて景気の回復を願う年であった。めっき工場の利益計画、知識集約めっき生産、省力生産システム等の必要性の講演は、これから経営に対しての非常に厳しい姿勢で向かわなくては今後のめっき業としての経営は難しい時代になって来た事を実感したものである。</p> <p>円高ドル安も一応落ち着き、低成長時代に突入し、経営者の手腕が強く浮き出される時代になった。</p> <p>本年度は発足以来30年目である。30年の節目にあたり来年は記念行事が行われる。ゴルフ大会も復活し、会員も増え、出席者も増え、会員が原点に戻りつつ会を運営していく気迫が見られるようになってきた。</p>	<p>11月19日鍍友会30周年記念 水質汚濁防止法の改正（総量規制の導入）</p> <p>1. 大平政権発足 2. 日中平和友好条約調印 3. 成田新空港、波乱の開港</p>
昭和54年度	<p>会長 八幡順一 副会長 小林邦雄 木下義夫 会計 三宅 直 運営委員 永田一雄 大戸勝博 神谷博行 今泉好隆 事務局 小原俊幸</p> <p>十日会も戦後の混乱期からたくましく発展し、本年度は30周年の節目に当たる。そこで十日会創立30周年記念式典を4月22日東京プリンスホテルで盛大に行い、会の原点を回顧すると共に新たなる飛躍を誓った。また、これを機会に先輩たちに呼び掛けO B会を設けた。</p> <p>会長も若い八幡順一氏が就任し新たな第一歩がスタートした。直海会長のころより行っていた新規会員の勧誘が実り、多くの若い会員が会に参加する様になった。このなかに会の将来の運営を担当する何人かの人材がいた。</p> <p>例会においてはこれらの若い会員が多数参加するようになり活況を呈するようになった。</p>	<p>4.22十日会創立30周年記念式典</p> <p>1. 東名日本坂トンネル事故 2. 三菱銀行猟銃人質事件 3. 東京サミット</p>
昭和55年度	<p>会長 八幡順一 副会長 小林邦雄 木下義夫 会計 永田一雄 運営委員 大戸勝博</p> <p>上部団体である日本鍍金協会の創立20周年記念事業で西欧視察が行われ十日会会員より多くの人が参加した。</p> <p>海外視察も何度か過去に計画されたが、その都度断念されており、今回、実行に移されたのは喜びに耐えない。</p> <p>例会でその帰朝報告がなされ日本と西欧とでは生産形態が異なることが分かった。安定成長の時代を迎えた今日、西ドイツを中心にして生産システムとして学ぶべきことが多かった。</p> <p>毎年行われる工場見学は同業者の工場が多かったが今</p>	<p>鍍生会創立20周年記念白瀬懋全鍍連専務理事叙勲</p> <p>1. 大平首相急死同日選挙で自民党圧勝 2. 富士見病院の乱療事件 3. 巨人軍長島辞任,</p>

	役 員	事 業 内 容	備考及び社会ニュース
昭和55年度	三宅 直 神谷博行 今泉好隆 事務局 小原俊幸	回は、めっき離れ現象に刺激され表面処理でも異業種である塗装工場を見学し、知識を広めた。	王現役引退
昭和56年度	会長 八幡順一 副会長 小林邦雄 木下義夫 会計 永田一雄 運営委員 大戸勝博 三宅 直 神谷博行 今泉好隆 小松国浩 事務局 小原俊幸	<p>ここ数年安定成長という時代の到来から、日本経済も過酷な状況の中で発展をしなければならないという課題を抱えている。また、国際化時代に入り日本だけ良ければという考えは許されなくなった。そのような時代背景のもと外国で活躍され国際的な視野が広い先生をお招きしたり、広い視野で物事をみている経営者の方に講演をお願いした。</p> <p>また、時代を担う若い会員の参加が多いのでそれぞれの会社においても経営者の世代交替を迎えるつある。そのような状況下、2世の育成は大事な問題であるが今まで汗と努力で培ってきた先代の資産を合法的に継承し、保全を計るため相続税の概要について勉強した。</p>	ブラウント氏来日 柳下相三郎氏受章 八幡健氏逝去、叙勲  1. 北炭夕張新鉱ガス惨事、93名犠牲に 2. 神戸ポートピア81開幕 3. 福井教授ノーベル化学賞
昭和57年度	会長 小林邦雄 副会長 永田一雄 会計 菊池忠男 運営委員 神谷博行 今泉好隆 小松国浩 上村福子 石川雅一 黒須吉雄 内野 孝 渡辺政男 事務局 小原俊幸	<p>国内の不景気は去年より継続してますます深刻の度を増し非常な脅威となってきている。本年度は久しぶりに優良工場の見学会を開催した。特別講習会として省エネルギー研究会を開催し長期にわたって勉強した。</p> <p>この研究会で省エネルギー対策は無駄を省くことと基本的には生産管理の一つの手段であることを学んだ。また、昔のようにエネルギー設備が「大は小を兼ねる」という時代が終ったことを痛感した。</p> <p>例会では排水処理の見直し、整流器の上手な使い方と見極め方、そして硬質めっきの現状などについて勉強した。例会の出席者も毎回多数におよび盛況裏に終始した。本年度は例会活動を通じ会員間でのディスカッションをして自分たちの工場の見直しを計った年度であった。</p>	十日会10代会長直海和夫氏逝去  1. ホテルニュージャパン火災 2. 500円硬貨発行 3. 中曾根内閣発足
昭和58年度	会長 小林邦雄 副会長 永田一雄 菊池忠男	48年度の第1次石油ショックから10年が経過したが、本年度もまだまだ景気が本格的に回復したとは言えず底冷えがする一年であった。経営環境も転換期に差し掛かっている。米国との貿易摩擦問題も新たに表面化し、日本経済も根本から崩れ落ちそうな気配が漂っている。	3.26日本鍍金協会会长に仲俣一三氏 6.24～7.3第5次海外視察米国へ 7.17鍍友会、鍍生会が

役 員	事 業 内 容	備考及び社会ニュース
昭和58年度	<p>会計 小松国浩 運営委員 神谷博行 今泉好隆 石川雅一 黒須吉雄 内野 孝 渡辺政男 権田節造 上村福子 事務局 小原俊幸</p> <p>この様な時期、物事を考えるとき国際的な視野に立たなければならない。本年度は十日会が企画し米国視察を実施した。</p> <p>会としては米国視察に赴く前に実践的な英会話について勉強した。</p> <p>昨年より引き続き「省エネルギー対策」の研究会を12日間（延べ30時間）掛けて開催した。例会では燃、窒素の規制問題、めっき皮膜の電着塗装の応用及び高速部分めっきの基礎知識などを勉強し会員一人一人の意識の向上に努めた一年間であった。</p> <p>本年度より新たに村楨利弘、土井正両先生を特別会員として会へ迎えた。</p>	<p>発展的解消し新たに青研会として一本化した。 11.5名鍍会創立25周年</p> <p>1. 大韓航空機がサハリン沖でソ連機に撃墜される 2. 国債発行残高100兆円を突破した 3. 青函トンネル先進道坑貫通、着工以来19年ぶり</p>
昭和59年度	<p>会長 永田一雄 副会長 菊池忠男 会計 渡辺政男 運営委員 神谷博行 今泉好隆 石川雅一 権田節造 上村福子 山田英佐夫 後藤 哲 事務局 飯塚フミ</p> <p>景気は依然として低迷し、先行きがまったく不透明である。このような時代これからのか会社を運営していく若い世代には確かな経営戦略を持たなくてはならない。そのために十日会には経営戦略を練るための情報を与えるべく数多くの例会、研究会を行った。まず情報とは何なのか山崎先生に解説を頂いた。草間氏にはめっき工場の経営戦略についてすばりお聞きした。研究会も前年度に引き続き、電気制御、電子制御について学んだ。研究会で得た知識は現場の管理技術の向上のために役立つものと思う。</p> <p>困難な時代にもかかわらず若い会員の中で、多大なりスクを背負い、工場の新築、改善等果敢に挑戦している姿がみられた。それらの人を集め行ったパネル討論会は多くの人に刺激を与えた。</p>	<p>8.29鵜飼義一氏逝去 全鍍連未来青年会議 足立めっき文化展開催</p> <p>1. グリコ、森永脅迫事件 2. 新札発行 3. 長野県西部地震で死者不明29名</p>
昭和60年度	<p>会長 永田一雄 副会長 菊池忠男 会計 神谷博行 運営委員 今泉好隆 石川雅一 渡辺政男 権田節造 上村福子 山田英佐夫 後藤 哲</p> <p>5ヶ国蔵相会議によるプラザ合意により、このころより円高が加速された。それにより我々の経営環境は益々困難になり輸出型産業を直撃した。また、アジア新興工業国家群の実力は日増しに強くなり、我々の経営環境も視野を国際的に開かなくてはならなくなってきた。</p> <p>このような時代、付加価値の高い新しい技術に着目しなければならない。そこで研究会を開催し無電解めっきを通じて、今後の起こりうるめっき需要について模索した。</p> <p>研究会には十日会会員だけでなく、連合青年部会にも呼び掛けなるべく多くの参加者を募ったところ、なんと120名近くの会員の参加が得られた。参加者の姿勢は真剣そのもので今後もめっきをやりぬくという意欲が感じ</p>	<p>1. 日航ジャンボ機墜落 2. 豊田商事事件で永野会長惨殺 3. 阪神優勝フィーバー</p>

	役 員	事 業 内 容	備考及び社会ニュース
昭和60年度	事務局 飯塚フミ	られた。また、研究会を通じ十日会以外にも多くの若い優秀な人材がいることが分かった。これらの員外の優秀な人材の中から何人かの人たちが十日会に入会した。	
昭和61年度	会長 神谷博行 副会長 菊池忠男 会計 石川雅一 運営委員 今泉好隆 山田英佐夫 権田節造 上村福子 遠藤清孝 吉崎晴好  事務局 飯塚フミ	<p>一昨年秋に端を発した円高は、折からの日米貿易摩擦と相まって、我々中小製造業には、創業以来、未曾有の存立の危機ともいべき状況が現出してきた。</p> <p>そこで、例会では経営戦略「この円高をどう乗り切るか」という演題で豊富な知識と経験を持つ経営者を講師に迎え、企業体質の改善の実例を挙げ講演して頂いた。このなかで円高は自分の力で克服していかなくてはならない問題であることを痛感した。</p> <p>また、めっき工場の改善に当って将来の姿を探るため「めっき工場の新システムの研究開発」、パソコンを使用した排水処理監視システム、めっき工程でのパソコンの利用などの発表があり、それらの適用について積極的に勉強した。</p>	3.29日本鍍金協会会长 に八幡順一氏  1. 三原山200年ぶり に大噴火 2. 衆参同日選挙で自 民党が空前の勝利 3. 社会党に初の女性 委員長が就任
昭和62年度	会長 神谷博行 副会長 菊池忠男 会計 山田英佐夫 運営委員 今泉好隆 石川雅一 権田節造 上村福子 遠藤清孝 吉崎晴好 繩田敏治  事務局 飯塚フミ	<p>62年度は円高に明けドル安に暮れ、秋には株価の大暴落と我々下請け中小製造業にとって誠に厳しい一年であった。</p> <p>この間、受注の落ち込みは著しく、秋口より回復の兆しがあったが受注単価が低迷し収益性が悪化したままの状況にあった。</p> <p>そうした中、5月には韓国めっき業界の視察を行い多数の会員が参加した。そこでNIESの脅威を肌で感じた訳であるが、今後の会社経営においてはより一層の合理化、生産性の向上に努力しなければならないことを再確認した。同時に視野を国際的に広げていかなくてはならないことを痛感した。</p> <p>例会では各種めっきの最新情報、めっき工場の情報化戦略について学んだ。</p>	1. 竹下新政権発足 2. 新生JRスタート 3. 利根川教授にノーベル賞
昭和63年度	会長 菊池忠男 副会長 石川雅一 山田英佐夫 会計 繩田敏治	菊池忠男新会長のもと、小林邦雄氏を実行委員長に十日会40周年記念事業実行委員会が結成され、11月20日、東京会館において式典ならびに祝賀会を行なう予定で着々と準備が進められていたが、その年の10月から昭和天皇の御不列が続き諸般の事情を勘案し、又、場所も皇居前という事もあり延期する事となった。又翌年の1月に予	1.瀬戸大橋開通 2. なだしお、第1富士丸衝突事故 3. ソウルオリンピック開幕

	役 員	事 業 内 容	備考及び社会ニュース
昭和63年度	運営委員 遠藤清孝 保坂晃一 権田節造 上村福子 二木一郎 事務局 飯塚フミ	定されていた新年会も歌舞音曲をさしひかえるといった風潮により中止となった。しかし、40周年記念事業としての記念誌、「十日会40年の足跡」は永田一雄編集委員長のたゆまぬ努力の末予定通り発行する事が出来た。	
平成元年度	会長 菊池忠男 副会長 石川雅一 山田英佐夫 会計 繩田敏治 運営委員 遠藤清孝 長谷川一郎 保坂晃一 権田節造 上村福子 二木一郎 事務局 飯塚フミ	昭和天皇御崩御。一つの時代が終った感がした。そして年号も昭和から平成へ。 4月2日、延期されていた十日会40周年記念式典及び祝賀会が東京会館において約300名の出席者のもと盛大に挙行された。 又、記念事業の一環として、日本鍍金協会主催のAESクリープランド大会視察団を十日会会員が中心になって派遣するなど多彩な事業を実施した。 例会では、時代を反映してか、発展めざましい東南アジアの情勢に関する講演、そして外国人労働者に関する講演などが行なわれた。	3.25日本鍍金協会会长に小林邦雄氏 11.9東京都鍍金工業組合100周年  1. 消費税3%実施 2. 吉野ヶ里遺跡発掘
平成2年度	会長 石川雅一 副会長 山田英佐夫 繩田敏治 会計 遠藤清孝 運営委員 今泉好隆 長谷川一郎 保坂晃一 権田節造 上村福子 二木一郎 堀米 清 事務局 飯塚フミ	当番幹事であった日本鍍金協会年次大会をサンルートプラザ東京において開催した。例年になく多数の会員、会員御家族の方々に参加していただいた。会員御家族の事を考え、東京ディズニーランドという場を選んだのが幸いしたか、参加者好評のうち無事終了した。 例会では、公認会計士の方や勝川工業㈱勝川悦郎氏に講演していただくなど、経営に関する問題を多くとり上げた。	5.26井上喜夫氏逝去 7.9名鍍会30周年  1. 即位の礼 2. 花の万博

	役 員	事 業 内 容	備考及び社会ニュース
平成 3 年 度	会長 石川雅一	ソ連邦の解体、そしてバブルの崩壊と正に激動の年となつた。世界的な不況の浸透が日本経済にも深刻な影を投げかけつつある中、依然として労働者不足、外国人労働者、時間短縮と、業界としては多くの問題をかかえていた。そんな中今年も経営に関する講演を中心例会を行なつた。特に全鍍連、外国人問題特別委員会委員長の吉川弘二氏に「めっき業からみた労働問題」と題した有意義な講演をいただいた。また、十日会の大先輩である福井通祐氏に「40年間の十日会」という講演をしていただき伝統を引きついでいくためには是非必要な企画という感がした。	1. 新都庁舎落成 2. 雲仙普賢岳で大火 碎流
	副会長 山田英佐夫		
	繩田敏治		
	会計 遠藤清孝		
	運営委員 長谷川一郎		
	保坂晃一		
	今泉好隆		
	堀米 清		
	権田節造		
	二木一郎		
	上村福子		
	仲俣雅行		
	近藤澄男		
平成 4 年 度	事務局 東京都鍍金 工業組合		
	会長 山田英佐夫	長引く景気低迷の中で、従来常に問題であった人手不足の対応にかわって、同業者との単価競争の激化や合理化問題が大きくなってきてている。また、日産自動車座間工場閉鎖や製造業での従業員の自宅待機のニュースなど、まだまだ景気の回復は難しい。  このような中、十日会では山田英佐夫会長のもと、例会ではディベート（討論会）やパネルディスカッションを行ない、お互い前向きの情報を交換しあい、世の中の大波に翻弄されながらも、少しは踏みとどまって自身の判断で独自の道を探ることを目指した。	3.28日本鍍金協会会长 に永田一雄氏
	副会長 繩田敏治		1. 東京佐川急便事件
	遠藤清孝		2. アメリカ大統領に クリントン
	会計 保坂晃一		3. モントリオール議 定書でフロンを95年 末全廃を決定
	幹事 長谷川一郎		
	権田節造		
	二木一郎		
	上村福子		
	仲俣雅行		
	近藤澄男		
	齊藤晴久		
	菊地利博		
	事務局 小原俊幸		
	中島 望		

	役 員	事 業 内 容	備考及び社会ニュース
平成 5 年 度	会長 山田英佐夫	自民党一党支配が終わり、細川連立政権が誕生、政治の世界は新たな動きが始まったが、めっき業界は平成不況と言われる厳しい経済環境が続いている。	7.18青研会創立10周年記念祝典
	副会長 繩田敏治 遠藤清孝	この中で、十日会設立の原点に立って「開拓者の精神」で難局を乗り切るべく、創造性をもってたゆまぬ努力を重ね、がむしゃらに行動することも必要であると考える。	1. 皇太子御成婚 2. Jリーグ（日本プロサッカーリーグ）開幕
	会計 保坂晃一	例会では、新製品紹介が4社からあり、優良工場見学会も新潟県のめっき工場4社を見学した。	3. 米、40年ぶり不作、タイ米輸入
	涉外 長谷川一郎 仲俣雅行	この他このところ感染者が急増しているエイズ問題についても取りあげた。	4. 環境基本法成立
	齊藤晴久 菊地利博		
	権田節造 二木一郎		
	上村福子 近藤澄男		
	事務局 中島 望		
平成 6 年 度	会長 山田英佐夫	平成6年度の景気面は、戦後最長の不況の記録を更新する状況となり、政府の「景気回復の兆しが見えて来た」とする見解も我々には空虚にひびくばかりである。	4.2志田和陽氏結婚
	副会長 繩田敏治 遠藤清孝	一方で、隣国中国では、市場経済化を加速させ活況を呈している。日本鍍金協会では中国視察を実施、十日会からも多数参加し、現実に上海の活況を肌で感じ、「負けとはいられない」という思いを強くした。	1. 村山連立内閣発足 2. F1セナ選手激突死 3. 大江健三郎氏にノーベル文学賞
	会計 保坂晃一 幹事 長谷川一郎 権田節造	1月17日阪神淡路大震災が発生、青研会会員企業にも多くの被害が発生した。	十日会バンド「テンディーズ」結成、銀座ジャズクラブ「シグナス」でデビューコンサートを開く。
	二木一郎 上村福子 仲俣雅行		
	齊藤晴久 菊地利博		
	大沢俊孝 直海弘明		
	事務局 中島 望		

	役 員	事 業 内 容	備考及び社会ニュース
平成 7 年 度	会長 繩田敏治 副会長 遠藤清孝 運営委員 保坂晃一 長谷川一郎 大沢俊孝 二木一郎 上村福子 志田和陽 会計 仲俣雅行 編集 菊地利博 涉外 斎藤晴久 直海弘明 事務局 中島 望	<p>オウム真理教による地下鉄サリン事件にはじまったこの年度、暗い世相が経済にも重くのしかかり、悲観的な話題が多く、景気に明るさなどとても見られない状況にある。4月には1ドルが79円75銭と戦後最高値を更新、各メーカーは海外生産へのシフトを加速させ、日本のめっき業は仕事の絶対量が不足、受注単価の値引き等で経営を圧迫されている所も多い。</p> <p>そうした中、繩田敏治会長の下、例会では「技術の十日会」はもちろんの事、テンディーズや「広大な宇宙の話」など文化的な方面での活動も充実した年となった。</p>	3.25日本鍍金協会会长に菊池忠男氏 10.28小島一浩氏結婚 1. 金融機関相次ぐ破たん 2. フランス核実験強行 3. Windows95発売
	会長 繩田敏治 副会長 遠藤清孝 運営委員 保坂晃一 長谷川一郎 二木一郎 上村福子 志田和陽 坂手保弘 内田悦美 会計 仲俣雅行 会計補佐 大沢俊孝 編集 菊地利博 涉外 斎藤晴久 直海弘明 事務局 中島 望	<p>政府の「景気は緩やかに拡大している」との発表とは裏腹に、世間の景況は相変わらず低迷し「底ばい状態」である。</p> <p>この様な中、Windows95の発売以来ブームとなって出荷台数を伸ばしている“パソコン”にスポットを当て、話題のインターネットやパソコンをめっきの仕事に活用する方法などを山田英佐夫前会長に解説していただいた。</p> <p>また繩田会長と石鍋由美子師範の御指導のもと、計10回にわたり書道教室を開催、会員多数が参加した。</p>	1. ペルーの日本大使公邸をゲリラ占拠 2. 病原性大腸菌O157食中毒禍 3. 携帯電話、P H S の普及、2000万台に
	会長 繩田敏治 副会長 遠藤清孝 運営委員 保坂晃一 長谷川一郎 二木一郎 上村福子 志田和陽 坂手保弘 内田悦美 会計 仲俣雅行 会計補佐 大沢俊孝 編集 菊地利博 涉外 斎藤晴久 直海弘明 事務局 中島 望		

役 員	事 業 内 容	備考及び社会ニュース
平成9年度	<p>会長 遠藤清孝      副会長 大沢俊孝      仲俣雅行      会計 菊地利博      編集 斎藤晴久      幹事 保坂晃一      上村福子      志田和陽      直海弘明      坂手保弘      内田悦美      梅田高広      事務局 中島 望</p> <p>北海道拓殖銀行が破たんし、山一証券が自主廃業し、経済企画庁の景気動向指数も一段と不況色を強めている。金融ビッグバンを控え銀行の“貸し渋り”が猛威をふるい、我々中小企業が会社を維持していくには大変な状況である。</p> <p>しかしこの様な不況下でもりっぱな業績をあげている企業もあり、優良工場見学会でそのような好業績の会社を見学させていただいた。これらの企業では、経営者が強いリーダーシップを発揮していることに感心した。</p> <p>例会では、税制や助成金について勉強会を行ない会社経営について多くを学んだ。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消費税率5%に引き上げ</li> <li>2. 神戸児童殺傷事件</li> <li>3. ダイアナ元英皇太子妃交通事故死</li> <li>4. 京都で地球温暖化防止会議</li> </ol>

# 回顧錄



## 昭和63年度会活動の回顧

### ✿ 63年度会員の状況

① 名誉会員5名、相談役3名、特別会員2名、報道4名、正会員79名

#### ② 会員の動静

会期中の脱会者

吉崎晴好 (株)吉崎メッキ加工所

#### ③ 役員

会長 菊池 忠男 光陽鍍金株

副会長 石川 雅一 (有)三恵工業所

〃 山田英佐夫 (株)東電工舎

会計 繩田 敏治 (有)繩田鍍金工業所

運営委員 遠藤 清孝 (有)朝日鍍金工場

〃 保坂 晃一 保坂鍍金有

〃 権田 節造 (株)幸福屋

〃 上村 福子 (株)上村正商店

〃 二木 一郎 根本鍍研薬品(株)

事務局 飯塚 フミ 東京都鍍金工業組合

### 63年3月15日 定例総会

会場 めっきセンター

参加者 32名

### 63年3月26日 日本鍍金協会年次大会

日本鍍金協会(竹内克弘会長)は第27回年次大会を3月26日午後3時から三重県長島温泉和風別館で、来賓、会員約50名が出席して開催され、62年度各会の事業経過報告、63年度収支予算案を承認したあと、青研会、十日会、名鍍会から事業経過の報告があり、任期満了に伴う役員改選が次の通りに行なわれた。

会長 長坂 広道(青研会)

副会長 伊藤 豪(名鍍会)

〃 菊池 忠男(十日会)

〃 森脇 隆(青研会)

なお、大会後は家族を交えて懇親会を開き、翌日は清遊を楽しんだあと、夕刻名古屋駅で解散した。

### 63年4月11日 4月例会

臨時総会、新製品紹介

会場 めっきセンター

出席者 38名

遠藤清孝幹事の司会で開会し、菊池会長は「本年度は11月20日に40周年記念を行うが、会運営に当っては役員だけでなく、会員みなさんのご協力



日本鍍金協会 第27回年次大会

を頂きたい。我々役員もいろいろ思案し会員にとつてメリットのある活動を行うよう努力していくつもりだが、私もはじめてのことであり、みなさんから、次はこうして欲しいという意見があったらどうしどし申し出て頂きたい」と挨拶した。

議長に小林邦雄氏を選び臨時総会に入った。議案は会則一部改正の件で、山田英佐夫副会長が説明した。改正の要点は次の通りである。

- (1) 文語調の文体は現代口語体に改める。
- (2) 第6条・会員の規定で、現行の「本会の会員を分けて正会員、技術会員、名誉会員、功労会員の4種とする」とあるのを功労会員を削除し、ここに特別会員を加える。それに伴い第7条の4の功労会員も特別会員に改める。
- (3) さきの総会で第25条の会費の値上げの件が承認されたが、それまで月額2,500円とあったのを「会費は年額4万円也とし、日本鍍金協会会費6千円也を含む。休会中の会員の会費は正会員の半額を納入するものとする。納入した入会金及び会費はいかなる事情があつても返還しない」とする。

これらの改正案が原案通り承認された。

引続き、例会に移り、会員による新製品の紹介が行われた。(株)中央製作所・戸田靖東京支店長、山本設計課長が「電着塗装用整流器」を、内外ハイグラス(株)・小俣正次常務、熊沢正幸研究員が「耐食F R Pの役割と効率的応用」をテーマに講演した。以下、電着塗装用整流器の講演概要を紹介する。

### ●電着塗装用直流電源 (株)中央製作所 電着塗装の現況

電着塗装は目新しいものではなく、昭和30年代なかばから自動車メーカーが最初に中塗り電着として導入したようだ。一番下にリン酸皮膜をつけ、その上にアニオン電着、さらに静電その他で上塗りをする。電着塗装で耐食性の向上をめざしたものである。それから弱電メーカーが採用はじめた。めっき専業者では最初にとりあげたのがメガ

ネフレームであると思う。所謂めっきをかけたあとにクリアーコーティングをすると、鰐江地区の専業者は、めっきと共に電着塗装を設備されているのがほとんどである。それと同時に私ども本社の名古屋地区では、自動車、弱電関連で、電着塗装設備を導入されるめっき専業者が増えてきた。関東地区でも同様である。かつて私どもに引合いがきたのは自動車、弱電メーカー等、大手がほとんどであったが、最近は専業者の引合いが多く、めっき業界にも相当電着塗装が普及してきている。

#### 特異性

めっき用途と比べて、電着塗装の付加特性は異なり、その特異性を十分に考慮した電源装置（整流器）でなければならない。その特異性として4点あげられる。

- (1) 通電開始前の金属表面には、塗膜の付着がなく電圧印加時に過大電流が流れる。
- (2) 塗膜は高抵抗皮膜であり、過大電圧のもとでは、絶縁破壊現象が生じ、多くのピンホールが出来る。
- (3) 塗膜形成後、無通電で放置すると再び溶解する（特にアニオニン性塗料に著しい）。
- (4) 高抵抗皮膜であるため、所定膜厚にするためには高い電圧が必要である。

#### 電源装置の特徴

これらの特性から電源装置は次の点を標準装備しなければならない。

##### (1) 総脈動率の低減

直流出力電圧平均値（電圧計で指示する値）と脈動波の最高値の差が大きい場合には、その最高値によって塗膜にピンホールを生ずる。それを防止するための脈動波の平滑化が必要で、フィルターが装備される。

##### (2) 高い出力電圧

塗料の種類は多く、塗装の目的に応じて最適なものが選定されるのは当然である。必要な電源電圧は低いものでは、150Vぐらいからあるし、高いものでは400V必要なものもある。一般には250Vから400V以下が多い。

### (3) 出力電圧の漸増

被塗装物を電着槽に浸せき後、所定電圧を加えると過大電流が流れるために整流器容量は大きなものにしなければならない。

通電開始には低い電圧（50V以下）から徐々に漸増していき、所定時間を経過後、必要電圧に達し、以後定電圧制御に移行する。一般にスロープアップとかソフトスタートと呼ばれ、60秒程度が必要である。

### (4) 再溶解の防止

何かの原因で、電着槽に浸せきしたまま整流器を停止すると、形成された塗膜は再溶解してしまう。これを防止するために低い電圧（50V以上）を印加しておくのが良い。

外部（例えは塗装装置側）から、信号を受けて自動降下し、また自動漸増昇圧することが必要である。

### (5) 定電圧制御

塗装膜の厚みが増すにつれ、電圧が一定ならば電流は早い速度で低下していくし、電流が一定ならば電圧は早い速度で上昇していく。一般的に定電圧制御で管理され、必要膜厚は時間で管理される。

### (6) 短絡電流による電源装置の保護

電着槽内で被塗装物と極板が接触すると、電圧が高いために大きな短絡電流が生じる。そのためにヒューズを溶断したり、素子を破壊したりする。電源装置内では過大電流を検出し、速やかに出力を停止しなければならない。また短絡現象は一般にすぐに解消されるため、電源装置は容易にしかも速やかに復帰するものでなければならない。

以上のことが電着塗装用電源に要求されることであり、これらを十分に満足する整流器を作ることが私どもに課せられた使命である。

私どもはこれまでめっき用電源として小ぶりで標準装備をし、コストダウンを図った装置を送り出しているが、同様なことが電着塗装用電源にもできないかを研究し、このほど「ハイーミニ、ED」を新発売した。

## 63年5月12日 5月例会

会 場 めっきセンター

参加者 35名

### 「バレルめっきについて考える」

（株）梅田鍍金工業所 永田一雄氏

先ず最初にバレルめっきについてその長所と短所を考えてみる。長所は、ラッキングが不用で、一人当たりの生産性及び床面積当たりの生産性が抜群に良いこと。また短所は、①品物の適用範囲に制限があり、重量の重すぎるものには適用出来ず1個当たり500グラム以下に制限される。また、極端に軽いもの、長さが大変長いもの、重なるもの、絡み合うものには適用出来ない。②品物1個当たりの電流密度が大きくとれないので厚付けするには相当長時間を要する。③汲みだし量が多く浴組成の変動が激しい。④排水処理の負荷量が大きい。⑤高い電圧が必要で浴温が上昇しがちであるなどを上げることができる。

バレルめっきは、ガラめっきというように蔑視され、安くて量産するためのめっき方法に思われている。しかし一般的な小物、極小物をめっき処理するには極めて良い方法であり、また一方では電子部品などの小物の貴金属めっきではバレルめっきは不可欠であり多用されている。これらの部品にはバレルめっきでも厳重なるコスト対策と作業条件でめっきされている。また、自動車部品や弱電気部品は品質要求が厳しくなり、バレルめっきであるから品質が劣るめっきをするということは許されなくなってきた。これからの都市型のめっき工場は機能を高め付加価値の高い仕事を絶えず考えてやっていかなくてはならない。それはバレルめっきとて例外ではない。そこでバレルめっきで得られる品質の現状と更に良くするための方法を考えてみたい。

まずバレルめっきの膜厚管理方法について述べる。めっきで所定の機能を得るために要求されるめっき膜厚を達成することである。それによってめっき被膜としての耐食性、摩耗性などの機能を發揮する。しかし過剰品質は良くない。あくま

でも要求される膜厚の適正範囲を維持することが重要である。最近品質上、膜厚指定品が多くなってきている。そこで静止めっきと同様に電流密度による管理方法でバレルめっきの膜厚管理ができるかどうか検討してみた。バレルめっきにおいても電流密度の管理方法で品物の膜厚を管理することができる。ただし、理論計算値は全体に均一な厚さと考えている膜厚値であり、1個の品物には電流分布の強弱があるので指定点で正確に目標とする膜厚を得るのは計算どうりにはいかない。

次にバレルめっきの均一電着性であるが、バレル内の品物1個について考えてみると必ず電流の強弱があり、めっきの膜厚が均一につくことがない。バレル内の1個の品物の均一電着性はバレル回転数に大きく依存し影響をうける。データによるとバレル回転数8 rpmで最高の均一電着性を示す。また、回転数を上げるほど膜厚分布が少なくなる。複雑な形状の品物の内部までめっきを電着させ、かつまた膜厚分布を少なくするにはバレルの回転は品物がかきませる程度であまり上げない方が良い結果が得られる。通常、品物の形状によりバレルの回転数は1分間に6回転程度で行う。

またバレルめっきの電流効率の求め方であるが、一般的にバレルめっきの電流効率は静止めっきに比べて低いといわれている。バレルめっきでは1回当たりの処理面積が大きいので汲み出し量が膨大である。したがってめっき液成分の金属濃度は著しく減少する。金属濃度が減少すると電流効率が低下するので目的とする膜厚を得るのに時間を要する。常に一定の作業条件でめっきを行うには定期的な液分析と静止めっきより繁雑な補給管理が必要である。

次にバレル内の金属濃度の変化であるが、バレルめっきでめっきを行うと時間の経過とともにバレル内の金属濃度が減少するといわれている。それにより時間の経過と共に電流効率が低下し目的とするめっきの膜厚が得られない。実際はどうなのかストロンジンクめっきについて測定してみた。測定結果から当初の予想に反してバレル内の亜鉛

金属濃度はほとんど変化がなかった。ただし、この良い結果はバレルの開孔率が高いことと処理した品物が嵩張る形状のためバレル内の空隙率が高いためである。一般的には非常に密な品物の場合、ミクロの目でみると内部の品物と接触しているめっき液の金属濃度はかなり低くなっているものと考えられる。

また、バレルの汲みだし量であるが、一般的に考えるとバレルの開孔率が高いほど液切れが良く、汲みだし量が少ないといわれている。実際は逆であり開孔率が高いほどバレルの稜線部分が多くなりめっき液の付着量が多い。したがって汲みだし量が多くなる。穴数が多いほど液切れスピードは早いが15秒、槽上で回転させ放置すれば、それ以上は汲みだし量に変化がない。開孔率が高いバレルを使用するメリットは溶電圧を低下させたり電着スピードを上げたりということを考えるべきである。

バレル本体の表面積当りの汲みだし量は丸穴型バレルが8.7ミリリットル／平方デシメートルでありスリット型バレルでは6.1ミリリットル／平方デシメートルであった。データによると現在通常使用されているバレルの開孔率は10～15%程度のものが多く、単位面積当りの汲みだし量は2.5～3.5ミリリットル／平方デシメートルとみなされている。一方、バレル内の品物の汲みだし量は充分液切れした場合、1.0プラマイ0.5ミリリットル／平方デシメートルといわれている。

バレルの汲みだし量は、実際には、バレル本体と投入された品物の汲みだし量の総和であるから、もしバレルに100平方デシメートルの品物が挿入されていたらおおよそいずれのバレルでも100ミリリットルのめっき液を汲みだしていたに違いない。したがってバレルめっきを大型の設備で行うめっき工場ではめっき液、前後処理を含めて膨大な量を汲みだしており、その公害処理に対する負荷量は静止めっきに比べると多大であることが分かる。

最後に、バレルめっきの品質をより良くするに

はどうしたらよいか考えてみたい。まずバレルめっきで良く起きる不良とその対策であるが、①異品混入については、作業者の品質管理意識の向上を計る以外対策がない。また、②蓋開口部にはまったく無めっき品の混入については、不良品を完全に除去することと、前向きな対策として品物がはさまらない構造と材質のバレルを採用する。③打痕、キズ、変形については、適正なバレル回転数でめっきを行う。そのためにはバレルの回転数を調整できる設備を導入する。現在、バレルの回転数の制御はインバーターやモーターそのものが回転調整できるものがあるので簡単にできる。バレルめっきに不向きな品物は行わないようにすることも必要だ。④膜厚不足と膜厚過多についてであるが、適正なめっき膜厚を得るには品物の面積を計算し電流密度を管理することが必要である。そして、出来上がった品物の膜厚をチェックし理論値とかけはなれていたらバレル投入量を訂正する。出来るだけ多くの膜厚データを収集し現場各ラインの品物の適正投入量を作業標準化することが重要である。

次にめっき液の組成についてであるが、1バレルに通電されている電流量などめっきされている作業条件が数値で常に分かることが必要である。そのためには自社内で定期的なめっき液の分析、電源では1バレルごとの個別電源が望ましい。また、塩水噴霧試験機、各種膜厚計などを設置しめっきされた品物が要求されている機能を満足し充分作り込められているかどうか確認できるようにしておくことも大事だ。

バレルめっきで膜厚分布をより少なくする対策であるが、静止めっきでも引掛けの最上端と最下部、真中では電流分布があるので膜厚のバラツキがある。静止めっきでは一度引掛けに固定したら他の引掛けの場所に移動できないので宿命的に膜厚のバラツキが発生する。

それに対してバレルめっきでは品物が一個所に留まらず絶えず移動しているので加工を確率的に一定にすれば静止めっきより膜厚のバラツキの少

ないめっきが得られる可能性がある。現在、バレルで多用されている水平バレルは横方向での電流の強弱がある。また、水平バレルでは品物は縦方向には移動するが横方向への移動はないといわれている。したがってバレル内で品物を縦方向だけでなく横方向に移動できるようなバレルめっきを行い、電流の強弱があっても確率的にバレル内のあらゆる所に移動できるようにすればより膜厚分布の少ないめっき製品が得られる。

次にバレルめっきで多品種少量生産に対処するにはどうしたらよいか。最近、1ロットあたりの数量が非常に少なくなり、品物の点数も増えており、小ロット品を扱える設備も備え、営業の間口を広げることは重要な課題である。そのような場合、望ましい設備はキャリヤー型の個別電源方式の設備である。多くの品物を1つの設備で処理するには限度があり管理が複雑になる。大型の設備を3人で稼働させるのなら、1人で稼働できる規模の設備を3台持った方がこれからは望ましい。この場合、3台の設備を3人で稼働させるという考えがなお良い。

### 63年5月29日 台湾視察団「励進会」との懇談

会場 めっきセンター

参加者 励進会35名 十日会15名

台湾のめっき工場の現況と日本との相違点の話し合いがもたれ有意義であった。

### 63年6月5日 十日会ゴルフコンペ

仲俣氏、悲願の初優勝

約1時間半後コースに到着、皆意気揚々、優勝をめざしてスタート。しかし、なにせO・Bの多いコース、悪戦苦闘の末前半を終り、仲俣一三氏（中央メタル）が一步リード、続いて地元の利を生かして竹ヶ原攻氏、H・C4ながら健闘の高倉利守氏（明盛鍍金）が続き、後半に入った。O・Bが多いコースだけに逆転があるかと思われたが、結局、優勝・仲俣氏、2位・竹ヶ原氏、3位・高倉氏と前半上位3氏がそのまま逃げ切った。

なお、仲俣氏は今回を含めて25回のコンペに全て参加、最多出場を誇っていたが、競技委員長という立場のため遠慮していたのか、それとも実力か、過去2位には何回かなったことがあるが、今回十日会のゴルフコンペが始まって約10年、悲願の初優勝となった。

さて、競技終了後、コース近くの中華飯店で幹事の遠藤清孝氏（朝日鍍金）の司会によりパーティをおこなった。仲俣競技委員長の音頭で乾杯した後、しばらく談笑し、いよいよ優勝者のスピーチとなつたが、あまりの感動のせいか、意外とスピーチは短く“この優勝は一重に皆様のおかげである”といったような事で終ってしまった。しかし、その最中、多少涙ぐんでおられたようにみえたが、そうみえたのは私だけであつただろうか。

その後も各自の珍プレーの披露に話は弾んだが、その中でも圧巻はO氏のショートホールでの6連続O・Bの話、O氏は当会ハンデ11の実力者であるが、その珍プレーの説明に参加者全員、爆笑、爆笑、又爆笑。笑いの渦のなか話は尽きなかつたが、すでに時計は8時を回っていたためパーティを終了し、帰路についた。

### 63年6月10日 6月例会

会 場 めっきセンター

参加者 31名

「表面処理技術の今後、都市工場としての今後の展開」

(株)ヒキフネ・(株)ヒキフネ技研・(株)ヒキフネ金属工芸 代表取締役 石川進造氏

内需拡大転換促進による「経営力の改善は技術開発力だけでなく企画、販売力」によるものだと言うテーマにより、人材、技術開発、販路等によるとの説明を受けた。

### 63年7月3日 日本鍍金協会合同役員会

会 場 奈良「飛鳥」及び奈良シルクロード博覧会見学

参加者 28名 十日会10名

### 63年7月13日 7月例会

会 場 めっきセンター

参加者 28名

「新しいアルミニウム上へのめっき法」

パイロットプレシジョン㈱ 柳田賢氏  
アルマイト技術を利用してのめっき技術の応用について、ステンレスのエッチング、アルマイト上の無電解Niめっき等、実際の品物を提示しての説明があつた。

### 63年8月10日 納涼会

会 場 目白「椿山荘」

参加者 40名

「アメリカンドリーム」と題するダンスショーを観ながら、バイキング・ディナーを楽しんだ。



十日会納涼大会

### 63年9月4日 十日会ゴルフコンペ

第26回十日会ゴルフコンペが、去る9月4日(日)、東宇都宮C.Cでおこなわれた。

朝6時30分、大型バスでめっきセンター前を出発、車内では各自の最近の調子、今日の抱負などを語ってもらうなど和やかな雰囲気のうち、9時コースに到着した。

記念撮影のあと、いよいよスタート。コースコンディションは最高、天気もますますで、前半を終つて私(繩田)が2オーバーで一歩リード。1打差で上野啓司氏(荏原ユージライト)、仲俣一三氏(中央メタル)、2打差に高倉利守氏(明盛鍍金)、中井俊晴氏(四国電機)、三宅直氏(三宅静男商店)と混戦模様。後半に入つても私の調子

は崩れず、結局通算1アンダーとなり優勝は確実と思われた。同伴して下さった中井氏からも「優勝間違いないよ」といわれ、「いやあ、そんなことありませんよ」といいながらも内心優勝スピーチを考えていた。

十日会のゴルフコンペに初参加以来苦節十年、初優勝なるかと思ったのも束の間、上野氏と同ネットと聞かされ愕然。十日会ではハンデより年齢を優先させるため、悲願の初優勝も一瞬の夢と終ってしまった。

その後、コンペルームにおいて遠藤清孝幹事（朝日鍍金）の司会によりパーティが行われた。優勝した上野氏は「明日（9月5日）は私の誕生日、前祝いになった」とスピーチ、今回、仲俣氏から特別に寄贈されたブロンズ製トロフィーを手にされた。

結果は次のとおり（敬称略）

- |      |                |
|------|----------------|
| 優勝   | 上野啓司（荏原ユージライト） |
| 2位   | 繩田敏治（繩田鍍金）     |
| 3位   | 保坂晃一（保坂鍍金）     |
| D.C. | 小室昭進（日本プラント）   |
|      | 小林邦雄（トキワ鍍金）    |
| N.P. | 高倉利守（明盛鍍金）     |
|      | 近藤澄男（近藤耐酸槽）    |
|      | 三宅 直（三宅静男商店）   |
|      | 仲俣一三（中央メタル）    |

	out	in	H.C	Net
〈上野〉	50	43	22	71
〈繩田〉	44	39	12	71
〈保坂〉	54	50	26	78



#### 63年9月13日 9月例会

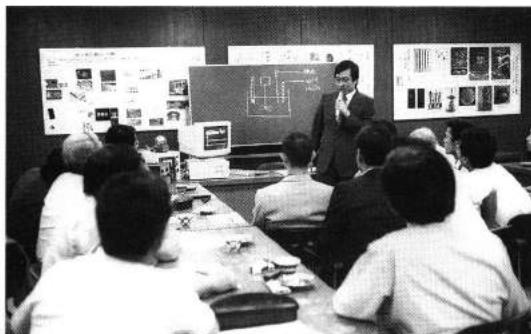
会場 めっきセンター

参加者 30名

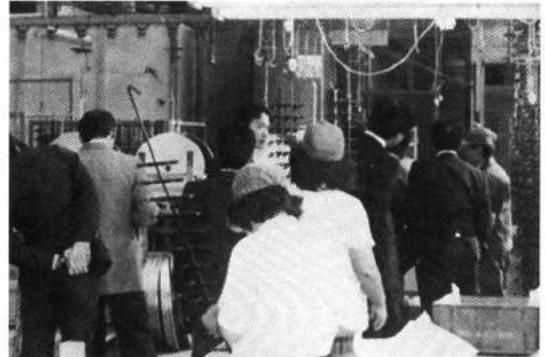
「pH、ORP制御コンピューターシュミレーション」

(株)東電工舎 山田英佐夫氏

pHの変化によりORP（酸化還元電位）が微妙に変化する事があるが、現状ではそのような細かい管理がなされていないので、pHとORPの微妙な関係をコンピューターを応用して管理したらどうかをモデルを利用しての説明があった。



講演する山田氏



### 63年10月1日 優良事業所見学会

10月1日(土), 会員など30名が参加して, 群馬県下の3事業所の工場見学会をおこなった。

朝7時, めっきセンター前に集合した一行は大型バスで出発した。車中, 菊池会長は, 「当初見学参加者は50名を予定したが, 仕事の関係で参加できなくなった人が多くなった。本日は群馬県の優良企業3事業所を見学するという欲ばった強行軍となつたが, みなさんの参考となれば幸いである」と挨拶した。続いて, 石川雅一副会長が見学先企業の概要を説明した。

はじめに伊勢崎市の(株)光陽を訪れた。

同社は銅, ニッケル, クロムめっき, 静電塗装を行い, 主に自動車, 二輪車部品, 家電関係を取り扱っている。最近は輸出関係のダイカスト部品のめっきも行っている。

昭和27年の創業で, 富士重工, 三共電器の自動車部品, 発電ランプ部品のめっき協力工場として出発。43年, 現在地に敷地6,582 m<sup>2</sup> (約2,000坪) を取得, 移転した。塗装関係はショーケースの外板, 自動車の外装部品の加工を行っている。従業員48名, パートを含めて50数名になる。

同社の説明によると, 部品の種類が多く, 部品別の比率では, 自動車関係は最近横バイ状態であるが, 全体の60%と多く, 残り40%が家電, 輸出関係の自動販売機器部品などで占められている。自動販売機器部品は得意先からの現物支給で, ダイカストに銅, ニッケル, クロムめっきを行い, 組立てて納品する。



上から(株)光陽, (株)日光化学, 桐原鍍金工業(株)

めっき作業は朝8時から夕方7時まで仕事量はあるが, 過去最高時の稼働率からみると70%位になり, これに比べると塗装が120~130%と年々伸びているという。

見学後, 見学者と入江社長と懇談, 業界の現況について活発な意見交換が行われた。

次に高崎市の(株)日光化学を見学した。

同社は, 昭和46年に同市倉賀野めっき団地に進出した。4社で構成するミニめっき団地である。同社の敷地は4,455 m<sup>2</sup> (1,350坪), 亜鉛めっき(ユニクロ, クロメート, 黒色, 緑色)を中心として, 自動車部品, 建築部品など, 小物はビスか

ら3×1.5mの大物までを取扱っている。全自動静止亜鉛めっき3ライン、全自動回転亜鉛めっき1ラインのほかに最近、電子部品の半田、金めっきライン、アロジン処理ライン、ステンレス活性化処理ラインなどを設置した。

同社の説明によると、従業員38名で、人手が足りずパートも十分には集まらない状況で困っている。得意先は在庫を持たせないため得意先の要求通り仕事をしなければならない。そのため昼食も交替でとり、装置を動かしているという。また、経営多角化として、ダスキンなどの清掃用布の再生の洗濯工場を経営している。これは排水処理技術を持っていたことが有利に働き、事業を軌道に乗せることができたという。現在同社の売上げは月間3,500万円で、このうちめっきが3,000万円、洗濯業務が500万円で年々増加しているという。

最後に、富岡市の桐原鍍金工業㈱を見学。

同社は、富岡機械金属工業団地内にあり、敷地5,427m<sup>2</sup>（約1,650坪）、工場建物2,713m<sup>2</sup>、（約822坪）と広く大きな工場である。めっきは銅、ニッケル、クロム、錫・コバルト合金、無電解ニッケル、錫、亜鉛、金、銀、ロジウムと種類が多く、多種（100～130種）少量のバレルめっき専門工場である。多種少量生産ということで、めっき工程は全て手作業である。

同社は23年前、桐原賢太郎先代社長が香港に東陽電鍍廠を設立するなど、業界では海外進出の先駆者となっているが、その後アメリカにも営業所を設置している。

工場内は、装置が整然と並び、見事なほど整理整頓が行き届いている。見学者は感想も“きれいな工場だ”と感心することしきりである。従業員95名の職場環境整備の徹底ぶりが伺えた。また、同社にはボイラーラーが一基しかない。桐原社長の説明によると、ボイラーラーは無電解ニッケルに使っているだけで、そのほかは全て投込みヒーターを使っている。ヒーターの方が液管理が簡単であることと、ボイラーラーは工場内の配管設備が複雑になることがあるという。同社の年間売上げは60年度実績

で18億円、この他に関連部門として石油給油所2箇所を経営している。

以上3事業所の見学を終了して、帰りのバスの中では、参加者1人1人が見学の感想を述べた。非常に参考となったという事である。

### 63年11月5日 日本鍍金協会秋季大会

会場 ホリディイン南海大阪

見学先 ㈱サトーセン南港、津守工場

### 63年12月10日 忘年会

会場 厚木・飯山温泉「元湯旅館」

参加者は会長をはじめ会員24名、めっきセンター前から、同旅館のマイクロバスが送り迎えをしてくれた。何人かは仕事の関係から自家用車で駆けつけた。

飯山温泉は東丹沢の山麓にあり、小鮎川の清流や樹々の緑など自然が豊か。しかも都会から2時間程度でこられる便利さから、各支部でも利用することが多いところである。

旅館に4時到着、露天風呂に入るなどくつろいだあと、6時から懇親会となった。

山田英佐夫副会長の司会で開会し、菊池会長は、「一泊の忘年会はひさしぶりであり、今夜はくつろいで、情報交換をし、よい年のしめくくりしたい。なお、本年私は入院加療のため会員のみなさんにご迷惑をかけたことをお詫びするとともに、執行部はじめ会員のみなさんの協力により会運営が円滑に行われたことを感謝申しあげる」と挨拶



忘年会

した。

永田一雄元会長の乾杯音頭で宴会に入り、大変な盛会となった。

### 63年2月14日 2月例会

会場 めっきセンター

参加者 25名

「キャピラリー等通電気泳動法によるめっき液の分析」

(株)島津製作所 日根 隆氏

日根氏は今回の講演で「各種めっき浴中には、

銅、ニッケル等の主金属とその錯化物、微量添加金属ならびに浴使用に伴う不純物金属や緩衝剤、錯化剤、光沢剤、還元剤およびその酸化物などが含まれている。これらのめっき浴成分をリーディング及びターミナルと呼ばれる二種類の電解液の組合せにより、溶液中の陰、陽いずれかのイオンを選択的に短時間で分析できるキャピラリー等速電気泳動分析法は、めっき浴管理に大変有利である」と述べるとともに、同システムの種々な特徴や、めっき種類別の分析方法などを資料をもとに具体的にわかりやすく説明した。

## 平成元年度会活動の回顧

### ◆ 平成元年度会員の状況

① 名誉会員5名、相談役3名、特別会員2名、報道4名、正会員82名

#### ② 会員の動静

会期中の入会者

内藤隆夫 平和工業(株)

長橋久雄 城南化学産業(株)

菊地利博 菊地鍍金工業

#### ③ 役員

会長 菊池 忠男 光陽鍍金(株)

副会長 石川 雅一 (有)三恵工業所

” 山田英佐夫 (株)東電工舎

会計 繩田 敏治 (有)繩田鍍金工業所

運営委員 遠藤 清孝 (有)朝日鍍金工場

” 長谷川一郎 (有)長谷川鍍金工業社

” 保坂 晃一 保坂鍍金(有)

” 権田 節造 (株)幸福屋

” 上村 福子 (株)上村正商店

” 二木 一郎 根本鍍研薬品(株)

事務局 飯塚 フミ 東京都鍍金工業組合

会場 めっきセンター

出席者 32名

石川進氏を議長に議事に入り、63年度事業報告及び決算報告を承認した。次に役員改選が行なわれ新会長に菊池忠男氏(光陽鍍金(株))を再選した。また、次期日本鍍金協会会长に小林邦雄氏(㈱トキワ鍍金工業所)を推薦する事を決めた。議事終了後、菊池新会長の挨拶、永田一雄氏から40周年記念事業の経過報告と協力要請、小林邦雄氏からアメリカ視察団の派遣の説明があった。



### 元年3月25日 日本鍍金協会年次大会

日本鍍金協会(長坂広道会長)は第28会年次大会を3月25日山中温泉の應泉閣で開き、新会長に

### 平成元年3月10日 定例総会



第28回日本鍍金協会年次大会

十日会の小林邦雄氏を選出した。

年次大会は長坂会長の挨拶のあと、63年度各会の事業経過報告、平成元年度予算を承認のあと青研会、名鍛会、十日会からそれぞれ事業経過報告があった。このあと任期満了に伴う役員改選の結果、会長に小林邦雄（十日会）、副会長に森脇隆（青研会）、竹中道明（名鍛会）、菊池忠男（十日会）の各氏を選んだ。なお当夜は家族を交えて懇親会を開き、翌日は観光を楽しんだあと解散した。

#### 元年4月2日 十日会創立40周年記念式典及び祝宴

会場 東京会館

参加者 300人

第1部記念式典は、山田英佐夫副会長の司会により、石川雅一副会長の開式の挨拶、国歌斉唱、業界物故者への黙とうのあと、小林邦雄実行委員長は、「当初、昨年11月20日に祝典を挙行する段取りであったが、諸般の事情により本日に延期となった。過去、20周年、30周年の節目にそれぞれ盛大な記念行事を行い、記念誌を発刊してきたが、今回も40周年実行委員会全員が参加して手作りで記念誌を発刊した。実行委員会は発足当時の歴史

を紐解きながら先輩諸氏が戦後の何もない状態から十日会を設立され、業界の基礎を築かれた苦労をしみじみと噛みしめている。偉大なる諸先輩の業績を辿り、本会の歴史を語り合いながら記念誌をまとめたことは、十日会創立の精神である“討論する、司会する、協力する”の原点を視める大変よい機会であった。10年一昔というが、40年の永きにわたり任意団体としての十日会が活発に活動しながら存続してきた原動力は何だったのである。おかげになりひなたになり十日会を見守りご指導を頂いた諸先生を始め、多くの関係者はもちろん、会員同士が固い結束の基に、語り合い、研さんを積み、友情を深めてきた結果であると信じている」と挨拶した。

繩田敏治実行委員が綱領宣言、神谷博行実行委員が来賓紹介を行ったあと、菊池忠男会長は、「本日、創立40周年祝典を開催したところ、来賓、会員、家族の多数のご出席を賜わり厚くお礼申しあげる。

十日会は、いまはなき高浜二郎先生の呼びかけにより、戦後の混乱した昭和23年11月15日に志を同じくする有志が合い集い、初会合を開いたのが始まりである。以来、会合を毎月10日に行うこと



とし、名称を十日会と決めた。故高浜先生は、めっきを天職とする者同士が日本の産業に奉仕し、そのために参加する会議は、将来の公私の行動において互いに討論する、司会する、協力するの修練をさりげなく技術研究の場で行う。それを精神として人間は2度と通れない道を歩きつつある。もっともっと確りと歩かなければならぬと述べている。こうして誕生した十日会は諸先輩の手により創立の精神を基本にその時代時代に適合した活動を行い、今まで存続させてきた。その道程は決して穏やかなものではなく、大変厳しいものがあったと思う。これを私どもは将来の糧としなければならない。

一口に40年といつても任意団体としてよくここまで継続できたことは驚きと同時に感慨無量である。これまで存続できたのは、例会に参加し、技術の向上と情報が得られるだけでなく、よき人間関係が得られ、互いに刺激し合うことができたからだと思う。現在の会員は創立時代の会員の二世、三世を中心となり、めっき業者はもとより、設備薬品メーカー、材料商から成るユニークな構成である。

いま、産業構造の変革等、世界が大きく変わろうとしているとき、私たちは高浜先生の言葉を胸に刻み、つねに創立時代の心持を忘れることなく、新しい時代に即応した運営を図りたいと思う。諸先輩の数々の業績と栄光に大きな拍手を送るとともに、その喜びを分ち合いたいと思う」と挨拶した。

永田一雄記念誌編集委員長は、「記念誌“十日会40年の足跡”並びに十日会会員名簿をご披露申しあげる。これは編集委員の手作りによるものである。過去に20周年記念誌を井上喜夫氏、30周年記念誌を石川進氏が中心に作成を進めたが、今回、両先輩と同じ地域の私が編集委員長の大任を仰つかったのも何かの縁と感じる。記念誌発刊を決めたのが一昨年12月頃で、編集の要領は分っているつもりであったが、完成まで10か月を要した。何もない状態から形ある一つのものを作ることは大



東鍍工組に寄贈目録贈呈



歴代会長に感謝状贈呈

変なことであるが、このような経験は今後、会社経営や会活動において経験しなければならないことであり、今回多くの自信を得たことは最も大きな収穫ではなかったかと思う。記念誌の内容はここ10年間のことであるが、世の中の変化が激しかったことが解る。記念誌から会の足跡をたどり、次代を担う若い会員がこれまで会を成長させてきた先輩に感謝し、謙虚な心を持つことが必要ではないかと思う。そこに流れている会の精神と伝統を受け継ぎ、ますます会を発展させることができると記念誌を発刊した大きな意義ではないかと思う」と挨拶した。

### 元年 5月12日 5月例会

会 場 めっきセンター

参 加 者 25名

「国際化の中の東南アジアと日本」

大崎金属(株)技術顧問 矢部賢氏  
氏が最近、東南アジア方面のめっき業を見学及

び技術指導をされている中で、国民性の相違、風俗習慣の違いの中でもめっき業の国際化をどのように進めたら良いかを話していただいた。

### 元年5月21日 十日会ゴルフコンペ

第27回十日会ゴルフコンペが、去る5月21日(日)、前回同様、東宇都宮C・Cで行われた。

朝6時、めっきセンター前を大型バスで出発、今回は昨今のゴルフブームのため4組しか予約がとれずプレーヤーは16名、又、ギャラリーとして会長の菊池氏、幹事の二木氏に参加して頂いた。ゴルフ場に近づくにつれ雨がポツポツ。スタート8時30分の15分前にコース到着ということで、あわただしく1番ホールティグランドへの集合。記念撮影のあと菊池会長の始球式となった。2回の素振り? のあとバッシと打たれたスマートボールはどこかへ飛んでいった。

午前中は降り止まぬ雨の中でプレーが行われたが、その中のハイライトはなんといっても山田氏(東電工舎)の1番ホールドラコン賞の獲得である。山田氏のゴルフの才能の一部を垣間見た感じがした。

午後からは雨もやみ晴れ間もみえてきたが、スコアの方はあまり伸びず結局、小林氏(トキワ鍍金)が10年ぶりに2度目の優勝を飾った。

その後コンペルームにおいてパーティが行われ、優勝した小林氏に1/2オンス金貨が贈られた。2位の八幡氏にはぐっと下がって1/10オンス金貨が贈られた。(なお、小林氏に贈られた金貨は、小林氏が今後3回連続出場しない場合には没収するという案が役員の間で検討されている。)



全成績は以下の通り（敬称略）	NET
優勝 小林 邦雄 (トキワ鍍金)	78
2位 八幡 順一 (八幡鍍金)	81
3位 仲俣 一三 (中央メタル)	83
4位 草間誠一郎 (三ツ矢)	83
5位 上野 啓司 (荏原ユージライト)	84
6位 遠藤 清孝 (朝日鍍金)	86
7位 繩田 敏治 (繩田鍍金)	87
8位 竹ヶ原 攻 (内外ハイグラス)	88
9位 小島 憲和 (ユケン工業)	88
10位 神谷 博行 (神谷電化)	89
11位 三浦 信保 (ディップソール)	90
12位 近藤 澄男 (近藤耐酸槽)	91
13位 太田 多一 (太田鍍金)	92
14位 今泉 好隆 (山 晴)	92
15位 小室 昭進 (日本プラント)	103
16位 山田英佐夫 (東電工舎)	106
D.C 山田, 小島	
N.P 繩田, 仲俣, 小島, 草間	

### ●ブラウント氏夫妻の金婚式

日本とアメリカのめっき業界の橋渡しに尽くされたブラウント氏夫妻が昨年結婚50年目を迎えて金婚式を行ったが、十日会がこれにペアの座布団を贈った。

ブラウント氏と十日会の付き合いは昭和26年に始まり、当時の日本のめっき業界にいろいろと技術的アドバイスを与えたり、帰国後も日本からの視察団に対し何かとお骨折りを頂くなど十日会関係者をはじめブラウント氏のご好意に感謝している人は多い。

昨年5月、コネチカットの自宅で、身内や近所の友人を招いてお祝いを行ったが、7月に改めて遠い地域の友人など35名を招いてボコノ(ベンシルバニア)でお祝いを行った。日本から招待されたのは福井通祐氏夫妻(福井電化工業㈱)だけで、これを十日会が知りお祝いの品を送ったもので、その礼状も頂いている(十日会40周年記念誌に掲載)。福井氏はお祝いの席上、ブラウント氏の日

本の業界に対する功績を称えるスピーチを述べた。

ブラウント氏はアメリカで「プロダクト・フィニッシング」という雑誌の編集長をしていたが、その後婿に譲り、現在は材料組合事務局の仕事をしているという。



ブラウント氏、福井氏両夫妻

#### 元年 5月27日 日本鍍金協会合同役員会

会 場 热海「ニューアサヒ」

参加者 21名 十日会 9名

#### 元年 6月10日 「前東京都鍍金工業組合理事長 吉川弘二氏慰労会」

会 場 上野「タカラホテル」

参加者 40名

東京都鍍金工業組合理事長を5期10年間在任した吉川弘二氏が去る5月26日に行なわれた同組合総代会において、組合員から惜しまれながら勇退する事になった。10年間の理事長在任はこれまでにない記録である。昭和54年の理事長就任当時、



大きな期待を受け登場、そして行なった数々の組合事業に大きな足跡を残された。そこで十日会独自で慰労会を開こうと会員に呼びかけたところ、多数の方々に参加していただいた。記念品として、良く入る?パターを贈呈した処、その後十日会ゴルフコンペに参加して下さった時は必ずそのパターを持参して下さった。嬉しい限りである。

#### 元年 6月16日 6月例会

会 場 めっきセンター

参加者 20名

##### 「東南アジアの動向」

JETRO輸入対策部輸入対策課長 齊藤真幸氏

5月例会に引き続き東南アジアの動向について経済的な侧面で空洞化及び外国人労働者問題で、最近特に関係が深い東南アジアの人々の生活習慣国民性の相違と東南アジア各国と日本との経済動向の比較等を話していただいた。

#### 元年 7月13日 7月例会

会 場 めっきセンター

参加者 23名

##### 「イベント産業の表と裏」

(株)博報堂21世紀デザイン室室長 水野泰成氏

異業種交流の意味でめっき業と異質の広告宣伝業界の方に、めっき業(製造加工業)のハードの中にもソフト産業の部分を取り入れられるのではないかと各種のイベント行事を手掛けている水野氏にマーケティング対策の宣伝についての話をしていただいた。

#### 元年 8月18日 納涼会

会 場 六本木「日鉱クラブ」

参加者 30名

菊池会長は、「地元上野を離れて、はるばる六本木の田舎まで来た。間違った案内地図のおかげで、六本木の町のあちこち散歩しながら見物することもできた。夏の休みも終り、暦の上では秋だが、連日暑さが続いている。残暑お見舞い申し上

げます。

私、休みの間、伊東の方に行ってきた。地元の人たちも一連の騒ぎを何となく切り抜けてきた強みを感じる。宴会などやっている人はいなく、ほとんどが家族連れで、地震をどうのこうのは忘れているようだ。人の噂は75日というが75日どころか10日すれば忘れていくという状況である。ある意味では、それが日本の強みなのだろうとしみじみ思う。

これからわれわれも、色々なことをやり、その都度その都度、その時代に即応した動きをしていけば何とかなると思う。日本経済の見通しも、私が一番当っていると思う野村総研が、まだ3~4年は好景気が続くといっている。私もこの3~4年は大丈夫と思って進んで行きたい。

この10月には常任顧問の吉川さんにお願いして外国人の雇用の問題を十分聞きたいと思っている。その話を聞かないと皆さんの工場の中で困る所もあると思う。お互いに団結し、相談し、われわれに少しでも良い方向に向かえようと願っている。今日は、十日会恒例の納涼会で、せいぜい飲んで、食べて、これから英気を養ってほしい」とあいさつをした。

若手を中心になっただけに夏の暑さも吹き飛ばす食欲。シャブシャブをつっ突き、肉の追加注文も出るなど大いに盛り上がった。下町中心の十日会員一同、終了後も六本木の夜の町への二次会と、楽しい一日を過ごした。



### 元年9月11日 9月例会

会 場 めっきセンター

参加者 28名

#### 「AESFクリープランド大会帰朝報告」

東海鍍金工業㈱ 代表取締役 技術士 石川進氏 日本鍍金協会（小林邦雄会長）は6月24日から7月6日までの13日間アメリカ視察団（団長小林会長、団員15名）を派遣したが、今回コーディネーターの石川進氏にクリープランドで開かれたAESF'89大会やブラウント氏との再会、ボストン、クリープランド、カナダのトロントでの工場見学などの概要をスライドを活用して、紹介していただいた。

### 元年10月11日 10月例会

会 場 めっきセンター

参加者 37名

#### 「外国人労働者問題の背景と現状」

東京都鍍金工業組合 常任顧問理事（全鍍

連 外国人問題特別委員会）吉川弘二氏 最近、ボーダレスということがいわれ、世界には国境がないという。感覚的にはそうだが、日本にくる場合は在留資格がなければ入ってこれない。現行の在留資格は18あり、その中で、就労の在留資格が認められているのは、例えば、貿易などで日本に支社があるところの外国人、大学の先生、研究機関の研究員、プロ野球の選手、タレント、産業上の高度な、又は特殊な技術、技能を供給するため招へいされた特別な人などで、面白いのが熟練労働に従事する者だが、これはめっきの熟練労働者でなく、中華料理、フランス料理のコックさん、あるいは洋菓子等が熟練労働者として資格をもらえる。そのほか法務大臣が特に在留を認めるものとして留学生、就業生がある。これについて週20時間というしばりがある。現行の入管法によると、この在留資格者以外は働けない。中小企業のめっき業で働く資格は皆無である。えてあるとすれば就学生、留学生の20時間研修による方法しかないので現状である。

ほかに昭和56年，在留資格の改正で付け加えられたのが研修生である。研修生は本邦の公私機関により受け入れられて産業上の技術，又は技能を習得しようとする者，それは労働ではなく習得する者となっている。

いま国会で入管法の改正が出ている。日本政府としては，ホワイトカラーは入れるが，ブルーカラーは入れないという一貫した方針である。入管法の大きな改正点は，従来，在留資格を数字で表わしていたため，間違えて使うことがあったが，間違いを防ぐための日本語で在留資格を表示する。そして外国人が求めれば就労する資格があるという証明書を発行する。これは就労証明書を提示しなかったものを使うことに対し，罰則規程を作る布石である。私どもの言い分としては日本の政策は，最初に大企業の利益を考えて，中小企業は後回しである。こんどの新しい在留資格の中に企業内転勤というのがある。これは大企業が外国に工場を作り，そこで人を雇ったのを東京へ転勤させ，就労が認められる。我々はこの入管法の改正は改悪といっている。

今年春，NHKが外国人受入れの可否，開国論か鎖国論かの討論会を放映したが，最近では，いまさら開国論，鎖国論の時代ではない，いまの日本には10万人からの外国人が入っている，この現状をどうするかが問題であるという。これについ

ては面白い話がある。法務省がこの10万人の人達をつかまえて留置するにもその場所がない。またその人達が何処にいるのか日本の警察では分らない。いま法務省がやっている取締りは，スピード違反の取締りのようなもので，あるところを集中的にやっているのが現状である。

しかし，この労働力不足をこのまま放置していくいかである。いま折衷案的なものが考えられている。外務省の内部で一応研修生ということで受入れるが，座学はやらなくていい。代りに給料は労働者並みに払え，2年経ったら帰すということはどうだろうと考えていたら，それが日本経済新聞にすっぱ抜かれて各党間で大きな問題となつた。そういう考え方方が最近根強く出てきた。

いまどういう形で受け入れようかと模索しているが，研修制度はやめよう，むしろ労働者として受け入れようじゃないか，ただし居着かれては困るから2年ぐらいで帰ってもらうことがいわれている。

いま日本で単純労働者はいけないというが，単純労働者の定義はむずかしい。

日本では初め素人で入り，それから仕事を覚えていく。一人前の板前といつても皿洗いから庖丁とぎを何年もやって一人前となるが，この皿洗いが単純労働なのか熟練労働へ行く一つのステップなのかである。従って日本では単純労働をやめて未熟練労働としてこれを熟練労働者に鍛え上げる形で労働者として受け入れようという発想が生まれている。それも2年なりで帰すのではなく，新しい在留資格を取らせて熟練労働者として育て上げるべきであるという考え方である。

日本人だけがきれいな仕事だけをするという発想は捨てて，外国人労働者も日本人労働者と同じ労働者として扱っていくことでのうまくいかない。外国人労働者を使うとしても，3Kの“きたない，きつい，危険”の職場を改善していくなければいけないと思う。

まだまだ外国人労働者に頼るのでなく，日本における家庭婦人に目を向ける必要があろう。ただ単に男性の補助的作業だけに使うのではいけない



講演する吉川氏

い。そのための作業環境は改善していかなければならぬ。それと機械化、省力化が重要で、やることはきっちりやる。それで足りないのは、外国人労働者で補っていくことである。何もやらずに外国人労働者で総て事済ますということになると、労働の二重構造が生じて社会不安が出てくる。

### 元年11月11日 日本鍍金協会第26回秋季大会

日本鍍金協会（小林邦雄会長）は11月11日(土)午後1時半から湯島のめっきセンターで、第26回秋季大会を開催した。当日は傘下の名鍍会（竹中道明会長）9名、青研会（森脇隆会長）9名、十日会（菊池忠男会長）29名の会員と来賓4名が出席した。

大会は、菊池副会長の司会により、竹中副会長の開会の辞、業界関係物故者に対する黙禱のあと、小林会長は「当協会は年2回大会を開き、意見、情報交換、討議を行っているが、大変有意義なことだと思う。協会では技術の研さんに務め、親睦、情報交換を活発に行うことにより組合のリーダーとなる人材を多く輩出しており、今後とも我々の立場は重要になってくると思う。さらに会員各位の協力により発展し、業界の発展に貢献していく」と挨拶した。

繩田敏治幹事の音頭で全員で綱領宣言を行い、小林会長が議長となり議事に入った。事業報告を石川雅一氏、傘下各会現況報告を佐藤寿訓氏（名鍍会）、緒方輝彦、池田伸一、山下恭弘3氏（青研会）、権田節造氏（十日会）、内務規約変更（会費の件）を山田英佐夫氏が報告し、それぞれ承認



した。

来賓の渡邊辰巳全鍍連会長、石崎勝一東鍍工組理事長、四方正夫機材協副会長から祝辞があり、森脇副会長の閉会の辞で大会を終了。引続いて、講談師・田辺一鶴氏の「プロの話術」の講演を聞き、懇親会へ移った。

### 元年11月19日 十日会ゴルフコンペ

第28回十日会ゴルフコンペが去る11月19日(日)快晴のもと茨城県那珂カントリークラブで行われた。プレーヤー20名、ギャラリーとして会長の菊池忠男氏、幹事の二木一郎氏（根本鍍研）の総勢22名の参加となった。

今回は去る6月、十日会会員有志でおこなった“吉川弘二氏に感謝する夕べ”が縁で、前理事長の吉川氏の参加を得て、十日会ゴルフコンペの歴史的な1ページを飾ることとなった。

さて、プレーの方は、ハンデから中井（四国電機）、保坂（保坂鍍金）、初参加ながら実力上位の内藤（平和工業）の3氏が有力視された。前半を終って予想通り中井、内藤両氏、そしてハンデ不利と思われた仲俣氏（中央メタル）が43で廻り好位置をキープ。紅一点の上村壱（上村正商店）らがトップグループを形成した。後半に入っても上位グループは崩れず、結局後半も43という好スコアを出して仲俣氏が堂々のベスグロで優勝を成し遂げた。

パーティは当クラブのコンペルームにおいて遠藤幹事の司会により行われた。まず菊池会長より優勝賞品の“1/2オンス金貨”が仲俣氏に渡され



た。そして、今回の吉川氏の参加を記念して作られた純銀製カップ“吉川杯”が吉川氏より仲俣氏に手渡された。(なお、吉川杯は永久持ち廻りの予定) 続いて優勝者の仲俣、2位内藤、3位中井、4位森、5位上村、ブービー小室、コース予約でお世話になった太田、初参加の吉川、堀米、長橋の各氏、最後を締めくくって菊池会長からそれぞれユーモアあふれるスピーチがあり、終始笑いの絶えない雰囲気のうち午後4時半散会した。

余談であるが、今回もブービーとなった小室氏はこれで連続3回ブービーという珍記録をうちたてた。この記録をどこまで伸ばすか次回の成績が注目される。

全成績は以下の通り（敬称略）		N E T
優勝	仲俣一三 (株)中央メタル	74
2位	内藤隆夫 平和工業(株)	76
3位	中井俊晴 四国電機(株)	77
4位	森 克夫 (株)ワールドケミカル	77
5位	上村福子 (株)上村正商店	79
6位	竹ヶ原攻 内外ハイグラス(株)	80
7位	小倉攻一 大日工業(株)	80
8位	小島憲和 ユケン工業(株)	81
9位	吉川弘二 (株)大崎金属	83
10位	太田多一 太田鍍金工業(株)	84
11位	上野啓司 菊原ユージライト(株)	84
12位	八幡順一 八幡鍍金工業(株)	84
13位	保坂晃一 保坂鍍金(有)	85
14位	今泉 勇 (株)タイホー	87
15位	繩田敏治 (有)繩田鍍金工業所	87
16位	清村進之 内外ハイグラス(株)	88
17位	遠藤清孝 (有)朝日鍍金工場	88
18位	長橋久雄 城南化学産業(株)	92
19位	小室昭進 日本プラント工業(株)	96
20位	堀米 清 (有)都鍍金工業所 ドラコン 上村、上野 ニアピン 上村、内藤 2 ベスグロ 仲俣、内藤 86	107

## 元年12月9日 忘年会

会 場 厚木飯山温泉「元湯旅館」

参加者 21名

昨年に引き続き都心を離れ厚木飯山温泉にて仕事を離れ和気あいあいと酒を酌み交わし日頃の疲れをいやした。



## 2年1月21日 新年会

会 場 めっきセンター

参加者 58名

菊池忠男会長が「平成に入り、政治的にも経済的にもえらい時代に入ったという気がする。このような時こそ、十日会の精神である、『討論する、司会する、協力する』の原点のもと、会員同志の固い結束と研さんにより、ますます発展していきたい。十日会は手作りの会である、私も色々な会に参画しているが、十日会ほどまとった会を見た事がない。本当に会員になってよかったと常々思っている。また、家族の皆様とお会いし、昔小さかったお子さんが大きく成長しているのを見ると、これからも十日会は永遠に発展すると自信を持っていえる。本日は、手作りの新年会で役員一同新しい企画をたてて頑張っているので、どうか楽しいひと時を過ごしてもらいたい」と新年挨拶があった。

東京都鍍金工業組合副理事長横山一男氏の祝辞

のあと、仲俣一三氏の乾杯で懇親会に入り、ビンゴゲームやじゃんけんゲーム、子供の宝さがしなどを楽しみ新年を祝った。

## 2年2月14日 2月例会

会場 めっきセンター

参加者 25名

### 「インド事情」

平和工業㈱内藤隆夫氏

(有)朝日鍍金工場 遠藤清孝氏

日本貿易振興会の派遣で1月14日から23日までインドのめっき技術指導を行った十日会会員の平和工業㈱専務内藤隆夫氏と(有)朝日鍍金工場専務遠藤清孝氏から「インドめっき業の実態」について聞いた。

両氏はまず技術指導を行った7社の業務内容、売上高や従業員数等の企業規模、給料、勤務体制、めっきの種類や設備、排水処理対策などを具体的に説明した。これによると月給は一般従業員が3000ルピー（1ルピーは8~9円）、工場長クラスで15,000ルピー程度で、2シフトで行っている工場も多い。めっき設備は、製作めっきを行っている大きな工場では自動化が進みメンテナンスも

行きとどき、分析および試験機器も揃って管理もしっかりしているが、小規模工場は、手動で効率も悪い。



次にインドへの提言として「新技術等の情報を伝達する機関がほとんどないので、業界の組織化を行い情報の強化を図るべきである。公害問題は、ほとんど排水処理を行っていないのが現状で、近く規制が強化されるという話しあるが、公害防止は積極的に行うべきだ。めっき技術の指導書がほとんどないようで、技術レベル向上のためには、ハンドブックのようなものを作成する必要がある。また日本に関係者を招き先端めっき技術を研修させることも必要だ」と述べた。

## 平成2年度会活動の回顧

### ◆ 2年度会員の状況

① 名誉会員5名、相談役3名、特別会員2名、報道4名、正会員84名

#### ② 会員の動静

会期中の入会者 3名

志田和陽 (有)大森広尾鍍金工場

斎藤晴久 シルバーメッキ工業(株)

長谷川徹 長谷川鍍研資材(株)

会期中の脱会者

なし

#### ③ 役員

会長 石川 雅一 (有)三恵工業所

副会長 山田英佐夫 (株)東電工舎

〃 繩田 敏治 (有)繩田鍍金工業所

会計 遠藤 清孝 (有)朝日鍍金工場

運営委員 今泉 好隆 (株)山 晴

〃 長谷川一郎 (有)長谷川鍍金工業社

〃 保坂 晃一 保坂鍍金(有)

〃 権田 節造 (株)幸福屋

〃 上村 福子 (株)上村正商店

〃 二木 一郎 根本鍍研薬品(株)

〃 堀米 清 (有)都鍍金工業所

事務局 飯塚 フミ 東京都鍍金工業組合

魅力のある会である。この2年間で一番思い出に残ることは、昭和から平成に代った節目に会長を経験したことと、40周年記念式典が私の生涯の中で一番記憶に残るすばらしい行事であったと自負している。いま業界は景気のよし悪しにかかわらず難問が山積しているが、十日会の伝統と団結があればどんな試練も乗りこえていけると思う。会長を下りても私なりに会をバックアップしていきたい」と挨拶。

議長に、八幡順一元会長を選出して議事に入り、平成元年度事業及び決算報告を承認した。次に役員改選を行ない新会長に石川雅一氏を選出した。石川新会長は「伝統ある十日会の会長の重責を勤めさせていただく事になった。会の名を汚すことのないよう粉骨碎身の努力を行なっていきたい。今年の課題として会員や家族の和のパイプをより太くするとともに、仕事面でも互い助け合い技術革新による差別化を進めレベルアップをはかっていきたい。また二代目経営者として柔軟な姿勢を持つため、表面処理以外の業界人との異業種交流も展開して経営センスの向上につとめたい」と挨拶した。

最後に、長谷川一郎幹事が閉会の辞を述べて、総会を滞りなく終了した。

### 2年3月15日 定例総会

新会長に石川雅一氏選出

会場 めっきセンター

参加者 31名

総会は、山田英佐夫副会長の司会で開会し菊池会長は、「私が十日会に入会して12年目になるが、丁度10年目の節目に会長を仰せつかった。入会時の会員は69名で現在82名、種々な任意団体の中でも、こうした厳しい状況の中で當時会員数が増えしていく会は他にはないと思う。それだけ十日会は

### 2年3月24日 日本鍍金協会年次大会

新会長に伊藤豪氏選出

日本鍍金協会（小林邦雄会長）は3月31日(土)午後4時20分から浦安のサンルートプラザ東京で第29回年次大会を開催した。当日は会員、会員家族、来賓など133名が参加した。

年次大会は、菊池忠男副会長の司会で開会、竹中道明副会長の開会挨拶のあと、国歌斉唱、業界関係物故者への黙祷、来賓の紹介に続いて、小林会長は「今年は春休みの思い出に東京ディズニー

ラントで過したいという会員の要望を受けて、この会場を設定した。お子さんには特に喜んでもらえると思うが、今日、明日とご家族で楽しんでいただきたい。

本会も29回の長きにわたり歩んできたが、会員の顔ぶれも大分変ってきた。青研会から我々十日会にバトンタッチして、まず会費の問題にぶつかった。公平な会費の配分ということで秋季大会に諮りみなさんのご賛同をいただいた。昨年7月、第6次海外視察で4年ぶりにアメリカを2週間にわたり視察してきた。クリーブランド、AES大会、ボストン、ニューヨークなど広いアメリカを回り、得るところが多くあった。また、ジエトロから委託を受けた全鍍連の要請により会員2名が昨年暮インドへ、今月も中国へ派遣され、国際的な活動が多くなっている。本会も来年30周年という大きな節目を迎えるが、次の時代を担う我々は本会の伝統を守り、業界の将来のために力を合わせて努力していきたい」と挨拶。森脇隆副会長の音頭で、綱領宣言を参加者全員で朗読したあと、恒例により小林会長が議長となり、議事に入った。

第1号議案、平成元年度事業報告を石川雅一幹事、第2号議案、平成元年度収支決算報告を山田英佐夫幹事、監査報告を神谷博行監事が行ない、

それぞれ承認された。第3号議案、傘下各会の現況、事業報告は、十日会が繩田敏治幹事、名鍍会が杉浦候二幹事、青研会が池田伸一幹事が行なった。この中で、青研会から「購入資材軽量化運動」の提案があった。

この提案の趣旨は次の通りである。

「長い不況を脱してようやく好況になったと思えば、今度は深刻な人手不足で、ともすれば労務倒産にもなりかねない現況にある今日、より高度技術開発が叫ばれ、多くの優秀な人材が求められている社会において、わがめっき業界は優秀な人材どころか、人手が集まらなくなってしまったのが大方の企業に言えるところである。この問題を解決すべく魅力ある企業造りに各社とも対策を打たれているが、めっき業の「3K」と言われる「きけん」「きたない」「きつい」を解消するため努力をしていても自社の努力だけでは成果があがらないことがある。そこで提案であるが、購入資材の軽量化のために全員でこの問題に取組めば「3K」の一角を崩すことが出来るのではないか。日常の現場で取り扱う薬品などの梱包単位の重量が、現場の条件や扱う薬品類の危険度からみて、あまりにも重すぎると思う」

第4号議案、役員改選では、新会長に伊藤豪氏



日本鍍金協会 第29回年次大会 サンルートプラザ東京にて

(名鍍会)を選出した。

伊藤豪新会長は「昭和36年当会が設立されてから、盛大な会を続け、綱領で謳っている通り、めっき工業を通じて日本産業の興隆に寄与しつづけてきたことは素晴らしい事だと思う。このような会を作った大先輩と会を絶やさずに存続発展させてきた諸先輩には頭の下がる思いである。来年は30周年を迎えるが、名鍍会としては青研会へ無事バトンタッチするまでの1年間、業界の大きな推進力となるよう努力していくつもりで、一層のご支援をお願い申し上げる」と就任の挨拶。

来賓として、渡邊辰巳全鍍連会長、田島栄都立大学名誉教授、石崎勝一東鍍工組理事長、柴崎三郎全鍍連経営合理化委員長から祝辞があり、祝電披露のあと、永田一雄幹事の閉会の辞を以って大会を終了した。

引き続いて、6時から第2部、会員、家族懇親会に移った。遠藤清孝幹事の開宴の挨拶、小林前会長の挨拶、新旧会長のバトンタッチ、伊藤豪新会長の挨拶と続き、懇親パーティーに入った。

## 2年4月11日 新製品紹介

会場 めっきセンター

参加者 38名

1) 「カンデン ドライシステム」フロン乾燥代替品

(株)全研 代表取締役 山田要輔氏他

フロンの代替品について、実演を交えて講演をいただいた。実演では実際に取り扱っている品物を試して効果を確認した。

2) 最近のイオン交換装置の動向

(株)三進製作所 環境事業部 福田正氏

最近の造水処理について、事例を基に講演をいただいた。

## 2年5月14日 5月例会

会場 めっきセンター

参加者 34名

「デザインとめっき」将来の表面処理として

のめっきについて

ソニーデザインセンター企画推進部  
総務課長 中川嗣也氏

## 2年6月8~10日 日本鍍金協会合同役員会

会場 濟州グランドホテル

参加者 30名 十日会11名



濟州島にて

## 2年6月14日 6月例会

会場 めっきセンター

参加者 36名

「明日もあるか」

(株)大崎金属 技術顧問 全鍍連 東京工組  
公防協 嘴託 矢部 賢氏



矢部 賢氏

## はじめに

この度、十日会のお招きを頂き、皆さんのが「めっき経営の将来」についてのディスカッションの仲間に入れて頂く機会を得て光栄に思っている。

現場の仕事に携わって、いつの間にか40年に近い歳月を職人として過ごしてきたが、時々、組合のお手伝いに参加することを許されて、すばらしい諸先輩に接する機会に恵まれ、沢山のことを教えて頂き、得難い多くの経験の場も与えられた。千人千様に、すべての人が全部違った道を歩んでいる。乏しい私の経験の中の「めっき」に対する考え方を納得して頂けるとは少しも思っていないが、お話の中に加えて頂くために僅かな愚案を持って参加した。めっき業にとって、東京には明日もあるのだろうか？私にはわからないが、東京は既にものを作るところではなくなっているとの声もある。好況といわれる中で、夢を持って、この仕事を引き継ぐために、私達はどうすれば良いのか？

私が考えている、めっき業の明日について主として東京の業者のケーススタディーのつもりで無責任な放言を並べた。およそまとまりのない、耳学問と、先輩の受け売りばかりで、皆さんの耳を汚すことをお許し頂きたい。

## 今まで良いのか？

### (1) なぜ東京なのか？

東京がG N P 第1位の地位を愛知に奪われて既に久しい。かつては東京と大阪の狭間で無念の思いに明け暮れた中京地帯が、自動車産業の発展と共に何時のか間にか両者を制し、巨大な工業力を發揮している。その中京地帯が北陸に脅威を抱いている間に、今度は京阪神が一体となって、中京または東京に対する捲土重来を期して、特に大阪は商業都市から工業都市へと再編成を期している感がある。

東京に縁の深い電機産業に影響を受けている我々の業界は、かつては九州が、現在は東北が非常にポテンシャルが高くなっている。

製造業の復活になす術もなく、東京は神奈川、千葉、埼玉に拡散し日に日に空洞化が進み、一部

では既にものを造るところではなくなってきた。

その東京の組合員が830社、愛知が226社、大阪が425社、東京の肩代わりと言われる神奈川107、千葉29、埼玉140はなにを意味しているのだろうか、そのバランスについて考えておく必要があるようと思われる。

### (2) 伝統と力のあるうちに

昨年、東京の組合は100年の歴史を迎え、先年、十日会は既に40年の道標を建てられた。組合員の皆さんには他に例を見ることのできない基金を既に貯えられた。力の萎えないうちに、協力して、次々と若いエネルギーと叡智によって、飛躍を試みて頂きたい。

### (3) その殻を破らなければ

親の言うことを聴いていたのでは、親を超えることができない例もある。名選手必ずしも名監督にはなり得ない。指導者が自分のできないことを、部下にさせることをためらうのは、部下に対する侮辱になることも事実である。なんとしても、突破口を開かなければ発展はあり得ないのであるが、今が良ければ仕事に追われて、その体制を崩しにくい。

### (4) 力をつけることに尽きる

人を動かし、社会を動かすためには、自分のまた自社の力を養わなければ、誰もついては来ない。まず良い品物を造って信頼を確立し、儲けて貯めて、優れた経営者であることを識らしめなければ、仲間でさえも協力してはくれない。

## さればどうしよう

### (1) 正を以て合い、奇を以て勝つ

正攻法の定石を識らず使わずにことを構えたのでは、いかに奇抜なアイデアを用いても成功することは難しい。現在定常的に流れている仕事を充分に管理して、少なくとも赤字は出さないように、そのベースを確立しておいて、新しい技術開発や、新規の需要を開拓するのでなければ、実際問題として次の手は打てない。

### (2) 本は読んだか？ ピーカーはあるか？

情報氾濫の世の中ではあるが、少なくとも一般

の表面処理の情報誌には目を通して、新しいものは何でもかじってみる必要がある。また、思い付きをビーカー実験してみる程度の心がけを忘れてはならない。

#### (3) 思いつきを大切に

思い付きの沢山出る人ほど優れた指導者であることは勿論であるが、折角のアイデアを実行に移す人は更に立派であるが、仕事に追われてなにもできないのが実状である。枕元にまでメモを置いて頑張って頂きたい。

#### (4) 実験者が欲しい

開発は片手間では絶対にできない。思い付きを出すのは指導者の力であるが、これをフォローする人がどうしても必要である。現場にいかに優秀な人物があっても、日常の生産の方が優先するから、本当の力になってくれない。アルバイト、パートを問わず、思い付きの実験代行者を是非用意してほしい。

若い実験者が居て、狭くてもきれいな研究室があれば理想である。ただし実験して貰えるアイデアがあればの話である。

#### これからの手立ては

##### (1) めっきは面白い

経営が旨く行って面白いと言う他に、客観的にみても他の仕事よりずっと面白いからだと思われる。

・大手企業や他の仕事で行き詰った企業がかなり参入しているのはなぜか？

・めっきの仕事には問題が尽きない。これは未解決の分野が多く発展の余地が充分あると考えられ、発展途上国では手に負えない仕事だととも言える。

・金属の表面処理からあらゆる物質の表面を扱うようになり、更に金属の皮膜を乗せるだけでなく、金属以外の皮膜を乗せることもめっき屋の仕事に加わって来た。

・ますます目に見えないもの、例えば電気、化学、薄膜、匂いなど、五感では判別つかないものが、儲けの種になってきた。

・めっき技術は総合技術であって、組合せの

技術であり、めっき自身幾らでも組合せが可能なメリットを持っている。

・めっきに理論があることはよく識られているが、めっきは本当のことはやってみなければ判らないために、先にやった方が勝ちという面は非常に零細企業向きであって重要な意味を持っている。

・事情をよく識らないで、めっきの仕事を嫌う人が多いことは有り難い。好かれたらこんな面白い仕事を、誰もが手を出すだろう。

#### (2) 公立研究所の利用

我々の組合には、非常に沢山の公立機関の協力を得られる機会がある。改めて、この利用の徹底を図る再検討が必要ではないか。

(3) 工場の規模に応じた仕事の取り入れ方を仲間内の協力による仕事の再配分を考えなければ行き詰まる恐れがある。遠慮なく受注を確保するためには業務提携は避けて通れないのでは？

#### (4) 世界に通用する技術を

何か一つで良いから世界に通用する技術の確保は必要条件になるだろう。

#### (5) 全ては積み重ねの上に

技術開発も、開拓も、全ては自社のあらゆる履歴の積み重ねの上にあることを忘れてはならない。画期的なものは自社から見れば、あるはずがない。ただし、全てが従来技術の延長線上にあると考えるのも危険で、従来技術を応用しながら、全く発想の異なった技術を組み入れていくのが近道であることが多い。異業種交流もその意味では重要なポイントを与えてくれるだろう。

### 2年7月13日 7月例会

会 場 めっきセンター

参加者 30名

「新時代の事業承継対策」

(株)赤坂ビジネスコンサルタンツ

代表取締役 税理士 公認会計士

根岸良子女史



根岸良子女史

事業承継、相続対策、不動産有効活用等について、税理士、公認会計士としての立場から、税務問題について税理士との付き合い方を含めて講演をいただいた。特に自社株評価について演習をしながら、分かり易く解説していただいた。



親を深めた。

## 2年9月17日 9月例会

会場 めっきセンター

参加者 25名

「大都市工業の意義と電気めっき業」

札幌学院大学 商学部助教授 財団法人  
国民経済研究協会研究委員 廣江 彰氏

平成元年度、東京都、東京都鍍金工業組合が調査した業種別経営実態報告書に基づいて以下の内容の講演をいただいた。

1. 東京の産業的変貌
2. 東京のめっき業界にみる問題構造
3. 平成元年度調査で指摘したこと
4. めっき業の役割と今後の方向

## 2年7月15日 第29回 ゴルフコンペ

会場 ジュンクラシックC.C

成績

	in	out	Net
1位 上野啓司（荏原ユージライト）	43	47	76
2位 大村公二（福井精鍍）	50	54	70
3位 清村進之（内外ハイグラス）	44	46	77

※大村氏は11年振りの参加ということで2位繰り下げる。

## 2年8月22日 納涼大会

参加者 79名

恒例の家族交歓を兼ねた納涼大会を海にうかぶパーティラウンジ、レストランボート「ユアータウン」をチャータしてなごやかに開催した。

当日は、台風の影響で風が強く心配されたが、午後6時半浜松町の日の出桟橋に集合、午後7時すぎ出航、隅田川を遡り東京の夜景を楽しみながら、日頃の憂さと暑さを吹きとばすべく豪華な料理に舌鼓を打ち、和氣あいあいの家族ゲームで懇



廣江 彰氏

## 2年10月20日 日本鍍金協会秋季大会

日本鍍金協会（伊藤豪会長）は第27回秋季大会を10月20日、名古屋の中日パレスにおいて開催した。明年3月に創立30周年記念式典を挙行することなどを決定した。また大会に先立ち優秀工場見学会を行い（㈱）豊田電研工業所西春第2工場と明光工業㈱を視察した。

## 2年11月13日 11月例会

会 場 めっきセンター

参加者 26名

「社長のしごと」

勝川工業㈱ 代表取締役社長 勝川悦郎氏  
私がいつも冒頭で話すことであるが、こういう事を知ってほしい。私も皆さんと同様に勉強会が好きで、いろんな所に行って講演を聞いている。古い話であるが、私が聞いたその先生が「私共の会社は無借金経営で、銀座にビルを持っている」という。私はすごい会社だなあと思った。それが倒産したリッカーミシンで、事業の難しさをつくづく感じたのが1つ。その次は、「私どもの会社は来年も再来年も、デザインが決っており、5年後の事までは分らないが、1、2年は決っている」と得意げな顔で話していたのが、パイロットの社長であった。その話を聞いた翌年にボールペンというものが誕生したというのが2つ目。

3つ目は、私が飛行機で松山へ行った時、早朝の飛行機は乗客で一杯だった。松山に何があるんだろうと思っていたら、下りた人達みんな、私と



講演する勝川氏

同じ講演を聞きにいく。その先生は再建王と言われた坪内さんで、100人募集したのに200人がきたそうである。私がここで言いたいのは、どんな会社であっても、社長の判断と、世の中を見間違えれば、いくら能書きを言っても、つぶれてしまう。これが社長さんの一番大変な事であると、いつも一番始めに話している。

4つ目は、現実に成功している人の話であるが、オークヒルズカントリークラブのオーナーで、皆川城カントリークラブを作った人は、油壺で遠洋漁業の仕事をしている社長の息子である。大学を卒業して、遠洋漁業に出掛け、帰ってきて、こんな仕事いつまでやってもだめだと借金を残して止めた。その人が陸に上がって耐火レンガを作っていたが、金余り銀行が何か使わないとという話があり、作ったのが皆川城カントリークラブである。その後オーク・ヒルズを作り、その次のグレン・オックスカントリークラブを作る時に、彼が作っているという話だけで、縁故、そのまた縁故といった形で申込が殺到した。パンフレットも無い。レイアウトも分からず、公募価格が2,000万円になるか、2,500万円になるか3,000万円になるか何も分からない。あの社長が作っているゴルフ場なら絶対心配は無い。これが皆さんに申し込んだ動機なのである。それで決った価格が3,000万円で止める人は誰もいない。社長の人柄一つである。これが私のいう、社長の性格、性質、のれんの一番トップにバーンと人柄が出ている。この社長がダラダラしていたのでは誰も近づかない、社長というのは大看板をショッティングすることをわすれてはならない。

私自身、昭和30年に会社に入った。戦後10年目で、皆さんどうやって生きていくか見通しがついていない時代である。会社は戦争中に工場を九州に移転した関係で、親父が九州から引き揚げようかどうかで、ほとんど行きっぱなしの状態。会社には、女性事務2人を含む5~6人だけだった。親父に大学卒を入れたいと話したら開口一番「大卒なんて入れたら給料払っていけないよ、つぶれ

ちゃうよ」と言われたが、「やめると悪いから4人入れよう」と話して4人入れた。1年経ってもやめない。親父は「やめないじゃないかどうする」というが、「やめるといけないので次年また2人入れよう」という話をした。

なぜかと言うと、親父からは大卒はダメと言われたが、私は、18歳の高卒を入れて教育をしている暇がない。お客様の所で世間話もできなければ営業もできないのだから、うちの会社が人が足りないと言って悔やんでいるより、丁度、今の反対で求職難の31年でしたので、前年4人、また2人とすぐ入った。そのうち2人やめ、2人やめ、最初の4人のうちの2人、今や片腕の専務と経理の大番頭が残った。この2人にどれだけ助けてもらっているか分からぬ。

私が一番に言っておきたいのは、従業員の安定がその会社の伸びる一番の基である。なぜかというと組織作りをするのに従業員が安定しなかったら組織が作れない。組織を作らない会社は絶対実りがない。これが一番の問題点のような気がする。だから私が勉強会の時、必ず言うのは、就業規則を作って下さいと。どこかにしまってある就業規則などはない方がいい。常に誰がみても分かる所にぶら下げておかなければいけない。なぜかというと、従業員からみれば一番信用のおけるのが就業規則である。中小企業の親父の気分次第で、あれこれ変えられたのでは会社が安定しない。

私の会社は従業員が安定している。給料が高いからである。今、人手が足りない、求人難の時に社長は何にウエイトをおくか、バシッと決めない限りどうにもならない。新しい人を入れるのに苦労するなら、現在いる人を大事にすれば良い。新聞広告を出して15万円、1年に2回で30万払うならば、30万円を3人の社員に1年間10万円あげてもいいじゃないか。世間相場より1万円よけいに出てせば厳しく躰ができる。今の時代だって給料を多くだしたら人は来ますよ。皆さんバランスシートを考えるだろうが、そこで、いっぱい黒字がでていたら、人がどんどん不足している時に、黒字

だ黒字だと喜んでいるだけではだめだ。黒字を減らし、社員の給料アップすべきである。今はそういう時代である。皆さんは、そんなに人件費を上げたら不況が来て払えなくなったらどうすると心配をするだろうが、物事を難しく考えるより何を優先にするのかを考えて、これだと思った事を優先にすれば良い。あれこれと考えるからおかしくなるのである。これは勝川式考え方であるが、求人広告で、今いる人に手厚くした方がいい、そうすれば一生懸命働く。

私が入社した32年頃、めっき設備をYKKに売り込みに行った。その後、YKKの仕事を随分したが、これが私の生涯の仕事に役立つとは思わなかった。あの当時、まだ世界のYKKでなかった。ある時、旅館に吉田社長が訪ねて来てくれて話してくれた事がある。1つは従業員は黙っていても常に上を見ているということ。2つ目は、従業員に還元しなさい、会社が儲かったら社員にあげなさい、必ず返してくれるからということ。これが2つ目の提言。

3つ目は、1プラス1は2ということ、これは誰でも分かっている。最初の1は分る、プラス1が人間のミソだという。一生懸命やっているのに2にならないと嘆く人がほとんどだという。だから1プラス1は2だけれどもプラス1の1は相当努力しないと1にならない、ならないのは自分の努力がまだ足りないという話である。それからもう1つは、よその世界はみなよく見えるものだ。小さい業界でトップに立てない人が、どの業界へ行ったってトップに立てるわけがない。小さい業界でほどトップに立ちやすい。トップに立てるようになつたら、だいたい自然にやり方は編み出せるようなる。

さらにもう一つ、1ヶ月間腕組をして、ああしたらどうだろう、こうしたらどうだろうと考えて、1ヶ月たって何もしなかつたら、その人はただ考えただけで終ってしまう。何でもいいから実行しなさい、ということだ。時には失敗もするだろう、そうしたらまた戻って別な方向へ行けばいい。体

験すれば、同じ失敗はしないし、次に成長する段階になる。思ったことを行動してみなさいということだった。これが私のYKKの吉田社長から教わった人生観である。

人生教育とは、学校に子供が教育を受けるのに月謝をはらって行っている。世の中は、習うには月謝がついてまわるという事を頭にもう一度認識して、人材教育というけど失敗しなかったら成功しない。失敗とは何か、月謝である。これが太っ腹かどうかで会社が伸びるか伸びないかの分かれ目である。

私は任せ主義である。条件は一つ、報告する義務は怠るなである。社長は部長や課長の仕事をしてはならない、これは組織の大鉄則だ。人に任せる、失敗がついてまわる、失敗したら、月謝が高くなつたと思っておしまいにしないと、人は成長しない。人は月謝をかけないと勉強しないし、甘っちょろく育つだけだと私は思う。

私は日本橋で生まれ、小学校は常磐小学校である。この日本橋で、もうかったから客に頭を下げて「ありがとうございました」と言って礼を言うわけで、儲けて初めて礼を言う商売のコツを憶えた。中学、高校、大学は成城学園へ通学した。上流社会の人達の集まりでは、儲けるという言葉が非常にはしたないような感じがするらしく、絶対使わない。彼らは人脈によってうまく商売をしていく。私は儲ける事と人脈を作る事を学校で習ったような気がする。それから、競馬の世界では金のなる木は絶対にない。事業の栄枯盛衰である。仕事に成功した人が馬を持ち、失敗すると馬を手放して消えていく。長くやっている人は地道でマイペースでコツコツである。これは馬の世界で勉強した。

次に社員は65点位だと思えばいい。社長失格者は、小さい事を気にすること、何かがあったら人のせいにする、これは社長の器がないと思った方がいい。竹筒にくるぶしが1つづつある。10年毎にトラブルが起こる。ひっかかったとか社員が安定しないとか、10年毎にくるぶしを過ぎてきて初

めて竹筒になり、少し位風がふいても倒れないで安定している。皆さん、伸びる事だけを考えると必ず窒息死する。私がいろんな人に習った中で、人間は呼吸をして生きている、おなかをふくらましたりして生きている、バーンといったらおなかが破裂して死んでしまう。そう思ったら景気が悪くても、ああ今度は少し下り気味だなと思った方がいい。落ち目だなんて、あわてる事はない。ちょっとステップすればいい。

社長は、銀行に行きなさい。銀行というのは、会社の成績が良くないと行きたくない。良い時は行きたい、これだからいけない。銀行を頼らないで仕事をしていたら立派な事で、銀行からお金を借りている人は、1ヶ月に1回銀行に報告に行く義務があると思った方が良い。皆さんの若さでは、銀行は商売で貸しているのだから、こちらは必要な時だけ行けば良いと思っている人もいるかも知れないが、大きな間違いである。私は、今の世の中で一番情報を持っているのは銀行であるから、銀行をいかに上手に使うかが社長の腕だよ、と言っている。そのためには、1ヶ月に2回以上銀行に顔を出してコミュニケーションを良くして情報を得る。いくら休日が続こうと絶対に儲かるのは銀行である。銀行はバランスシートなどより、社長の人柄でいくらでも金を貸したくなる。

次に首切り問題で一番危険な事は、能力のある人が辞めて、能力のない人が残る、これが中小企業の人の使い方の難しさと思う。その為には、仕事をする人が辞める前に、しない人を整理していく事を考えなければいけない。会社に対し文句があれば代案をもってこいといってやればよい。

話しが少し飛ぶが、私が結婚式でよくいう言葉は、「2人で睦まじくいるためには、おろかな方がいい。立派過ぎない方がいい。立派過ぎることは、長持ちしない事だと気づく方がいい。完璧をめざさない方がいい。完璧なんて不自然な事だとうそぶいていた方がいい。二人のうちどちらかがふざけている方がいい。互に非難することがあっても非難できる資格が自分にあったかどうか後で

疑しくなった方がいい。正しい事をいう時は、少ししかえめにする方がいい。相手をきづけたらしくと気付いている方がいい。立派でありたいとか、正しくありたいとか言う無理な緊張にはいとめをつかわず、ゆったり豊かに光をあびている方がいい。健康でかぜ吹かれながら生きていく心にふと胸が暖くなるそんな日があってもいい。そしてなぜ私が暖かくなるのかだまっていても2人は分り合ってほしい」ということである。

なお、勉強会でいつも最後にいう言葉は、「お父さん、お母さんに親孝行のできない人は、何も出来ないと思っていて下さい。親孝行のできない人に相手の気持など分るはずがない。産んでもらった感謝、まして社員を使う立場なんだから、その人達の幸せを思う感謝の気持ちを持ちなさい」ということである。

### 2年 12月14日 忘年会

会場 ホテル「江戸屋」別館 梅茶屋

参加者 37名

久しぶりで都内での忘年会開催で、多数の出席があった。1年間の思い出等、和氣あいあいのうちに年末の一時を過ごした。

### 3年 1月20日 新年会

会場 めっきセンター

参加者 46名

来賓、会員、家族が新春の一時を懇談、ゲームなどで過ごし、一年の抱負と期待に決意を新たにした。

### 3年 1月26日 「田島栄先生を囲む集い」

会場 「伊豆栄」

参加者 20名

十日会の名誉会員である東京都立大学名誉教授、工学博士・田島栄先生は、平成2年度秋の叙勲で勳三等瑞宝章を受章された。

今回の受章は十日会会員が等しく喜びとすることであり、田島先生に叙勲受章祝賀会を開催し



たいと相談したところ、仰々しい祝賀会より、打ち解けた話ができる集まりにしたいという希望により、十日会会員有志による“田島先生を囲む集い”を1月26日(土)午後5時から上野伊豆栄で開催した。

石川雅一会長がお祝いの言葉を述べ田島先生に記念品が贈呈された。これに対して田島先生からお礼の言葉があり、勲章が披露された。田島先生の愛弟子であり、十日会特別会員である村楨利弘先生の乾杯の発声により懇親会に入った。

懇親会では、石川進氏や仲俣一三氏より田島先生の表面処理での功績や先生と十日会との出会い、楽しい思い出話などが披露され、また、小林邦雄氏からは先生をコーディネーターとして行った米国めっき業界視察の楽しい思い出のエピソードや、村楨先生は田島先生のお人柄や意外な趣味、楽しい思い出などが語られた。

\*

田島先生は戦後間もないころ、電解研磨の研究論文を米国の雑誌Metal finishingに投稿され、米国めっき業界に知られた。それが縁で昭和25年9月、当時、米極東空軍の技術廠勤務のEzra. A. Blount氏が田島先生が勤務されていた東京都立大学工業化学研究室を訪ねてこられた。Blount氏は日本の表面処理業界を視察し交流を深める機会を申し出られたので、田島先生は高浜二郎氏に連絡し、十日会会員と接触、交流するようになった。田島先生はBlount氏を帯同し日本の多くのめっき工場、表面処理工場を案内された。

Blount氏はその時期十日会で「隔膜法Ni, Cu

光沢めっき法」を講演され、わが国ではまだ行われていなかった添加剤を用いる光沢めっき法についての先鞭をつけ、今日の光沢めっき法の礎を築いた。

田島先生は、その後もBlount氏と交流を深め、米国のAESFの編集委員に委嘱され、国際的に活躍されている。日米のめっき業界の橋渡しをされ、それが縁でその後、多くの我が国めっき業界関係者が渡米するとBlount氏のお世話になっている。田島先生の著書「電気化学通論」、「電解研磨と化学研磨」は今日の電気めっきの基礎理論であり、広く電気化学、表面処理、電気めっきの研究を志す者は必ず接する名著である。また、田島先生の教室で指導を受けた者が現在、学会、研究者、産業界の第一線で活躍されている。

十日会は、戦後間もないころから田島先生とは第一世代との交流があったが、現在でも現役として十日会の毎月の例会に出席され、若い第二世代の会員が先生の薰陶を受けている。会にとっては大変名誉なことであり、若い会員に交じって活躍される先生には敬意が寄せられている。先生には今後とも健康に留意され、いつまでも元気に十日会に参加されるようお願い申し上げます。

### 3年2月2日 工場見学会

北九州市 新西工業㈱本社、二島工場及び宮田工場

新西工業(㈱)井手口輝夫社長とは日本鍍金協会主催の米国視察に参加していただいたところから親交があり、今回の工場見学が企画されたものである。また見学と合わせて、井手口社長が会長をされている九州青年部会の第6回研修会が行われ、十日会の参加者と交流を深めた。

### 3年3月3日 第30回十日会ゴルフコンペ

十日会第30回ゴルフコンペが3月3日、栃木県下ビート・ダイ・ゴルフクラブV I Pコースで会員24名の参加により行われた。

昭和51年に第1回コンペが行われて以来、今回で30回目を迎えた。今回は仲俣氏の協力を得て、今までの29回の記録をすべてコンピュータに入力、算定された結果をもとにハンデを決め、この新ハンデによる戦いとなった。

当初は各自、車でという予定であったが、歴代会長（仲俣、八幡、小林、永田、神谷、菊池、石川各氏）の賛助を得、大型サロンカーでの送迎が実現した。

午前6時45分、定刻通り上野駅前を出発、コ



スへ向かった。バスの中では遠藤幹事の司会進行により、石川会長、仲俣競技委員長の挨拶、参加者にも最近の調子などスピーチしてもらった。今回は第30回記念ということで、参加者全員に記念品として各自の名前の入ったネームプレートが配布された。また、権田氏寄贈のメモリアルボードも披露された。既に第1, 5, 10, 15, 20, 25回大会の優勝者名がゴールドプレートに刻まれていた。果たして第30回大会には誰の名前が刻まるのか？いろいろ話が弾んでいるうちに2時間後コースに到着、記念撮影後、9時36分、アウトとインにそれぞれ3組づつ別れてスタートした。

このコースは名前の通り、池の中にグリーンだけがあるショートホールで有名なピートダイ設計によるコースである。各ホールに悪魔が潜んでいるといわれ、その悪魔といかにして出くわさずに済むかがスコアメイクのポイントになる。しかし、当日は強風が吹き荒れ、ただでさえ難しいコースが更に難しさを増し、プレーヤーは悪戦苦闘した。特にインコースが難しく、インスタートの人は9ホールでギブアップという人が多かった。その中で悪魔と上手につき合ったのが小林氏、ティーショットでドライバーを使用せず、アイアンを多用するなど、頭脳的というか、消極的なプレーが功を奏して優勝を勝ち取った。小林氏はこれで通算3度目の優勝となり、十日会ゴルフコンペ優勝最多回数となる。前述のメモリアルボードには小林氏の名前が刻まれることになった。なおこのボードはめっきセンター4階会議室に展示されることになる。

場所を移して、上野のスナックan anでパーティーを行った。遠藤幹事の司会により、まず石川会長の挨拶、吉川前理事長の音頭により乾杯、いよいよ表彰式に移った。まず石川会長より優勝した小林氏に優勝賞品1/2オンス金貨を、仲俣氏より同氏寄贈のトロフィーを、吉川氏より銀杯“吉川杯”(持ち回り)をそれぞれ授与された。以下、2位、3位、各飛賞、B.B賞がそれぞれ会長より30回記念大会にふさわしい豪華賞品が授与された。

その後、各賞入賞者のスピーチがはじまりパーティーは笑いのうすに包まれた。中でもB.B賞の堀米氏のスピーチは参加者の爆笑を誘った。堀米氏はこれで2回連続のB.B賞で、過去に3回連続という記録を持つ人もいるが果たしてこの記録を破ることができるか。二木氏の参加でB.B賞争いは熾烈を極めるものとなった。パーティーは和やかなうちに進み、仲俣氏の音頭で中締めを行い、散会した。

今回は参加者多数が予想されたため、いつもより1組多い6組を予約したが、それでも定員をオーバーし、やむを得ず2氏の方には出場を辞退して頂いた。2氏の方には誌上を借りて改めてお詫び申し上げます。

なお、成績は以下の通り（敬称略）

NET		
1位	小林 邦雄 (トキワ株)	73
2位	近藤 澄男 (近藤耐酸槽株)	78
3位	繩田 敏治 (有)繩田鍍金工業所	82
4位	高倉 利守 (明盛鍍金工業株)	
5位	遠藤 清孝 (有)朝日鍍金工場	
6位	竹ヶ原 攻 (内外ハイグラス株)	
7位	内藤 隆夫 (平和工業株)	
8位	清村 進之 (内外ハイグラス株)	
9位	齊藤 晴久 (シルバーメッキ工業株)	
10位	仲俣 一三 (株)中央メタル	
11位	林田 武彦 (深田パーカライジング株)	
12位	小島 憲和 (ユケン工業株)	
13位	小室 昭進 (日本プラント工業株)	
14位	志田 和陽 (有)大森広尾鍍金工場	
15位	上村 福子 (株)上村正商店	
16位	吉川 弘二 (株)大崎金属	
17位	大村 公二 (福井精鍍工業株)	
18位	保坂 晃一 (保坂鍍金有)	
19位	石川 雅一 (有)三恵工業所	
20位	上野 啓司 (荏原ユージライト株)	
21位	森 克夫 (株)アベックスワールド	
22位	長橋 久雄 (城南化学産業株)	
23位	堀米 清 (有)都鍍金工業所	

24位 二木 一郎 (根本鍍研薬品(株))

ニアピン 仲俣, 大村, 繩田, 遠藤

ドラコン 高倉, 繩田

ベスグロ 高倉



## 平成3年度会活動の回顧

### ◆ 平成3年度会員の状況

① 名誉会員5名、相談役3名、特別会員2名、報道4名、正会員81名

#### ② 会員の動静

会期中の入会者

鷺津洋一郎 (有)アイシン工業

会期中の脱会者

三昌鍍金工業(株)、東海鍍金工業(株)

(有)角田鍍金工場、三昌化学工業(株)

#### ③ 役員

会長 石川 雅一 (有)三恵工業所

副会長 山田英佐夫 (株)東電工舎

〃 繩田 敏治 (有)繩田鍍金工業所

会計 遠藤 清孝 (有)朝日鍍金工場

運営委員 長谷川一郎 (有)長谷川鍍金工業社

〃 保坂 晃一 保坂鍍金(有)

〃 今泉 好隆 (株)山晴

〃 堀米 清 (有)都鍍金工業所

〃 権田 節造 (株)幸福屋

〃 二木 一郎 根本鍍研薬品(株)

〃 上村 福子 (株)上村正商店

〃 仲俣 雅行 (株)中央メタル

〃 近藤 澄男 近藤耐酸槽(株)

事務局 東京都鍍金工業組合

### 3年3月14日 定例総会

会長に石川雅一氏再選

会場 めっきセンター

参加者 37名

石川会長の挨拶のあと、議長に元会長の小林邦雄氏を選出して議事に入った。

第1号議案 平成2年度事業報告

山田英佐夫副会長

第2号議案 平成2年度決算報告

遠藤清孝会計

第3号議案 役員改選

以上担当役員から詳細な説明があり、異議なく承認可決した。なお役員改選では、議長から、選考委員5名を指名、別室で協議の結果、八幡順一選考委員長が石川会長を再選した旨を発表、満場の拍手で承認された。

### 3年3月30日 日本鍍金協会第30回年次大会及び日本鍍金協会創立30周年記念式典

日本鍍金協会（伊藤豪会長）は、3月30日(土)午後3時から渥美半島の伊良湖ガーデンホテルで、会員及び家族、来賓など200名以上が出席して、第30回年次大会及び創立30周年記念を行った。

記念式典では、歴代会長、功労者等に感謝状を贈るなど30周年の節目を盛大に祝った。

\*

年次大会は、池田伸一副会長の開会の辞に始まり、国歌斉唱、物故者に対する黙祷、来賓紹介、主催者を代表して伊藤会長の挨拶の後、全員で綱領を宣言した。

伊藤会長が議長となり、議事に入った。平成2年度事業及び決算報告を承認、続いて傘下各会の事業報告があった。役員改選では新会長に森脇隆(青研会)、副会長に池田伸一(青研会)、石川雅一(十日会)、杉浦候二(名鍍会)の4氏のほか傘下各会から幹事、監事などを選出した。十日会からは幹事、監事がつぎの通り選出された。

(幹事)

神谷博行、菊池忠男、山田英佐夫、繩田敏治、遠藤清孝、今泉好隆、長谷川一郎、保坂晃一、権田節造、上村福子、二木一郎、堀米清、仲俣雅行、近藤澄男

(監事) 永田一雄

この後、森脇新会長から就任の挨拶があり年次

大会を終了した。

記念式典は、石川雅一副会長の開式の辞の後、伊藤豪会長は「昭和36年6月、ニュー名古屋ホテルでめっき業界の限りない発展を目指し、多数の参集を得て協会創立、以来30年を迎えた。30年前の岩戸景気に始まり、高度経済成長下での排水問題、ニクソンショック、オイルショック、最近では円高不況、めっき離れ、人手不足など困難な問題が山積みしている。技術面でも光沢ニッケルめっきへの移行、ノーシアン化、全自動化、新素材の出現など様々な変化があった。こうした中で当協会は東京、大阪、名古屋と地域は離れていても心を一つにして綱領を旨とし、めっき工業を通じて日本産業の興隆に寄与するとともに、開拓者精神を以って業界の推進力となってきた。毎年行われる年次大会においてはユニークな家族交歓会において次の世代を担う子供達の交流も図ってきた。この30周年を機にめっきの原点に戻り、めっきの素晴らしさ優位性を心から見つめ、今後とも21世紀に向けて有意義な団体として活動していきたい。」など式辞を述べた。

次に同協会、傘下各会の発展に功労のあった方々に感謝状及び記念品を贈呈した。



#### <歴代会長>

(敬称略)

- 20代 塚本寛六（鍍友会、塚本鍍金工業㈱）
- 21代 松本 惇（名鍍会、太陽電化工業㈱）
- 22代 宮城博行（鍍生会、(株)スミノ）
- 23代 仲俣一三（十日会、(株)中央メタル）



JES創立30周年第30回記念年次大会 伊良湖ガーデンホテルにて

- 24代 西垣 努（名鍍会、鍍金工業白光社）  
25代 宮阪東明（青研会、オテック株）  
26代 八幡順一（十日会、八幡鍍金工業株）  
27代 竹内克弘（名鍍会、刈谷鍍金工業株）  
28代 長坂廣道（青研会、株ナガサカ）  
29代 小林邦雄（十日会、トキワ株）

＜指導功労者＞

- 田島 栄（東京都立大学名誉教授）  
村上 稔（大阪府鍍金工業組合）  
小原俊幸（東京都鍍金工業組合）

＜会員功労者＞

- 寺内攻二（青研会、国光鍍金工業株）  
加古芳博（名鍍会、加古鍍金工業株）  
小野江隆（名鍍会、株アクトメタル）  
伊藤賢一（名鍍会、有伊藤鍍金工業所）

以上の受賞者を代表して塚本寛六氏から謝辞があった。

来賓として、渡邊辰巳全鍍連会長、石崎勝一東鍍工組理事長、沖猛雄名古屋大学教授、上村晃史機材協会会长から祝辞があり、竹中道明副会长の閉会の辞で式典を終了、家族同伴の懇親会に移った。

### 3年4月17日 4月例会

会 場 めっきセンター

参加者 36名

例年、4月例会は新製品紹介を企画しており、今回も、

1. 「カラーサンドブラストによる着色法」  
宇治電化学株
2. 「テフロン含有無電解ニッケル（ニムフロン）」  
上村工業株
3. 「有機洗浄を省くための前処理薬品」  
ユケン工業株
4. 「ニュークリーンマスタMK型ろ過機」  
荏原ユージライト株

以上の4製品が紹介された。

### 3年5月14日 5月例会

会 場 めっきセンター

参加者 29名

「経営者の新たな挑戦」－課題が鮮明になると業績は倍増します。

（株）タイホー 経営協力事業部長

尾崎朋寿氏

企業経営において直面している問題の解決法及び業績向上の見いだし方についての講義を行なった。

### 3年6月14日 6月例会

会 場 めっきセンター

参加者 28名

「めっき業からみた労働問題」－労働者不足、時間短縮への提言

（株）大崎金属 代表取締役 吉川弘二氏

労働力不足という事は、労働力の需要と供給のアンバランス、需要に供給が追いつかないというところに労働力不足という現象が起き、逆に供給の方が多ければ失業という現象ができる。需要を生みだすのは、その時々の総生産量によるもので、生産量が増えれば当然労働力需要は増えてくるし、生産量が減ってくれば労働力の需要は減ってくる。従って経済成長との関係も密接にある訳である。

一方供給の方は、まずその国の総人口の問題。一応労働人口は、15歳以上64歳までということになっているが、実際にその中で何%の人が働きいでているかが問題である。男性の場合高い数字を示しているが、女性の場合は49.5%位で、ヨーロッパやアメリカ等に比べると率は低い。これを高める事によって労働力が更に増えていくという事である。

それからもう一つの要素としては、労働生産性で、例えば同じ仕事をやるにしても従来は10人でやっていたのを、5人でやるようになるとそれだけ、その総生産に対する必要労働力というのが少なくなるから、労働力の需給バランスがある程度是正される。

今、日本の経済も円高以降従来のような輸出主導型から内需主導に変ってきている。輸出主導という事になると、どうしても製造業が中心となり物を造って外国に売るという事になる。ところが内需主導になると勿論製造業は物を造るが、その他、サービス業や建設業など、G N Pにしめる比率が高くなってくる。しかしサービス業等は生産性が低いのでG N Pに占める率が高くなるという事は、それだけ労働力を必要とすることになる。また現在、工場の中でのサービス部門のウェイトも高くなっている。例えば、めっき作業はほとんど自動化でやっているのが、後の検査や包装や輸送は労働生産性が低い。そういうことで省力化の機械を入れて仕事をどんどんやればやるほど、後工程の人を増やすなくてはならないという矛盾が出てきている。

これから日本の人口はどうになっていくのか、あるいは労働力年令がどのように変化していくのかという事が一番心配なことである。昭和50年から平成2年までの傾向をみると、管理職は比較的まだ不足は少ないが、いわゆる専門技術職とか単純労働者は非常に不足している。年齢別にみても若い人の求人倍率に対して高年齢者の求人倍率が低くなっている。

今、大手企業の場合、生産拠点は国内外を問わず人の居るところにもって行くという事で、地方から人をとるのではなくて、工場を人の居る所にもっていくという展開をやっている。そのため地方の中小企業にも若年労働者が入らなくなっている。高齢化がどんどん進み1989年の労働力人口は男子の60才以上が約400万人、ところが2010年になると約740万人位に増えていく。それから1989年の出生率が、1.57人で、ひのえうまの年よりも下回り、更に1990年は1.53人となり、現在の人口をそのまま保持していくには2.1人でなければいけない。それが1.53人という事になると大幅減少の傾向がさらに強まる。

次に年齢別女子労働力率を見ると現在、女性が結婚して子供に手がかかる30～34才が一番少なく

なるが、これが育児休業制度とか色々な問題が改善していくと2020年には30～34才の労働力率が非常に上ってくる。現在は49.5%であるがこれが80%になると、ヨーロッパ並になり、多少労働人口が増えるであろう。また労働力人口の推移をみると就業者数は、2005年が6,637万人、これがピークでそれ以降は下っていく傾向をたどるだろうという。次に職業別労働力需給でめっき業をみると、1995年には、需要が53,000人位、供給が46,000人と7,000人の差なのに対して、2020年には需要の方が47,000人位、供給は30,000人と17,000人の大幅な差になり、需給ギャップは大変なものになってくる。これは大変ショッキングなことである。勿論これには色々な条件が加味されているので、その悪い条件を我々の努力で取り除いていけば、この需給ギャップは埋まつてくる訳である。

めっき業そのものの将来については、めっき業を無くして日本のハイテク産業は成り立たないと思うので、今後も発展するだろう。東海大の唐津一教授等も、機械加工であるとか、鋳物、めっき等は芝居で言えば黒子であるが、こういうものあってはじめて団十郎や菊五郎が晴れの舞台で踊れるのであって、黒子無しでは踊れないと同じように、めっき等の製造業がなくなったら、日本のハイテク産業は崩壊するだろうと言っている。

よく経済学者の中には、めっきのような労働集約的仕事は、東南アジアに持つていけば良いだろうと言うような事を言うが、めっきというのは、ある商品を作る工程の一部を担うので、これだけ切り離すという事はいかない。日本でハイテク製品を作らず全部東南アジアでやるのならいいが、そういうことになった場合、日本の経済力は国際競争力を全く失ってしまうから、どうしても日本で作らなければならない。そういう意味で、めっき需要も下火になるという事はなく、G N Pの伸び率を上回って発展していくのではないかと思う。

それでは我々がどんな対策をとったら良いかという事になるが、まずやはり我国の将来の人口動向、労働力動向からみても、高齢者のウェイトが

増えているという事であるから、高齢者をどう使っていくかという事が一つ。それから女性をどううまく使うかである。先日、鈴木都知事に、よく中小企業に対して役所の方ではもっと高齢者を使えとか女性を使えとか言うが、中小企業は60才定年になった方もいわゆる継続雇用をして、65才とか70才近い方を使っている工場はざらにある。更に使いたい訳であるが、東京都内で一つの大きなネックになるのは、住宅問題で私のところにも現役でやがて定年になる人でも片道1時間半電車で揺られて通勤するよりも、近くで給料が安くても楽な会社という考え方もあるので、職住が近隣していないと高齢者の活用が難しいと、鈴木知事もそういう面で、都内に高齢者の住めるような住宅を造ってくれとお願いしたが、コスト計算をすると東京都で住宅を造るととても高くつき、中小企業の従業員ではとても住めないという。

それから女性についても、キャリア組は違うが、パートさんは皆んな家庭に高齢者を持っているとか、子供さんを持っているとかで、何かあった時に2~30分で帰れる距離でないと安心して働けない、自転車で通える範囲ならいいという。城南の京浜島などのめっき工場は、パート料が高いのに人が行かないというのは、片道40分から50分かかる。同じ大田区でも近くの方が良いとなる。

このように色々な制限があるので高齢者及び女性だけではどうしても労働力不足を補う訳にはいかない。やはり省力化や合理化の投資をやるとか、あるいは今言われている若い人をつれてくるには、時間短縮をやらねばならない。いろんな問題があるが、1990年の中途までには実働1800時間に、イメージとしては完全週休2日制にして、その他に1年間に20日の有給休暇を取らして、1日の残業時間は40分以下、これで大体1800時間になる。現状の2300時間位を500時間縮めるとなると大変な事である。

また、よく言われる事は、中小企業の場合、会社での職業訓練がほとんどやられていないということである。私の会社では不良率の統計を取り

ているが、金額で月に300万円位ある。これが半分になっただけでも省力化できる。原因は管理ミスとか機械のメンテナンスが悪いとか、色々あるが技能をパワーアップすることによって防ぐだけでも結構無駄な費用が浮く。仕事の流し方とか、業務の問題でもそうであるが、めっき工場も生産管理、事務管理のコンピューターのソフトを開発して、それを利用することにより一人ひとりのパワーを上げることができる。その事も人手不足の一つの有力な対策ではないかと考えている。

その他に設備投資の問題であるが、これは省力化という事でいくと専用化していく。例えば、一つの設備投資に5,000万~1億円かけると、リスクも大きい。たとえばお得意先で仕事をだすということで設備投資をしたら、あの仕事は止めたよという風になるとリスクも大変だ。このように省力化投資は言うは易く行き難い。そこで、業界が何か一つのテーマを決めて都や国の補助を受け1社だけが潤うものではなく、皆んなが潤えるシステムを、どこかに研究委託する。その成果を皆んなで活用するという方法がこれから考えられる。もっと精度の高いシステムが共同開発されれば、人手不足は半分以下になってしまう。

それにはまず、お得意様から儲けさせてもらわなければならぬ。日本の中小企業の政策の一番の問題点は税制金融面で面倒をみてやるということである。ところが金融というのはくれるのではなく返さなければならず、税制は利益が出た時に始めて恩恵が受けられるもので赤字では恩恵は受けられない。私はむしろ税制金融面よりも親事業所に入っている付加価値を再配分しようとさかんにしている。それには単価設定の問題があまりにも一方的だと思う。めっきの様な下請加工の場合は、全体の単価が上がるとコストインフレになるということで経済的にいけないけど、親事業所に入ったのを、こっちにまわしてくれればコストインフレにならないと思う。

それで事が済むかというとそう簡単にはいかない。私が前から提唱している外国人労働者を導入

せよということである。これについては最近、「このままでいくと人件費がアップしてコストインフレになる恐れがある。従って外国人労働者の受け入れを真剣に考えなくてはいけない」と日本銀行が初めて発表した。

一方研修生の受け入れについては、昨年8月の法務大臣告示で、商工会議所や工業組合、法律にもとづく組織ある団体が受け入れる場合は、きまりはあるけれど従来のような制限なしで受け入れ事ができる。従来は20人に1人という事で、15人の工場は1人も入れられなかつたのを、今度は50人以下が3人までという事で、10人でも3人までは良くなつたので若干道は開けた。しかしこれも色々と難しい問題がある。外国人といつても日本人の場合は、アメリカ人とか欧州人を入れる場合は問題はないが、東南アジアとかアフリカの人を入れる場合に宿泊の施設の問題がある。大企業の様に寮があつたり、社宅があつたりする場合は良いが、中小企業の場合、借りなければならぬ。そうするとアパート等は絶対貸さない。研修生を受け入れる最大の条件は各社が宿泊施設を持っているという事ではないか。

一人の研修生を受入れるときに大体25~6万円かかるので、2年間やってこれから使える様になつた時に、はいさようならでは、それだけ投資をしてメリットがあるだろうかという問題が一つある。私はメリットはないと思う。では、なぜ受け入れているんだという事になるが、それは我々が研修をさせているのではなく、受けているのだと、この先外国人を使うようになるとギャップがある。そういうものを克服していくには同じ釜の飯を食つて、色々な問題が見出され、それを克服していく道も捜すことができる。人間と人間の生活は一緒に住んでみて分かる。そういう意味ではプラス面も多いと思う。

従って長期的に考えた場合、我々が国際交流の訓練を受けているんだという考え方で受けられるのならないのじゃないかと思う。ただあくまでも研修生は労働者ではないから、残業させるとかでき

ないので最初から人手不足の代りに使うという考えだと色々問題がでてくると思う。

### 3年6月1日 日本鍍金協会合同役員会

会場 柳原温泉「河鹿荘」

参加者 24名、十日会8名

### 3年6月16日 第31回十日会ゴルフコンペ

6月16日(日)、第31回十日会ゴルフコンペが茨城県下岩間カントリークラブで行なわれた。最近マスコミを賑わしているゴルフ場である由、スタート前の石川会長挨拶にも、絶対隣のホールに打ち込まないこと、大声を出さないようにとの注意があり、緊張のうちに8時50分、1組がスタートした。

当日は朝から雨が降っていたが、スタート時にはほとんど上がり、1時間後には晴れ間も見えだし、絶好のゴルフ日和となつた。またコースコンディションはフェアウェイの芝がグリーン共に最高の状態で好スコアが予想されたが、予想通り、3位までがアンダーパーという十日会ゴルフコンペとしては最近にないハイレベルでの戦いとなつた。熱戦の結果、仲俣一三氏が8アンダーという驚異的なスコアで3度目の優勝を果たした。

パーティは遠藤清孝幹事の軽妙な司会のもと、同ゴルフ場のコンペルームで行われた。今回、中央メタルの専務仲俣雅行氏が初参加親子両かと思われたが、結果は成績順位をご覧あれ、2連覇を狙った小林邦雄氏はいれ込みすぎのせいか前半出遅れ、後半猛然と追い込んだが、およばず5位に



とどまった。また3回連続B、B賞の過去記録に挑んだ堀米清氏は惜しくも21位となり、熾烈な下位争いを繰り広げている二木一郎氏(20位)にも一步遅れを取った。しかし、250ヤードのドライバーショットを放つなど進歩著しいものがある。ただし、貧乏人の晩酌であったのが惜しまれる(1本だけ)。

成績は次の通り。(敬称略) グロス ネット

優勝 仲俣一三 (株)中央メタル 87 64

2位 今泉好隆 (株)山 晴 94 68

3位 小室昭進 日本プラント工業(株)  
102 70

4位 清村進之 内外ハイグラス(株) 72

5位 小林邦雄 トキワ(株) 74

6位 小松国浩 キクヤ研材薬品(株) 75

7位 今泉 勇 (株)タイホー 76

8位 高倉利守 明盛鍍金工業(株) 76

9位 繩田敏治 (有)繩田鍍金工業所 77

10位 志田和陽 (有)大森広尾鍍金工場 77

11位 上野啓司 荘原ユージライト(株) 78

12位 近藤澄男 近藤耐酸槽(株) 78

13位 斎藤晴久 シルバー・メッキ工業(株) 80

14位 八幡順一 八幡鍍金工業(株) 83

15位 遠藤清孝 (有)朝日鍍金工場 85

16位 尾崎朋寿 タイホーテクノ(株) 85

17位 上村福子 (株)上村正商店 86

18位 森 克夫 (株)アペックスワールド 89

19位 石川雅一 (有)三恵工業所 89

20位 二木一郎 根本鍍研薬品(株) 92

21位 堀米 清 (有)都鍍金工業所 95

22位 長橋久雄 城南化学産業(株) 100

23位 仲俣雅行 (株)中央メタル  
ニアピン 仲俣一三 2, 志田和陽, 上野啓司

### 3年7月5~6日 工場見学会

上の山温泉「古窯最新館」泊

参加者 30名

1. (株)三ツ矢 米沢工場

めっきの種類: 貴金属(金, 銀, ロジューム)



草間社長と誠一郎氏

めっき, ニッケルめっき, 半田めっき, 亜鉛クロメート処理

加工製品名: 電子部品, 機工部品

2. 日本フィルター(株) 米沢工場

カートリッジフィルターの製造工程, 現品管理の見学

### 3年8月6日 納涼大会

参加者 45名

恒例の家族交歓を兼ねた納涼大会をレストラン「カーニバルプラザ市川スタジアム」でなごやかに開催した。夏休みの思い出に家族とともに参加した会員は日頃の憂さと暑さを吹き飛ばそうと北極圏アラスカの大平原やカリブ海のダンジネスクラブ, ゴールドロブスター, ホタテ, 甘えび, サーモン, クラムチャウダー, ズワイガニ, アラスカ毛ガニなど豪華な料理に舌鼓みを打ち, ピエロの妙技に感動, 和気あいあいに楽しい一時を過ごした。

### 3年9月10日 9月例会

会場 めっきセンター

参加者 30名

「パソコンを利用した事務処理と会計処理の実例」

(株)梅田鍍金工業所 永田一雄氏

パソコン導入の苦労話から, 実際の使用方法等, コンピューターを導入する事により時間の節約が



永田一雄氏

出来るという有意義な講義を行なった。

### 3年10月26日 日本鍍金協会秋季大会

日本鍍金協会（森脇隆会長）は第28回秋季大会を10月26日天王寺都ホテルで行なった。それに先立ち、(株)大洋工作所、堺工場を見学し、又会長の志方耕三郎氏より「当社の経営理念」と題し講演していただいた。

### 3年11月11日 11月例会

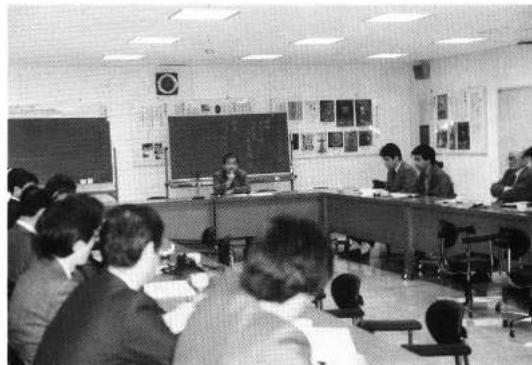
会場 めっきセンター

参加者 27名

#### 「我が社のC・I」

オテック(株)代表取締役社長 宮坂東明氏

21世紀にむけて飛躍的に進展する技術革新への対応としてのC・Iの構築と、その事業戦略についてお話をいただいた。



講演する宮坂氏

### 3年12月7日 忘年会及び十日会ゴルフコンペ

第32回十日会ゴルフコンペが12月7日(土)栃木県下ピートダイゴルフクラブロイヤルコースにおいて、前理事長の吉川弘二常任顧問をゲストに迎え総勢19名により行われた。

当日は12月とは思えないポカポカ陽気で、半袖でプレーする人もいたほど。天候は申し分なく、コースも良好で好スコアが予想されたが、予想を上回る10アンダーというスコアで八幡順一氏が通算2度目の優勝を成し遂げた。成績は次の通り。  
(敬称略)

			グロス	ネット
優勝	八幡 順一	八幡鍍金工業(株)	98	62
2位	小松 国浩	キクヤ研材薬品(株)	94	66
3位	小林 邦雄	トキワ(株)	82	66
4位	今泉 好隆	(株)山 晴		71
5位	繩田 敏治	(有)繩田鍍金工業所		74
6位	齊藤 晴久	シルバーメッキ工業(株)		74
7位	竹ヶ原 攻	内外ハイグラス(株)		77
8位	太田 幸一	太田鍍金工業(株)		77
9位	大村 公二	福井精鍍工業(株)		78
10位	小室 昭進	日本プラント工業(株)		81
11位	森 克夫	(株)アペックスワールド		81
12位	遠藤 清孝	(有)朝日鍍金工場		82
13位	上野 啓司	荏原ユージライト(株)		83
14位	吉川 弘二	(株)大崎金属		84
15位	小島 憲和	ユケン工業(株)		84
16位	仲俣 雅行	(株)中央メタル		88
17位	石川 雅一	(有)三恵工業所		89
18位	山田英佐夫	(株)東電工舎		94
19位	二木 一郎	根本鍍研薬品(株)		103

### 忘年会

12月7日(土)，鬼怒川温泉ホテルサンシャイン鬼怒川において忘年会を開催した。折からの忘年会シーズンのためか鬼怒川温泉郷までの道路が大渋滞。ゴルフ組がそれに巻き込まれて予定時刻より大幅に遅れ、午後5時半にホテルに到着。4時前にホテルに到着していた電車組の人の中には待



ちくたびれてすでにほろ酔い加減の人もいた。

宴会開始時間を15分延ばしてもらったが、会費の徴収、ゴルフスコアの集計などで時間に追われっぱなし、結局幹事数名は風呂に入れず洋服のまま宴席に着いた。

山田英佐夫副会長の司会で石川雅一会長の挨拶のあと吉川弘二常任顧問の乾杯音頭で宴会に入った。今回の忘年会はゴルフコンペを兼ねているため早速コンペの成績発表と相成った。優勝の八幡氏、2位の小松氏、同ネットながら年齢順の規定により3位となった小林氏と、それぞれユーモラスなスピーチをいただいた。

宴会の料理も出尽くした頃、そろそろ二次会ということで場所をホテルのクラブに移しカラオケなどで大いに盛り上がった。

翌日、朝食後各自車に分乗し帰路についた。

### 3年1月26日 新年会

会 場 めっきセンター

参加者 51名

石川雅一会長は「十日会恒例の新年会には来賓はじめ会員、家族、また遠方よりお越し頂いた方もあり感謝申し上げる。昨年は湾岸戦争で年が明けて、景気拡大はいざなぎ景気を超えたとか、バブルの崩壊、ソ連邦の崩壊などがあり、国内景気は拡大から後退局面に入った。私ども業界も昨年

秋口から陰りが出始めている。景気が悪いといわれ、政府も色々な対策をとるだろうが、景気は我々の行動次第、我々の活力でムードを高めることにより少しづつ良くなってくると思う。また新聞発表では今年秋口には回復してくれると言っているが、この1年間、辛抱する方もあり、発展する方もあると思うが、十日会のみなさんには大いに活力を發揮していただきたい」と挨拶した。

来賓の草間英一副理事長は「先日、メーカーの協力会社の新年会に出席した。メーカーの会長は生産が2割くらい落ちていると話していたが、しかし物事は暗く見ないで明るく見れば、まだ8割は生産しているということである。イギリスにあるそのメーカーの子会社に比べたら仕事の受注量は天国だという話を聞いた。業種によって変化はあるだろうがみなさん頑張っていこう」と挨拶した。

吉川弘二常任顧問は「十日会の新年会は昔から会員家族、子供たちとともに楽しんできたが、こうして見ているとめっき業界の将来を担う人材ばかりで頼もしく感じる。今後とも業界発展のためにますますのご活躍をお願い申し上げる」と挨拶した。

八幡順一元会長の乾杯音頭で祝宴に入り、ピンゴゲームや子供たちの輪投げなど家族とともに楽しいひとときを過ごした。

### 3年2月12日 2月例会

会 場 めっきセンター

参加者 28名

「40年間の十日会」

福井電化工業㈱代表取締役 福井通祐氏

十日会発足の由来（道標）の説明、十日会の精神、今後の在り方等の話をいただいた。



講演する福井氏

## 平成4年度会活動の回顧

### ◆ 4年度会員の状況

① 名誉会員5名 相談役3名 特別会員2名  
報道4名 正会員80名

#### ② 会員の動静

会期中の入会者 2名  
大沢俊孝 (株)大沢鍍金工業所  
笠井正夫 (株)ヒキフネ  
会期中の脱会者 3名  
新進電化工業(株), (有)大場鍍金工業所, 細井鍍金工業(株)

#### ③ 役員

会長 山田英佐夫 (株)東電工舎  
副会長 繩田 敏治 (有)繩田鍍金工業所  
" 遠藤 清孝 (有)朝日鍍金工場  
《運営委員》  
会計 保坂 晃一 保坂鍍金(有)  
涉外 長谷川一郎 (有)長谷川鍍金工業社  
" 仲俣 雅行 (株)中央メタル  
" 斎藤 晴久 シルバーメッキ工業(株)  
" 菊地 利博 菊地鍍金工業  
" 権田 節造 (株)幸福屋  
" 二木 一郎 根本鍍研薬品(株)  
" 上村 福子 (株)上村正商店  
" 近藤 澄男 近藤耐酸槽(株)  
事務局 東京都鍍金工業組合

#### 4年3月10日 定例総会

会場 めっきセンター  
参加者 32名

総会は、繩田敏治副会長が司会、石川雅一会長が開会のあいさつの後、小林邦雄元会長を議長に指名して議事に入った。平成3年度事業報告を権田節造幹事、同決算報告を遠藤清孝会計幹事が報告これを承認した後、会長改選に伴う選考委員会

による選考の結果、新会長に山田英佐夫氏（東電工舎）が八幡順一選考委員長から発表された。

山田新会長は「伝統ある十日会の会長に推薦頂き身の引締まる思いがする。いま、世の中は暗い話題が多い。先日友人と話をしたが、その友人は自分の息子を何か物を作る仕事につかせたいと話していた。彼は保険会社に勤めていて、船の保険を取り扱っている。仕事の関係上、日本を始め世界各国の進水式に参加する。もちろん、船主、設計者などは、満艦飾に色どられた船が初めて海の上に出て行くのを見て皆んな感無量の顔をしている。しかし、一番喜んでいるのは船を作った人達である。その人達は船のほんの一部を溶接しただけとか、物を運んだだけかも知れない。とにかく船の出て行くのを見て、『これは俺の作った船だ』という感情が“オー”という言葉となって伝わってくる。それを見て彼は、自分はこれからでは難しいが、息子にはぜひ物を作る喜びを覚えさせたい、といっていた。

それを聞いて自分が物を作る仕事をしていて良かったと感じた。世の中は少しづつ変わっていく、物を作りたいと思う人もいる。テレビのドラマなどでも、最近は作業服を着た人達の主役が意外と多い。景気が悪いというような話しだけでなく、少しづつでも前向きなものを拾い集め、明日の明るいめっき業を作っていく。私にどこまでできるか分らないが精一杯頑張りたい。会員の皆様始め諸先輩方の絶大なご支援をお願いし、任期中頑張るのでよろしくお願いする」と就任のあいさつをした。

なお、日本鍍金協会の新会長には永田一雄氏（梅田鍍金工業所）が推薦された。

#### 4年3月28,29日 日本鍍金協会第31回年次大会

会場 京都 新都ホテル

参加者 大人30、子供5、幼児4

28日 15:30より新都ホテルにて年次大会が開催される。

森脇隆会長の挨拶に続き、議事に入り、新会長として十日会永田一雄氏が決定された。

年次大会終了後、家族を伴って京都夜の周遊バスツアーに出発。京都文化博物館、神泉苑等を見学し、弥生会館にて食事をとった。

29日 太秦映画村を見学し、嵐山を散策した。嵐山の昼食では森脇会長から永田一雄氏にバトンタッチが行われた。

#### 4年3月24日 吉川弘二氏 獲四等瑞宝章叙勲祝賀会

会場 上野「風月堂」

参加者 28名

長い間、陰日なたになって十日会を応援していただいた吉川弘二氏が勲四等瑞宝章を叙勲されたことを祝った。

#### 4年4月10日 4月例会

恒例により新製品紹介が行われた。今回は4社の説明があった。

奥野製薬工業(株) 繊維状活性炭

繊維状活性炭は表面に無数の微細孔を有する構造で吸着速度が非常に速く、カートリッジフィルターとなっているので取扱が容易である。その結果、品質の安定、作業性の向上、処理時間の短縮、優れたろ過性、漏洩がない、炭塵がない等の特徴を得ることができる。

タイホーテクノ(株) 液面異常通報システム

異常が起きた時、自動的に指定先に通報する通信機器。センサーは6種類使用できる。異常通報は音声で行う。リース料は1万円前後と格安である。

(株)ヒキフネ ひっかけ、はずし省力化機

(有)新メリ技研との共同開発。A型自動ひっかけ機、B型手動ひっかけ機、B型半自動ひっかけ機、C型半自動はずし機の商品構成でひっかけはずし作業の大幅な省力化が図れる。

野田鍛金工業(株) 省力ひっかけ用半自動ラック装置

飯田機械との共同開発。ラックをクランプにセットし、板バネの間隔を調整し、ペダルを踏むとカムが板バネの根本をはさみ、ひっかけられる仕組み。これにより作業性、生産性、経済性が向上し、



日本鍛金協会第31回年次大会

省力化が図れる。

#### 4年5月11日 5月例会

「発想を豊かにして企業の発展を」

会場 めっきセンター

参加者 18名

新趣向として「発想を豊かにして企業の発展を」をメインテーマに、予め設定されたテーマに従って、自由な雰囲気での討論会を行った。

席上、山田英佐夫会長が挨拶し「今回は私が会長となって2回目の例会となるが、新しい試みを企画させてもらった。講師をお願いしないで私たちだけでどこまで出来るか試してみたい。これには幾つかのテーマがあり、夫々Aが良いかBが良いか、あるいは賛成か反対かというテーマとなっており、例えば皆さんのが向かい合って座っている左右のテーブルで分かれ、左側のテーブルの人があるテーマで反対ならその立場になり切って意見を展開し逆の立場の人を自分の意見の方に引き込む、あるいはどうやって言い負かすかという練習である。ご協力をお願いする」と趣旨を説明した。早速、仲俣雅行幹事の司会進行によりはじめに①性格は良いがブス、性格は悪いが美人、どちらが良いかというテーマでスタートし、右側テーブルの人が性格派、左側テーブルの人が美人派に分かれ、それぞれの立場で熱弁をふるった。続いて、②付き合いにゴルフが必要か。③車は外車か国産か。④中小企業に世襲制は必要か、などいろいろなテーマに従って弁論を繰り広げた。

#### 4年5月23日 日本鍍金協会正副会長会議、合同役員会

会場 ホテルラングウッド

参加者 青研会12名、名鍍会7名、十日会14名

正副会長会議

永田一雄（十日会）新会長の工場の見学を行ったのち、新会長の司会で会計事務の引継ぎ、合同役員会の打ち合わせが行われた。その後、ホテルラングウッドに移動した。

#### 合同役員会

山田英佐夫副会長の司会により、開会の辞を杉浦候二副会長が述べ、会長挨拶の後、議長永田会長により議事が進められた。

議事では役員が各自己紹介を行った後、31回年次大会会計報告、会計引継ぎが行われた。今後の予定として、親睦ゴルフ会（遠藤、繩田、報告西浦）、秋季大会（権田）、年次大会（権田）が披露された（カッコ内は報告者）。その後、各会現況報告、経営分析資料の件が審議された。閉会の辞は緒方輝彦副会長が行った。

翌日は東京流通センターでMETEC'92が開催されていたので希望した役員を会場まで案内後、散会した。

#### 4年6月12日 6月例会

参加者 29名

「21世紀の工場経営－TPM」

ユケン工業 TPM推進委員会委員長

有住富雄氏

1.はじめに

TPMとは、トータル・プロダクト・メンテナンスの頭文字を取った言葉で、全員参加の生産保全と訳している。TPMは工場経営の一方法であり、これをやればわが社の未来はバラ色というものでもない。どの企業もTPMをやれば儲かるということは頭から取り除いて、儲けるための手段としてTPMという方法もあると認識して頂きたく。デミング賞など工場経営にいろいろ賞があるが、その中にPM賞があり、わが社も受賞した。だからといってわが社が儲かってるとはいえず、バブル経済の崩壊とか構造不況などで21世紀へのビジョンに赤信号が点滅している。今後とも皆さんの協力をお願いする。

会社経営で一番大事なのは人材で、PMの場合には人材の材は財産の財を使う。自分達の決めたことを企業の発展のために自ら努力する人財、これは大変な財産である。TPMは全員参加の生産保全で、全員参加となると小集団活動から説明をす

る。小集団活動に、QC、ZD運動など聞いたことがあると思う。

## 2. 小集団活動

日本に小集団活動が入ったのは古く、昭和37年に初めてQCサークルとして誕生、昭和40年にZD運動を米国から導入した。QCとZD活動の相違点はQC活動は、職場単位で職場の問題解決のサークル活動を行う。自主的な構成でボトムアップ、自主目標で不良率を5%から3%に減らすなどの目標設定となり、時間外とか休憩時間に行われ、30分とか1時間ぐらいでQC手当は出るが残業手当はない。ZD活動は、トップダウンで、職場の責任者、経営者などが企業の問題解決に取り組み、自主目標ではなく企業目標の100%達成を目標とする。活動時間も就業時間、残業時間内に行われ、残業手当も支払われる。

最近ではTQCという活動があり、QC活動では主体性はあるが問題解決に時間がかかるので、QCの頭にTをつけ、トータル・クオリティ・コントロールと呼んでいる。TPMの位置付けは、TQCの品質向上目標達成。ZDの欠陥ゼロ完全目標達成。この双方の良い所を取り、故障ゼロ、不良品ゼロなど設備の6大ロスに挑戦がベースになって発展させ、相乗効果で目標を達成させようというものである。

## 3. TPMの定義

設備の総合効率化を目標に、設備の一生涯を対象としたトータルシステムを確立し、設備の計画・使用・保全のあらゆる部門にわたって、トップから第一線作業員に至るまで全員が参加し動機づけ管理、即ち小集団活動によりPMを推進する。生産設備だけでなく、事務所、建屋から人の面では事務所から清掃のおばちゃんまで含み、動機付けにより人がやる気を起し、それを皆が助けて行くという活動である。

まず人の体質改善で、トップ自から模範を示す。掛声だけでは人は動かない。やる場所、やる雰囲気、動機づけが必要である。更に自分の設備は自分で守るという意識が芽生えればこの活動も定着

していくと思う。設備の体質改善については設備を良く知ることが大切である。その設備を購入した時と同じようにきれいにすると悪くなっている所を見つけることができる。6大ロスを絶滅するので総合効率、生産性を上げ、収益を向上させる。組織立った活動をすることによって事業が活性化され、企業の体質改善になってくる。明るくて働きやすい職場に変化していく。

## 4. TPMにおける設備保全

TPMにおける設備保全は、QCサクールの自主保全で、例えばA号機であればそこにグループ分けをしてそこで自主保全をする。保全部門があればベターであるがなくても良い。その設備を一番良く知っている人は、信号とか音などで故障箇所を発見できる。分かる人を保全マンとして名前をつけてやってほしい。その人がリーダーになって情報をフィードバックして保全情報を流してやる。そしてわが社の本来あるべき姿を何回も何回も皆さんに教えて行くという保全情報になり、蓄積させると会社の財産になる。定期保全は1ヵ月から半年ぐらいにする定期点検。予知保全は耐用年数などの前に行う。TPMで一番重要なのは改良保全である。いかに点検して、故障を予知し、改良がなされたかである。

ただ皆様方の会社にある設備を全て行うのは非常に難しいので設備にA・B・Cランクづけをしてほしい。Aランクは重点設備で自分の会社に代替する機械のない設備で日常保全、定期保全、予知保全を行う。Bランクは付属の設備などで準重点設備で日常保全、定期保全を行う。生産保全の対象設備である。Cランクは一般設備で現在会社設備で代替できる設備。わが社で500ぐらいある設備でAランクは20台ぐらいしかない。

## 5. 人の体質改善

考え方として「私を作る人、あなた直す人」というアメリカ式機能分業論という。高度成長時代の物を作れば売れる時代、その頃は、物を生産することが第一目的であった。GNPが先進国と肩を並べる頃になると品質や安全などが重視されるよ

うになり、公害問題とかいろいろ試行錯誤の末、安全第一を優先に安定した品質の物を作る保全の重要性が問われてきた。そしてその設備を使う人の重要性が解ってきて「自分の設備は自分で守る」→「動機づけ管理のしきけ」→「設備の清掃・点検・給油・小設備ができる人材の育成」というステップでを行い、「自主保全活動の定着」へ進む。

自主保全活動の進め方は、設備の教育、設備を良く知っている人が先生になり設備の教育をし専門保全マンが支援する。次に重点モデル設備を選定し、職制が率先垂範してわが社の設備のあるべき姿を示す。全員が理解したら担当区分を決定してQCサークルに割り当て一人でできる範囲を決める。次にステップ方式を導入、自主保全7ステップを展開する。7ステップというのは、第一ステップは初期清掃でまず設備の汚れを取り。次のステップは、汚れの発生源を突きとめる。汚れの発生源が止まっていないから清掃した設備がまた汚れてくる。ここまでくると自分の設備の概要が解ってくる。解ってたら簡単な日常点検表を作ってみる。設備の押さえて置かなければならない部門が解ってくる。4ステップには、専門の設備保全の方と今までやってきた事が間違いないか、更にやることがあるか、など基礎を勉強する。

第5ステップは、正式な日常点検表を作成する。日常点検によって機械の故障などが発見できたらどう修理するかを学ぶ。当然機械などがきれいになってくると汚れた所が目につくようになる。ここまでくると設備はきれいになってきてるので、目で見て設備以外の物に目をやる。必要な工具なども沢山あるが、その設備を直すにはどの工具が必要か、その設備専用の工具を備えて置くと工場内は随分すっきりする。整理・整頓、現場管理項目を標準化し、品質・安全の確保、段取り改善と在庫の削減、工具・予備品類の整頓などで、ここまでくるといよいよ最後の第7ステップで、自主管理で会社の方針・目標に添った活動。展開と改善の実施（個別改善）。例えば1号機は不良率を何%減らす、とか2号機は生産性を何%アップさ

せるとか今までやってきた事からヒントを得て目標に添った活動をする。こういうことをやっていくと人ととのコミュニケーションが取れるようになり、物に対する考え方、設備に対する接し方も変わってくる。

## 6、設備の体質改善

設備に対する考え方、故障に対する考え方などをTPMでは6大ロスと名づけている。現在わが社の設備稼働率に比べ本来はもっと能力があるのではないか、と考えたことがあると思う。本来の設備の能力に対して実際の稼働時間の間にある差を停止ロスと仮に名づけると突発故障、段取り調整によるロス。一つの製品の流れの中で非常に手持ちが多い場合は手持ちロスと名づけても良い。そういうものを時間稼働率で計算する。また機械は動いていても正味稼働時間との差に空転・チョコ停、速度低下などに係るものを性能稼働率。正味稼働率の中に更に工程不良や立上がり歩留りなど不良ロス、価値稼働時間を不良率として計算すると設備総合効率ができる。突発故障、段取り調整の時間稼働率を90%以上、空転・チョコ停、速度低下の性能稼働率を95%以上、工程不良、立上り歩留りの良品率を99%以上の目標を掲げた場合は、各々を掛けて行くと設備総合効率は85%以上という数字ができる。わが社が行った例では最初TPMを始めた当時は、60%ぐらいにしかならず、足掛け8年やって87%ぐらいになっている「設備は半分しか有効に使われていない」。

生産活動への位置づけとして、インプットの方に俗に5Mといわれてるマネー（金）・マン（人）・マシン（設備）・マテリアル（原材料）・メソッド（管理方法）があり、それに対しアウトプットの方に生産量、5Mを使った工程管理。品質→品質管理、コスト→原価管理、納期→納期管理、安全・衛生・環境→公害がゼロや従業員の傷病対策など一番重要な項目である。作業意欲→労務管理などで定着率、雰囲気などこれら全て人間中心の活動であり、経営者、従業員のモラルがなければ近代的な設備、工場であっても、生産性、収益の

向上は難しい。

### 8, TPMの実践

ユケン工業では昭和58年、取引先の紹介でTPMを知り、準備段階を経て昭和62年本格的に実践、8年かかって平成3年に一応の成果を得た。

1, 会社の方針とTPMの結びつけ「21世紀のビジョン」の作成。

2, 組織づくりと役割の明確化「重複小集団型」

3, TPM活動の方針「マスタープラン」

4, TPMの展開と実践。

活動6本柱として、生産性の向上（工程管理）信頼できるラインづくり（品質管理）、全員参加の自主保全（原価管理）設備管理の体制づくり（納期管理）、規律のある職場作り（労務管理）、安全衛生環境管理

5, 成果確認（有形・無形の効果）



優勝した清村氏



2位の長橋氏

### 4年6月7日 第33回ゴルフコンペ

会場 ザ・プリビレッジGC

参加者 18名

景気後退が言われているが、日曜日に5組のコンペとなると、今でもコースの予約は容易ではなく、何とか前会長の石川雅一氏の尽力によりこのコースを確保する事ができた。通知から開催日までの日数が少ないためか、競技委員長の仲俣一三氏、最多出場の八幡順一氏、紅一点の上村福子氏といった常連の方々の欠席が目立ち、また当初参加予定の吉川弘二氏も急用のため出席できず、やや寂しいコンペとなつたが、それでも総勢18名の参加をいただいた。

コースに着くなり、みなさん一様に目を丸くしたのはクラブハウスの異常な程の豪華さである。プリビレッジ（Privilege）を辞書で引くと「特権」とある。会員になるためには1億円必要とか？まさに特権階級のためのゴルフ場ということか。

昼食のカレーライスが800円。コースの雰囲気からすると馬鹿に安いと思ったが、案の定、2,

3口で食べ終わってしまう程の量しかなかった。特権階級の人の食べるカレーライスは量が少ないのでしょうか。日曜日は原則としてコンペ禁止ということでクラブハウス内ではパーティは行えず、コース近くの割烹さざえで行った。いつものよう賞品授与、各賞のスピーチ、そしてなごやかに談笑した後午後4時半散会した。

成績は次の通り（敬省略）

		out	in	HC	Net
優勝	清村進之			内外ハイグラス(株)	
		44	43	19	68
2位	長橋久雄			城南化学工業(株)	
		47	57	36	68
3位	繩田敏治			(有)繩田鍍金工業所	
		43	41	15	69
4位	遠藤清孝			(有)朝日鍍金工場	

### 4年7月17-18日 工場見学

参加者 29名

6月例会で講義をいただいたユケン工業さんを見学させていただくと同時に、日本鍍金協会で顔

を合わせ親しくしていただいている名鍍会会員の企業を見学させていただいた。今回は東京からバスでの移動だったので時間的な余裕もなく、観光なしのまるまる2日に渡る見学会となった。見学させていただいた企業は次の通り。

- ユケン工業(㈱)P M賞受賞工場、自動車部品、家電部品のニッケルクロムめっき
- 三研工業(㈱)自動車、機械、事務機、鉄鋼、産業用車両部品の亜鉛めっき、工業用クロムめっき、ステンレス酸洗、ポリシール加工
- (㈱)石実メッキ工業所 自動車部品、I C部品 金具、電気部品、軸受メタル、カーエアコン部品の亜鉛めっき、錫めっき、銅めっき

宿泊 蒲郡 三谷温泉「松風園」

#### 4年8月21日 納涼会

会場 日鉱六本木俱楽部

参加者 34名

われわれにはなじみの薄い六本木という環境の中、家族同伴で二木氏の司会で懇親会が行われた。しゃぶしゃぶのお替わり自由ということだったので皆大皿でお替わりの連続だった。宴だけなわになつたころ、じゃんけんとコイン投げでメイプルリーフ金貨の獲得合戦が行われ、大いに盛り上がった。



#### 4年9月6日 第34回ゴルフコンペ

会場 ザ・ロイヤルオーラン

参加者 18名

前日までの残暑が一休みといった感じの秋晴れのなか、茨城県鹿島は大洋村にあるザ・ロイヤルオーランにおいて総勢18名が参加して行われた。

年々休日のコンペは予約の確保が困難になる中、小林邦雄氏の尽力により確保された。このゴルフ場は、第33回大会のザ・プリビレッジゴルフクラブに勝とも劣らない素晴らしいクラブハウスと広くフラットな美しいコースで、私などは到着するなり財布の中身を心配したほどである。

スコアの方は、今回の優勝最有力候補である遠藤清孝氏や実力者小林邦雄氏が、鹿島灘より吹きつける強風に苦しむなか、一人マイペースで着々とスコアを伸ばした内藤隆夫氏が1オーバー73で優勝した。第2位には八幡順一氏のご子息・義一君が高校生ながら早くも父上を乗り越え？ 1位と同ネットの73で、マスクメロン5個を獲得した。

パーティは、同ゴルフ場コンペルームで行われ、山田英佐夫会長は「ゴルフはやる度に楽しいなあ、やって良かったなあと思う」と挨拶し、盛んにゴルフの楽しさを強調した。

競技委員長の仲俣一三氏は「今日は八幡義一君のプレイもさることながら、高校生らしい礼儀正しさが素晴らしい」と称え、「次回はぜひ90を切る」と宣言し、次回第35回記念コンペに向けて静かな闘志を燃やしておられた。なお、成績は次の通り（敬省略）。

		out	in	GS	HC	Net
優勝	内藤隆夫 平和工業(㈱)	43	43	86	13	73
2位	八幡義一	47	46	93	20	73
3位	森克夫	50	53	103	27	76
	(株)アベックスワールド					

#### 4年9月10日 9月例会

参加者 27名

「都市ガスによる工場の熱管理」

東京ガス(㈱) 東部事業本部

産業営業部主任 五十嵐重男氏



第34回ゴルフコンペ

## 1. はじめに

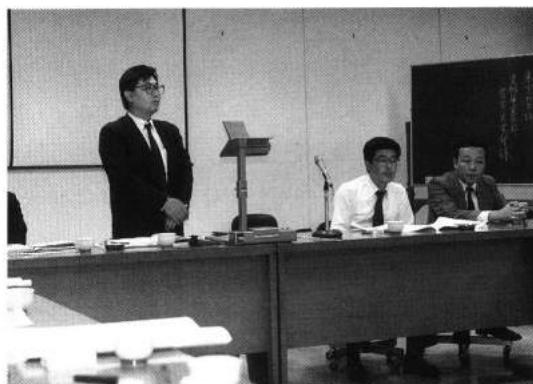
産業用エネルギーとして最近都市ガスの需要が伸びている。東京ガスでは現在、1都8県に747万件のお客様にクリーンなエネルギーである都市ガスを供給している。その中で産業用、工場で使われている都市ガスが大幅に伸びている。ご承知のように主要先進国の中でも日本はもっとも石油依存度が高く極めて脆弱なエネルギー供給構造をしているため、昭和49年、54年の2度に亘るオイルショックの時にその欠陥が実証された。それを受けて昭和55年5月に、わが国の総合エネルギー政策として石油代替基本法が制定された。石油依存度を下げようということである。それ以前にも省エネなどいろいろ実施してきたが、石油代

替エネルギー法ができて、都市ガス、発電などに積極的にLNGを受け入れ普及しなさいということである。

産業用の熱源としてLNGの拡大策として財政投融資資金の低利融資、税制優遇の公的助成策が作られた。昭和55年以後急激に伸びたのは、財政投融資、税制優遇策の他にガス料金制度も変えた。現在一般家庭用のガス料金は通産省の一括認可制である。産業用については使用規模や使用状況に応じた負荷調整契約料金が認められ個別に一般家庭用とは違う料金で契約されるようになった。都市ガスのもつクリーン性、利便性、燃焼性、供給安定性などが高く評価され、更に先ほどの各助成策も重なり産業用が伸びている。現在では、東京ガスのガス販売量の約25%を占めている。

## 2. 利便性

工場内に配管を引きこむだけで使用でき、燃料の貯蔵タンクは不用。都市ガスは危険物でないため法的規制（消防法などの立ち合い検査など）に対するわずらわしさがない。燃焼性、制御性に優れ、安全装置の開発によって自動化が容易。硫黄分を含まず排ガス中に硫黄化合物がない、などの評価があって、加熱、蒸気、温水、空調、コーナー、ネレーション、食品加工、乾燥焼付、溶解、熱処



理など多くの分野で都市ガスが活用されている。

### 3. 供給の安定性

都市ガスの特徴の中に供給の安定性がある。現在都市ガスは、LNG（液化天然ガス）で供給され、ガスの輸入先は環太平洋で中東地域から輸入されておらず中東情勢の影響はLNGについてはない。

LNGとは、メタンを主成分とする天然ガスを冷却液化したものという。わが国はLNGを長期に亘って輸入し安定的に利用していくという國の方針によって、東京ガスだけでなく、大阪ガス、東邦ガス、その他電力会社との共同プロジェクトである。このプロジェクトは天然ガスの採取から液化、輸送、受け入れまで一貫した体制を取っている。この採取、液化事業には大きな資金が必要なので、産出国、受け入れ国お互いのメリットで20年という長期輸入契約になっている。

LNGガス部門は、このプロジェクトにより平成3年のデータで3574万トン。その中で東京ガスの消費量は356万トンで約1割である。ガス事業全体でも751万トンでわずか21%残りの79%は電力会社で使っている。これは空気中の酸素と窒素と同じ割合になっている。電力会社もLNGだけで発電しているわけではなく、LNG、原子力、石油、水力、石炭などを使っている。今年も残暑で9月に入ってから最高記録を出して5千万キロワットを越えている。電気業界の発電エネルギー構成比を見るとLNG32%，原子力27%，石油23%，水力14%その他となっており昭和50年の時は石油の比率が63%であった。それが23%に減って、代わりにLNG、原子力が増加、脱石油の努力をしている。

### 4. 安全性

都市ガスでは全てLNGガスをお客様にお届けしているが、このように長期プロジェクトによる安定供給とともに、液体燃料と違ってパイプラインで供給しているので、好きな時にガス栓を開けば良く、液体燃料に比べて極めてシンプルな燃焼をする。このため燃焼制御が容易で、バーナーな

どの構造も簡単になっている。また、空気ーガスの混合状態を調整することで自由な火炎形状を選べ、あらゆる要求に応えることが可能になる。一方、液体燃料は燃焼機構が複雑なため、制御は困難であり、バーナー構造も複雑になるため維持管理が大変である。

LNGガスは燃焼（爆発）下限界が高いため漏洩による爆発がおこりにくい。燃焼範囲は4～14%でプロパンガスの場合は2～7%である。また万一漏洩があっても比重が0.66と空気より小さいため拡散希釈されて安全である。LNGガスは製造工場において厳密な組成の均一化を図っており、このガス組成の均一さが正確な燃焼を容易にし、不純物によるトラブルを皆無にしている。

万が一地震などの災害時の供給システムの安全性は、LNGの場合はパイplineによる供給のため貯蔵タンクが不要であり、都市における多量の可燃物貯蔵の危険がなく、タンクローリー輸送による住民問題や交通公害などの心配もいらない。更に災害時にはその災害範囲に応じて、高圧調整室、中圧、地区とバルブを閉じて調整する。東京ガスでは浜松町の本社で集中的に24時間態勢で監視している。

### 5. クリーン性

LNGガスは採取した時は天然ガスであるから不純物を含んでいる。主成分はメタンで0℃、1気圧のもとではガス状態である。1キログラム当たり約1.4立方メートルであるが、これを1気圧のもとでマイナス162度Cまで冷却すると体積はわずかに0.0024立方メートルとなり、との体積の600分の1という小容量になる。この採取した天然ガスを液化する際に、まず塵を除き、さらに脱硫、脱炭酸、脱湿等の前処理を行うため硫黄分のないクリーンなエネルギーが生れる。また地球温暖化の元凶とされている炭酸ガスの発生量が化石燃料の中で最も少ない。現在、燃焼時でLNGガス6、石油8、石炭10の割合といわれている。

また天然ガスの成分の中に窒素分も全くないためフェュエルNO<sub>x</sub>の発生がなく燃焼時に発生する

$\text{NO}_x$ についても燃焼改善などで低 $\text{NO}_x$ 効果がある。

産業用ガスの工場での利用に冷暖房にガスの吸収冷温水機、蒸気ボイラー蒸気吸収冷凍機、ガスエンジンヒートポンプ、メカニカルドライブなどがある。

最近開発したガス専焼高負荷燃焼浸管ヒータは放熱が少なく、熱効率85～95%の省エネタイプで高負荷燃焼のためコンパクトに制作されている。

#### 4年10月23日 第29回日本鍍金協会秋季大会

会 場 東京駅 八重洲富士屋ホテル

参加者 来賓3名、十日会40名、青研会18名、名鍍会12名

十日会幹事保坂晃一氏が司会を努め、開会の辞を副会長杉浦候二氏にお願いし、黙祷、来賓ご紹介があった。続いて会長挨拶（永田一雄会長）、綱領宣言（野村重之副会长）が行われ、恒例により会長が議長となって議事が進められた。

議事では事業報告、年次大会予定を権田節造氏が行い、その後、各会活動報告を名鍍会から佐藤寿訓氏、青研会から緒方秀明氏、十日会から菊地利博氏が行った。現況報告は名鍍会から神谷篤氏、青研会から山下恭弘氏、十日会から仲俣雅行氏が行った。その後、経営分析の件、青研会創立十周年記念式典の件が説明された。

議事終了後は次の方からご来賓の祝辞をいただいた。

東京都鍍金工業組合 理事長 石崎勝一氏

埼玉県鍍金工業組合 常任理事 安藤寿照氏

日本表面処理機材工業協会 会長上村晃史氏  
最後に閉会の辞を十日会幹事長谷川一郎氏が述べ、閉会となった。

続く懇親会は十日会幹事遠藤清孝氏のもとでなごやかに行われた。

#### ●工場見学——㈱安藤化成

昭和4年6月、東京都墨田区八広で創業。現従業員131名、平均年齢は役員とパートを除いて33.

8歳。勤続平均年数8.7年。現在地の埼玉県北葛飾郡松伏町に移転したのが昭和44年で、初めに移転したのは、亜鉛めっき部門である。昭和48年、全面移転をした。そのとき、めっき工場から前掛け、ゴム長靴の職場をなくした。

排水処理施設は、昭和54年工場拡張と同時に、新規に増設した。平成元年より完璧を目指して、生物処理とニッケル回収処理施設を増設した。その後増設した工場は、対外的に安全を図り、工場を掘り下げて自動機を設置、万一に備え液体が外に流出しない工場とした。作業環境の快適と作業スペースを多く取り、排気用の煙突を集中して一か所にしてある。同時にトイレも快適とするため、7000万円をかけ冷暖房完備、シャワールームも設置した豪華なものである。

同社の特徴は、安藤社長が経営理念としている“人権尊重”を基に、社員同一丸となって勉強したり、得意先へのサービスを図っているが、その中でも人を大切にしていることで、一人ひとりの能力を引き出しその能力に見合った待遇をすることでやっている。そのため、QCサークルを活発に行っている。

また、若手社員を育てる労働時間の短縮を導入している。勉強会も月曜と金曜の2回、化学、電気の基礎知識を1時間行っている。技能士も現在7名、今年は13名受検して5名合格しており、残りの人は学科か実地のいずれかに合格している、と概要説明を行ったあとQCグループによる発表が行われた。

このあと、数班に分かれて工場見学に移った。同社のめっき種類は、亜鉛、銅、ニッケル、クロム、金、銀、半田、黒色ニッケル、真ちゅう、無電解ニッケル。めっきは、バレル、静止、フープ連続めっきで、加工製品は、弱電、重電機部品、自動車部品、ファッショングループ類、雑貨類、建築金物家具金物、電子部品と多種にわたり取引先も450社に達するという。

#### 4年11月10日 11月例会

会場 めっきセンター

参加者 35名

「物の見方や考え方、取り組み方に違いをつくる」

オールウェイズセミナー代表 小出繁美氏

自分と他人との人間関係、人生の取り組み方、仕事への取り組み方に違いをつくる為の実習を体験した。

毎日、私たちは家庭、職場、友人、地域社会で多くの人のふれあいを通して仕事をしたり、自己実現を図ったり、豊かさを築いたり、より良い人生を求めているのではないでしょうか。とてもうまくいっている部分もあれば、精一杯やってはいるのだが思うようにならないこともあると思います。どうやったらうまく解決できるのかという方法から私たちは考えますが、次々に問題は現われてきます。物の見方や仕事への取り組み方、人との関わり方、自分自身の啓発を違う角度から探求してみると、違うように見え始めたり、新たな可能性が発見できたりもすると思います。そのようなきっかけとなればよいという講師の願いでした。



#### 4年12月16日 八幡順一氏のホールインワン達成を祝う会

会場 上野「英」

参加者 26名

第11代十日会会長八幡順一氏が一生に一度あるかないかといわれるホールインワンを達成したので十日会のゴルフ仲間が集まってこれを祝った。

昨年11月4日、八幡氏は地元、平井宮元町会の青年部「異会」の定例ゴルフコンペに参加、本千葉カントリークラブ中コース5番H127ヤードでこの快挙を成し遂げた。このコースは打ち下ろしでグリーンが一望できることからボールがカップに入るのが確認できた。

その瞬間、まず頭に浮かんだことが、困ったなあということであったという。その動搖は次の第1打にも表れ、O Bとなった。

八幡氏のゴルフ歴は約20年と長いが、それほど



#### 4年11月30日 歴代会長現役員懇親忘年会

会場 神楽坂「鳥茶屋」

参加者 18名

歴代会長にお集まりいただき、十日会の現状報告をすると同時に十日会運営に関するご意見をいただいた。

#### 4年12月10日 忘年会

会場 湯島天神坂上 「江知勝」

参加者 30名

十日会では昔からよく使っていたという先輩のお話をうかがい、江知勝で行った。期待通り大勢の会員と先輩にお集まりいただき、大いに盛り上がった。

上達もしていないと謙遜する。ホールインワンのことでも頭考えていなかったし、保険にも入っていなかったという。

このホールインワン達成に、地元の異会は勿論のこと、業界内でも親しい、小林邦雄、遠藤清孝、山田英佐夫の3氏が発起人となり英（はなぶさ）で有志30名が集まり「八幡順一氏のホールインワン達成を祝う会」が盛大に開催された。

会は遠藤清孝氏の司会により、まず発起人を代表して小林邦雄氏が「八幡さんから突然電話があり、えらいことをやったと言ってきた。景気が落ち込んでいるときであり、会社が大変なのかと思ったが、そうではなくホールインワンをやったという。ホールインワンはやり始めの人かプロに近い人が出すと言われているが、八幡さんの場合はどちらともいえないが、並大抵な努力では得られるものではないし、一生に一度あるかないかのことであり、大変めでたいことである。早速みなさんにお祝いを呼びかけたところ大勢のご参加を頂き感謝申し上げる。今宵は八幡さんを囲んで楽しく過ごして頂きたい」と挨拶した。

有志からの記念品パターが山田英佐夫氏から贈呈され仲俣一三氏の乾杯で祝宴に入った。

## 5年1月24日 新年会

会場 めっきセンター

参加者 大人23名、子供11名、幼児3名

恒例の新年会が家族同伴で開催された。

まず山田会長（写真）は「恒例の新年会に大勢の方にお集まり頂き感謝する。昨日の悪天候で心配したが多数お集まり頂けた。昨年いろいろ私達を励ませてくれた有名な人が沢山でてきた。水泳の岩崎恭子さん、マラソンの有森裕子さん、その中でも一番印象に残った人は宇宙に行った毛利さんである。

ちょうど私と同じ年代もあり、あれだけ大勢の人に宇宙のことを説き、ロマンを語った。私も行きたいなあと思ったが、体力、気力の点でちょっと無理のようだ。今年は、去年に増して困難な時



代といわれている。私どもは比較的業界の中では若い世代に属している。日本の世の中を希望のある世にして行きたい。

大きな宇宙もめっきや表面処理の技術がいろいろな所で生かされ、あれだけ素晴らしい仕事ができた。私達がやって行く仕事もまだまだ沢山あると思う。今日はゲームなどいろいろ用意してある。皆さんで楽しい一時を過して頂きたい」とあいさつした。

つづいて来賓の草間副理事長が“来年もお互い元気な顔でこのような新年会で会うことができるよう頑張っていきたい”とあいさつ、八幡元会長の乾杯で家族懇親会に入った。新趣向のオッズゲームなど家族ともども楽しい新年会の1日であった。

今回は子供向けにクイズが出され、大人向きには馬券のプレゼントがあった。プレゼントを配りおわった後、テレビにそのレースの生中継が映し出されすぐに結果が出るという趣向であった。その後は大人も子供もbingoを楽しんだ。

## 5年2月10日 2月例会

会場 めっきセンター

参加者 24名

新春パネル討論会「平成5年に賭ける」

山田会長司会のもとに前年の総括と今年度の方針等をそれぞれの立場から語ってもらった。

パネラー

(株)中央製作所 戸田靖氏

荏原ユージライト(株) 上野啓司氏

東京都立工業技術センター 土井 正氏

トキワ(株) 小林邦雄氏

光陽鍍金(株) 菊池忠男氏

根本鍍研薬品(株) 二木一郎氏

〈昨年はこんな年だった〉

司会 今回は普段から顔を合わせている親しい仲間から話しづらいことを話して頂き、聞きづらいことを聞こうという趣旨である。通常の例会では専門家や先生方に講演をお願いしているが、新しい年を迎える、世の中の流れが大きく変わって大変難しい時期にあるので、今回はめっき業界、設備、薬品メーカーの方々にそれぞれの立場から忌憚のない意見を発表して頂き、変化の激しい世の中で私どもがどのように会社を経営していくべきかあるいはどういう方針を立てればよいのか考えてみたいと思う。はじめに昨年はどんな年だったか。お話を頂きたい。

A社 (ニッケル、クロム、金色、無電解めっき業者) 当社は電子部品の中でもプリンターの仕事がここ3~4年の間に多くなってきた。以前は装飾クロムが7割を占めていたが、それが電子部品と逆転した。あるメーカーのコンピュータがヒットするとそれに不隨してプリンターもついていくということで昨年の10月頃までは大変な勢いで伸びた。当社はこのプリンターに内蔵されるシャフトを取り扱っているが、大体1台のプリンターにシャフト3~6本(各メーカーによって違う)くらい入っている。較差のうるさい仕事で無電解もあるが、電気めっきで行っている。例えばコンピュータがヒットしてプリンターが月6万台発注が出ると、シャフトが最大数36万本、それが2~3機種ヒットすると、100万本単位で出てくる。現在、国内でこうした単位で品物が流れるのはコンピュータ関係しかないのではないかと思う。たまたま当社はその波に乗ることができたが、昨年前半からコンピュータの売れ行きが落ち始めたが、在庫の関係から我々に影響が来たのが半年後で昨年10月頃までは順調であった。装飾関係は落ち込み前年対比7.8%減となった。

B社 (亜鉛めっき専業) 昨年は当社にとって異常事態があったので参考にはならないと思うが、昨年1月にある地方のめっき工場で事故があった関係で当社は仕事始めから夜8時まで残業をしなければならなかった。従って昨年1月の売上は過去最高を記録し、例年に比べ20%の売上アップとなった。因に今年1月は前年同月比17%減であった。当社の取扱製品は自動車部品関係が多いが、ここへ来て自動車の販売不振となり大幅な生産低下となっている。このままどうなるのか不安もある。皆さんのところでは従業員教育をしているという話も聞かれ、当社も検討はしてみるが、実際には難しい面がある。めっき業は完全な受注加工であり、急ぎの仕事が入れば仕事を優先しなければならなくなり、日程が崩れてしまう。

C社 (設備メーカー) いま2人から昨年はそれほど落ち込んでいないとの話を聞いてうらやましく感じた。当社は直流電源装置や表面処理装置などを扱う純然たる設備メーカーである。従ってこの景気の影響をもろに受けている。昨年を一言でいえば、ひどい年だったなあというのが実感である。我々はいろいろなものを扱っているが、みなさんと関連のある表面処理装置、整流器に影響が出始めたのが1昨年9月からである。一気に落ちてその状態が今日まで続いている。たまたま本日の日経に工作機械の昨年1年間の落ち込みが前年比で38.8%ダウン、国内需要だけみると44.1%と大きく落ち込んだことが報道されていたが、表面処理装置、整流器はもっと悪く落ち込んでいる。1昨年8月までの受注金額の50~60%、4半期別にみると前年比半分の月があるという非常に厳しい状況である。

受注金額が5割、6割になったら従業員はどうなるのか、いま社員教育の話があったが、当社の場合は主に製造部門であるが、総従業員の1割の人間が午前中に学科教育、昼から実地教育を行っている。めっき装置をやっていたら定年までめっき装置ということではなく流動的に仕事ができるように、板金加工、仕上げ、溶接、整流器の組み

立てと多能工になれるような教育を進めている。

D社（設備・薬品メーカー）会社発足当初は自動車、家電業界を中心として、いわゆる装飾めっき関連の薬品を中心に製造販売してきたが、自動車にしろ家電にしても素材革命、あるいは外観の志向の変化などにより装飾の業界だけではなかなか大きな発展が望めないことがわかり、昭和60年代に入って間もなく電子関連の商品とも取り組もうとかなりの研究者を振り向けて努力してきた。長期5ヶ年計画という形で将来的にはフィフティフィフティに持っていくと考え、グループ内各社の知恵を結集して取組み、ぱつぱつその成果が望める段階までになってきた。

バブル経済の発展している中では当社にとっても皆さんの事業所の発展とともに薬品も順調に伸びてきた。昨年前半までは前年並みの状態で推移してきたが、秋以降、特に11月以降現在までかなり落ち込んでいる。ほぼ全領域にわたって景気が後退していることを身近に感じられるようになった。社内では昨年社長を委員長とする不況対策委員会を設置し経費の節約に努め、この不況を乗り越えていきたいと考えである。

E社（材料商社）薬品関係に影響が出始めたのが昨年5月頃で、10月はとくに大きく落ち込み、そのまま現在まで続いている状態である。そうした中で如何に売上を伸ばしていくことができるか検討しているが、取り敢えず配送の車をやりくりして運搬費の節減などを図っている。

#### 〈今年の予測と会社の方針〉

司会 皆さんのお話を伺うと昨年10月から大きく落ち込み、それがそのまま現在まで推移しているということである。私見だが、私どもめっき業者は物を造ることはなく、お客様がお持ち頂く物を加工することが多いのでどうしても待ちの姿勢になってしまふ。これだけ世の中景気が悪くなると、今年はどうしようと考えるが、それには色々な立場があると思う。世の中もう少し景気が良くなるまで待つていいようという待ちの姿勢、あるいはそんなことは言つていられない、積極的に攻め

ていこうという攻撃型もあると思うが、その辺のご意見を伺いたい。

A社 いま山田会長が言われたように各会社には防御的な経営と攻撃的な経営があると思うが、当社は3年前まで防御なしの攻撃一本やりでやっていた。その攻撃には単価やサービスなど色々な方法があるが、3年前までは攻撃だけで良い時代だったのではないかと思う（他社も忙しいので）。その結果お客様も倍近くまで増えてきた。ところがバブルが崩壊して不況経済に突入しはじめると攻撃ばかりしていると防御を忘れてしまい、他社との競争に入っていけなくなってしまう。ワンロット何百万個という品物では5銭、10銭という単価で激しく競争し品物の取り合いになっている現状である。景気が悪くなり全体に仕事がなくなってくると、そういう仲間がぞくぞくと現れ始めた。そうした状況に対して、当社も攻撃ばかりでなく防御にも目を向けなければいけないという考え方へ変わってきた。如何に防御するか、それには道義的な問題も含まれてくるが、そうした道義を守るという考え方自体が希薄になってきたようにも感じる。防御するにはまず情報をいち早くキャッチして他社に負けないような対応を打つことが肝要だが、なかなか現実は厳しい状況である。生きていくには仕方ないという気もするが、いまは全体に仕事量が少なくなっている中で、これから先もっともっと仕事の取り合いが激しさを増していくことを覚悟しなければならないと思う。

B社 バブルがはじけて不景気になり、仕事量が減って、当社にはいろいろなところから引き合이が増え始めた。それも仕事を出すつもりがなく、いま頼んでいる仕事の単価が適正なものかを知りたいというので電話で話していると、そういう意図が何となく分かる。見積を依頼され、ファックスで図面が送られてきて、治具に何個かかり、何サイクルにかけると判断して1個いくらと計算した場合、私はそれに2割をかけている。そうすればいま取り引きしている値段より安くなることはないはずだと見ているが、そのお客様にこれ

くらいかかるということが判ってもらえばそれでいいと思う。

まだ値下げ申請は1件もないが、このままでいいのかなあと思うことがある。何か工場内で問題があったときに、はじめに対処していかなければかえってお客様との信頼関係が増すこともある。反対に自社の非を認めないでお客様だけを責めるようなことがあるとお客様は逃げてしまうだろう。大体、品質、納期、サービスなどがあるが、どれが一番ということではなく、すべて一番という考え方で進めているが、いまはじっと待っているという感じである。

C社 当社は創立60周年に向けて一昨年春に中期5ヶ年計画を立てた。好況時に立てた計画で年率8%伸ばしていくという計画で半年足らずで不況に入ってしまった。中期計画の修正の話も出たが、今回の不況が永久に続くことはないわけで、4年目でもいいし、5年目でもいいから最初の目標通りやろうということで現在進めている。パイは広がらないので、売り上げを伸ばすには新製品を出さなければいけないと、新しい装置の拡販に力を入れていく方針である。

さきほど仕事の取り合いという生々しい話があつたが、我々の仕事も年に3割のお客さんは色々な事情で失うだろう。従って現状を維持するには少なくとも毎年3割のお客さんを増やすなければいけないとと言われているが、私も常日頃、新規開拓ということを強調し、1週間に1日ないし2日は在来のお客さんのところへはいってはいかんと指示しこれが今年の営業部基本方針の1つになっている。幸いなことに昨年から働きかけてきた物件がここへ来て話が固まりつつあり、1昨年9月から落ちっぱなしだったのが、今年4月からの新年度は若干良くなるかなと期待している。

D社 今年一杯ほとんど回復が期待できないだろう、長期的に見ても、2~3年はあまり大きな成長は期待できないだろうとの観点から、その中で人件費の上昇等をどういう形でカバーしていくべきなのか、メーカーの立場としては何とか差別

化された商品を集中的に開発していきたいと考えている。一般的な省力化ということにもつながるようなプロセス、設備などを集中的に進めていくという考えである。

E社 材料商の立場は、各薬品、設備メーカーさんの商品はどこの材料商から買われても同じであり、商品の差別化を図ることはできない業種である。値段の交渉もあるが、めっき業者の方は義理堅いところがあり、値段だけで買ってもらえることは非常に少ない。どういった面から攻めていけばよいのか考えると、やはり頻繁に顔を出して、私どもがお手伝いできるところを手伝わせて頂くという形になると思う。

当社でも設備を扱っており、色々話はあるが、無期延長という話ばかりである。既存の設備を変えたいという話はあり、老朽化しているところを変えたらいいとか、そういう形で設備は細々とやっているのが現状である。

司会 パネラー皆さんの話を伺うと、攻撃と守りのバランスとか、お客様との信頼関係を築くとか色々参考となる話を頂いたが、パネラーばかりでなく、出席者からもこの不況に対して当社ではこうしているということがあればお話し頂きたい。

F社 (バレル専門工場) 私が30代の時は攻撃だけでやってきた。攻撃の仕方は同業他社との差別化を図ることで研究開発をして新しいものを作り、お客様を増やすというやり方である。一応それにより売上も順調に伸ばしてきたが、やはりこの不況で相当売上も落ちた。私自身も体調を崩したこともあり、昨年までは塹壕にこもっているような状況であった。今年は体調も良くなつたので、戦争に例えれば反撃に出てみようと考えている。当社では亜鉛合金めっきをやっているが、これがどのくらいの実力があるか、社内で塩水噴霧試験を行ったところ、4000時間くらい続けており、相当の実力があることが判った。またこれに付随して複合皮膜もあるので、これを武器にしてミサイルでも飛ばしてみようと考えている。

G社（各種めっき業者） 当社の場合は昨年4月頃から9月まで一気に落ち込んで、それから徐々に回復しているが、前年比15%くらいのダウンである。

今年はじめに取引先のメーカー2社が当社に訪れてきた。1社目は、このくらいの規模ではまあまあきれいでしっかりやっているというお褒めの言葉をいただいた。もう1社は他の事業部で新しい仕事を作るということで当社に工場監査に来られた。皆さん分厚い監査基準表をもってこれで採

点するが、みなさん記入しようともしない。こんなひどい会社では安心して仕事を任せることはできないということである。とにかくもう1度チャンスがほしいということで、1ヶ月後の3月に来てもらい、合格点をいただいた。その会社は大手メーカーと取り引きするための工場監査だったが、そういうことで、今年は当社にとって守りの姿勢に徹し、社内の体質改善に力を入れていくつもりである。



# 平成5年度会活動の回顧

## ◆ 5年度会員の状況

### ① 名誉会員5名 相談役3名 特別会員2名

正会員84名 報道4名

### ② 会員の動静

※会期中の入会者 6名

(株)川本物産、(有)籠利鍍金工業所、セテック(株)  
光鍍金工業(株)、メルテックス(株)、(有)横井電気  
メッキ工場

※会期中の脱会者 2名

ツルミ工業(株)、(有)アイシン工業

### ③ 役員

会長 山田英佐夫 (株)東電工舎

副会長 繩田 敏治 (有)繩田鍍金工業所

〃 遠藤 清孝 (有)朝日鍍金工場

会計 保坂 晃一 保坂鍍金(有)

涉外 長谷川一郎 (有)長谷川鍍金工業社

〃 仲俣 雅行 (株)中央メタル

〃 斎藤 晴久 シルバーメッキ工業(株)

〃 菊地 利博 菊地鍍金工業

〃 権田 節造 (株)幸福屋

〃 二木 一郎 根本鍍研薬品(株)

〃 上村 福子 (株)上村正商店

〃 近藤 澄男 近藤耐酸槽(株)

事務局 中島 望 東京都鍍金工業組合

### 5年3月10日 定例総会

会場 めっきセンター

参加者 35名

繩田敏治副会長の司会で開会し、はじめに山田会長は「本日は会員多数の出席を頂き感謝申し上げる。1年前に会長の指名を頂き大過なく過ごしてきたが、丁度バブルが崩壊したときでこの1年間にその影響がはっきりと現れたことが実感できた。その間、仕事の内容や会社の体制などいろいろ

ろな面で変化し、今後もさらに大きな変革が起きてくるようである。バブル経済が盛んなころは日本人は働き蜂と呼ばれた。女王蜂のもとに休まず遊びもしないでせっせと働くといわれた。これがマスコミで報道されると、何となく私たちも働き過ぎで余り働いてはいけないのかという気持ちにさせられる。ましてや今の若い人達は乗せられやすくそう感じてしまうだろう。働き蜂について、最近私が聞いたところでは働き蜂の労働時間は6時間程度で残業はない。女王蜂は卵を産む機械で、その機能が落ちてくると、働き蜂に刺されて殺されてしまう。それらのことを考えると働き蜂のイメージが変わってくる。マスコミで連日景気が悪いとか、底を打つなど報道されると、私たちもどうも暗い気持ちにさせられる。幸い私たち十日会はめっき専業者ばかりでなく設備、薬品メーカーなどいろいろな方々がおり、この組織をうまく活用して、マスコミに惑わされることなく事業を開拓していくたいと考えている」と挨拶した。

議長に八幡順一元会長を選出して議事に入った。平成4年度事業報告を遠藤清孝副会長、決算報告を保坂晃一会計が行い、異議なく承認された。役員改選に当たります小林邦雄氏を委員長とする役員選考委員会5名を編成し選考の結果、山田英佐夫会長の再選を決めた。

再選された山田会長は「昨年来、政治経済とも大変な時期であるが、会員の活力のもと会創立50周年に向けて盛り上げていきたい。このような厳しい情勢の中で会運営を進めていくため、昨年は歴代会長と現会員との懇談会などを開き、今後の方針性などをご教示頂いたが、こうした中から新しいアイデアを生み出していきたい。私も再選されて緊張と不安でいっぱいであるが、景気も年内には徐々に回復していくだろうといわれ、多少の希望もある。みなさんの協力により、この十日会を少

しでも前進させていきたい」と就任の挨拶をした。

総会終了後、懇親会に移り、今後の会運営に対する活発な意見交換などを行った。

## 5年3月27、28日 第32回日本鍍金協会年次大会

会場 湯本温泉 ホテル河鹿荘

参加者 31名

27日は午後3時から年次大会に入ったが、名古屋の名鍍会の会員を乗せたバスが折からの交通渋滞のため遅れて到着、会員不参加のまま行われ、次期担当の名鍍会から推せんされた新会長竹中道明氏不在のままの会長承認というハプニングが起きた。夕刻からの家族懇親会は和やかに行われ、この中で新旧会長のバトンタッチも無事に終了。平成5年度に向け、同会も厳しい経済状況を背景に出発した。

同大会は、山田英佐夫副会長（十日会）が司会と開会を兼ねて行った。国歌斉唱、同会物故者、会員家族業界諸先輩の靈に黙とうを行ったあと、来賓として出席した森脇富治全鍍連会長、石崎勝一東鍍工組理事長、川島利夫日本表面処理機材工業協会副会長がそれぞれ紹介された。

続いて、永田一雄会長が「昨年、京都で行われた大会で日本鍍金協会の会長に就任して早くも1

年を経過し、本日ここに年次大会を迎えることになった。

この間、会員のみなさん始め役員のみなさんは大変お世話になり、このように立派な大会を開くことができ深く感謝する。また、来賓を始め、会員の方がた多数のご出席を頂き厚くお礼申し上げる。

さて、景気の方は相変わらず低迷している。私たちの会社でもバブルの最盛期に比べ2割近い売上げが落ちている。これは致し方ないといえばそれまでだが、このような逆境は、長い人生の中で必ずあると思う。こういうとき、今後、長期の10年、20年にわたる自社がいかに行くべきかという戦略をじっくり考えるいい時期ではないかと思っている。

今後、生き残っていくためには人の面、資金の面、設備の面でいろいろじっくり考え、今後、会社の在り方、方向性を探るときではないかと思う。今回の不況も“禍い転じて福”とすれば、この年次大会に参加している会員のみなさんには、必ず展開が開け、光明が見出されることを祈念する。長い間のご協力に感謝する」とあいさつした。

次いで、緒方輝彦副会長（青研会）の綱領宣言に全員が唱和したあと、永田会長を議長に指名して議事に入った。



第32回 日本鍍金協会年次大会 箱根湯本・ホテル河鹿荘にて

平成4年度の同会事業報告が権田節造幹事から行われてこれを了承、次いで、同年度収支決算が二木一郎幹事から報告され、石川雅一監査から監査報告されてこれを承認した。

次いで、傘下各会現況、事業報告に入り、まず野村重之青研会幹事から報告され、次いで、仲俣雅行十日会幹事から現況報告がそれぞれ行われた。

統いて任期満了による役員改選については、次期担当が名鍛会であることから次期新会長に名鍛会会长竹中道明氏（愛中理化工業）、副会長に杏名正文氏（名鍛会）、同緒方輝彦氏（青研会）、同山田英佐夫氏（十日会）がそれぞれ推せん承認された。

ついで、経営分析調査結果が松風嘉弘青研会幹事から報告されて同議事を終了し、来賓祝辞に入り森脇全鍛連会長、石崎東鍛工組理事長、川島機材工業協会副会长がそれぞれあいさつして、同大会を終了、このあと家族懇親会に入って新旧会長のバトンタッチが行われ、東西の会員、家族の交流、親睦を深めた。翌28日は箱根の名所を観光、有意義な同大会の全日程を無事終了した。

#### 5年4月3日 十日会第35回記念ゴルフコンペ

会場 阿見ゴルフクラブ

参加者 23名

十日会第35回ゴルフコンペが4月3日（土）昨秋仮オープンしたばかりの新しいゴルフ場である茨城県阿見ゴルフクラブで開催された。

一見オーソドックスでフラットに見えるコースは、全ホールに池が配され、また非常に距離が長いという難しいものであったが、今回の優勝者にはめっきセンター4階にあるメモリアルボードに名前が刻まれるとあって、総勢23名の参加者は皆、優勝を目指し、青空に向かって白球を放っていた。まさに一筋縄では行かないこのコースで見事優勝に輝いたのが、山田英佐夫十日会会長である。プレー後のパーティで密かに明かしたところによると、今回の勝因は「まず2ヶ月前計画を立て、十日会会長という激務の合間に縫って練習に励み、

特に箱根で行われた年次大会のあのコンペまでの1週間は1日おきに練習場に通った」という、まさに計画通りの優勝といったところである。

また、団体戦優勝の小林、小倉、森、山田組を代表して挨拶した小林邦雄氏によると、「今回は会長を優勝させなければと思い、一生懸命に教えた。また、ショートホール4つはすべてパーで終えたことは素晴らしい」と山田会長の優勝を称えた。

なお、第2位には、久しぶりに参加の小倉攻一氏、第3位には初参加の中川士郎氏が入り、前回のマスクメロンに代わり今回も真っ赤に熟したイチゴが贈られた。

順位は次の通りである（敬称略）。

優勝	山田英佐夫	㈱東電工舎
2位	小倉 攻一	大日工業㈱
3位	中川 士郎	㈱川本物産
4位	遠藤 清孝	(有)朝日鍛金工場
5位	小室 昭進	日本プラント工業㈱
6位	内藤 隆夫	平和工業㈱
7位	小林 邦雄	トキワ(㈱)
8位	神谷 博行	神谷電化工業(㈱)
9位	二木 一郎	根本鍛研薬品(㈱)
10位	太田 幸一	太田鍛金工業(㈱)
11位	森 克夫	㈱アベックスワールド
12位	上村 福子	㈱上村正商店
13位	梅田 高広	ミナモト電機(㈱)
14位	竹ヶ原 攻	内外ハイグラス(㈱)
15位	志田 和陽	(有)大森広尾鍛金工場
16位	上野 啓司	荏原ユージライト(㈱)
17位	仲俣 一三	㈱中央メタル
18位	長橋 久雄	城南化学産業(㈱)
19位	遠藤 典夫	(有)朝日鍛金工場
20位	繩田 敏治	(有)繩田鍛金工業所
21位	八幡 順一	八幡鍛金工業(㈱)
22位	菊地 利博	菊地鍛金工業
23位	仲俣 雅行	㈱中央メタル
ニアピン	上野, 小室(2), 竹ヶ原, 内藤, 小林, 神谷, 仲俣	



## 5年4月12日 4月例会

参加者 59名

恒例により4社から新製品の紹介が行われた。

(株)三進製作所 スラッジ剥がれの良いフィルタープレスろ布

フィルタープレスではケーキの排出時にスラッジ剥がれが良いかどうかで作業時間が大幅に違ってくる。今回はサンプルを持参いただき、他との比較を通してスラッジ処理の手間の削減が提案された。

日本ワコン(株) 紫外線、オゾンによる新シアノ処理システム

紫外線によってオゾンを作り、オゾンの酸化力でシアノを分解するシステムが紹介された。その結果、次の長所を得ることが出来る。

- ① 除害薬品を使用しないので装置がコンパクト化される
- ② スラッジの廃棄問題が解決されるとともに、塩分濃度が低いので水の再利用ができる。
- ③ 紫外線で酸素をオゾンに変えそのオゾンでシアノを分解する。さらに、水に溶けている金

属を不溶性にして回収し、再利用が可能となる。

## (株)金属化工技術研究所 塩素系溶剤代替洗浄システム

環境との関わりから今後塩素系溶剤が使用できなくなっていく。その中にあって塩素系溶剤を使わないシステムが模索されている。今回はそのひとつ解決法を紹介していただいた。

このシステムは天然の植物油を原料とした溶剤を水系エマルジョンにしているので環境におだやかで引火性の心配もない。

## メルテックス(株) 無電解ニッケル、PTE皮膜の摩擦摩耗特性

今後、さらに用途が広がると予想されるPTE皮膜の物性についての話をうかがった。

## 5年5月10日 5月例会

会場 めっきセンター

参加者 28名(青研会から2名出席)

### 「エイズへの対応」

エイズ予防財団リサーチレジデンント

沢崎 康氏

翌月アメリカへ留学されるという沢崎氏に無理にお願いした。エイズは話題にはなっているが、まだ正しい知識は普及していない。事業を行えばさまざまな人、従業員と接することになる。偏見を除いて正しい知識で行動していれば何も問題はないということを具体例を挙げながらお話しㄧだいた。

具体的にはエイズとは医学的にどういうものか、現状はどうなっているのか、エイズに感染しないためにはどうしたらよいのか、かかった可能性がある場合の検査法はどうしたらいいか、感染した場合どうすればよいかという話題から、偏見をなくすことが大事であるとのお話をいただいた。

## 5年6月5、6日 平成5年度正副会長会議および合同役員会

場所 シャンピアホテル名古屋

参加者 12名

正副会長会議では竹中道明会長の司会で会計事務の引継ぎ、合同役員会の打ち合わせが行われた。合同役員会は、杏名正文副会長の司会により、開会の辞、会長挨拶の後、議長となった竹中会長により議事が進められた。

議事では32回年次大会会計報告が行われ、会計引継ぎが完了したことが報告された。今後の予定として、翌日の親睦ゴルフ会、秋季大会、年次大会の計画が披露された。その後、各会現況報告、経営分析資料の件が審議された。

翌日はオールドレイクゴルフ倶楽部で親睦ゴルフ会が開催された（十日会からの参加者7名）。

## 5年6月18日 6月例会

会場 めっきセンター

参加者 39名

「九州鍍金業界の現状と新しい挑戦」

新西工業(株)代表取締役 井手口輝夫氏



講演する井手口氏

### ▷北九州市の現状

今日は、九州めっき業界の現状と新しい挑戦という題で話をさせて頂く。その前にわが社は、1950年父が創業し、2000年に創業50周年を迎えるが、水洗金具のめっき、研磨を主な仕事としている。

私は、1971年父が急逝した後、全然違う仕事から現在の会社に移った。1983年に社長となって10年になる。九州という地名は、旧薩政時代に9国

に別れていた所からきていて、現在は7県である。

今まで九州の景気を表現する時にジェット機の後輪といわれてきた。それは経済全体の景気が上昇する時最後に地面を離れ、全体の景気が落ちてきた時は最初に地面に着く。底を離れるのが最後で、落ち込むのは最初ということである。事実、私ども九州に住んでいて、そうした実感を何度もしてきた。

しかし、今回は明らかに違って感じられ、その景気を分析すると3つほど原因が挙げられる。1つは、バブルの影響が比較的に少なかったこと。2つに自動車産業など新しく九州に進出した企業が多かったこと。3つ目はいろいろ観光地などや大都市圏で大型プロジェクトが比較的多かったことなどである。

ちなみに、九州の自動車産業は、日産自動車の九州工場が1975年に福岡県に進出した。その頃トヨタも進出する予定であったが、当時のオイルショックと重なって見送られ、日産だけが工場を建設した。さらに昨年日産は大規模な新工場を建設して“夢工場”といわれている。そのためには栄光ある神奈川県の座間工場の閉鎖の話があり、座間工場に係わってきた方はショックであったと思う。しかし、工場の土地代、労働力、港に専用バースを持っているなどの条件からすると時代の流れとして仕方のないことと思っている。

今年の春に、トヨタ自動車が九州工場を造った。オイルショック以来、見送られていた工場の進出で、トヨタが進出するためにトヨタの要望を入れて当時の振興事業団が造成した工場団地で九州ではオイルショックの以来の懸案事項の解消という見方をしている人もある。本田技研は、1976年に熊本に二輪車の工場を作った。この工場は現在は中国向けのオートバイの生産に追れているようで、ここに係わっている会社は比較的仕事は多いよう思う。さらにダイハツ工業が九州に進出することがほぼ決まったようである。

このように九州各地に自動車関連の企業が180件ぐらい立地した。そのため九州の高速自動車道

のインターインゲンに近い工業団地は完売されている。九州の場合、東名高速道などと違い普段はほぼ100キロで走行でき、高速道路の機能を十分満たしている。お盆とか正月など特別混む所も地元の人は分かっているので高速道の役目を果している。トヨタ自動車は、質の高い車を低コストで作ってきた会社でジャストインタイムを取っている。関連企業が進出する前にさかんに心配していた。しかし昨年秋に大型の台風が九州を襲って工場がストップしたり道路が冠水して納入できなかつたりした。現在、従来のやり方を少し変えて、自然災害が起きた場合でも致命的な支障が起きないようなシステムを作ろうとしている。

次に、2つ目のバブルの影響が少なかったと話したが、九州の中では福岡市だけが東京、大阪から不動産業者が大分入り土地代もかなり上った。今はその反動で福岡市の繁華街の時価は下落の最中である。それ以外の都市ではあまり影響を受けなかった。ただトヨタの工場進出の関係で福岡からはずれた所が最近地価上昇率日本一になったが、他の地域がバブルの解消で下落している時にもともと安い土地が少し上がって高くなつたということである。特に私の住んでいる北九州市などはバブルなどどこにあったかという感じである。北九州市ができて30年になるが、最初が150万人、現在が130万人で人口は減少している。日本で人口が減っている唯一の100万都市と有難くない名前がついている。土地代などあまり上らず、年収の5倍以内で立派な家が建ちそこそこ住める家なら年収の3倍ぐらいで建つ所が多くある。

#### ▷集積回路企業の進出と観光施設完備

進出企業の中に集積回路を作っている会社が多く九州に立地していた。九州は、数年前までシリコンアイランドと呼ばれていて、集積回路に関連しためっき業者もかなりある。こうした工場は、昨年は仕事の量が少なく苦労をしていたようだ。私の会社は集積回路の業界に係わりをもつていないので詳しいことは分からぬが、今年に入ってか

なり仕事量は増えてきたという話を聞いている。九州の場合、日本全体でいわれているようなどん底まで落ち込まなくて回復に向かっているというのが全体的な感じである。

進出企業の話をすると平成2年は580件、平成3年は530件、平成4年が340件で減少傾向はあるが、昭和60年から63年は250～260件ぐらいで、当時に比べれば決して少ない数ではない。土地代、労働力、労働者の賃金などの関係だと思う。

3番目の大型プロジェクトが多かったという件については、九州の北の方から北九州小倉駅前の再開発事業が行われ、大きなホテルやデパートなど九州らしからぬ景観が見えてきた。それに、新日鉄が八幡製鉄所跡の遊休地にスペースワールドというテーマパークを作った。それ自体は、初期投資が200億ほどで東京ディズニーランドの1つのテーマパビリオンぐらいでたいしたことないが、広大な遊休地などで、もっとお金をかけて韓国や台湾から人を呼べるような施設を作れば良いがと思っている。

それから福岡ドームができた。これは非常に素晴らしい施設で東京ドームより大きく、野球を見る以外にもショッピングや食事、ゲームなどの場所が沢山あって全然退屈しない。ホームチームのダイエーホークスは断突の最下位であるが観客動員数はパリーグでは断突のトップである。一見の価値のある球場である。

長崎県にハウステンボスという千数百億をかけた非常に大きなレジャー施設ができた。前からオランダ村があったが、さらにいろいろな施設が作られた。九州の中で、千数百億とか数百億の事業がかなりあり、もともと大きな市場でなかった関係もあり、景気の落ち込みも少なかったと思う。

これからは良く分からぬ事が多いが楽観はしていない。進出企業も今までのようには増えないと理解している。大型プロジェクトにしても空港施設や道路の問題も含めてあまり多くないと思っている。

現在、これだけ円が高くなると輸出型の企業は

日本で作って外国に輸出することは厳しくなる。自動車の対米輸出で、円高になって価格を上げる。本来日本の企業は価格競争力は大変にあり価格を上げなくてもやって行ける所、関連企業を絞り込んでやって行くので円が上がったほど値上げをせずに済む企業が多いようである。しかし、上げずに売って行くとダンピングで叩かれ、値段を円高相応に上げるとシェアが下がる。結局円高に対応した手を打っても打たなくとも困難がくると思う。同じ事が輸出している他の日本の製品に対しても起きてくる可能性が高い。

#### ▷めっき業、中国大連市へ進出を検討

そこで九州の中で中国の大連に投資する計画が動いている。めっき業界でも海外に工場を操業している企業もあり、進出するために調査をしたり検討している会社もある。九州めっき工業組合の青年部会所属の福岡、熊本、宮崎の若手経営者8社と三井物産が中国の大連市に協同組合方式で運営をするめっき工場を建設する計画がある。

工場建設を予定している大連市の技術開発区は、大変広い工場団地で、その500万平方メートルのうち5分1ぐらいが既に売れて、そこに日本企業を中心に400社の企業進出が決まっている。ただめっき企業は進出を認められていなく、最初は進出企業は大連市内の中国のめっき業者を使ってほしい意向であったが、技術的に使える業者がなく進出した企業が大変困っている。

大連市開発管理委員会が三井物産九州支社に日本のめっき業者の誘致あっせんを依頼され、私の所に呼びかけがあった。大連市、開発委員会、進出した日本企業の話しを聞いて成功する可能性が非常に高いと判断して実現に向けて動きだした所である。私は、現在の日本の置かれた状態からすると中国という国は注目に値する国と思っている。現在は、あの通り何が起きるか分からぬ。投資が全て駄目になる可能性もあるが、日本以外の国で投資をする時にリスクの無い国などはどこにも無い。今の中国なら努力をすれば報われる可能性

あるのではないかという気がする。結局、事業は生存競争をして生き残る。中国に行って分かったことは、中国では商社がやりたい仕事の権利をすべて申請して押さえている。自動車販売なら自動車を販売する会社を商社が引張って来てやらせる。現在三井物産が電気亜鉛、溶融亜鉛以外の全てのめっきの権利を押さえている。亜鉛関係は他の商社の権利となっている。開発委員会、三井物産などの意向は、めっき業は開発区に1社しか進出を認めない。工業団地の発生するめっき需要の全てを賄ってほしい。中国国内でモデルになるようなセンターにしてほしいという要望である。最初開発区内に進出を認めなかったように、公害発生型企業を分散させたくないという考え方で動いている。

三井物産は大連に立地した企業の第1号で大連市当局の信頼は非常に厚い。北九州市が来年大連と友好都市契約を結んで15年になるが、大連市は人口500万の大都市で格としては100万の北九州市より上である。北九州市からは進出企業も少なかつたので北九州の市役所の心苦しく思っていたらしく手続きなどの協力を要請したらぜひ協力させてほしいといっていた。

大連市は、大連湾に注ぎ込む大きな川がなく、水深が17メートルもある天然の良港がある。現在4バースあるが将来100バースに増設して膨大な工業団地の需要に対応することにしている。労働者の賃金は月収1万円ぐらいで安いが向こうの方式でそれ以外にいろいろかかり3倍ぐらい見て置いた方がいい。また年に2回か3回、旅費を持たせて帰省させることになっている。最初、日本から進出した企業が全員帰って来るか心配したようである。しかし内陸部に働く場所が少なく必ず帰ってきて来るようである。労働力は非常に豊富で、完全に男女平等である。今まで成功した進出企業を見ると女性を多く使っている所が多い。日本から中国へ中小企業が単独で進出するのは非常に難しい。しかし現在の日本の立場を考えると、何社かが集まってリスクを分散して、責任態勢が明確になっていれば、中国進出ということは頭の中に入れて

良い面白い存在だと思う。

現在、九州の組合員に参加の確認を行っている。これまでの調査で、アンテナなどの機械部品、クローム、ニッケル、亜鉛、はんだめっきなどの需要があることが分かった。これらの需要にこたえるために、土地代、設備費などを含めて工場建設に5億円ほどかかる。従業員は100人程度必要。進出が決まれば、三井物産は来年1月以降現地で従業員の募集、教育に乗り出す。大連市の工業団地は更に拡大されて行く予定なので将来的には従業員は200人規模に拡張することも検討している。このセンターは早ければ来春着工、95年秋の操業開始を目指している。

日本という国は敗戦の焼土の中から50年で世界一の金持ちの国になった。もちろん働いているわれわれが努力してこうなったのだが、今は世界の中で一人勝ちをしているとしか諸外国に思われていない。事実そうなのだが、これからも一人勝ちが続けられるかは疑問である。捕鯨禁止を見るように日本人が納得しなくとも、理にかなっていないくとも国際社会に従わなくてはならないことも起きてくる。今までの日本は運にも恵まれていた。各会社もこの運を逃がさないように企業運営をして頂きたい。

#### 5年7月9、10日 優良事業所見学会

参加者 31名

新潟県三条市を中心とした優良工場を見学した。  
見学工場は次の通り

#### ►ツインパート工業株

出発はめっき工場だったが、自社ブランドの製品をつぎつぎと開発し、上場を目指して計画経営を行っている。

めっき種類：銅、ニッケル、クロム、代用金、真ちゅう、ピューター、金、銀、古美、銅ブローナンズ

取扱製品：自社ブランドテーブルウェア、家電製品、インテリア小物、装飾家具、ディスプレーアイテム



ツインパート工業株

#### ►倉橋鍍金株

めっき種類：銅、ニッケル、クロム、工業用クロム、黒クロム、黒ニッケル、金、銀、金色、半田、各種ブロンズ仕上

取扱製品：電気部品、通信部品、農機具、作業工具、金型、電子部品、プリント基板



倉橋鍍金株

#### ►(株)大和精鍍

めっき種類：亜鉛鍍金

取扱製品：建築金具、自動車部品、一般機械部品、プレス金物、雑貨類



株大和精鍛

►株野島メッキ工業

めっき種類：Wニッケル，クロム，錫，亜鉛，  
黒染，パーカライジング  
取扱製品：工具，キャスター部品，雑貨，パイ  
プ，自動車部品



株野島メッキ工業

宿泊 岩室温泉「ゆもとや」 帰りには弥彦神社を見学し，寺泊で昼食をしながらおみやげを買い，帰路についた。

5年7月18日 大阪青年鍍金研究会創立10周年記念祝典

会長緒方輝彦氏のもとで大阪青年鍍金研究会創立10周年記念祝典が実行委員長 宮阪東明氏により太閤園迎賓館ゴールデンホールで行われた。十日会からは16名がお祝いに駆けつけ10周年を祝った。

式典では実行委員長，会長の挨拶の後各種表彰が行われ，来賓の祝辞があった。

式典の後，「きょうからあなたもプロのキャスター」の演題で㈱アナウンスクラブ代表取締役社長 岩

崎祐子氏により実演も交えた親しみやすい講演が行われた。

5年8月21日 納涼会

会場 LIVE ENTERTAINMENT ケネディ  
ハウス

参加者 81名

オールディーズポップスでは昔から有名なケネディハウスでケネディストリートバンドの生演奏を楽しんだ。



司会の菊地氏

5年9月20日 9月例会

会場 めっきセンター

参加者 38名

「職場と家庭の救急対策」

東京消防庁本郷消防署警防課緊急係主任救急救命士消防司令補 清野進様他 2名

保坂晃一幹事の司会で開会し，始めに山田会長は「今日の例会はすぐに役立つこともある救急対策という一風変わったテーマを取り上げたが，これは保坂幹事のお骨折りによるものである。先月の納涼会は家族を含めて80名という大勢が参加して頂き銀座で楽しく過ごすことが出来た。来週はゴルフ，10月にはJESの名古屋工場見学ほか盛り沢山の行事が詰まっており，積極的に参加して頂き親交を深めて頂きたい」と挨拶した。

例会に入り，救急救命士の清野進講師が実技を交えて約2時間にわたって救急対策を講義，十日会員も講師の指導により人工呼吸心臓マッサージ等を実習するなど熱心に聴講した。講演の概要は

次の通り。

### 救急対策

昨年、救急救命士法が国会を通過した。この背景として、日本では生きられるはずの命がなぜ亡くなっているのか随分論議されたことがあり、社会のニーズで動くのが行政ということである。私は昨年の第1回の救急救命士の国家試験にパスし、昨年から本郷救急隊に勤務し救急活動を行っている。めっき業界の皆さんも先代と一緒に暮らしている方が多いと思うが高齢者が家の中で病氣で倒れたとき家族の人は何をすればよいのか、判らないでみすみす助かる命をなくしているのが現状である。呼吸、脈が止まって1分以内に人工呼吸と心臓マッサージをしたら助かるというのが97%，3分になると75%，5分経つと25%まで下がってしまう。従って倒れて呼吸、脈が止まっている人には何よりも先に人工呼吸と心臓マッサージを行ってほしい。B型肝炎やエイズとか感染症の問題やいまの社会情勢から第3者までやってほしいとは言えないが、身内の方が倒れたときはやってほしい。こんな例がある。私ども救急車が駆け付けたところ、明らかに脳血管障害、脳卒中で倒れて顔が赤くなりいびきをかいている。いびきをかいているというのは、気道が閉塞して、声が出ない、意識がないというサインである。例えばお爺さんが倒れていびきをかいているのを見ると、静かに寝かせてあげようと頭に枕をおいて寝かせるのが手当てだと思われているが、意識を失うと舌が落ち込んできて気道を閉塞するといびきをかき、この気道を広げるには頭を後にそらせて喉を開いてやる必要がある。枕は肩甲骨の下において頭を下げれば気道が確保され、いびきが消える。意識を失って倒れている人の頭に枕を入れるのは悪い例で、それによって更に気道を閉塞してしまう。

脳に酸素がいかず細胞が死んでしまうと元に戻らない。大脳皮質といって物を考えたり、過去の記憶などを司る細胞が死んでしまって、中枢部の息をする、心臓を動かすなど原始的な脳細胞しか生きていないと、治ったときには植物人間になっ

てしまう。如何に脳への血流を保つかが大事である。

身内の方がそういう状態になったとき、周りにいて何もできない人にならないで、脳への血流を保つ心臓マッサージ、人工呼吸など救急措置ができるようになってほしい。

この後、実際に人形を使って、意識、呼吸、脈拍の見方、このいずれもなかったときの応急手当てとして、気道の確保、人工呼吸、心臓マッサージの仕方について実地に学んだ。

### 5年9月26日 第36回ゴルフコンペ

会場 阿見ゴルフクラブ

参加者 20名

前回の十日会コンペも実はこの阿見で行われ、2回連続で同じゴルフ場での開催となりました。それには理由が2つあります。1つは、今年春にオープンしたばかりの美しいゴルフ場であること、もう一つは、前回のコンペの成績がどうも納得できないという意見が非常に多かったという訳で「どうしても、もう一度阿見でやりたい」となったのです。さて、快晴無風、INスタートは我々のコンペだけという、何の言い訳もできない絶好のコンディションの中、賞品総重量、150kg余りの巨峰目指して行われた今回のコンペの優勝者は、INOUT共に安定したゴルフを見せた梅田高広氏である。梅田氏は今回が2度目の参加で、前回のコンペの時、初参加ながら「次回は優勝だア」と実に強気の発言をしておりまさに予告どおり、記念コインとトロフィを獲得した。また、第2位には久しぶりに参加の今泉好隆氏が、第3位には遠藤清孝氏が入り、今泉氏には巨峰5箱(20Kg)が贈られ、朝、同乗させてもらった小林氏に帰りの乗車を拒否された模様である。一方、2回連続の優勝を狙ったディフェンディングチャンピオンの山田会長はこの日ドラコンとニアピンを獲得し、実力の程を見せつけたが、惜しくも午後に入って大きく崩れB.Mとなってしまった。どうやら山田

会長は、ぶどうはお嫌いのようである。

				IN	OUT	HC	NET
優勝	梅田 高広	けモト電機㈱	50	49	30	69	
2位	今泉 好隆	(株)山晴	48	46	21	73	
3位	遠藤 清孝	㈲朝日鍍金工場	38	53	18	73	



### 5年10月15日 第30回日本鍍金協会秋季大会

秋季大会・懇親会会場 遠信会館

沓名正文副会長の司会のもとで次の様に進められた。

開会の辞を副会長緒方輝彦氏が行い、つづいて司会者が来賓を紹介した。その後、会長挨拶として竹中道明氏が挨拶し、そのまま議長となって議事に入った。議事では年次大会計画が審議された後、各会から現況と業界動向が報告された。その後経営分析についての話があった。

来賓祝辞の後、閉会の辞を副会長山田英佐夫氏が述べ閉会となった。

懇親会は名鍍会幹事渡邊悦孝氏の司会で和やかに執り行われた。

#### ●工場見学会

参加者 十日会11名

(株)大和電化工業所東浦工場(愛知県)

鍍金種類：亜鉛(静止), ニッケルクロム  
(静止)

取扱製品：シートベルトの金具, シフトレ

バー

### 5年11月10日 11月例会

「ちょっとした工夫の発表会」

会場 めっきセンター

参加者 23名

だれが講師という訳ではなく、参加者からの自主的な発表、参加者からの質問、参加者が質問に答える等を繰り返し、お互いにアイデアを出し合った。

特に品物の保管方法では多くの参加者の発言をいただき、それぞれの業態に合わせた管理がされていることを実感した。

### 5年12月4日 忘年会

会場 池袋「笹周」

参加者 28名

鴨鍋をつつきながら各地の銘酒を味わおうという趣向で企画された。途中で店主の酒に関する講義があり、では試してみようということで、さらに美味の酒を、味わうことが出来た。

## 5年12月18日 会長経験者と現役役員の忘年会

会 場 上野海鮮酒家「蓮風」

参加者 14名

歴代会長にお集まりいただき、十日会の現状報告をすると同時に十日会運営に関するご意見をいただいた。主な発言は次の通り。

- ・パッと遊び、まじめに勉強せよ
- ・役員はひとの為にやるが、結果として自分のためにもなっている。
- ・十日会の会員であることのプライドを持って頑張れ
- ・役員は時間を守るように
- ・テーマを持って互いにもっと切磋琢磨したい
- ・役員の中で工場見学をしあい、親睦を増したらどうか
- ・親睦だけで良いのか。

## 6年1月23日 新年会

会 場 ホテルトップ浅草新館

参加者 大人38名、子供1名、幼児8名

従来からめっきセンターで行われていた会場を浅草に変更した。景況が思わしくない折柄、気分を一新して新たに出発しようという意図である。ご来賓には東京都鍍金工業組合から、草間副理事長をお迎えし家族同伴で楽しい時を過ごした。アトラクションとしては子供にはお土産を、大人には馬券のお年玉が配られた。馬券は馬券買いのベテランがすべての組み合わせを買い付け、大人の会員にランダムに配られた。必ずだれかが当たるという企画である。会場には大型テレビを置き、実況を流した。

競馬が初めての人も皆テレビの前で自分の馬の応援に熱が入った。



## 6. 2. 10 2月例会

会 場 めっきセンター

参加者 33名

モントリオール議定書に基づき1・1・1・トリクロロエタンが廃止されることになった。その対策の1方策として2社に新製品を紹介していただいた。

### ●三菱化成㈱ 「Kaseiクリーナー」による洗浄技術の紹介

日東化学産業㈱専務取締役 広田憲一氏

有機塩素系溶剤の代替水溶性洗浄剤。長所：非危険物、ランニングコストが安い、排水を出さない、生産性が高い、安全性が高い。短所：浸透性がない、乾燥性が悪い、シミが出やすい等あるが、バレルで行けば解消される。

### ●長谷川鍍研薬品㈱

水に解ける研磨剤「スカット」の紹介

代表取締役長谷川勉氏

従来の研磨剤をこれに変え、お湯につけるだけでバフかすがとれる水溶性固形油脂バフ研磨剤。トリクレン、トリエタンは必要としなくなり、従来の洗浄ラインはそのまま使える。

## 平成 6 年度会活動の回顧

### ◆ 6 年度会員の状況

① 名誉会員 4 名 相談役 3 名 特別会員 2 名  
正会員 82 名 報道 5 名

#### ② 会員の動静

※会期中の入会者 2 名

(有)小島鍍金工業所、(株)オカダテックス

※会期中の脱会者 4 名

(株)サカガミ、日本ワコン(株)、城南化学産業(株)

(株)小島鍍金工業所

#### ③ 役員

会長 山田英佐夫 (株)東電工舎

副会長 繩田 敏治 (有)繩田鍍金工業所

" 遠藤 清孝 (有)朝日鍍金工場

幹事(会計) 保坂 晃一 (有)保坂鍍金(有)

幹事 長谷川一郎 (有)長谷川鍍金工業社

" 権田 節造 (株)幸福屋

" 二木 一郎 根本鍍研薬品(株)

" 上村 福子 (株)上村正商店

" 仲俣 雅行 (株)中央メタル

" 斎藤 晴久 シルバーメッキ工業(株)

" 菊地 利博 菊地鍍金工業

" 大沢 俊孝 (株)大沢鍍金工業所

" 直海 弘明 直海工業(株)

事務局 中島 望 東京都鍍金業組合

### 6年3月10日 総会

会場 めっきセンター

参加者 24名

繩田敏治副会長の司会により開会、山田会長は「本日の総会は私の1年間の総まとめとして皆さんのご意見を伺える絶好のチャンスと思っている。この1年間、世の中の非常に厳しい流れの中で、十日会会員はそれぞれ努力しそれなりの打開策を練ってきたと思う。その辺が私ども会員の中での

話し合いで大いに勉強になり、諸先輩にも教えて頂き参考となった。1年間皆さんのが支援により無事に終わろうとしており、感謝の気持ちで一杯である。本日はよりよい十日会とするために皆さんの努力と会の発展のために今後頑張っていけるようご審議を頂きたい」と挨拶した。

議長に元会長の小林邦雄氏を選出して議事に入った。

平成5年事業報告を遠藤清孝副会長、決算報告を保坂晃一会計が行い承認された。つづいて選考委員を指名して会長の選任が行われ、山田会長が再選された。

再選された山田会長は「3年目ということで大変なことだと思っている。これまで通り皆さんの絶大なご協力をお願いしたい。先般ある雑誌に人間と猿とどこが違うかということが載っていた。それによると、人間と猿では遺伝子が2%しか違わないそうである。しかし、猿と2%しか違わない人間の歴史を振り返ってみると、歩くようになり、友達ができ、会話ができ、街ができる、機械を作ってどんどん発展し、いまは猿の世界とは全く違う世界を人間は作っている。それが非常な力となって、今はちょっと間違っただけで自然を破壊したり、地球を壊してしまう力をもってきている。十日会は勉強したり、討論したりすることが基本であるが、十日会は諸先輩の開拓者の精神ということである。会もみなさんの力強いアイデアと努力で他の会とは違った素晴らしい会となるよう私も出来る限り努力したい。みなさんのご協力をお願い申しあげる」と就任の挨拶をし、総会を終了した。

### 6年3月26, 7日 第33回日本鍍金協会年次大会

会場 恵那峡国際ホテル

参加者 21名

大会は名鍍会の沓名正文副会長の司会により青研会の緒方輝彦副会長の開会挨拶、国歌齊唱、業界関係物故者への黙祷のあと、竹中会長は「長引く不況は回復の兆しを見せず、受注量の減少、円高の影響による海外調達の拡大、さらに我々が一番痛手を受けているVAによる表面処理の廃止、変更が活発に行われ、非常に厳しい状況が続いている。こうした環境のなかで日本鍍金協会は活動を通して一層団結を強め、情報の収集、自己啓発を活発に行い、秋季大会、年次大会の活動のなかで良き友達を沢山作って頂き、お互いに自社の経営体質の強化を図って頂きたい。昨年3月、十日会より名鍍会が当番幹事を引き受け会長の大任を引き継いだが、あっという間に1年が過ぎ本日青研会にバトンタッチする。その間、多くの諸先輩の激励、アドバイスを頂き感謝申し上げる。今後とも当会の発展のために努力していきたい」と挨拶した。

山田英佐夫副会長（十日会会長）の音頭で綱領宣言を唱和してから、議事に入った。

第1号議案の平成5年度事業経過報告を名鍍会の落合慎一幹事、第2号議案の平成5年度収支決

算報告を名鍍会の加藤千博幹事、監査報告を伊藤豪監事が行い、承認された。第3号議案の傘下各会の現況・事業経過報告を青研会の勝井清史、緒方秀明、十日会の近藤澄男、遠藤清孝、名鍍会の鈴木泰造の各氏が行った。

第4号議案の任期満了に伴う役員改選では各会の推薦により次の新正副会長が選出された。

会長	池田 伸一	青研会
副会長	西浦 洋仁	"
	山田英佐夫	十日会
	沓名 正文	名鍍会

第5号議案の経営分析調査について青研会の増澤佳浩監事が説明し、議事を終了した。

池田伸一新会長は「このたび会長という大役を仰せつかり、責任の重大さを痛感している。当協会は30年を超す伝統があり、その間多くの優れた経営者を輩出し、その方々は業界において指導的な役割を担ってこられた。このように優れた先輩に支えられ感謝している。多くの人と出会い、意見を聞き、発表しあい、お互いに自己啓発を行い、修練しながら人格を形成し、自分の会社経営に活かすことが協会のモットーであると思う。現在、



第33回 日本鍍金協会年次大会 恵那峡国際ホテルにて

深刻な不況のなかにあるが、これからも表面処理の重要性は増すことはあっても減ることはないとと思う。不況のときこそ、各社の努力や成長がはっきり現れるときであり、会員各社には逆に大きなチャンスであると思う。お互いに頑張ろう」と就任の挨拶をした。

来賓として、全鍍連の池田弘副会長、愛知県工組の渡邊辰巳理事長、名古屋大学工学部の沖猛雄教授、機材協の後藤安邦副会長から祝辞があり、早川幸喜監事の閉会の辞をもって大会を終了した。このあと6時より会員及びご家族交歓懇親会が盛大に開かれ、席上、新旧会長のバトンタッチが行われた。

翌27日には家族そろって妻籠、馬籠の宿を散策し、漬物工場とふるさと工芸館を見学してそれぞれが帰路についた。

## 6年4月11日 4月例会

### ●新製品紹介

恒例により新製品が紹介された。今回は3社が説明に当たった。

インタンク型ろ過機「フローリング」

イワキ(株)化成品部

メルテックス(株)

米国カスタムマスターズ社で開発されたろ過機でろ過量が大きく、省スペースのろ過機の説明。インタンク型であるため外部配管が不要となり、液漏れ事故、液放熱が防止される。

新マグネットポンプ

(株)ワールドケミカル

(株)アペックスワールド

空気混入でもエアロックを起さず、逆止弁不用で自吸水が確保できる高自吸性能をもった横型自吸式マグネットポンプの紹介

空運転による軸部の発熱を発散させる構造を持った回転成型による高強度の大型ケミカルマグネットポンプの紹介

遠心分離乾燥機用ステンレスバスケット

林ステンレス工業(有)

底部反転取手をつけ、プレス成型で処理物の流れを良くした精密部品に最適のステンレスバスケットの紹介。脱水、乾燥の効率をアップし、自重の軽量化を実現する。そのほか各種バスケットの形、製作方法は参考になるものがあった。

## 6年4月24日 第37回ゴルフコンペ

会場 ジュンクラシック C. C.

参加者 18名

ゴルフ場には宿泊施設があり、参加者8名は前日より1泊し、当日は早朝より併設のショートコース12ホールを回るなどウォーミングアップに励むなど総数40個のマスクメロンを目指してただならぬ意気込みを表していた。

さて当日は時折薄日が差す穏やかな日和りで、今回の優勝者は、アプローチの技に定評のある中川士郎氏である。終始堅実なゴルフで40、41との日のベストグロススコアで見事優勝に輝き、優勝トロフィー、盾、記念の金貨、マスクメロンなど豪華賞品が会長より次々と手渡され、周囲から羨望の眼差しを受けた。また、恒例のフルーツを一番沢山貰える第2位は、今年に入りめきめき調子を上げている今泉勇氏、マスクメロン5個を獲得した。第3位はこのところ上達著しい二木一郎氏である。そのほか、15番ロングホールで第3打をチップインで沈めた清村進之氏にイーグル賞が、また18番ホールでなんと14打を叩いたディフェンディングチャンピオン梅田高広氏に大叩き賞が贈られた。B.B賞の小室昭進氏はメロン2個を獲得した。

団体賞はこの日、4歳の誕生日を迎えた繩田敏治氏率いる繩田、中川、二木組に贈られた。

最後に山田会長の挨拶があり、コースを手配してくれた斎藤晴久氏、ゴルフ幹事の遠藤清孝氏、繩田敏治氏に対する感謝の言葉でパーティを締め括り、参加者全員にマスクメロン1個づつ渡され、クラブハウスを後にした。

## 6年5月12日 5月例会

会場 めっきセンター

参加者 35名

「小さな大企業」のすすめ～企業の真価を發揮し、誇りと自信を創造するために～

(株)タイホー代表取締役 山口勝治氏

#### 1. 「小さな大企業」は時代のキーワード

新しい価値観のもとで経営していくことである。そのためには自然体で行かなければならない。自分の個性を伸ばしながら他と共に存していく考え方が大切である。また、小さなハイテク企業となることも必要である。これの意味するところは優れた経営理念と経営技術である。これで武装しているのを小さなハイテク企業と呼ぶ。

#### 2. 「小さな大企業」を支える四つの柱とは

- ①一隅を照らす経営
- ②最大たらんとするより最良たれの経営
- ③自己実現の経営
- ④社員の幸福な顔の見える経営

#### 3. 「小さな大企業」の社長業

方向指示器付きお茶汲業である。方向指示器とは経営計画を示すことでそれが済めば後は環境整備、調整をすればよいのだ

#### 4. 「小さな大企業」の幸福論

仕事は生活であり遊びであり人生である。そのためには自分と等身大の生き方をして比較地獄に落ちないようにしなければならない。その様な生き方を通して最終的に自信をつかむ、自分自身に100点満点をつけられる。これが人生の総決算である。

継ぎ

平成6年度秋季大会案の検討

平成6年度第34回年次大会案の検討

各会事業計画および現況報告

経営分析調査資料の協力の件、その他

会議後は懇親会が開かれた。翌日は飛鳥カントリークラブで懇親ゴルフ会が行われた。(十日会ゴルフ参加者 8名)

### 6年6月10日 6月例会

参加者 32名

「銀行を上手に利用する方法」

成和信用金庫本部常勤理事総務部長

岩沢英慶氏

銀行マンとして多くの経験から中小企業経営者としてどのような考え方を持ったら良いのかという提案をいただいた。

### 6年7月15, 16日 優良工場見学会

参加者 21名

長野県下諏訪を中心として展開している中原グループと特異技術で全国からの注文を受けている太陽工業(株)を見学させていただいた。

●ナファリス工業(株) F R P 槽製造

長野県諏訪郡下諏訪町社東町6581

●中原化興(株) めっき薬品設備販売

長野県下諏訪郡下諏訪社133-4

●(株)ハイライト 銅、ニッケル、クロム、亜鉛、無電解ニッケル

長野県諏訪市四賀式津107

●太陽工業(株) プレス業

長野県諏訪市四賀式津107

蓼科グランドホテル 滝の湯泊

### 6年8月5日 納涼会

会 場 LIVE ENTERTAINMENT ケネディハウス

参加者 46名

昨年に引き続きオールディーズポップスでは昔

### 6年6月4日 日本鍍金協会正副会長会議および合同役員会

会 場 大阪・道頓堀ホテル

参加者 12名

正副会長会議では池田伸一会長の司会のもとに会計事務引継ぎ、合同役員会の議題の検討が行われた。

合同役員会では池田伸一会長の司会のもと以下の議題が討議された。

平成5年度第33回年次大会収支報告および引

から有名なケネディハウスで生演奏を楽しんだ。これがキッカケとなって十日会バンド・テンディーズが誕生した。



#### 6年8月24日 テンディーズ初準備会

納涼会での話から自分たちでもバンドを作ろうという声が高まり、有志が集まって検討した。お互いの技量もわからず、どんな方法でやったらよいかもわからず、中にはわれわれでは無理だという声もあるが、取り敢えず楽器を持って集まつみようということになった。

#### 6年8月25日 テンディーズ初練習 すみだ中小企業センター

初めて音を合わせるのにはやりやすいだろうということでグループサウンズの曲を演奏してみた。今後、どうなるかわからないが、練習は続けてみようということになった。

#### 6年9月9日 9月例会

会場 めっきセンター

参加者 34名

##### 「最新 中国事情」

矢部技術士事務所、(株)大崎金属 技術顧問

矢部賢氏

日本鍍金協会の第31回秋季大会が上海で開催されるのに合わせ、事前準備として中国事情を知るために開催された。

●一般概況 最近、本屋の店頭には中国関係の本

が溢れています。今では日本のみでなく世界の先進国の経済が中国を抜きにしては先が読めなくなりました。数年前からの欧米の不況、3年前からの日本の不況をよそに、中国は2年前から年率十数%の成長を続け、世界経済の牽引車とまで言われるほどに膨張しました。我々下請け製造業の破綻要因に中国の成長があることは言うまでもありません。アジア大陸の沿岸諸国を望む日本の立場は、EUにとり残されることを恐れるイギリスに似てきました。

●東南アジアの工業化 近々5年の間に、東南アジアでは現地で消費する自動車家庭電気製品雑貨を始めとする工業製品については、それぞれの国民の意識に相応する程度の品質と物量の供給が行われ、かつ多少問題があっても自助努力によって工業製品需給を行おうとする意欲が強くなっています。ただし、電子部品、電機製品、精密部品など先進諸国へ供給される部品も急速に量産が進み、多様化されつつありますが、これらの中についでは引き続き日本をはじめとする先進工業国のがんばりが技術管理のもとに製品化部品化が進められています。なお、これらの輸出品も先進国の管理者の比率は急速に下がっており、いずれこれらの国々の人々の力によって生産管理手法までマスターされる日も遠くはありません。要するに、日本の協力がなくても、台湾、香港、シンガポール、韓国のごとく、我々以上に活発な経済と技術の成長により、先進国への逆輸出の意味において強力なコンペティターに育ちました。その東南アジアの経済圏の主力が中国へ移りつつあります。

●中国のめっき技術 アジア圏内で、今後の発展に世界的な関心を呼び、今後の我々への影響が最も大きいのが中国です。

国内に14を数える拠点都市があって、ある程度までそれぞれの裁量に任せて経済開発を進めようとしたのが、天安門事件を乗り越えた後の開放政策の要点であったように考えます。しかし、これらの拠点のそれぞれの立地条件によって、極端な経済発展の格差がありますが、これも中央政府

が容認して、それぞれの都市の特質を活かし、特に沿岸都市の急成長を許したのもこの解放の特徴であると思います。以前にも報告しましたが、技術上次のような現象が明示できます。

① 各地の研究機関及び技術者が独自で、固有技術の開発を進めているが、ニーズにつながらず生産技術に成長していなかった。個人の優位性を保つことを目的として、最新技術情報への関心が異常に強かった。これらの蓄積は今回の解放に伴う製造や加工の導入に少なからず役立ったと想像できる。

② 全体的に生産技術、管理技術が大幅に遅れていた。これは製品生産の機会に恵まれなかつたことが最大の原因で、その場があれば能力がなかつたわけではなく、急成長も不可能ではなくなつた。

③ 金属添加剤などを含め、めっき資材は国産化が図られているが、ニッケルが不足している。添加剤に対する関心も強く、競って研究テーマに上げている。希土類を利用したクロムめっきの添加剤が各地で開発され高速めっきを可能にしている。

④ めっきの設備は殆ど国産であるが、周辺機器の不足のために、自動化が稚拙であり、維持管理がなされていないために老朽化が激しく、大半は生産効率がきわめて低い。

最近は、香港製の自動設備の導入が急速に普及はじめている。一方では、日系・ドイツ系を含む外資系合弁の設備・機器の開発も急がれている。

大型キャリヤー式のものが国産・輸入とも多く、遅れていた塩化ビニル系ライニング材料も、ドイツ製のポリプロピレンの普及によってカバーされ始めた。金属材料は薄板など精度の高いものの製造技術が遅れ、構造用のステンレスの材質などは信頼性が乏しい。優秀な一般構造材の猛烈な流入（輸入）がこれを補いだした。

⑤ めっき素材の材質にはいずれも問題が多く、めっき品質にも影響し、精巧な用途の輸出製品として使用できる状態ではない。これも輸入が自在に行えるようになった。

⑥ 国有企業の大多数に経営上の問題があつて、一般に郷鎮企業に好成績を収めているものが多い。解放政策によって外資系の独資による運営が認められ、中国への大量な輸出を優遇したことから、いずれも極めて好成績を挙げられている。

⑦ 教育が徹底し、学歴のある技術者に不足はないが、机上の勉学のみであつて研究意欲はあるが、実地教育の場が乏しく生産技術は育たなかつた。特に階級意識が強く、指導者、管理者、技術者、作業者（労働者）などの間は全く途絶し、技術者による現場作業はもちろん品質管理に必要な現場分析すらスムーズにはできない状況であった。

ただし、教育の徹底は、意識の改革によって実際に生産の現場につなげた場合は想像を超えた実力を發揮できる基盤になっている。作業量の安定確保が可能になり、繰り返しの生産が行われる状態になれば、爆発的な技術の膨張が予測される。

⑧ 「再生産」の経済原則の理解が、全くなされていなかつたが、これが生産設備の維持管理に対する意識を遅らせていた。市場経済の原則原理の習熟が今後の発展に大きく寄与するものと考えられる。

⑨ 環境に対する意識はあるが、国情がこの対策を遅らせている。技術者は排水処理に関するあらゆる理論と設備についての認識は充分にもつておらず、これらに関する個々の設備は所々に見受けられるが、実際に稼働状況にあるものは殆どなかつた。

高度の理論があつても、槽の強度、水を流すための勾配、床や配管の材料、ポンプのヘッド、洗浄の基本的な理論等々、流体の実験的なノウハウや、周辺機器材料などの根幹に係わる実用上の認識が全くないところに問題があつた。要するに理論だけで実際が伴つていなかつた。

⑩ リサイクルについても、所々に理論的な解決を模索した形跡は早くから認められているが、国家的な方針も、一貫した施策も明らかでない。ただ、内陸部においてはシアンの使用が認められないなど、規制の基準と同時に各地で色々な行政

指導がみられたが、かつては国営のために国家的な枠組みのなかで、重点施策の結果、予算が下達しなければ、責任の所在は工場にはないことになり、極めてルーズな対応しかされなかった。今後は解放された地方の責任において色々な環境対策が進められるだろう。

#### 6年9月18日 第38回ゴルフコンペ

会場 阿見ゴルフクラブ

参加者 22名

今回で3回目の開催となったこのゴルフ場は十日会会員の方にはすっかりお馴染みということで、また前日の大荒れの天気予報が見事にはずれ、好天に恵まれたこともあり、レベルの高さには定評がある十日会コンペの中でも非常にハイレベルな争いが展開された。

その中で、仲俣一三氏、八幡順一氏、小林邦雄氏の歴代会長組と共に回った山田英佐夫会長は、諸先輩の暖かいアドバイスもあり、47・48の自己ベストスコアで優勝に輝き、仲俣競技委員長より記念盾、金貨、秋の味覚の王様である松茸が贈られた。

山田会長は前回の優勝（第35回コンペ）もこの阿見ゴルフクラブであり、ゴルフ場との相性の良さと諸先輩の御蔭で優勝することができたと挨拶の中で語った。

第2位には、今日は優勝するつもりでやってきたという竹ヶ原攻氏が入り、松茸5籠を獲得した。竹ヶ原氏は本当に優勝する勢いで快調にとばしてきたが、最終18番（阿見の名物コース）で大きく崩れ、惜しくも2位となった。第3位には、ベストグロ賞、団体賞を獲得した小倉攻一氏が入り貴祿を見せつけた。

クラブハウス2階でのパーティも歴代会長を中心になごやかな雰囲気で行われ、最後に仲俣競技委員長によるハンデ改正の後、みな沢山の松茸とともにクラブハウスを後にした。順位は次の通り。

（敬称略）

			IN	OUT	HC	NET
優勝	山田英佐夫	関東電工舎	48	47	28	67
2位	竹ヶ原 攻	内山ハイテクス	51	50	32	69
3位	小倉 攻一	大日工業	41	39	10	70

#### 6年10月8~11日 日本鍍金協会第31回秋季大会

秋季大会会場 上海ヒルトンホテル

参加者 来賓1名、青研会20名、十日会16名

名鑄会4名

今回の秋季大会は躍進の著しい上海で行われた。

コーディネーター 森脇富治氏

団長 池田伸一

副団長 西浦洋二、杏名正文、山田英佐夫

日程

10月8日 成田空港10:25発

上海市観光の後秋季大会 上海泊

10月9日 上海10:00発（汽車）

蘇州市内観光 上海泊

昔から日本にはなじみの蘇州を見学した。町の様子、寺院の様子、景観は日本で絵で見たものそのままであり、その雄大さに心打たれた。

10月10日 上海工場（4社）視察、 上海泊

見学工場 華成鍍金工業会社、普林グループ  
鍍金工業会社、恒大グループ楊思鍍金工業会社、  
シャープ会社

シャープ以外は現地資本の企業であり、非常に活力があり、仕事量も豊富だった。排水処理はきちんとしているとの説明があったが、床は分別しているかどうか分からぬほど水浸しになっていた。品質については目視だけだが、日本の工場に匹敵する程度のものができており、難しいものもこなしていた。原材料については何でも手に入るとの説明だった。

シャープは日本の現地法人でのエアコン製造を行なっていた。外注部品を中国国内から調達するように頑張っているとのことだった。中国での販売は売上金の回収の面で難しいところがあり、十分注意しなければならないとのことだった。

## &lt;&lt;秋季大会&gt;&gt;

参加者 11名

西浦洋仁副会長の司会で次の次第に基づいて進められた。

開会の辞 副会長 山田英佐夫

物故者、会員家族、業界諸先輩の靈に対し黙祷

来賓ご紹介

会長挨拶 池田伸一

綱領宣言 幹事 遠藤清孝

議 事 池田会長が議長となり議事が進められた。

第1号議案：事業報告及び第34回年次大会開催計画について青研会  
山下恭弘

第2号議案：各会活動および業界  
報告

青研会藤本真司、増沢佳浩

十日会菊地利博、齊藤晴久

名鍛会鈴木政之

第3号議案 J E S 経営分析調査に  
ついて 青研会 宮城晃

来賓祝辞 大阪府鍍金工業組合理事長 森脇  
富治

閉会の辞 副会長 倉名正文

はじめに

住友海上リスク研究所は住友海上火災保険㈱の関連会社で、住友海上火災の創業100年記念事業として昨年1月に設立されたシンクタンクである。近年、私達を取り巻く諸環境は、経済、社会の構造変化、国際化の進展などあらゆる分野で急激に変化している。

今日は保険の話しをして頂きたいということだが、われわれの損害保険会社では役割分担をしていて、従来の損害保険に関する話しは別の機会に話させて頂く。現在、世の中では新しいいろいろなリスクが生まれている。その中で従来の保険に馴染むリスクと馴染まないリスクがあり、われわれの会社は従来の保険に馴染まないリスクの分野を中心に担当している。

## 1. リスクと損害保険

## (1) 保険に馴染まないリスク

初めに保険に馴染まないリスクとは、偶然性が不十分、例えば、鉄製品のさびや機械部分の磨耗など確実に起きる物、モラルに欠ける物、例として良いか悪いか分らないが競馬やパチンコの勝ち負けなど。需要が限られている。リスク（金額）が大き過ぎる。地震などの天然災害で一度に広範囲の災害で保険会社の財力に耐えられないもの。最近地震保険もできているが、京浜工業地帯などで工場設備等の自然災害にはリスクが大き過ぎる。ビジネスリスクは新製品の開発、会社の損益など。保険会社でこれ等を対象にすることは自から会社を経営することと同じで、ビジネスをする人が危険も負担する。

## (2) 保険に馴染むリスク

何かが偶然に起きて財産がマイナスになることに対しては保険の対象になる。人工衛星からゴルフのホールインワン。俳優の手足、お天気まで。

## 新しいリスクとしてPL

－生産物責任などはその物を対象にする。知的財産権、株主代表訴訟などがある。保険に馴染むリ



## 6年11月10日 11月例会

「めっき産業が抱えるリスクについて」

スクのうちで金額に換算できるリスクを損害保険会社が人の命の値段など金額に換算できない分野を生命保険会社が担当している。

## 2. 環境問題への取り組みの背景

現在保険会社では対応できない大きなリスクを抱えている。先日、新聞紙上でも発表されたが、例えば東海沖地震に対して地震予知の研究がされている。地震が起きるか起きないかの技術的問題は別にして、非常に予知の発表は出し難い。地震が起きそうだと発表して、もしそれが空振りになつた時、予報がはずれて解除する時も難しい。一度警報が出ると、高速道路、新幹線、各官庁などいろいろ対応が法律で決めてある。警報が出されると実際に地震が起きなくても何兆円もの損害が発生する。その時予報が間違っていたから解除するといつても誰がその損害に責任を持つかは決まっていない。安全のために出した警報者に責任を取らせることもできない。さらに警報が出たことで小さな地震で済んだ場合でも、地価の値下がり、観光客の減少などその他いろいろ訴訟の問題まである。

現在日本で大きな問題を3つ挙げると①環境問題、②高齢化社会の問題、③日本と中国の問題といわれている。これは大蔵省直属のシンクタンクの発表である。企業の場合、職場の高齢化、ユーザーの高齢化、それに対して、どのような製品を作るか、食べる物など高齢化はユーザーに対応していくなければならない。

われわれの会社の視点は少し違っていて、ほとんどが地方自治体、各市町村が相手だが、現在の年齢構成から将来の年齢構成を予測して、その場合どのような施設、サービスなどが必要かを調べる。何年か後の高齢化時代を予想していろいろ準備して置かないと、高齢化社会になったすぐに対応是不可能であり、どうあるべきをアドバイスしている。

地球人口は戦慄のカーブで人口爆発をしている。200年前、産業革命以来急激に人口が増加した。地球の歴史時計でみると現在は地球の歴史、40億

年で1日に換算、人間の生まれた歴史はわずかな時間である。人間、動物など含めた環境論理の問題が必要になると思われる。

## 3. (P L) 製造物責任問題

P L法に関して現在、保険はある。私どもでは、製造物責任の対象になる事故が起きないような対策を研究している。例えば製品があり説明書の中に取り扱い注意が書いてある。何か事故が起きた時、注意書きに警告があるかないかが大きな問題になる。簡単な例では、お菓子の中の乾燥剤にこれは食べてはいけませんと書いてある。

特にアメリカ、カナダに輸出する時は注意が必要である。日本国内に販売されている物については現在はまだそれほど問題になっていないが、アメリカ、カナダの場合は、必要なことはきっちり書く。ただ沢山書くだけでは駄目で、消費者に分かるように書く。何でもかんでも書いて置けばよいと細かく沢山書いても、これでは消費者に読んでもらえないので駄目だということになっている。

最近、アメリカで数十億という賠償が支払われた例がある。警告されていない事故が起きて、被害者が受けた損害をその製品の製造者が弁償するのは当然であるが、企業がどう予測して対策を取っていたかが問題になる。予測してもその対策を取ていなかった場合は不当に利益を挙げていたと判断される。不当に利益を得ていたのだから過去何年とか何十年の利益を全部吐き出せという判決が出てくる。訴訟社会のアメリカ、カナダは非常に注意する必要がある。われわれは業務の1つとしてそういうことが起きないための事前の対策を研究している。

## 4. 環境問題

今、世の中で全体が環境環境といわれている。それでは、なぜ環境問題に取り組まなければならぬのか、もう一度確認をする必要がある。その一つに人口増加が急カーブの問題がある。

最近アメリカで環境論理という言葉が使われる。人間が生まれた時はみな個人中心に営まれていた。それが人口の増大とともにいろいろ階層ができ、

一転して人権問題が起き平等意識が生まれてきた。それがだんだん発展して人間も動物、植物も皆同じという考えにきている。鯨が可愛うだから捕っては駄目、動物実験なども医薬に役立っていても駄目とか、昔からある木を道を作るために切っては駄目などと拡がってきた。

先ほど話した地球の歴史で人間は地球の上に現れて間がない。地球上に一番最後に生まれてきた生物が地球の環境を破壊する権利はない。いくら人間に役立っても他の生物や動物に迷惑をかけてはいけないという考え方である。

#### 5. 貿易と環境問題

日本の企業にとっても環境が1つの外圧になってきた。WTO—世界貿易機構で環境問題を取り上げ、自由な貿易をするためには、労働面の改善などの他に環境対策の問題がでている。環境対策には大きなコストがかかる。環境に配慮しない企業は当然コストは安くなりそれは不公平な貿易になるという考え方である。特に先進工業国で国を越えて汚染が拡がる場合も多く改善を求める意見がWTOでも強くてくるようになった。

他に環境問題のテーマにはならないと思うが、日本は街中に電柱、電線が走っている。環境問題を扱う欧米人が日本にくると「なぜ地中に埋めないの」と聞く。実際、電線はほとんど遠慮なしに街中に張ってあり、欧米人の目には安っぽい生活をしてコストを下げているのではと思う。

主な街中を電線地中埋設すると物凄く経費がかかり特に日本は台風、地震など自然災害が多く、1980年代のドイツのレベルにするためには試算で400兆円が必要である。また人口の高齢化を迎えるの悪いお年寄りが増加し、車椅子で街を歩くとあの電柱は非常に邪魔になる。日本が槍玉に上がる1つである。

#### 6. 土壌汚染

地質汚染による人体や自然環境への悪影響が最近特に心配されている。従来地質汚染を起す物は、6価クロム、カドミウムなどの重金属であった。ところが最近注目されている物質は揮発性有機塩

素化合物と総称されるトリクロロエチレンなどの物質である。これらの地質汚染は、まず米国で顕在化した。それを契機に日本でも汚染があることが分かってきた。

火災、爆発などの危険性のない高性能の溶剤として全国的に、多くの分野（ドライクリーニング、印刷、機械部品など）で大量に使われてきた。長らく安全な物質と考えられていたので使用法、使用後の処理などの管理が不十分であった。比重が水より大きく、粘性が低いという溶剤として優れた性質が地下に浸透・拡散して土壤を汚染した。土地を売買する場合にはその土地が汚染されているかどうか予め調査が欠かせない。地質汚染は表面から見ただけでは分らず、数十年前の行為で記録に残っていないことが多い。現在汚染調査は、機械ボーリングなどで調査費用の多さが障害になっている。当社ではSCSC調査法という従来より安く、迅速に汚染機構の解析に必要な信頼度の高いデータを収集できる調査法をメンバー各社と取扱っている。

#### 6年11月2日 秋季大会（上海）反省会

会場 池袋 中央飯店「東湖樓」

参加者 10名

秋季大会（上海）参加者が集まり、報告書の為の感想文を集めると同時に中国の印象を語り合った。

#### 6年12月10日 忘年会

会場 上野 東天紅「海燕亭」

参加者 30名

菊地利博幹事の司会により開会し、山田会長は「ここ数年湯島から離れたところで忘年会を行ってきたが、久しぶりに湯島に戻っての開催となり、会員多数の参加を頂いた。世の中景気が悪く困っているが、年末に私が経験したことをお話したい。めっき業ではないが、ある会社が受注が落ち込み、リストラで外注先を切ったが、切り過ぎてしまい、仕事が上向いてきた時外注先がなく困っていた。

たまたま丁度良いタイミングで私の知り合いの会社を紹介したところ、その外注先は売上を伸ばしたと喜んでいた。単に景気が悪いからということではなく、何かやっていれば良いこともあることを感じた。今日は日頃馴れ親しんだ場所であり、ゆっくり楽しんで頂たい」と挨拶した。

田島栄名誉会員、森克夫氏から挨拶があり八幡順一元会長の乾杯の発声で懇親会に入った。なごやかな歓談のなか、和沢作平新日本機械工業(株)社長から、「非常に厳しい時代と思う」との挨拶があり、新会員として(株)オカダテックスの紹介が行われた。

司会者から、前回に引続いて今回もピンチヒッターで司会を務め、みなさんから司会が上手になったとのお褒めの言葉を頂いたが、次回は本来の幹事に努めてほしいと挨拶があり、笑いの絶えない和やかな宴が続き、小林邦雄元会長の中締めで閉会となった。

#### 6年12月19日 会長経験者と現役役員の忘年会

会 場 両国 すい亭

参 加 者 15名

ちゃんこ鍋をつつきながらこの1年の反省と、諸先輩からのアドバイスをいただき、現役役員か

らも意見が出された。主な内容は次の通り

中国を視察して客先の無理を聞けるようになった／例会、忘年会等が役員の為の会になっていく／例会にめっき専業者の出席を多くしたい／若い世代の積極的な参加を促したい／今は情報がありすぎて逆にテーマが絞り込めない。会の在り方を再考する時期だ／皆、会を盛り上げる為に苦労している。プライドのある会として頑張ってほしい／会は存続することに意味がある。参加してこそ意味がある。

#### 7年1月22日 新年会

会 場 銀座 ジャズクラブ シグナス

参 加 者 62名

遠藤清孝副会長の司会で開会し山田会長は「今日は会員家族で楽しんで頂こうという企画である。年が開けて阪神大震災という大きな事件が起きた。政府の言うことをどこまで信じていいのか、壊れないといわれた高速道路、地下鉄が壊れ、家屋が倒壊し破滅的な状態になった。景気も良くなると言われるが、中々良くならない。私たちは自分の考えで自分の道を歩んでいかなければならぬことをつくづくと感じさせられた。その一環ではないが、今日は十日会のメンバーで特別なアト



忘 年 会

ラクションを用意している。秘密裏に進めてみなさんを驚かそうという目論見であったが、これを決めた途端に、お前何をやっているんだ、と電話がかかってきた。まことに秘密がたもてない会だなあ(笑)と、その分、横の繋がりが強くてお互いに頼りになるグループだと思っている。これから幹事が色々な企画を用意しているので、ゆっくり楽しんで頂きたい」と挨拶した。

菊池忠男元会長は「会長から阪神大震災の話があつたが、私どもがこうして楽しく過ごしているのも、複雑な気持ちである。ともかく十日会は横の連絡が強いグループでこれから楽しく過ごして頂きたい」と挨拶し乾杯の音頭を取った。

なお、会では阪神大震災に対する義援金を募り、後日、日本赤十字社におくった。

懇親会は、会員、家族を交えてbingoゲームなどをたのしんだあと、いよいよ待望のアトラクションが開幕した。

バンド名は十日会の英訳「Tendees」で、会員自らギター、ドラム、キーボードを手にする。

バンド結成の経緯は、昨年夏の納涼会でオールディーズのバンドの演奏を聞き、あのくらいなら俺達にもできるだろうというのが発端である。昨年8月24日の打合せで正式にやることを決め、まず音楽に興味のあるメンバーを集めた。また幸いなことに会員の中に元プロのドramaとして活躍された経験を持つ籠利達郎氏がおり、コーディネーターをお願いしたところ快く引き受けもらった。

これまで楽器とは無縁の人達の練習が始った。8月30日夕すみだ中小企業センターで第1回目の練習を開始した。9月、10月の週1回(水)から11月に入り週2回と本格的に練習に励んだ。当初、借り物の楽器も自前で揃えるほどの熱の入れようで練習を重ねるごとに腕を上げた。その結果を披露するのがこの新年会であった。

テンディーズのメンバーと主な楽器の受け持ちは、

リードギター	仲俣雅行
サイドギター	繩田敏治
ベース	山田英佐夫、二木一郎 籠利達郎
ドラムス	小林邦雄、籠利達郎
キーボード	大沢俊孝、山田英佐夫
タンバリン	菊池忠男
ボーカル	神谷博行、菊地利博、小原俊幸 トキーズ、大沢俊孝

ボーカルのトキーズは小林邦雄氏のお嬢さんとその友達2名のグループ。それぞれ重複しているのは、曲により受け持つ楽器が変わるものである。

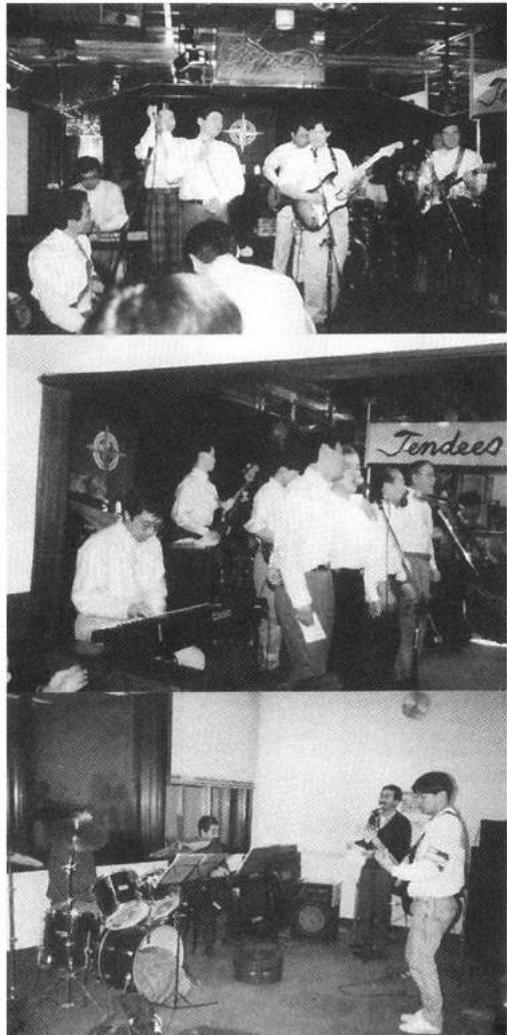
演奏曲は「思い出の渚」「いつまでも、いつまでも」「バケーション」「ロコモーション」「亞麻色の髪の乙女」「ブルーシャトー」「北の国から」などで、リズムに乗った見事な演奏に1曲ごとに大きな拍手が沸き、最後は大勢のアンコールの声に応えて、トキーズが、また神谷、小林、大沢、小原の4ボーカルが「思い出の渚」を合唱し、フィ



テンディーズ、初ライブ

ナーレとなった。

盛大な声援に応えて小林邦雄氏は「折角テンディーズを結成したので、ご要望があれば何処へでも飛んで演奏したい。昨年のケネディーハウスでの納涼会でプロの演奏を聞いて自分たちでも何かやろうじゃないかということで4ヶ月前にテンディーズを作った。本当にやる気があるなら俺もやるぞということできさすがはこの辺は十日会の伝統である。何人かで話がまとまり、山田会長がリーダーシップをとり、若手のなかで私は、すごい目付きで睨まれながらも老骨に鞭打って練習し、なんとか恰好がつくまでになったことを感謝している。我々も一生懸命やったが、本当に頑張ってくれた



練習風景

のが陰に陽に支援してくれた籠利達郎氏であり、週2回の練習は、毎日帰宅が深夜に及び、それを支えてくれた奥さんに最大の感謝の気持ちを捧げたい」と挨拶し、籠利夫人に花束が贈られた。

このあと、小林氏の音頭で手締めを行い、盛り上がった演奏会を終了した。



## 7年2月16日 2月例会

会場 めっきセンター

参加者 36名

「ギスギス親子」から「ほのぼの親子」へ、そして「ほのぼの親子」のその後

ヤマダ公認会計士事務所代表 山田良平氏  
私も二代目で、みなさんと同じように会計士事務所を引き継ぎ、お客様のお手伝いをさせて頂いているが、私なりの体験から事業承継について話をしたい。

### 1. 創業者の4つの特質

#### (1) 働くことが好き

朝から晩まで働いても苦にならない猛烈人間が多い。うちの親父はセブンイレブンだと7時から11時まで働いている。好きで始めた仕事であり、働くことを美德という考え方をする人が多い。

#### (2) 自分で仕事をやりたい

他人に仕事を頼むより自分で仕事をした方が早く正確だと思っている。技術系の人多いパターンで、逆に頼むことが上手でない。創業時は何でも1人でやったという経験を持っており、どうしても自分1人で仕事をやりたがる。

(3) 困り方に差はあるが、いわゆる食うに困ったことがある。

当初、仕事をもらうことがいかに厳しいか金を稼ぐことがいかに厳しいか、肌で感じて知っている。そこで後継者を見て自分の若い頃と比較してしまう。いまの若いのは食うに困らないからのんびりしていると見えてしまう。二世から言わせてもらえば、逆にいまは食うのに困ることを体験することが困難である。どんなに不況であるといつても食うのに困ることを体験することは難しい。

(4) どちらかというと、考えるよりまず行動する。

体を動かさないのは罪悪と考える。体を動かすことは勿論だが、これから時代というのは、戦略の時代であり、考えた上で行動していかなければいけない。

後継者はまずこの創業者の4大特質、立場背景の違いなどを認識して頂きたい。次に創業者と話をすると、三大不満が聞かれる。

## 2. 創業者の3つの不満

### (1) 息子が真剣に仕事をしていない

うちの息子は、泥を被ってまで仕事をしようとしない。夜になると必ず飲みに出てしまう。こんな後継者で大丈夫なのかという不満を持っている創業者が多い。

### (2) 息子が甘えている

甘いというのは微妙なものがあり、どういう点が甘いのかと伺うと、息子は御託を並べる戦略的にどうのうるさい。こういうビジネスを始めたいというがそれが甘いという。俺の若い頃はこんな贅沢はしなかった、仕事をもらうのも大変な苦労があった、いまの若いのは甘いという。

(3) 自分がやってきたことを何でも変えたがる

これはほとんどの創業者が言われることである。自分がやってきたことを変えられることは、自分の人生、哲学を否定されているように思う。俺はこれを30年間やってきたんだそう簡単に変えるわけにはいなかいという気持ちである。息子がやる

気があって前向きに進もうとすると、自分の路線と違って不満に思う。反対にやる気がなくても不満である。同じ不満ならどちらがいいか聞くと、それならまだ前向きの方がいいという。

どちらにしても不満で、この解決策はコミュニケーションの問題になると思う。事業計画、経営計画のプランを通じてコミュニケーションをはかる。よく親子はぶつかる。やり方が違うとか、親父がブレーキになってしまふとか、しかし、根本的なことは会社を成長させ、良くしたいと思うことは一致している。この根本が一致している限りは難しいことはない。

## 3. 興すより継ぐのが難しい

(1) 後継者にとっては、自分の向き不向きにかかわらずそのビジネスを継がなければならない  
まずお父さんは、俺がここまで基盤を作ったから後を継ぐのは簡単だといわれる。後継者にとっては継ぐ方も難しいと思う。自分の向き不向きにかかわりなく、小さいときから父の姿を見ながら育って、何となく既定路線の中でついてきたのが多い。

(2) 二代目は業績が順調にいってもなかなか評価されないという点でモチベーションが少ない。  
必ず創業者が素晴らしい。基盤があったからといわれる。余程の急成長でもないかぎり後継者は評価されない。

企業は必ず衰退期に入る。衰退して倒産するか、それとも再盛するかは後継者の実力次第である。創業者の命、実力は永遠ではなく創業者の力が100、後継者の力が80の時にバトンタッチするとよい。この時であれば社長として任せてみて、失敗したら会長としてフォローできる。創業者の力が100、後継者の力が100になってからでは企業の存続が危ぶまれる。経営者の最後のおつとめは後継者の育成であり、バトンタッチは創業者以外にだれも決断できないことである。

その決断基準を考えてほしい。まず気力が衰えると企業も衰えるのは明らかである。社長が60、65才になり、後継者がいないと必ず気力が衰えてく

る。それまでちゃんと利益を上げていた会社でも、目に見えて下がってくる。ひとつの目安として、幹部の反応が少なくなってきたなと感じたらバトンタッチして頂きたい。この社長が何を言つてもしようがないなとみられる。私も親子でずいぶん喧嘩をしたが親子で喧嘩している場合ではない。まず企業は誰と戦っているのか、同業他社であり、親子で戦っても意味がない。

#### 4. 後継者の3つの特質

##### (1) 教養、知識がある

これは絶対的なものではなく、総体的なものである。創業者がそれなりに教育投資をされたことがある。一般的に教育、知識がある人ほど行動面において弱いといわれる。

##### (2) 経験・自信がない

経験は積んでいくしかないが、問題は経験がないため、あせってしまうことである。会社の自分の存在をアピールするため新規事業にあせって手を出し失敗する。そして自信をなくすという悪循環が結構見受けられる。くれぐれも焦らないで経験を積み、創業者のフォローを頂いて自信をつけるように。

##### (3) 信念がない

信念は物事がうまくいかず苦労している時に出てくるようである。何の為に会社経営をしているのか、自分がいい思いをしたいからとか、思い悩んだときに生まれてくるようである。物事がうまくいっているときは出てこないようで、後継者は比較的そういう経験が少ないが、あきらめなければ必ず出てくると思う。逆にいえば、信念をどう持つかという視点で動いていかなければいけない。ごまかしでは社員はついてこない。

#### 5. 後継者の4つの不満

##### (1) オヤジとは違う

オヤジとは違ったやり方でやってみたいがやらせてもらえないという不満がある。単に親に反発したいという人もいるが、これではオヤジを説得できない。会社の成長を願ってこれが必要なんだ、そこがオヤジとは違うんだと説得できないよう

は社員、お客様を動かすこともできない。

##### (2) あんな苦労はしたくない

オヤジのやり方が悪いから儲からないんだ、もっと効率の良いやり方があると前向きな話なら結構なことである。

##### (3) 自分でやったという実感がない。

自分が実質的に運営していても、結果はみん創業者のものになってしまう。創業者が形式的に社長で、自分がいくら努力しても実績にはならない。逆に失敗するとぼろくそに言われる。

##### (4) 自分の出る幕がない

口ではお前に任せたといわれても、実際には創業者が直接社員に指示してしまう。こうした中途半端は良くない。任せるなら思い切って任せる。失敗したらフォローしてあげる。

#### 6. 後継者への6つの提言

ギスギス親子からほのぼのの親子へ変わるルールとして後継者に6つの提言をしたい。創業者も後継者も歩み寄り、お互いのギャップを埋める。2人で協力して同じ土俵で話し合い経営計画を建てて進行させる。

##### (1) 外の空気を吸え

父親を偉大だと思っている人もいるが、反発する人もいる。父親が意志決定したものにはすべて反発したくなる。こうした場合、外の世界に出ると、オヤジから聞くのと違って素直に聞けるようになる。これを積み重ねることによってオヤジの話も素直に聞けるようになるのではないか。

##### (2) 外部で自信を養え

会社では部下に命令すれば働くかもしれないが、外部では、部下や上司ではなく命令では人は動かない。どうリーダーシップを発揮したらよいのか、どうやれば人が動くのか、肌で体験できるはずである。外部の団体のようなところに積極的に出られ、色々な役職をやられてリーダーシップを体験されると、将来的に事業経営に役立つはずである。

##### (3) 立てて敬い報告せよ

創業者にどんな後継者が理想かと訊ねるといふ場合も俺を立ててもらいたいという気持ちが

あると答える。後継者はこの点をよく理解して、創業者を立てて欠かさず報告する。決済をもらう必要はないが必ず報告をする。これは意外とやらない人が多い。息子だと思って甘えてはいけない。他人の創業者であれば必ず報告するはずである。

#### (4) 過去を否定しない

創業者がもっとも嫌がることは、過去を否定されることである。存在そのものの否定につながることを言ってはいけない。いまの会社があるのは過去に創業者がきちんと経営してきたからである。これから将来は、という話ならよいが過去を否定する話はいけない。

#### (5) 共通のアドバイザーを持てる

創業者と後継者の双方の共通のアドバイザーを持つとよい。

#### (6) 経営計画を立てよ

すでにやっている人も多いと思うが、これはギスギス親子からほのぼの親子へ変わるためにやって頂きたい。経営計画を立て、行動計画に移した段階で食違いが起きても、私的感感情を取り払って、経営計画がお互いの会社の憲法に変わっていく。経営計画は1つの考え方で、今後のマーケット予測でもよい。自分の会社がおかれているマーケットがこれからどう変わっていくか本気で話し合う。第2に夢を語り合う。どういう会社になりたいか、どういう仕事をしたいか夢を語り合いそれで経営計画の第一前提が整備される。これで言い争いをしても悪感情はない。ここまで出来たら経営計画の策定に入る。①トップの心構え②経営方針③経営体質④利益計画⑤組織と人事など、これは3人でも5人でも規模に関係なく経営計画を立てて頂きたい。

### 7. 譲れない理由

#### (1) 生きがいがなくなる

創業者は仕事一筋にやってこられたから、経営を後継者に譲ると、張り合いがなくなってしまう。

#### (2) 創業者の奥様の反対

夫が暇になって家にいられる時間が多くなるのを奥様が嫌がる。会長になっても多忙であればよ

い。

#### (3) 情報が入ってこなくなるのではないかという心配

会長になると、取引先や社員はみな後継者の社長に向いてしまい、寂しい。こういうことから、決断を仰ぐことはないが必ず報告することが大切である。

#### (4) 給料を下げるのではないかという心配

オヤジはいい歳だし、仕事もしていないし子供も成長して金もそんなにいらないだろう。この不景気だからオヤジの給料を下げるのが一番が多い。何とか頑張って従来どおり払って頂きたい。

## 8. 会長の仕事

#### (1) 業界活動

会長の仕事には、会社のイメージアップ、情報入手、人脈作りの3つがある。実際の経営からは退くが、まずは業界活動、同業者組合、商工組合で活動し情報を入手する。それを社長に報告する。社長は会長を敬い立てて会社のことを報告する。

#### (2) 社会奉仕活動

ロータリー、ライオンズでも、会社のイメージアップのために社会奉仕活動をする。

#### (3) 冠婚葬祭

これは会長が出た方がよい。相手も会長の方が喜ぶし、社長は時間を取られることが多いので負担も軽減される。

## 9. 社長の心構え

#### (1) 敬い功労者として遇する

会長に雑用をやらせないようにしたい。社長の交際費を削ってでも会長の経費はけちらないで頂きたい。

#### (2) 暖かい心遣い

現役を退いた会長に対して社長がどういう態度をとっているか、社員がよく見ている。暖かい心遣いをとって頂きたい。

以上のポイントをまとめると、マーケット予測をして、一緒に事業計画を立ててアクションプログラムに落とし込む。それには細かいデーターも

必要であるが、その夢に向かって邁進する。経営計画で膝を突き合わせて語り合うのは決して無駄にはならないし、言い合いをしても悪感情にはならないし、そこでコミュニケーションをとってほしい。

# 平成7年度会活動の回顧

## ● 7年度会員の状況

- ① 名誉会員4名 相談役3名 特別会員2名  
正会員79名 報道5社
- ② 会員の動静  
会期中の入会者 なし  
会期中の退会者 2名  
(有)金子メッキ、(株)幸福屋
- ③ 役員  

会長	繩田 敏治	(有)繩田鍍金工業所
副会長	遠藤 清孝	(有)朝日鍍金工場
運営委員	保坂 晃一	保坂鍍金(有)
運営委員	長谷川一郎	(有)長谷川鍍金工業社
運営委員	大沢 俊孝	(株)大沢鍍金工業所
運営委員	二木 一郎	根本鍍研薬品(株)
運営委員	上村 福子	(株)上村正商店
運営委員	志田 和陽	(有)大森広尾鍍金工場
会計	仲俣 雅行	(株)中央メタル
編集	菊地 利博	菊地鍍金工業
涉外	斎藤 晴久	シルバーメッキ工業(株)
涉外	直海 弘明	直海工業(株)
事務局	中島 望	東京都鍍金工業組合

### 7年3月10日 定例総会

新会長に繩田敏治氏選出

会場 めっきセンター

参加者 35名

定例総会は遠藤清孝副会長の司会で開会し、はじめに山田英佐夫会長が次の様に挨拶をした。「私が会長となって3年が経過した。会長を拝命した時はバブルがはじけかかった時で、バブル崩壊後色々なことを見てきたが、めっき業界も大変な危機にあると思う。昨日、友人のアブダビ転勤の送別会に出席したが、今アラブで一番危険なところはサウジアラビアだという。イラン、イラク

の方が危ない様だが、それなりの危機管理がされているということで、サウジの場合それが出来ていないという事である。危機管理とは、危険な立場に立たされた時、どう対処するかということを予め決めておく事の様だが、先が見える様で見えない状況の中、会社は危機にさらされている。どの様に危機管理すればよいのか。その友人は危険なところへ転勤しても安心だといっている。従業員が安心して働く。取引先にとってもあの会社なら注文を出しても安心だと、そういう事も一つの危機管理ではないかと思った。十日会ばかりではなく業界が段々と転換していくなければならない状況にあり、危機といえば一つの危機であり、十日会なら大丈夫だという安心感が持てる会にして行きたい。3年間やらせて頂いたが、皆さんの支援のお蔭と感謝している。本日は1年間の締めくくりとして事業活動を報告し審議を頂くがつつがなく進行する様お願い申し上げる」。

司会者一任により議長に菊池忠男元会長を選出して議事に入った。

第1号議案平成6年度事業報告（大沢俊孝運営委員）及び第2号議案平成6年度決算報告（保坂晃一会計）が原案通り承認された。第3号議案役員改選の件は、議長一任により元会長の八幡・小林・永田・神谷・石川の5氏が選考委員に選ばれ次期会長を選考、八幡選考委員長から「山田会長の意見を聞かせていただき、大変な時期に会長をやりこの辺でバトンタッチしたいということで、次期会長を繩田敏治氏にお願いしたい。また日本鍍金協会の会長に菊池忠男氏を推薦したい」との発表があり、満場の拍手で承認された。また、副会長ほか役員は後日新会長が選任する。

繩田敏治新会長は就任挨拶として「私が十日会に入ったのが昭和53年である。父が十日会の第2回ゴルフコンペにさそわれ、井上さんと一緒に鳥

越神社へ送っていった記憶がある。その時父が準優勝して、お前のせがれを入れろということになり、私もゴルフをやれるなら入ろうという動機で入った人間がいまこうして会長に選ばれ、毎月1回コンペをやるのじゃないか、毎月テンディーズの演奏を聞かされるのじゃないかと不安を持たれる人もいると思うが、会の運営は会長一人で決めるわけではなく、毎月役員会を開いて行事を決めしており、バックに有能な役員がおり安心して頂きたい。山田会長は十日会史に大きな足跡を残した名会長であり、その後で大変なプレッシャーを感じている。十日会は任意団体であり、任意団体が50年近く続いてきたことは何かを考えると、仲間という言葉が思い浮かぶ。それぞれの時代に仲間がいたからこそ50年も続けてきた。そういう意味で私も会長になって仲間という言葉を念頭に置いて運営させて頂きたいと思う。皆さんのご協力をお願いしたい。最期にキザな言葉だが、喜びも悲しみも共に分かちあって歩みたい。」と抱負を述べた。

最期に権田節造幹事の閉会の辞をもって総会を終了した。引き続き懇親会に移り小林邦雄元会長の発声で乾杯した。

## 7年3月25日 日本鍍金協会年次大会

新会長に菊池忠男氏（十日会）選出

会場 扇芳閣（三重県鳥羽）

参加者 120名（十日会32名）

日本鍍金協会第34回年次大会及び家族懇親会を鳥羽市の扇芳閣において開催した。

年次大会は山下恭弘幹事（青研会）の司会により、山田英佐夫副会長（十日会）が開会の辞、国歌齊唱、業界物故者への黙祷の後、池田伸一會長（青研会）は「本年に入り日本経済も少しづつ良くなって来たかと思った矢先、阪神大震災が起きた。被災地では当初工業生産が落ち込み流通はストップし、それに伴ない材料や部品を供給していた地域にも影響が及んだ。しかし次第に他地域の生産力が上がって被災地の生産の大半をカバーできる様になり、さらに震災後の消費の自肅も元に戻りつつあるため、阪神地域も今や復興の兆しが見えはじめてきたようである。

一方日本全体の経済は、自動車をはじめとする消費も拡大基調に入り、設備投資にも動きが出はじめたというプラス面の見通しが出て来た反面、ここに来て急激な円高が起り、金融機関の不良債権問題と併せてマイナス面も深まってきた。



第34回 日本鍍金協会年次大会 鳥羽扇芳閣にて

まだまだ厳しい状況が続いている。こうした中、我々めっき業界ももう一度製造業の原点に戻って、生産性向上策を図ったり、不良率を限りなく下げる工夫をしたりコスト削減の方法を模索したりして勝負していかねばならない。

昨年10月、当協会は秋季大会を中国・上海で開き、現地の工場を視察した。そこで我々は、中国ではできないものづくりに徹するしか生き残る方法はない、ということを再認識した次第である。

皆さんこの1年間、お世話になりました。」と挨拶した。

次に綱領宣言を沓名正文副会長（名鍍会）の音頭により出席者全員で朗読、池田会長を議長に選出して議事に入った。

第1号議案、平成6年度事業経過報告を増澤佳浩幹事、第2号議案・同年度収支決算報告を奥田薰幹事、監査報告を緒方輝彦幹事が行ない承認された。第3号議案・傘下各会員現況、事業経過報告を、十日会菊地利博・齊藤晴久両幹事、名鍍会神谷篤・早川幸喜両幹事、青研会仁里圭一・松風嘉弘両幹事から行なわれた。第4号議案・役員改選では、推薦名簿に基づき正副会長候補が発表され承認された。

会長 菊池忠男（十日会）

副会長 繩田敏治（十日会）

副会長 佐藤寿訓（名鍍会）

副会長 西浦洋二（青研会）

このほか幹事55名、監事4名を選任したが、このうち十日会関係者は次の通りである。

幹事 神谷博行、石川雅一、遠藤清孝、保坂晃一、長谷川一郎、大沢俊孝、二木一郎、上村福子、志田和陽、仲俣雅行、菊地利博、齊藤晴久、直海弘明

監事 山田英佐夫

また、第5号議案・経営分析調査の件を緒方秀明監事（青研会）が報告し議事を終了した。

新会長に就任した菊池忠男氏は「近年、当協会会長には若々しい方の就任が続いている。それに比べ私はロートルで見ての通り白髪も多い。最近

はものの見方、考え方がどうしても保守的になる様な感じがしている。そんな私だが、皆様の御協力を得て何とかこの一年を務めていきたい。」と挨拶した。

来賓として全国鍍金工業組合連合会池田弘副会長、大阪府鍍金工業組合森脇富治理事長が祝辞を述べて大会を終了した。

引き続き第二部・講演会「新大陸発見時のスペインと日本」を開催、神戸市外国語大学イスパニア学科教授木村栄一氏が“太陽の没する時のない国”と称された大航海時代のスペインの隆盛と没落を語った。

休憩後、午後6時から家族交歓懇親会に入り、恒例の新旧会長バトンタッチのセレモニーのち、名鍍会相談役柳下芳輝氏の音頭で乾杯し、十日会有志で結成したバンド「テンディーズ」のライブや子供達へのおもちゃのプレゼントなど、和やかに懇親会が進められた。翌日は、テーマパーク“志摩スペイン村”を家族とともに見学し大会日程を終えた。

## 7年4月10日 4月例会

会場 めっきセンター

参加者 43名

### ●新製品紹介

1. 新型pH、O R P メーター

(株)中央製作所東京支店

2. ロフナー洗浄剤について

タイホーテクノ(株)

3. バーチャルサポートシステム

創研工業(株)

4月例会は、十日会会員の機材薬品メーカーである2社と創研工業(株)の新製品紹介を行なった。まず講演に先だち、平成7年度の新役員の顔ぶれが繩田会長より発表された。

講演では、まず中央製作所が新型pH・O R P メーターを紹介した。特徴として、プラスチックモールド電極の採用による使いやすさ、K C l無補充電極によるメンテナンスフリー、暗い所でも

見やすいLED表示、コンピューターとの接続が可能、低価格である、などが挙げられた。

タイホーテクノは、フィルタープレスの戸布の目詰まり防止剤“ロフナー洗浄剤”を紹介した。これは、洗浄剤を噴霧器で開盤後の戸布に噴霧するだけで目詰まりを解消し、脱水効果が非常に良くなり、ケーキも固く厚くなり、また機器の腐食や破損がないなどの特徴がある。

創研工業からは、従来の研磨工程を見直し技能者依存からの脱皮として自動化や女性の活用、作業環境の改善、多品種少量生産への対応等を目指し開発されたバーチャルサポートシステムが紹介された。これは、個々の企業における研磨加工の内容を分析し、その企業にふさわしい研磨工程をロボットや簡易型の自動研磨装置などの組みあわせにより作成、コストダウンや品質の標準化等のメリットが得られるシステムである。

例会終了後、恒例により神田明神の境内で花見を行なった後解散した。

### 7年5月15日 5月例会

会場 めっきセンター

参加者 20名

講演会 「広大な宇宙の話」

(有)小島鍍金工業所 小島一浩氏

十日会の会員であり、また足立区主催の講演会に講師として招かれているアマチュア天文家の小島氏による講演は、星についての基礎知識や古代の人々の宇宙観、宇宙のはじまり（ビッグバン）、太陽系惑星や星雲の紹介などをスライドやビデオを交えながら行なわれ、何億光年などというスケールの大きな話に日頃の憂さを忘れ、ロマン溢れる大宇宙の世界を味わった。

### 7年4月23日 第39回ゴルフコンペ

参加者 20名

二木一郎氏、遂に優勝

第37回ゴルフコンペ以来1年振りに栃木県那須郡のジュンクラシックカントリークラブで開かれ

た今大会は、丁度桜の咲く頃の穏やかな天候の中のスタートながら午後には強風と共にわか雨に見舞われる厳しいコンディションとなった。

このところすっかり恒例となった、賞品総計40個ものマスクメロンを目指して争われたこの日の優勝者は、毎回優勝候補といわれながら惜しくも優勝する機会に恵まれなかった二木一郎氏である。前日より併設のショートコースで調整を重ねた二木氏はイン、アウト共に安定したゴルフで優勝し、記念の金貨と盾そしてマスクメロンが細田会長より手渡された。

プレー後のパーティーでは、今回よりゴルフ会新幹事に就いた斎藤晴久氏の司会により和やかな雰囲気で行なわれ、最期に仲保競技委員長によるハンデ改正の後、参加者全員マスクメロンを手に帰路に着いた。

優勝 二木一郎 根本鍍研薬品(株)

準優勝 大沢俊孝 (株)大沢鍍金工業所

第3位 遠藤清孝 (有)朝日鍍金工場

### 7年5月27日 日本鍍金協会合同役員会

会場 ホテルトップ浅草

参加者 32名（十日会13名）

日本鍍金協会合同役員会は、浅草雷門通りのホ



菊池日本鍍金協会会長

テルトップ浅草にて行なわれた。

まず役員会に先立ち、正副会長会議が行なわれ、前年度担当の青研会より十日会へ事務引き継ぎが行なわれた。

次に合同役員会は、繩田敏治副会長の司会により進行し、佐藤寿訓副会長（名鑑会）の開会挨拶、菊池忠男会長の挨拶の後、議長に菊池氏を選出し議事に入った。

第1号議案平成6年度第34回年次大会収支会計報告及び引継ぎの件、第2号議案平成7年度第32回秋季大会（案）の件、第3号議案平成7年度第35回年次大会（案）の件がそれぞれ承認され、第4号議案各会事業報告、現況報告が、名鑑会、青研会、十日会の順に行なわれ、第5号議案JES経営分析の件の後、西浦洋仁副会長（青研会）の閉会の辞により合同役員会を終了した。

懇親会は、斎藤晴久幹事（十日会）の司会で行なわれ杉浦候二氏の乾杯の発声の後、各会役員達の間で活発な意見交換が行なわれた。

翌日は、茨城県阿見ゴルフクラブにて親睦ゴルフコンペが参加者14名（十日会8名）で開かれた。



翌日、阿見GCにて

### 7年6月14日 6月例会

会場 めっきセンター

参加者 34名

講演会 「めっき設備のスペシャリストを囲んで」

（株）オカダテックス 岡田茂氏

（株）幸福屋 権田節造氏

近藤耐酸槽（株） 近藤澄男氏

十日会会員であるめっき設備のスペシャリストの3氏に“目からウロコがおちるような”話を聞いた。

最初に岡田茂氏が装置導入についてをテーマに、設備を安く買う方法として①計画性をもって早く発注する。②十分な打合せによる無駄の排除。③安全性、生産性、作業性など設備のプロを信頼する。④海外製品は、品質、技術、アフターケアなどの問題が起こるケースも予想される。と述べて、“得する設備導入のすすめ”を説いた。

次に権田節造氏はメンテナンスについてをテーマに、めっき工場現場での保守点検と自主管理のメリットを力説、故障によるリスクは大きいとして、現場でできるメンテナンスを列挙し、メンテナンス記録ノートの作成を呼びかけた。

最後に近藤澄男氏が失敗例についてをテーマに「設備業は失敗の繰り返しの歴史である」として設備にまつわる失敗の見聞や体験を紹介、“つくるのは一回、使うのは一生”的持を忘れず、“失敗は成功のもと”を座右の銘にしていると哲学的真理の境地で総括した。

### 7年6月25日 第40回記念ゴルフコンペ

参加者 24名

遠藤清孝氏が優勝

十日会第40回記念ゴルフコンペが茨城県阿見ゴルフコースで開催された。

このコンペの優勝者はめっきセンター4Fのモリアルボードに名前が刻まれるとあって久し振りに参加いただいた吉川弘二氏をはじめ総勢24名が参加、スタートホールでは“オープニングセレモニー”が行なわれ、1組目最初に繩田敏治会長がティーショットを行ない、そのボールより遠くまで飛ばした人にはマスクメロン1個が贈られるというもので、飛ばし屋で知られる会長のボールを超すのは至難であったが、唯一内藤隆夫氏がメロンを獲得した。

さてこの日、1位から5位までの差が僅か3ストロークという激戦の中を見事勝ち抜き遠藤清孝

氏が優勝し、記念の金貨、盾、カップ、西瓜6個、桃10個が贈られた。

優 勝 遠藤清孝 (有)朝日鍍金工場

準優勝 内藤隆夫 平和工業(株)

第3位 小林邦雄 トキワ(株)

### 7年7月8~9日 優良工場見学会

参加者 25名

●見学工場 スズキハイテック(株)

山形県山形市銅町2-2-30

代表取締役 鈴木喜代壽氏

今回の優良工場工場見学会は午前7時前に上野駅公園口前を出発、東北自動車道を北上し一路山形県を目指した。見学前の昼食は見学先の鈴木社長に御馳走になり、一同恐縮した面持ちで見学に臨んだ。

#### 見学先概要

資本金 6,900万円

社員数 211名

敷 地 6,331m<sup>2</sup>

建 物 7,325m<sup>2</sup>

主なめっき種類 はんだ、錫、銅、ニッケル、クロム、金、銀、亜鉛合金、無電解ニッケル

主な加工製品 リードフレームの半田めっき(自動ラッキング), リードフレームのフープめっき,スピーカーフレームの亜鉛めっき, 自動車部

品、通信機など。

工場内を見学したのち、鈴木社長による同社の経営戦略をテーマとした講演を拝聴した。

#### スズキハイテックの経営方針

##### 1. ユーザーに対する個性化

・他社にまねの出来ない強みを作る。

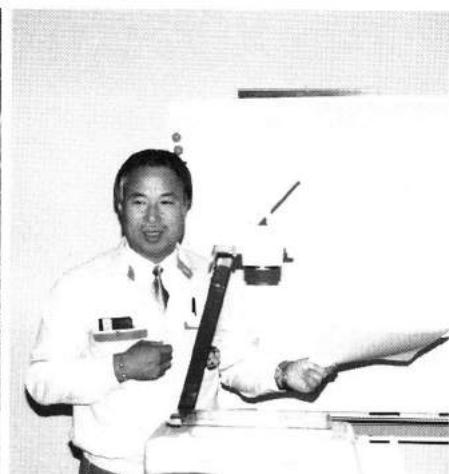
・ユーザーニーズに立った仕事をすること。

そのためには、ギブアンドテイクの関係や根回しも必要なこともあるが、原理原則に徹し、社長が率先して仕事することが大切である。

##### 2. 社内を活性化する

社長と社員という関係をはじめ、社内での信頼関係のないところには明日の進歩はない。継続的に利益が出る企業というのは、そうした人間関係がしっかりしている企業である。そのためには、社員を信頼して仕事を「おまかせ」すること。社長がすべて権力を持とうなどと考えてはいけない。またスズキハイテックでは、会社の各部門ごとに業績を発表しその利益の半分を社員に還元している。

このほか、めっき業は芸者稼業と同じで、ダンナに金のあるうちは良いが、なくなったら大変なことになるし、ダンナというものは浮氣者だからよそにいい女をつけたらそっちに移ってしまう。など鈴木社長ならではのユニークかつ明快な講演に参加者達は圧倒されつつ工場をあとにして宿泊



鈴木社長

先の天童ホテルに向かった。

翌日は、ちょうど季節のさくらんぼ狩りを楽しんだあと、山寺を参拝、昼食に名物の芋煮をして後、東京へ戻った。

### 7年8月5日 納涼大会

会場 恵比寿ガーデンプレイス ピアステーション エビスエクスプレス

参加者 32名

サッポロビール工場の跡地に前年10月オープンしたばかりの“恵比寿ガーデンプレイス”を会場に、会員の奥様方を交えて納涼会が開催された。直海弘明幹事の司会で始まり繩田会長の挨拶、菊池忠男氏による乾杯の後飲み放題の生ビールや黒ビール、中華料理を楽しんだ。



### 7年9月12日 9月例会

会場 めっきセンター

参加者 23名

講演会 「鉄のいろいろ」

社団法人日本鉄鋼連盟技術管理部部長

小林叡氏

9月例会は、私達が日頃深く関わっている金属“鉄”をテーマに講演をうかがった。

鉄鋼材料は、大量生産と生産コストの安さに加えて、原料の豊富さ、そのリサイクル性などの特長があり、また地球環境保護の観点からも、鉄のもつ優位性、必要性が国際的視野で改めて再認識され、広範な用途に適用できる材料として変身し

ている。



小林 叡氏

従来の鉄は“重くて、硬い”というイメージのものばかりではなく“軽くて、軟らかい”あるいは“磁石に付かない”金属に変身したり、“髪の毛の細さでその何10倍も強い鉄線”になっていたり、実は“地球にやさしい金属”であることなどをビデオ上映を交えながら解説していただいた。

### 7年10月21日 日本鍍金協会秋季大会

会場 東京第一ホテル大森

参加者 61名 (十日会31名)

●見学工場 城南電化協同組合、城南処理センター  
日本鍍金協会第31回秋季大会を東京第一ホテル大森において開催した。

大会に先立ち工場見学会を行なった。JR大森駅前よりバスで出発し、無公害めっき事業所集団化施設の城南電化協同組合のめっき工場、(株)大崎金属、(株)大沢鍍金工業所、(有)共栄鍍金工業所、(有)慶愛メッキ工業所、千代田鍍金(有)、富士鍍金工業(株)、(有)村上電化工芸社、マイホー(株)並びに廃水処理施設と続いて隣接するシアン濃厚廃液無害化共同処理施設の東京鍍金公害防止協同組合・城南処理センターを見学した。

その後、ホテルに入り、秋季大会が繩田敏治副会長(十日会)の司会、佐藤寿訓副会長(名鍍会)の開会の辞により開かれた。

議事は、第1号議案JES第35回年次大会案の件、第2号議案各会事業報告、現況報告、第3号議案経営分析調査資料の件などが審議された。こ



の後、来賓の東京都鍍金工業組合・横山一男理事長よりご祝辞を賜わった。

長谷川一郎幹事（十日会）の閉会の辞により秋季大会を終了、その後懇親会を開催し、各会の友好を深めた。

#### 7年11月10日 11月例会

会場 めっきセンター

参加者 21名

講演会 「我が国の品質管理の歩み」

（株）トーリック代表取締役 大内幸浩氏

11月例会は、現在の厳しい情勢の中、品質管理の重要性を改めて認識しようということで、TQCの基礎を勉強した。

大内幸浩氏は、昭和63年に（株）東平鍍金の社長として迎えられるまで勤めたリズム時計工業（株）でのTQC（全社的品質管理）活動推進者としての経験を交え、基礎的な考え方を解説した。それは、「社長なり経営者が会社の体質をどう変えていかなくてはならないか、考え方のヒントになれば」との趣旨で、「新しい品質管理とは最も経済的で最も役に立つ、しかもユーザーが満足して買ってくれる品質の製品を開発すること」であり、「この目的を達成するために経営、本社、製造、現場、

技術、営業など全社的に協力して各部門が同じように努力し実行すること」がTQCであるとの考え方を示した。

TQCを進めるには企業独自の戦略、戦術、戦法がよくいわれるが、戦略とは敵を見ずして敵を制すること（方針）、戦術とは敵を見て敵を制すること（実施計画）、戦法とはまさに実行（生産現場）だということができる。

さて、目的を達成するための管理活動がQCサークルだが、従来はPDCA（プラン・ドゥ・チェック・アクション）の輪を回すごとにレベルアップしていくと解されているが、実際にはまずチェックが最初でCAPD（キャップドゥと呼ぶ）の順だと思っている。製品の不良など問題の解決には悪さの原因の追求が大切で、解決するには足で歩いて努力する自力本願となることが必要であるなど、大内氏は“儲かるTQCのすすめ”を述べた。

#### 7年11月19日 第41回ゴルフコンペ

参加者 16名

十日会第41回ゴルフコンペが栃木県塩谷町のロペ俱楽部において開催された。今回より過去10大会の平均ストロークにより算出された新ハンデが採用され、優勝候補が乱立する中、今年4月にジュ

ンクラシックでの第39回コンペで優勝した二木一郎氏が再び優勝に輝いた。

優 勝 二木一郎 根本鍍研薬品(株)

準優勝 斎藤晴久 シルバー・メック工業(株)

第3位 内藤隆夫 平和工業(株)

## 7年12月8日 忘年会

会 場 割烹「有田」

参加者 38名

恒例の忘年会は、江戸川区松島の「割烹有田」で盛大に行なわれた。「普通は苦労したことを忘れるために開くのが忘年会だが、今回は忘れられない忘年会にしましょう」と司会の上村福子氏の進行で始まり、繩田敏治会長は次の通りあいさつ。「あえて忘年会だけなわのシーズンに開いた。実は昨年の忘年会をここで開こうと企画したがあいにく満杯状態で無理だった。一年の悲願で開催できてうれしい。今夜はおいしい料理で十分に楽しんでほしい。」

八幡順一元会長の音頭で乾杯し、会席コース料理を楽しみながら、一年の出来事を、また来年の抱負を語りあい、大いに盛り上った一時であった。

## 8年1月28日 家族懇親新年交歓会

会 場 通信総合博物館 レストラン「花山」

参加者 49名

家族交歓を兼ねた新年会を大手町のレストラン「花山」で盛大に開催した。

新年会は、仲俣雅行幹事の司会で進行、繩田会長は次の通り挨拶した。「この様な席では主催者代表は皆、景気の話をする。私は経済学部出身なので景気の話はお手のものだが、私が景気の話をしても景気が良くなるはずがないので今回は控える。」

本日はおいしい料理と豪華賞品が当たるクイズゲーム、そして単なる紙くずになってしまふかも知れないお年玉を用意している。

どうか大いに楽しんで頂き、この楽しい気分をずっと引きずっとこの一年が良い年になることを

祈念したい」

来賓祝辞を東京都鍍金工業組合横山一男理事長、同工組名誉顧問吉川弘二氏が述べ、日本鍍金协会会长菊池忠男氏の音頭で乾杯、参加者全員が楽しんだ。



挨拶する横山理事長

## 8年2月9日 2月例会

会 場 めっきセンター

参加者 28名

講演会 「アジア進出に可能性があるのか」

フリージャーナリスト 松田健氏

講演に先立ち、まず繩田会長が「最近アジア諸国をはじめ海外の色々な情報が沢山入ってくるが、果してどこまで正しいのか、本日は実際にアジア諸国の中小企業を視ている松田氏に現実の話を聞かせて頂けるということでご期待願いたい。」と開会の挨拶をした。

講師の松田氏は、長年日刊工業新聞社で中小企業担当記者として活躍、現在フリージャーナリストとしてアジア諸国の取材活動を精力的に行なっている。こうした情報を交えてアジア情勢について講演した。概要は次の通り。

私は1995年の1年間の半分はアジア各地において現地の中小製造業を積極的に見てきた。日本で製造業離れが続く一方、アジア各国では製造業は儲かるというのが常識になっている。商業から製造業に初めて進出する企業家も増えている。アジア各国が今いかに国を挙げて中小企業の育成に取り

組んでいるか、また製造業の近況を話してみたい。

シンガポール 淡路島程度の国土の小国だが、アジアの経済センターを目指している。

マレーシア マハティール首相自ら日本で投資企業を探し回る程熱心である。

インドネシア 1968年から続くスハルト体制はいつまで続くか。

タイ 投資受入の運の良さがいつまで続くか。

フィリピン 投資環境の抜群の良さに欧米が気付いた。

ベトナム 法改正など多くの中小企業には難しい投資

ブルネイ 近づいた資源枯渇に対処、これまで無かった製造業を育成へ。

アジア経済が、日本が先頭で雁が群れて飛ぶ雁行型としてイメージされたのはすでに過去のことである。経済が長期低迷する日本だが、日本の国内総生産（GDP）は4兆ドルを超える。この数字は経済成長で日本を追い上げる韓国、台湾、香港、中国大陸、ASEAN加盟国など、アジアのすべての国のトータルのGDPの倍以上にあたる。日本がアジア唯一の経済大国であることは間違いない。

バブル経済崩壊以来日本の現実は暗くなる一方なのに、アジア各国では指導者自らが陣頭指揮をとって、技術力のある日本企業の誘致に力を注いでいる。

日系企業の進出形態の多くは、リスクのあることを嫌って、すぐに大利益がなくともじっくり永久を目指す「ノーリスク・スマールリターン・ロングオペレート」型が多くなっている。「なるべくインフラが整備された場所にリスクなく進出したい」と考える日本のじっくり型投資は、実際に将来にわたって現地の経済開発に役立つ投資方法であるが、華僑系が力をもつアジアでは、この日本式がなかなか理解されていないのが実情である。そしてわが日本株式会社ではアジア各国が持つような強いリーダーが不在である。

製造業がうまくいかない国は、経済がおかしく

なることは日本の現状を見てもわかる。日本では中小企業が事業所全体の99%を占めるが、いま命がけで製造コストを低減するため海外に出て、生き残りを賭けるケースが増えている。景気が良いアジアに進出さえすれば、日本では考えられなかつた様な得意先ができるなど、日本の大手の進出について行かなくても日本での系列などを離れた仕事が確保できるチャンスが多いことは確かである。とりわけ日本のめっき業が進出して欲しいという期待の声がアジアのあちこちで聞かれ、日本のめっき業が求められている。しかし、アジアで成功するためにはそれ相応の現地事情の把握と勉強が欠かせないことは言うまでもない。とりわけ円安になつても国内の事業と連立できるかの研究もしておく必要がある。

現地で成功するためには、現地で良きパートナーにめぐりあうなどのチャンスにも恵まれる必要がある。

私は最近のアジアの中小企業を見てきた経験から、いまさらアジアに進出を検討するのは遅すぎるとも感じている。それは、アジアの経済成長に合わせて現地中小企業の方が日本の中小企業より優れた機械を導入している所も増えているからである。現地に比べて言葉、資金などでハンデを抱える日本の同業が進出しても、現地企業の方が優れていれば勝てるわけがない。アジアの企業には、たったここ数年間で精密部品を日本と同じ精度で作れる実力を持った所も増えている。例えばトヨタから金型のCADデータを電話回線で受けてCAMで生産しているタイ企業もある。

しかし、設計変更とか、まったく新しい製品を作るようなモノ作りの総合力で日本に追いつくことはまだまだ先のことである。アジア各国では人件費が大幅に上昇するなど製造コストも上がっており、人材が足りないので、その引き抜き合戦すらさかんとなっている。現在のアジア企業が抱えている問題点と日本の中小製造業と比較してみると良い。

この講演後、質疑応答があり、この中で松田氏



は、めっき業のアジア進出について、「ローリスク・ハイリターンが期待できるのではないか。今、アジアのめっき業は排水処理をほとんどしていない。しかし将来もこのままいけるわけはない。その時、日本のノウハウが生きるだろう。また高精度なめっきができるところが少ないので、アジアに進出すれば仕事はかなりあるだろう」と語った。

## 平成 8 年度会活動の回顧

### 8 年度 会員の状況

① 名誉会員 2 名 相談役 2 名 特別会員 2 名  
正会員 78 名 報道 5 社

#### ② 会員の動静

会期中の入会者 1 名  
日本バーカライジング(株)  
会期中の脱退者 2 名  
(株)篠根鍍金、佐藤鍍金工業所

#### ③ 役員

会長 繩田 敏治 (有)繩田鍍金工業所  
副会長 遠藤 清孝 (有)朝日鍍金工場  
運営委員 保坂 晃一 保坂鍍金(有)  
運営委員 長谷川一郎 (有)長谷川鍍金工業社  
運営委員 二木 一郎 根本鍍研薬品(株)  
運営委員 上村 福子 (株)上村正商店  
運営委員 志田 和陽 (有)大森広尾鍍金工場  
運営委員 坂手 保弘 (株)トーテック  
運営委員 内田 悅美 光鍍金工業(株)  
会計補佐 大沢 俊孝 (株)大沢鍍金工業所  
会計 仲俣 雅行 (株)中央メタル  
編集 菊地 利博 菊地鍍金工業  
涉外 斎藤 晴久 シルバーメッキ工業(株)  
涉外 直海 弘明 直海工業(株)  
事局 中島 望 東京都鍍金工業組合

### 8 年 3 月 8 日 定例総会

繩田会長を再選  
会場 めっきセンター  
参加者 31名

定例総会は、遠藤清孝副会長の司会で開会し、繩田敏治会長が次の様に挨拶をした。

「早いもので会長を拝命してから 1 年を経過し、みなさんのご協力に感謝申し上げる。1 年務めて何が辛かったかというと、毎月こうして挨拶しな

ければならないことで、ある時は電車の中で挨拶を考え、駅を乗り過ごしたこともあった。しかし、現在十日会の中で支部長が 4 名いるが、支部長を差し置いて挨拶できるのは会長の特権であり、いまは快感に変わっている。嬉しかったことは、役員会が年 12 回開かれているが、ほとんど全員出席であったことだ。当り前といわれればそれまでだが、なかなか出来ないことである。本日は総会ということで慎重審議をお願いしたい。」

議長は司会者一任により、神谷博行元会長が選ばれ、議案審議に入った。

第 1 号議案平成 7 年度事業報告を菊地利博編集が行ない、第 2 号議案平成 7 年度決算報告を仲俣雅行会計が行ない、それぞれ承認された。

第 3 号議案役員改選の件は、議長より、選考委員として、八幡順一、小林邦雄、菊池忠男、山田英佐夫、近藤澄男の 5 氏を指名、別室で審議、その結果、八幡選考委員長より繩田敏治会長の再選が発表され満場の拍手で承認された。

再選された繩田会長は、「もう 1 期会長のご指名を頂き、これまでの役員の方々と務めさせて頂きたい。4 月から書道教室を始めるが、実はこんなことをやって良いのか迷った。足立支部から十日会会長として私は 4 人目になるが、その歴代会長は技術の十日会の名を高めたが、4 人目の私が書道教室ではまずいかなとも思ったが、私の考えは、十日会の最終的な目的は技術の探究であるが、その前にまず仲間が集うことが第一にあるのではないかと思う。仲間があったからこそ 50 年近く続いてきたのではないかと思う。そういう意味で書道でなくても良かったが、私にはそれしか思いつかなかった。そういうことであくまで書道は副で、例会が主であるが、みなさんにお出席して頂き、なごやかな雰囲気で会運営を進めていきたい。今年もよろしくお願い申し上げる。」と就任の挨拶を

した。

その他会員の意見を求めたところ、新会員も増えたので会員名簿を作つてほしいという要望があり早急に手配することにした。また名誉会員等に各行事の案内を出して欲しいとの要望があり、了承された。

最後に長谷川一郎幹事が閉会の辞を述べ総会を終了、引き続き懇親会に移った。

### 8年3月30日 日本鍍金協会年次大会

新会長に杉浦候二氏（名鍍会）選出

会場 ホテルサンルートプラザ東京

参加者 119名（十日会28名）

日本鍍金協会第35回年次大会及び家族懇親会を東京ディズニーランド隣接のホテルサンルートプラザ東京において開催した。

年次大会は繩田敏治副会長（十日会）の司会により、佐藤寿訓副会長の開会の辞ではじまり、国歌斉唱、業界物故者への黙祷の後、菊池忠男会長（十日会）は「桜前線が東京に間近に来ている折、第35回年次大会に、ご来賓をはじめ名古屋、大阪、東京より多数のご参集を頂き感謝申し上げる。昨年の3月、第34回年次大会で青研会の池田氏から会長の任を引継ぎ、一年が過ぎた。その間、地下鉄サリン事件に端を発するオウム事件や本年1月

の北海道豊浜トンネルの事故、住専処理問題、7年間もめてこのほどやっと和解が成立した薬害エイズ問題とづき、ひとつも良いことがなかった一年だった。

経済的には昨年、1ドル79円という史上最高値を記録した。現在106円ほどで行き来しているが油断できない。

日本鍍金協会は、東京、大阪、名古屋という日本の中核をなす三大都市の任意団体が一同に集まっている会。何かをしようとするには絶好の位置にある。年次大会が35回を迎えた今日、より以上会うチャンスを作り、情報交換を密に益々発展していきたい。

青研会が中心となり当会として経営分析を36回続けた。今回は大阪28社、名古屋5社、東京3社のデータが出された。それに伊達陽先生の解説が書いてある。これが非常に参考になる。ところが20年間経営分析を続けてこられた伊達先生が体力の限界により、今回の分析を最後にお辞めになるという。あくまで個人的な意見だが、皆さんと一緒に会し、経営分析のやり方について話し合う機会を持てないだろうか。

日本鍍金協会の発展のため、今後とも頑張る所存。よろしくお願ひしたい。」と挨拶した。

綱領宣言を山下恭弘幹事（青研会）が行った後、



第35回 日本鍍金協会年次大会 サンルートプラザ東京にて

菊池会長を議長に選出し議事に入った。

第1号議案・平成7年度事業経過報告を仲俣雅行幹事、第2号議案・同年度決算報告を二木一郎幹事、監査報告を山田英佐夫監査が行ない承認された。第3号議案・傘下各会事業経過、現状報告を名鍍会幹事渡辺悦孝・神谷篤両氏、青研会幹事松風嘉弘・増澤佳浩両氏、十日会幹事斎藤晴久・菊地利博両氏が報告、第4号議案・役員改選では、推薦名簿により菊池議長が次ぎの正副会長を発表した。

会長 杉浦候二（名鍍会）

副会長 山下恭弘（青研会）

副会長 繩田敏治（十日会）

副会長 佐藤寿訓（名鍍会）

また第5号議案・経営分析調査結果を野村重之幹事（青研会）が報告した。

杉浦新会長は「先程の現状報告にある通り愛知の景況はいま非常に悪い。特に自動車一本ということで選択の余地もない。仕事量の減少とともに毎期コストダウンの要請がきている。海外進出が本格化する来年のことを考えると、コストダウンをいやだといえる状況はない。そんな状況で会社の明日も危ぶまれるときに会長などとんでもないと思ったが、皆さんの顔をこうして1年でも長く拝見したいという思いから、会長も頑張っていけばまた皆さんとお会いできると。協会が皆さんに何を差し上げられるかわからないが逆にどのように利用して頂けるか、私は1年でも長く皆さんの顔を拝見したいということで利用させて頂くが、皆さんも協会をうまく利用し会社の発展につなげて頂きたい」と就任挨拶をした。

来賓の山崎五郎全国鍍金工業組合連合会会长、大村功作東京都鍍金工業組合副理事長、川島利夫（㈲日本表面処理機材工業会副会長から挨拶があり、祝電披露の後、神谷博行幹事（十日会）の閉会の辞をもって大会を終了した。

その後懇親会に入り、遠藤清孝幹事（十日会）の司会により進行し、新旧会長バトンタッチのセレモニーが行われた後、名鍍会相談役柳下芳輝氏

の音頭で乾杯し懇親を深めた。

翌日は隣接する東京ディズニーランドで家族とともに春休みの一日を楽しんだ。

## 8年4月10日 4月例会

会場 めっきセンター

参加者 41名

### ●新製品紹介

1. 熱加水分解法による、めっきシアノ濃厚廃液無害化処理

日本パーカライジング㈱ 小嶋隆司氏

2. パクナ電解加工シリーズ

ユケン工業㈱ 野村正文氏

3. 中性亜鉛めっき光沢剤メタスNZ-750

ユケン工業㈱ 安藤伸氏

4月例会は、恒例の新製品紹介を行った。まず今回新会員となった日本パーカライジング㈱から、シアノ熱加水分解システムについて説明があった。これは前年の日本鍍金協会秋季大会の時に見学した城南処理センターに採用されたシステムで、シアノ化合物と水を170℃～210℃で反応させ、アンモニアとギ酸に分解する方法である。

このシステムの特徴は、

① シアノ含有率が高い排水に対しても、確実にシアノを0.1ppm以下にすることができる。

② シアノ化合物を高温・高圧のことで水と反応させて無害化するため、分解用の薬剤は必要ない。

③ 重金属類は酸化物、硫化物の形態としてほぼ完全にコンパクトなスラッジとなるため、有価金属の回収再利用が容易となる。

④ 生成した有機物、アンモニア等は微生物処理によって除去することができる。

⑤ ランニングコストはアルカリ塩素法、蒸発乾固-高温分解法の約1/3、紺青法の約1/2と経済的であり、高濃度シアノを含有する排水、廃液の処理に極めて効率の高いプロセスであるとしている。

次に、ユケン工業㈱のパクナ電解加工シリーズ

の説明があった。電解加工とは電解液中にて主に陽極電解により行なう電解研磨、電解バリ取り、電解エッチング、電解酸化膜除去、電解剥離などの金属表面処理方法で、パクナ電解加工シリーズの処理剤は、これらを連続高速処理に対応できるよう開発されたもので、電子部品のリールtoリールライン、線材のフープラインでの電解加工処理に最適ということである。

またメタスNZ-750は、近年環境面から排水や廃棄物に対する規制が強化されてきており、廃液やスラッジの処理費用も高くなっている。その対応には、めっき液の回収を行ない最終的にはクローズド化（無排水）にすることが最良の方法といえる。メタスNZ-750は塩化浴をベースにしたグルコネート浴にすることであれめっき浴温を45~55°Cにしてめっき槽から水の蒸発をさせることで回収液をめっき槽に戻すことが可能になりクローズド化が容易にできるとしている。また光沢剤分解物が少ないため回収による悪影響がなく安定しためっき性能が得られるということである。

#### 8年5月9日 5月例会

会場 めっきセンター

参加者 38名

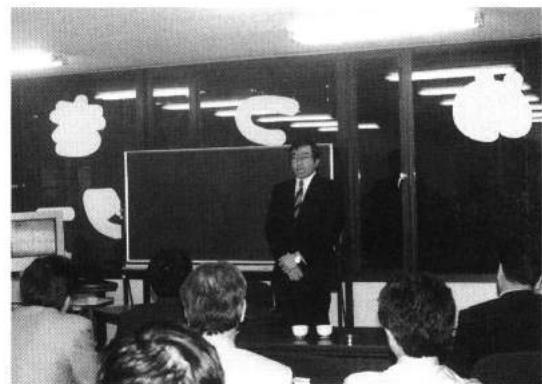
講演会 「パソコンは今、そして…」

(株)東電工舎代表取締役 山田英佐夫氏

前年秋に発売されたウィンドウズ95によるパソコンブームの中、業界一のパソコン通で知られる山田英佐夫氏に講演していただいた。

山田氏はまず、パソコンは仕事で使うのか趣味で使うのかをはっきりさせてから機種を選ばなくてはいけないこと。またパソコンを敬遠する人がその第一理由に挙げるのは、わからない英語がたくさん出てくること。しかし、これは仕方がないと割り切って考えた方がいい。なぜならコンピューターのものの考え方は日本語では表現できないから、と説明。

さらに、ウィンドウズ95という画期的なソフトが開発され、これが今後主流になることは間違い



ない。このソフトは従来の同シリーズに比べて、①パソコン通信がやりやすくなった。②一度に数通りの仕事ができる。③画像処理が速く、立体的に画面に写せる、ということで、何よりも使いやすさが売り物のソフトである。ただソフトも道具なのだから自分の使いやすいように使えば良いのであって、別に振り回される必要はない。電卓を使うのに、一生懸命電卓の仕組みを勉強する人はいないのと同じように、と述べた。

山田氏は続いて実演を行ない、音楽CDをパソコンで流しながら、表計算ソフトによるグラフを作成したり、デジタルカメラによる写真画像の取り込みなどを解説した。

#### 8年5月26日 第42回ゴルフコンペ

会場 メイフラワーゴルフクラブ

参加者 22名

十日会第42回ゴルフコンペが栃木県矢板市のメイフラワーゴルフクラブで開催された。ヨーロッパのリゾートを思わせる様な白壁と天然木をふんだんに使ったクラブハウスや、美しいコース、また那須の山々を見わたせる古代檜の露天風呂という豪華なゴルフ場に、往復は大型観光バス使用という至れり尽くせりのコンペとなった。

このところ十日会ゴルフコンペといえば、メロンや季節のフルーツが賞品として用意されフルーツコンペと呼ばれているが、今回用意されたのは総重量45kgもの「虎屋の羊羹」。「俺は米屋の方が好きだ」との大先輩の声も出る中、遠藤清孝氏が

優勝し、虎屋の羊羹2箱を獲得、第2位には十日会の紅一点、上村福子氏が入り、ニアピン賞も含め合計7箱の虎屋の羊羹を獲得、上村氏曰く、

「東京で和菓子店を開こうかしら」

優勝 遠藤清孝 (有)朝日鍍金工場

第2位 上村福子 (株)上村正商店

第3位 清村進之 内外ハイグラス(株)

### 8年6月1日 日本鍍金協会合同役員会

会場 エクシブ鳥羽アネックス

参加者 29名（十日会10名）

平成8年度最初の日本鍍金協会の会合となる合同役員会が、三重県鳥羽市のエクシブ鳥羽アネックスにおいて開催された。

まず合同役員会に先立ち、正副会長会議が開かれ、杉浦候二会長（名鍍会）の挨拶のあと、十日会より名鍍会へ会計事務引継ぎが行なわれた。

合同役員会は、佐藤寿訓副会長（名鍍会）の司会で進行し、杉浦会長を議長に、第1号議案・第35回年次大会収支会計報告及び引継の件、第2号議案・第33回秋季大会（案）の件、第3号議案・第36回年次大会（案）の件について報告され承認された。続いて各会事業報告、現状報告が行われ、十日会から齊藤晴久幹事、志田和陽幹事が報告した。野村重之幹事（青研会）よりJES経営分析の件について報告があり、繩田敏治副会長（十日会）の閉会の辞により会議を終了し、続いて懇親会を行ない、各会幹事達の交流が図られた。

翌日は近くの鳥羽カントリークラブにおいて親善ゴルフ大会が開かれた。

### 8年6月10日 6月例会

会場 めっきセンター

参加者 30名

講演会 「プロフェッショナルに学ぶ」

プロゴルファー 岩間建二郎氏

6月例会は、会員の籠利達郎氏の友人であるプロゴルファー岩間建二郎氏に、ゴルフにまつわる想い出やエピソード、上達のコツなどを聞いた。



講演する岩間プロ

岩間プロは、1980年と86年J P G A公認ドライビングコンテストに優勝、自他共に認める飛ばし屋である。ゴルフ関係の著作、雑誌への寄稿も多く、ラジオ番組のパーソナリティーを務めるなど才ぶりを発揮、本職は現在充電中とのことである。

講演では、12歳のときからゴルフ好きの父に連れられてゴルフを始めた岩間氏がプロを目指したエピソードと理由、ゴルフはゴールのないエンドレスなスポーツで、上達と共に人格が形成されるスポーツとしての魅力を持つことなどゴルフが持つ独自の哲学に触れたり、優勝したドライビングコンテストでの出来事、プロとアマの差などを交えながら話を進め、技術的な質問に対しては、会員をモデルにスイングのテクニックなどを解説した。

### 8年7月10日 7月例会

会場 めっきセンター

参加者 26名

講演会 「パソコンは今、そして… Part 2」

(株)東電工舎 代表取締役 山田英佐夫氏

5月例会に引き続いて前会長の山田英佐夫氏が「パソコンは今」というテーマで講演、会員一同熱心に聴講した。

山田氏は、インターネット、LAN、様々な利用例などを実際にパソコンを動かしながら説明。

首相官邸や組合員のホームページを見ながらインターネットとはどういうものかを説明、ウィンドウズ95の使いやすさ、その他表計算などの活用例などを解説した。以下概要を紹介する。

### 1. インターネット

今回は、実際にパソコンをインターネットにつないで、皆さんに具体的なイメージを持って頂きたいと思う。今パソコン、インターネット、ウィンドウズ95と話題に事欠かないが、インターネットをやらないと時代遅れということではなく、そういう流れがあるという事、こんなことができるということはある程度知らなければいけないと思う。

インターネットは世界中に大きなコンピュータがあって、そのコンピュータ同志をつないだものである。パソコン通信は大きなコンピュータが1つあって、そこに大勢の人がつないで通信を行なうが、何かの事故でコンピュータが壊れたらもう通信はできないが、インターネットは網の目のようにつながっており、どこかの回線が切れても、他のどこかを通って目的地までつなげることができる。

そのほか、国内外とメールのやりとりが電話やFAXよりも安くできる。また各社のホームページを見る事ができる。世界中で蓄積されたデータベースを利用することが出来る。

インターネットに必要なものは、パソコン、モ뎀、電話回線であり、プロバイダと契約してプロバイダから世界中とつながる。プロバイダとの契約は最初に2千~3千円程度、月々に1500円など、プロバイダにより異なる。インターネットを使えば使うほど電話代はかかるが、アメリカにつなごうがアフリカにつなごうが料金は変わらない。

### 2. LAN

インターネットもそうであるが、ウィンドウズ95になってパソコン同志をつなぐことが簡単に出来るようになった。LANと呼んでいるが、以前LANをやろうとすると、1台10万円以上かかったものが、ウィンドウズ95になって、1台5000円

位の基板を差し込むだけで簡単につながる様になった。

### 3. 表計算ソフトの活用

めっきの仕事への表計算ソフトの活用例として、例えばお客様から1ミクロンつけてくれといわれた場合、形状から $0.5A/dm^2$ しか出せない。時間は何分にすればよいか。そういう計算や、あるいは電流密度を $2A/dm^2$ にして2分で仕上げたらめっきは何ミクロンつくのかという計算が簡単に行なえる。

そのほか、売上、会計などに活用できる。

## 8年8月24日 8月例会・納涼会

会場 中央区勝どき CLUB NYX

参加者 32名

倉庫を改造して作られた、お洒落なイタリアンレストランで会員の奥様方と共に、イタリアトスカーナ育ちのシェフが腕をふるう本格イタリア料理を楽しんだ。

まわりはカップルばかりのトレンディーな店での納涼会とはいえ、そこは十日会。菊池忠男元会長の音頭で乾杯、八幡順一元会長の音頭による三本締めで締めくくり、店の人のあぜんとした表情が印象的であった。



## 8年9月9日 9月例会

会場 めっきセンター

参加者 24名

講演会 「素材を考える その2 アルミニウム」

日本軽金属㈱電子材料事業部技術新開発担当



講演する平山氏

部長 平山良夫氏

前年、めっきの素材を考えてみようということ  
で「鉄」を取りあげたが、今回はその2として  
「アルミニウム」についての講演を行なった。

平山氏は、工業化されてからまだ100年余りで、  
鉄や銅など紀元前から利用してきた金属材料と  
比較してまだ歴史の新しいアルミについて、その  
優れた特性と、材料へのニーズの多様化と一層の  
高度化から、従来から知られている特性にとどま  
らず新たな機能を付加して先端分野へ展開してい  
る現状にふれ、続いてアルミニウムの生産量、消  
費量と我が国的事情について述べた。

アルミニウムの表面処理については、元来きれ  
いな表面と優れた耐食性を持つ金属であるが、様々  
な表面処理を行なうことによってこれらの特性を  
一層高めたり、新しい特性を付加できるとして、  
代表的な処理法である陽極酸化処理（アルマイト）、  
めっき、化成処理などについてふれ、特にアルマ  
イトの特徴、その皮膜の種類と構造、特性と応用  
などについて解説、高速化、軽量化といったニ  
ーズに応えアルミニウムは今後のハイテク社会に重  
要な役割を果たすと述べた。

#### 8年10月18日 日本鍍金協会第33回秋季大会、

#### 工場見学会

会 場 名古屋通信会館

参 加 者 十日会12名

#### ●見学工場 愛知技研㈱

愛知県刈谷市一ツ木町竹下50番地1

取締役社長 小山正武氏

#### 工場概要

設 立 1964年12月

資 本 金 2000万円

従 業 員 168名

事業内容 自動車部品などの表面処理および  
組付

営業種目 亜鉛めっき、亜鉛すず合金めっき、  
無電解ニッケルリン合金めっき、ア  
モルファス（高リン含有無電解ニッ  
ケルリン合金）めっき、モリブデン  
処理、自動車部品組付

日本鍍金協会の第33回秋季大会が名古屋駅近く  
の名古屋通信会館で開催された。

佐藤寿訓副会長（名鍍会）の司会で進行し、議  
長に杉浦候二会長（名鍍会）を選出して議事審議  
を行ない、第1号議案「J E S事業経過報告及び  
第36回年次大会開催計画について」を落合慎一幹  
事（名鍍会）、第2号議案「各会事業報告、現状  
報告」を松風嘉弘氏（青研会）、斎藤晴久氏、菊  
地利博氏（十日会）、渡邊悦孝氏、神谷篤氏（名  
鍍会）、第3号議案「経営分析調査について」を  
伊藤克彦幹事（青研会）、第4号議案「めっき読  
本'97進捗状況について」を山下恭弘氏（青研会）  
がそれぞれ報告や説明を行ない、満場一致で了承  
した。

小憩後、加藤保之幹事（名鍍会）の司会により  
懇親会を開催、杉浦会長の挨拶に続き、西垣務氏  
の乾杯の音頭で開宴、久しぶりの旧交を温め、歓  
談に花を咲かせた。

なお大会に先立ち、優良工場見学会を実施、自  
動車部品、電子部品などのめっき処理を行なう刈  
谷市の愛知技研㈱を見学、その後トヨタグループ  
13社による企業博物館、産業技術記念館（名古屋  
市西区則武新町4-1-35）を訪れ、織機機械と  
自動車の主要技術のうつりかわりについて展示等  
を見学した。

## 8年10月20日 第43回ゴルフコンペ

会 場 阿見ゴルフクラブ

参加者 16名

十日会第43回ゴルフコンペが茨城県阿見町の阿見ゴルフクラブにおいて開催された。

阿見は十日会の会員にはお馴染みのコースながら、今回は5日後に日米の女子プロゴルファーが対戦する「ニチレイインターナショナル」が開催されるとあって、いつもと違うコースコンディションが予想され「アミにも負けず、がんばりましょう」という生誕百年を迎えた宮沢賢治の作品に掛けた繩田会長の挨拶でコンペはスタートした。

優 勝 小室昭進 日本プラント工業(株)

第2位 笠井正夫 (株)ヒキフネ

第3位 今泉 勇 (株)タイホー

## 8年11月21日 11月例会

会 場 めっきセンター

参加者 24名

講演会 「最近の中国北部の情報」

新西工業(株)代表取締役 井手口輝夫氏

講師の井手口氏には、以前にも講演をお願いしたり、又、工場見学をさせていただいたりして十日会で大変お世話になっておりますが、今回もわざわざ九州よりおいでいただき講演していただいた。

今回は井手口氏が中心となって推進した「大連めっきセンタープロジェクト」の進出計画から進出断念までの実話と教訓を講演していただいた。

北九州市と友好都市の中国大連でのめっきセンタープロジェクトは、日本の商社を通じて平成4年に九州めっき工業組合に打診があったことからスタートする。候補地は日本からの進出企業が集積する大連経済技術開発区の工業団地で、現地調査を行ない日本から大連に進出した7、8社の企業を訪ね、現在の状況、めっきの内容、発注の可能性などを調べたが、聞いた範囲では現地でめっきを外注したいのだが品質的に問題があって発注できない企業が多く、そこで自社でめっきをした



講演する井手口氏

いが許可がおりないという話だった。

大連市の当局も進出した日本企業にめっきを許可すると多くの企業がめっきをすることになり公害問題が不安となるので、できれば1か所にまとめてそこを管理したいということで、どうもめっきセンタープロジェクトは中国側が日本の商社に話をもちだしたらしい。だから当初は大連経済技術開発区ではめっきセンターにしかめっきは許可しないということを述べていた。

ともかく、このようなことなら採算がとれるかもしれないと考えて、参画する企業を公平に募るために全組合員に内容を公開する説明会を開き、参画を希望する有志9社12名で大連の現地視察を行った。帰国後めっきセンター設立のための準備委員会を設立、進出のための具体的な構想と検討を重ね、最終的に九州6社、大阪2社、めっきとは関係のない1社を加えた9社で株式会社を設立することにした。

こうして新会社のサクセス九州(株)と中国側法人の大連九州電鍍有限公司を平成7年3月に設立した。工場は当初、大連開発区にある中国側と日本の商社が作った日中合併大連工業団地の5000坪を購入する予定だったが、中国と台湾資本が開発した振鵬工業城工業団地が同じ開発区の別のエリアにあり、日本団地が円決済で1m<sup>2</sup>当たり8500円なのに対し台湾団地はドル決済で1m<sup>2</sup>当たり70ドル、当時1ドルが85円位だったので1m<sup>2</sup>当たり6000円程度であったので工場は台湾団地に変更した。また大連開発区の客筋を回って、めっきの種類は銅-ニッ

ケルーコロム、黒クロム、亜鉛、化学ニッケルでスタートすることに決め、営業許可、生産設備、公害防止対策、社員住宅など工場建設に伴うすべての対応をクリアして、あとはいつゴーサインを出すかという段階まで準備が整った。

大連にめっきセンターを設立することに対する中国当局の期待はよく伝わってくるのだが、この頃から中国当局はめっきセンターの設立が遅いからやむなく許可を出したという理由で何社かにめっきの許可を出しはじめた。このためまとまった量のめっきがあると期待していた企業が自社でめっきを行うようになり、どう考へても採算がとれないような、数量が少なくて安いといった仕事しかないという感じがした。

どうも言っていることとしていることが違うのではないか、このまま工場を建ててしまうとつちもさっちもいかなくなるのではないかという感じになってしまった。一方大連開発区の当局からすると、めっきセンターを作ることで日本から中国に進出を考える企業でめっきが必要な企業を大連開発区に集めようという魂胆があったように思える。また、めっきセンタープロジェクトスタート後の円安傾向、景気の状況など、最初に中国進出を考えたときから、ずいぶん状況が厳しくなったことをその当時感じたこともあるて平成7年秋に計画をストップさせた。その時点ですでに工場と寮の設計は全部できていて建設会社と正式契約を交わす寸前までいっており、仮りに建設工事に着手していたら恐らく断念できなかっただと思う。またこのころ、中国の法律が変わり、従来は開発区に進出する外資企業は税金がかからずに設備を持ちこめたのが、改正によって課税されるようになった。このためめっきの仕事が期待できる日本企業はもう多くは進出してこないだろうということと、日本の今の円安、景気などでとても中国へ進出しても採算ベースに乗らないであろうという結論から最終的に平成8年春にめっきセンターの撤収を決めた。

今回のプロジェクトで学んだことだが、中国に

拠点を持って商売をしようと考えたとしても、めっきのような受注型だけの仕事では成功することは厳しいと感じた。つまり他の柱をどのように持つか、たとえば中国国内でいくらでも売れるものを作れるとか、安いコストで作ったものを日本へ持って来て売るとかの確実な柱を持たないと、企業の受注だけに頼るめっき加工だけではまず成り立たないのではないかと実感した。

中国でビジネスを成功させる秘訣を自分なりに考へると、外資企業でも利益は二の次、三の次で、中国側と中国人にいかに徹底的に儲けさせることができるかどうか、その気持ちで拠点を作れるかどうかだと感じた。

当初、進出している日本企業が現実にめっきで困っていると聞き、その役に立つのであればと思ってプロジェクトを推進し、最後までありとあらゆる角度から実現を検討したが、最終的には採算的に成り立たないという結論で断念した。あてにしていたのに冗談じゃないと怒った会社もあったし、勇気ある撤退だといってくれた会社もある。

最後になるが、ある資料によると中国への外国の直接投資件数の総数が、1993年の83500件をピークとして、94年が47500件、95年は37000件、96年は半年で14000件と年々減少している。当然日本からの進出企業はこの数字より少ないはずであり、我々の撤収という選択は間違っていなかったと思っている。

## 8年12月5日 忘年会

会 場 板倉茶屋「要」

参加者 30名

十日会の地元、上野仲通りの懐石料理店板倉茶屋「要」で忘年会を開催した。おいしい料理とお酒とともに一年を振り返り、また親睦を大いに深めた。

## 9年1月26日 家族懇親新年交歓会

会 場 めっきセンター

参加者 32名



4年ぶりにめっきセンターに戻って新年会を開催した。

保坂晃一幹事の司会で開会し、はじめに繩田会長は「せっかくのお休みのところ多数のご参加をいただき感謝申し上げる。十日会20年史によると1948年11月15日に第1回会合を開いており、1998年が50周年になる。50年という長い間活動を継続できたことは諸先輩の努力の賜物であり心から敬意を表する次第である。また現在十日会会員の中から4名の支部長が活躍されている。時代が移り変わり、十日会の役割も技術的な貢献から、人的な貢献に変わってきたような気がする。4名の支部長が業界の中心となって活躍されていることは、我々の大いなる誇りであると同時に、我々も十日会会員であることに誇りをもって活動していくなければならないと思う。本年もみなさんのご支援ご協力をお願い申し上げる」と年頭の挨拶をした。

続いて東京都鍍金工業組合の横山一男理事長、十日会相談役の吉川弘二氏の来賓挨拶があり、城東支部長であり、十日会元会長の八幡順一氏の乾杯の音頭で懇親会に入った。

会員家族とともにクイズ形式を取り入れたビンゴゲームや、様々な予想の入り乱れた競馬ゲームなどで大いに盛り上がり、皆で本年の飛躍を誓い合った。

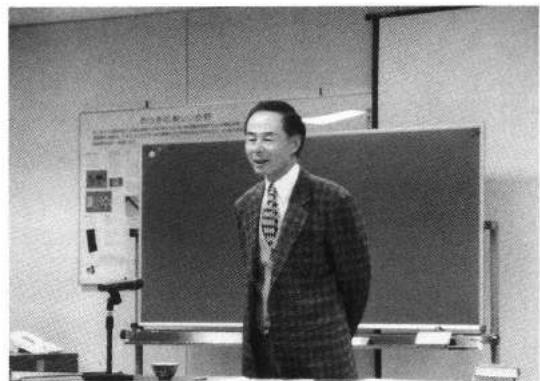
#### 9年2月19日 2月例会

会場 めっきセンター

参加者 20名

#### 講演会 「生活習慣病（成人病）について」

関本クリニック院長医学博士 関本英也氏  
2月例会では、食習慣やたばこなど、日々の生活習慣に大きく依存し、また会員諸氏の関心も高いガン・高血圧などの生活習慣病について、医学博士である関本英也氏にビデオを交えながら講演していただいた。また出席者一人ひとりから健康状態を聞き、先生よりアドバイスをして頂き、大変有意義な一時となった。



講演する関本先生

#### 十日会書道教室

以前行なった英会話教室に引き続き、「十日会書道教室」を菅菰会師範・石鍋由美子さんと繩田敏治会長を講師に、平成8年4月16日より平成9年3月18日まで計10回に渡り、深遠なる「書」の世界を探求した。

一人でも多くの人に筆になじんでもらおうということで、会員だけでなく会員の家族や友人の参加もあり予想を上回る27名が参加し、めっきセンター2F会議室の会場に入りきれない程であった。

皆、仕事を終えてからの7時から9時までの2時間、それぞれのレベルにあわせたお手本による練習のほか、繩田会長の筆による参加者一人ひとりの氏名のお手本をもとに、結婚式などでの記帳の際にも役立つ様な実用的練習もあり、参加者全員熱心に白い紙にむかうさまは、日本鍍金協会の綱領にある「良識ある日本人の誇り」に通じるものを感じさせた。

3月18日には終了式を行ない、各賞の表彰、そ

して石鍋師範より副賞が受賞者に手渡された。成績は以下の通り。

●各賞受賞者（敬称略）

- 皆勤賞 小林 邦雄 トキワ(株)  
精勤賞 小林希代美 トキワ(株)  
" 籠利 達郎 (有)籠利鍍金工業所  
特 選 菊地 利博 菊地鍍金工業  
準特選 大沢 俊孝 (株)大沢鍍金工業所  
" 二木 一郎 根本鍍研薬品(株)  
入 選 仲俣 雅行 (株)中央メタル  
" 浅川 元伸 表面技術ジャーナル



石鍋師範より特選の賞を受ける菊地氏

# 平成9年度会活動回顧

## ◆ 平成9年度会員の状況

### ① 名誉会員2名 相談役2名 特別会員2名

報道5社 正会員79社

### ② 会員の動静

会期中の入会者 4名

北浦 一元 日本表面化学㈱

栗田 光章 (株)栗田商店

笹川 孝司 サンライト(株)

新井嘉喜雄 (有)いわき製作所

会期中の脱会者 3名

長谷川一郎 (有)長谷川鍍金工業社

二木 一郎 根本鍍研薬品(株)

木下 義夫 (株)木下鍍金工場

### ③ 役員

会長 遠藤 清孝 (有)朝日鍍金工場

副会長 大沢 俊孝 (株)大沢鍍金工業所

副会長 仲俣 雅行 (株)中央メタル

会計 菊地 利博 菊地鍍金工業

編集 斎藤 晴久 シルバーメッキ工業(株)

幹事 保坂 晃一 保坂鍍金(有)

〃 上村 福子 (株)上村正商店

〃 志田 和陽 (有)大森広尾鍍金工場

〃 直海 弘明 直海工業(株)

〃 坂手 保弘 (株)トーテック

〃 内田 悅美 光鍍金工業(株)

〃 梅田 高広 ミナモト電機(株)

事務局 中島 望 東京都鍍金工業組合

### 9年3月10日 定例総会

新会長に遠藤清孝氏を選出

場所 めっきセンター4階会議室

参加者 40名

定例総会は大沢俊孝幹事の司会で進められ、繩田会長は「本日の総会に多数の方に参加頂き感謝

する。今日は議案も幾つか用意してあるので慎重な審議をお願いしたい。私が二年間会長を務めさせて頂いた。本当に皆さんのご協力により大過なく終わろうとしている。毎月、年十二回例会を行うことは大変なことで、役員の方々にはたいへん助けて頂いた。私が会長に就任した時に組合事務局の小原さんが異動になり後を心配したが後任の中島さんが立派に勤めてくれた。今日、新たに会長が決まるが、私に与えて頂いたご厚情を変わらず新会長に賜り、ご協力を願う」と挨拶した。山田英佐夫前会長を議長に選出して議事に入り、平成8年度事業報告を菊地利博幹事、同決算報告を仲俣雅行幹事がそれぞれ報告承認された。次いで役員改選に移り選考委員5名が別室で審議し小林邦雄委員長が十日会新会長に遠藤清孝氏を推薦し満場の拍手により承認された。その他の議事として、十日会賞、50周年記念事業について協議し議事を終了した。就任あいさつに立った遠藤清孝新会長は「私が十日会に入会したのは今から14年前の昭和58年、小林邦雄会長時代であった。入会の動機はゴルフコンペに参加できるという単純なものであった。十日会に対する考え方が変わったのは、それから5~6年経った頃である。ある十日会の先輩と偶然お会いする機会があった。当時その先輩は将来を見据え2年がかりで大規模に工場を工事していた。私がお会いしたのは丁度その工事がほぼ終了した頃で、先輩はホッとしたのか私にこう言った。『俺もよくここまでやってきたな。十日会のみんなが頑張っているから、俺も負けちゃいられないよ。なあ遠藤、お前もこれから頑張れよ』みんなが頑張っているから俺も頑張る、俺も頑張るからお前も頑張れ。これが十日会の精神なのだとその時教えられた。たいした動機で入会した訳でもない私がこれを契機に十日会に対する接し方が変わった。会長就任にあたり、こ

の精神を引き継ぐとともに繩田前会長、山田元会長はじめ代々の会長が進めてきた『十日会らしさ』を大切にして会を運営していきたい。一生懸命やらせて頂くので皆さんのご協力をよろしくお願ひ致したい」と抱負を語り、総会を終了した。

### 9年3月27~28日 第36回日本鍍金協会年次大会

新会長に緒方輝彦氏（青研会）を選出

会 場 館山寺温泉 “遠鉄ホテルエンパイア”

参加者 76名（十日会 14名）

日本鍍金協会は第36回年次大会を3月29日（土）午後3時過ぎから、静岡県・浜松市の館山寺温泉“遠鉄ホテルエンパイア”で開催し、新会長に緒方輝彦氏（青研会）を選出した。

年次大会は佐藤寿訓副会長（名鍍会）の司会で進行し、山下恭弘副会長（青研会）の開会の辞が始まった。君が代齊唱、物故者会員らに対する黙祷に続き、来賓を紹介した後、杉浦会長は次の通りあいさつ。「世の中春爛漫で桜が咲き誇っているが、あいにく本日は雨。一方、我々を取り巻く環境は、ご存じの通り消費税の値上げ、特別減税の廃止などで、雨雲どころか暗雲が取り巻いている。どうやって売上げを死守していくか考えなければいけない時代になった。特に消費税の問題は、めっき業という下請け業の場合、消費税の値上がり分を製品コストに転嫁するのは非常に難しい。親会社は企業努力で吸収しなさいと、片付けてしまう。たかが2%アップというが、仮に1千万円の購入部品を扱っていると月に20万円、年に240万円のアップである。これはなかなか、そこいらに落ちている金ではない。亜鉛めっきを扱っている我が社のように、一個何銭の世界で仕事をやっている者にとって、血の出るような努力の結果でしか成し得ない金額である。消費税の駆け込み需要のため仕事量は今月いっぱいは活況を呈しているが、その反動が四月以降には必ず来る。さらに、今のところ貿易は順調だが、これ以上円安が続けば原油が上り、原油が上ると燃料が上がる。もちろん非鉄金属などの原料も上がってくる。これを

どうやって乗り越えていくか、皆さんの知恵を拝借致したいと思い、第36回年次大会を開催させて頂いた。皆さん、どんどん良いご意見を出して頂きたい」繩田敏治副会長（十日会）による綱領宣言に続き、杉浦会長を議長に選出して議事に入り①平成八年度事業経過報告を鈴木泰造幹事（名鍍会）②同年度収支決算報告を落合慎一幹事（名鍍会）、監査報告を竹中道明監査（名鍍会）が行い、承認された。③傘下各会事業経過、現況報告を青研会幹事松風嘉弘・野村重之両氏、十日会幹事仲俣雅行・斉藤晴久両氏、名鍍会幹事柳間達二・神谷篤両氏が行った。④任期満了に伴う役員改選の件では、緒方新会長はじめ次の役員を発表した。

▽会長=緒方輝彦氏（青研会・桜川鍍金工業）  
▽副会長=山下恭弘氏（青研会・豊星鍍金工業）、遠藤清孝氏（十日会・朝日鍍金）、鈴木泰造氏（名鍍会・鈴木鍍金）ここで議事を終了し、新会長に就任した緒方輝彦氏は次の通りあいさつした。「先程から皆さんお話のように本年は消費税アップ、労働時間の週40時間制導入があり、何か会合がある度（たび）に、大変だ大変だという話になる。ところが10年前の大変より15年前の大変のほうが楽だった。年々大変さが増えていくように思える。消費税も上る、電気も上る、ガスも上ると言うように、コストばかり上っているが、我々の製品コストは半年もしくは1年に一度、必ず下げる。本当に本年はどうなってしまうのか、と皆が言っている。労働時間が週40時間に短縮されることも、人件費が一割近く上昇する計算になる。先日、青研会でこの問題について例会を開いたが、講師の先生は『午前中休憩時間をとれば残業時間を減らせる』と言っていた。ところが、我々の業界は装置産業で機械を動かしている時だけが売り上げになる。休憩をとて機械を止めてしまったら、残業も減るかわりに売り上げも減る。よく製品メーカーは、どこのめっき屋は安い、どこの地域のめっき屋は安いとか言っているが、品質の粗悪なめっき屋とそうでないめっき屋とと一緒にして、製品コストを論じられてはかなわない。その



第36回 日本鍍金協会年次大会 館山寺温泉・遠鉄ホテルエンパイアにて

辺を含め、皆で本音で語り合いたい。1年間一所懸命頑張る。皆さんのご協力をお願いしたい」次に来賓あいさつを、全鍍連顧問・愛知県鍍金工業組合理事長渡邊辰巳氏、全鍍連副会長松本惺氏、名古屋大学名誉教授沖猛夫氏、機材協専務理事後藤安邦氏が述べ、伊藤益男幹事（名鍍会）の閉会の辞で年次大会を終了した。

また休憩後、懇親会を午後六時過ぎから、会員家族を含め70数人の参加で開催。新旧会長バトンタッチに続き、名鍍会相談役、三進製作所社長柳下芳輝氏の音頭で乾杯し懇親を深めた。なお一泊後、翌30日（日）は大井川鉄道S L急行の旅を楽しんだ。

#### 9年4月10日 4月例会

会場 めっきセンター

参加者 48名

#### ●「新製品紹介」

##### 【ディップソール】

###### 1. 亜鉛めっきのクロムフリー防錆被膜

###### 「CAFプロセス」

処理液や被膜中にクロム等の有害物質を一切含まない無公害処理による亜鉛めっき上の化成被膜

で、今後ISO14000対応としての需要拡大が期待される。色調は、無～青色（CAF210）と干渉色（CAF200）の2種類があり、被膜にはウイスカーカーの発生を抑制、電気導通性がある、塗装の密着性良好などを特徴としている。耐食性（塩水噴霧試験JIS Z2371 白色生成物発生時間）はCAF210が72時間、CAF200が120時間と高耐食性。簡単な設備と工程で処理できる浸漬タイプが特徴である。

#### 2. オゾン層にやさしい新しい不燃性の非水系洗浄剤 「SC-52N」

オゾン破壊係数が少なく安全性が高い。また、引火点がなく作業性もよく洗浄力も抜群である。用途はリードフレーム、プリント基板等電子部品の洗浄、めっき前処理洗浄、精密機械部品の洗浄等。

#### 3. 鉛フリーはんだめっき

電子部品から鉛を放し人と環境を重視した製品で有害な鉛を全く含まず、信頼性の高いはんだ付け性能を持ち、ウイスカーカーの発生がないのが特徴。対応部品はスズ銀系（融点221°C）がリードフレーム、フープ材。スズビスマス系（融点205～229°C）がチップ部品等。

#### 4. 高機能無電解ニッケルボロンめっき 「BN-1400 BN-1500プロセス」

熱処理することなしに高い硬度の被膜が得られる新しいめっき法で、高温の加熱処理を嫌うアルミ合金には最適の硬質めっきである。特長は高耐摩耗性で硬度800HV。低接触抵抗で優れたはんだ付け性。ホウ素含有率1%以下で高安全性、高作業性。ザラツキの少ない平滑な被膜が得られる。

#### 【東京ガス】

##### 1. スラッジの乾燥と熱処理設備

ダブルドラム型ドラムドライヤーの主要部はドラム内部より蒸気によって加熱された回転する二つのドラムで、ドラムの両エンドにはエンドボーダーが設けられ、ドラム上部はスラッジをプールできる貯槽となっている。ここに供給されたスラッジは多くの場合、沸騰状態にあって乾燥機というよりもむしろ蒸発機と考えられる。貯槽において蒸発濃縮されたスラッジは適当な値に調整されドラム間隙を通過する瞬間に両ドラム表面に明白なるフィルム状を形成する。さかんに水分を蒸発させながらドラムが一回転する間にすみやかに乾燥される。乾燥物はドラム上部に設けられたスクレバーにより連続的に搔きとられる。このように蒸発と乾燥の二つの単位操作を一つの機械で処理する乾燥機である。

##### ● ドイツめっき業界の現状

東京都鍍金工業組合が昨年に派遣したドイツ視察団が工場見学したりースメタル社ラミッシュ社長が四月に来日され十日会例会に出席、ドイツのめっき事情について講演していただいた。

始めに小林邦雄氏がドイツのリースメタル社ラミッシュ社長を紹介した。「昨年11月、組合地場産業対策特別委員会国際小委員会でドイツのめっき工場7社を見学した。その内の1社リースメタル社社長が来日されたので私が案内をして、東京にも若手の会があり、懇談をお願いしたところ快諾して頂いた。日本の工場を見学しており日本とドイツを比較してもらえば参考になると思う。リースメタル社はミュンヘン市北西のドナウ川上

流に1500年前の隕石によるクレーターの中に出来たリースという街に立地している。亜鉛めっき専業者で、全自動バレルめっき2ライン、全自動ラック1ライン、酸性浴で4種類のクロメートを行う。工場敷地は5,000m<sup>2</sup>、建物が2,500m<sup>2</sup>である。従業員14名、ドイツの法廷労働時間は週35時間で、同社は朝6時から2時、2時から10時の2直で稼働している。ラミッシュ社長は2代目の44歳。環境対策に非常に熱心で工場は臭いもなくきれいにしている。スラッジは1日4~10tくらい。

スラッジ処分費はドイツ国内で差があるが、t当たり350マルク（1マルク：約80円、日本円で約28,000円）となっている。」

デグサジャパン(株)の村楨利弘氏の通訳により、リースメタル社社長はドイツめっき業の現状を次のように説明した。来日の目的は、義弟が東京で働いていることと、昨年日本からのドイツ視察団と有益なディスカッションが出来たので日本を見てみたかった。こうして皆さんにお会い出来て大変嬉しい。昨日今日と工場見学させて頂き、ドイツと日本一番違うところは、ドイツは広いスペースをゆったり使っているが、東京は狭いスペースを有効に使っており、勉強になった。現在の工場用地は20年前に平米当たり25マルク（日本円換算2000円）で購入、東京の地価を聞いてびっくりしている。

当社は亜鉛めっきのバレル80%、ラック20%の割で1日10~15t製品を処理している。ドイツのめっき業界にも本日皆さんのが集まり勉強会を開いているように同じような団体があり、活動している。ドイツのめっき業者は正確には分からないが、大体600~800社くらい。内製めっきが6,000~8,000社くらいと聞いている。いまドイツは経済的にも政治的にも厳しい状態にある。日本、米国、欧州の先進国の共通の悩みに人件費の問題があると思う。ドイツでは労働者の賃金が大体3000マルク（日本円24万円）くらいであるが、200km離れたチェコではこの10分の1の300マルク、これが1,000km、2,000km離れていればそう問題にもならないがわ

ずか200kmでこうした状況は大きな問題である。大量生産品や安物はドイツではなくなり、賃金の安い国へ流れている。今後は効率の良いめっき、先端性の高い分野を強化しなければならないと考えている。ネジやナットなどの大量生産から付加価値の高いものに変えていきたい。これには品質の向上が大きな目標で、ISO9000の認証取得の準備をしているが、ただ認証を受けるだけでは意味がなく、品質の向上に結びつけていかなければならないと思う。極めて個人的な考えだが、ISO9000の認証を受けたからといって品質が良くなるとは思わない。ただビジネス上こういうものが必要だということである。品質向上ということで、コンピューターで記録を処理したり大量生産物が隣国へ流れている状況から、QCのレベルをユーザーと一緒に取り入れていくことも一つの方向だと考えている。

### 9年5月12日 5月例会

会場 めっきセンター4階会議室

参加者 42名

講演会 「危ない会社の見分け方」

帝国データバンク調査課長 井上 忠義氏

景気の動向が不透明のなか、営業活動にとって、取引の安全を守るために審査（与信管理）が大切になっている。与信管理業務が滞ると商機を逸したり、多大な損失を被ることにもなりかねない。5月の例会では帝国データバンクのプロの講師を招き、危ない会社の見分け方を学んだ。

危ない会社をどう見分けるか（変化を見過ごすな）

ヒト

- ① ワンマン経営の会社（中小企業はワンマン経営が当たり前）
- ② 代表者の総合的視野
- ③ 代表者の交代
- ④ 後継者の有無
- ⑤ 飾り物社長（ダミー）と実権者
- ⑥ 代表者の本業以外への偏重
- ⑦ 上層部、役員間の対立

- ⑧ 幹部社員の退職、社員の不自然な退職
- ⑨ 出向社員、社員の存在
- ⑩ 社員の対応の悪さ（たかが社員の対応と思わない）

モノ

- ① 市場、市況の変化に対応しているか
- ② 製品開発と設備投資
- ③ 仕入先、得意先の変更
- ④ 品質を維持し、納期が守られているか
- ⑤ 取引先の評価、評判
- ⑥ 仲間取引の急増は危険
- ⑦ 取引先の倒産
- ⑧ 適正在庫、取引量の急増・急減

カネ

- ① 決算書勘定科目的変動
- ② 収益の推移・動向
- ③ 取引銀行の変更、サブメイン行の態度変化
- ④ 借入金の変化
- ⑤ 安易な短期資金の導入、高利導入
- ⑥ 支払い条件の変更
- ⑦ 手形裏書人の信用度
- ⑧ 融通手形
- ⑨ 保証債務の有無
- ⑩ 社長、経理責任者の不在

### 9年5月25日 第44回ゴルフコンペ

会場 ロペクラブ（栃木県）

参加者 19名

優勝 梅田 高広（ミナモト電機）

第2位 竹ヶ原 攻（内外ハイグラス）

第3位 繩田敏治（繩田鍍金工業）

台風直撃の影響で、前日から降り続く雨と風で開催が危ぶまれる状況の中19名の参加者は全員元気にスタートホールのティーグラウンドに集合した。そんな皆の元気が空の雨雲を吹き飛ばしたのか1番スタートのティータイムには素晴らしい快晴になり5組19名のプレイヤー達は青空に白球が吸い込まれるようなショットを放ちスタートした。緑



の映える素晴らしいコースと青空の下で、それぞれ楽しいゴルフを堪能した。

### 9年6月12日 6月例会

会場 めっきセンター 4階会議室

参加者 30名

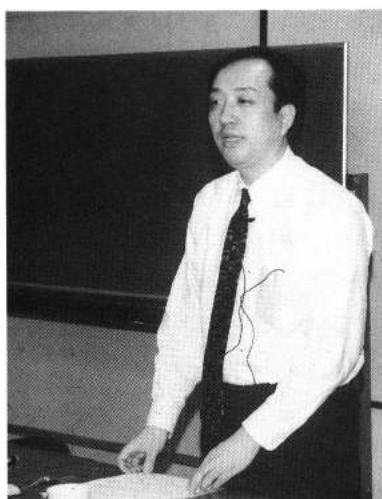
講演会 「日本の税制について考える」

金田公認会計士事務所 金田 勇氏

今年の4月から消費税率が改正され、税制のあり方にはいろいろ議論があるが、問題点は何か、諸外国に比べて日本の税制はどうなのかなどについて話を展開した。

租税（税金）とは

皆さんは税制そのものは余り深く考えることはないと思う。テーマを日本の税制としたのは、いまや日本の税制は日本だけの問題にとどまらず



金田 氏

世界のバランスからも重要なっている。一般的に税金は租税と言っているが税金は国あるいは地方公共団体にとられるものと思っているかもしれない。税金を国、地方公共団体に払っていてもその対応関係が意外と分かっていない人が多い。なぜ我々が国に対して税金を納めるのか、一般的に我々は公共サービスを受ける権利があり、その見返りに税金を払うと考えた方がいいと思う。

租税（税金）



税金が初めて初めて公共サービスが成り立つ。この納税義務について憲法第29条で「財産権は、これを侵してはならない」としている。これは私有財産を認める基本憲法である。自分の財産は誰にも侵されない。ところが、それに反するような憲法が第30条に「国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負ふ」としている。私有財産を前提としても納税に関しては国民が義務を負う。「法律の定めるところにより」というのがキーワードで、法律は国会で決定しない限り我々は税金を納める義務はない。国が我々に課税するときに、更に憲法84条に「あらたに租税を課し、又は現行の租税を変更するには、法律又は法律の定めによることを必要とする」とあり、税金を変える場合、国会の審議を経てのみ成り立っている。消費税が出来たからと言って、税率を変えることはできない。法律の審議によって制御しようということである。我々の税金は法律によって裏付けられている。国税は、所得税法、法人税法、相続税法、地価税法など単独で成立しているが、地方税の場合、住民税、固定資産税など地方税法一本でまとめられている。この法律は、国会で大きなところだけを決める。何に対して課税するか、その税率、手続きの方法、期日とか大ざっぱなことしか決めない。この後に内閣が法令、さらに大臣が省令を決める。細かいところの国会審議が出来ないので、政令、省令で段階的に細かいことを決めていく。

大蔵省、国税庁、国税局があり、その下に税務署がある。法律は事細かく決めているわけではなく、1つの法律ですべてを捕捉することはできない。施行規則や施行令で細かく決めたとしても実際扱う税務署職員がどう解釈していいのか、この場合はどうしたらいいのかという問題がある。九州の税務署で認められたものが、東京の税務署では駄目だということはないよう、日本中どこも課税が公平になるようにこの法律はこう解釈しなさいと、上から下に対して命令する。国税庁が税務署に対して解釈論的なものを通達する。訴訟で国税庁が負ける場合もある。通達は法律ではないが、あたかも法律のように運用されるのはおかしなところである。たとえば法律では土地の時価で評価しなさいと言っているが、時価とは何かあいまいにしている。重大な問題に対して通達ではこういう風に時価を決めろとして、本来認められていた節税行為が、ある時は不合格となり課税されることになる。国の法律は限定されているので、通達を法律のごとく運用している。納税者も通達で争うのは経済的な負担も大きいので、出来るだけ争わないが、訴訟事例を見ると解釈や通達で触れていないことの争いが増えている。1つの法律で全ての取扱うことはできない。課税が公平になるよう上からの通達は公表されているがどう解釈すればいいのか判断に迷うことがある。国が法律を定めるとき租税原則がある。税制の準拠すべき一般的基準、基本的理念といって、

税負担の「公平」

経済の「中立」

制度の「簡素」さという言葉を使っている。説得力を持たせ、これを基に税金を作るそういう理論付けになっている。レーガン税制改革が行われた時は、公平、簡素、経済成長といわれたが、大胆な税制改革であった。日本も影響を受けて、62年63年に抜本的税制改革を行い、公平、公正、簡素、選択、活力を上げている。公平は負担の公平である。所得の多い人、負担能力の大きい人から沢山税金を取り、所得の少ない人から税金を少

なくしようと、それを実現させているのが「累進税率」である。いま10%～50%の税率の段階を踏んでいるが、これに地方税15%がプラスされる。最高税率は65%であるが、改正前は88%であった。高額納税者はたまらないが、昔はこれが当たり前であり、勤労意欲もそがれてしまう。中立というのは、経済的活動に対してこれを買うと税金がかかり、これは税金が優遇されているとか、ある特定なものに対してゆがみを起こしてはいけないということである。ある業界を保護するために租税特別措置法があった。事業の活性化を行う反面、税制の不公平感があり、出来るだけやるべきではない。簡素さは、税制が納税者に分かり易いということである。こうすれば税金を払わなければならないとか、納税者に分からせ、徴収者にとってもやり易くなる。租税体系で大事なことは、バランス感覚がないから税制論議が分かりにくくなっている。我々は国税と地方税の2種類を払っている。国税は直接税と間接税に大きく分けられる。

#### 直間比率の国際比較（国税）

	直接税	間接税
日本	65.4%	34.6%
アメリカ	90.3%	9.7%
イギリス	53.5%	46.5%
ドイツ	47.1%	52.9%
フランス	39.3%	60.7%

直接税は、所得税、法人税、相続税、地価税などがある。間接税は消費税と流通税に分けられる。地方税は道府県税と市町村税に分けられ、道府県税には道府県民税事業税など、市町村税には固定資産税その他軽自動車税などがある。ありとあらゆる経済行為が税金にしばられている。そういう税金を年間いくら払っているかを考えると、大変な額になる。我々の行為は税の塊である。ただ所得税で払いたくない人は消費税をアピールし、収入の少ない人は所得税をアピールし、消費税を出来るだけ下げてほしいという考え方になる。一般に税金というと所得税と住民税という考え方をされるが、国は色々な名目で税金を取っている。

税制論議は必ず消費税を上げるから所得税を減らそうとか、この税金を上げるから、こっちを減らそうとか、消費税が出来た時、所得税の減税、物品税などが全国的に廃止された。国は一定税収を確保するため、所得税一本槍ではいかない。所得税もとるが、消費税もとるよ、全体のバランスで税収を確保しようという風に持ってきていた。国民負担のあり方をみると、税制をどのようにするか、みなさんの不満のないように変えようと、たとえば政府、国に対して負担が大きくなってしまいいから政府にもっと頑張ってくれと考えるか、国に対して税金を納めたくないから公共サービスは少なくていいと考えるか、の選択に迫られている。これは社会福祉の問題もあるが、若い人が小さな政府でいいじゃないか、国が率先して年金を上げる必要もなければ、国民健康保険も負担したくない、むしろ実費でいいという考え方があるかもしれない。年金制度を縮小して自分で貯蓄すると。国としては税収は減らそうとは考えていない。

日本の税負担という場合、日本は世界の中でも一番税負担が低い、だから負担率を上げたいというのが政府税調の考え方である。ちなみに社会保険料は、これを逃れられる人は誰もいないということで税金とまったく同じである。こういった社会的現象のなかでもう1回税金はどうあるべきかを考えた時のキーワードは、公平、中立、簡素を損なわずに財政を建て直すとか、もう1つは国際的な整合性、日本だけがこの税率でいいのか、日本だけがこういうやり方でいいのか、世界のバランスを考えた時、日本だけがこんなやり方では世界に通用しないとか、それは金融市場に影響を与える、金融市場がこの突破口となって国際的整合性がいわれてくる。グローバル化、情報化が拍車をかけて、いま国際的取引が多くなっている。公平、中立、簡素、国際的整合性を題目として税金を得、消費、資産等を組み合わせて、これもみんなの選択によって税制改正が行われていくことになる。

## 9年7月2日 澄田理事長を囲む会

会場 上野 “鳳月堂”

参加者 32名

昭和30年代に十日会会員として活躍され、本年5月の東京都鍍金工業組合の総代会で新しく理事長に就任した瀬田新二氏を祝う「瀬田理事長を囲む会」を会員多数が参加して盛会に開かれた。

菊地利博幹事の司会で始まり遠藤会長は「今日は瀬田理事長を囲む会ということで、瀬田理事長にはお忙しいスケジュールの中を出て頂いた。また十日会の大勢の会員の出席を頂いた。瀬田さんは、この五月の総代会において東京都鍍金工業組合の理事長にめでたく就任された。十日会としても何かお祝いをと考えていたが、お祝いの会というと仰々しくなるので、あえて囲む会として企画させて頂いた。瀬田さんは、昭和30年代に当会員として活躍していた。当時のメンバーの三共の山田さんも見えているので後程当時のお話なども聞かせて頂きたい。現在、会員の中から工業組合の支部長が大勢いる。十日会の会員が業界に組合に貢献している部分が高まっている。支部長達は瀬田さんとお付き合いもあるが今日は、若い会員、設備・薬品メーカー、材料商の方々も大勢参加している。理事長というと、いつも高い壇上でスピーチをしている凛々しい姿しか思い浮かばないが、今日はそういう会員に目線を一緒にして、この機会に話をさせて頂き、聞いて頂きたい。瀬田さんは、今までの理事長とタイプが少し違う感じで、楽しく明るい瀬田さんと、やはり楽しく明るい十日会会員とゆっくり歓談して頂きたい」と挨拶をした。つづいて、瀬田理事長は「今日は大変立派な会を開いて頂き恐縮している。理事長には、私はそのような器ではないが、たまたま形に世間がしてくれたと言おうか、押し上げられ大役を仰せつかった。私は昭和20年代からめっきの仕事に携わっていて昭和41年に親父が亡くなり仕事を引き継いだ。それ以来ゴルフもやっていない。十日会との関わりは、足立に井上さんという剃刀だか瞬間湯沸器のような侍がいた。三共の山田さんもそ



の一人で、現在70から80歳ぐらいの年代の人で亡くなった方も多い。その方々の指導を受け今の私がある。それぞれの良い所を取って成長すれば良いが、そうは行かないのが人間の常で悪い所だけ拾ってきてまだ生きている。それが良い所だけ拾って来たら、多分今頃は存在していないのではないかと思う。皆さんの明るく楽しい顔を拝見して、そのぐらい余裕がないと新しい発想もでてこない。今われわれを取り巻く環境は非常に厳しい。どうしたら良くなるのか、これから徐々に手を打って行きたい。アメリカのめっき業は忙しくどうしようと聞く。それは製造業が忙しいと言うことで、日本の場合はそうはいかないのでから違う方法を考えなくてはならない。世界のことを良く知っている皆さんのが集まっているので、今日はおよばれをされながらいろいろ意見やアイデアを頂きたいとお願いにきた。これから丈夫で何とかやっていきたい。理事長は任期があるので短期間だが五千日は元気でいたい。これから皆さんと一緒にこの業界が良くなることだけを考えて努めて行きたい」と挨拶をした。菊池葛飾支部長の乾杯の音頭と挨拶のあと司会者の質問や昔話など和やかな一時を過ごした。

#### 9年7月19、20日 工場見学会

参加者 20名

●見学先 アイテック㈱ 福井県鯖江市神中町2-6-8  
清川メッキ工業㈱ 福井市和田申1-414

福井県は、日本海地域と東海・近畿地方を結ぶ要衝として注目を浴びているところであり、県内

の二つの工場を見学した。世界で初めてのランダム制御全自動コンピューター貴金属メッキ装置を実現する等、独自の開発技術を駆使しているアイテック株式会社では、眼鏡フレームの電気メッキや表面処理加工を行っている様子を見学した。次に最新のハイテク技術を駆使し国際的な品質保証規格「ISO-9001」取得の清川メッキ工業株式会社では、電子関連分野の表面処理の様子を見学した。また、二日目は『東尋坊』をはじめ福井県の景勝地を観光し親睦を深めた。

#### 9年8月2日～3日 役員慰労会

役員慰労会として8月2日（土）～3日（日）、越後湯沢で役員と御家族など13名が参加し、日中はテニスや水泳などを楽しみ、夕方は自分たちの手作り料理によるバーベキューなどを行い大いに明日の銳気を養った。席上、遠藤会長は「役員皆さんの御協力のお陰で会運営もスムーズに運び感謝申し上げる。本日はゆっくり楽しんで下さい」と挨拶、小林元会長の乾杯で、和やかな慰労会となかった。

#### 9年8月22日 納涼会

会 場 ピア晴海シーフード&ビア

参加者 36名

恒例の8月納涼会が東京・中央区晴海のシーフードレストラン「ピア晴海シーフード&ビア」に会員、家族が多数参加して行われた。連日の猛暑も午後7時近くになると涼しく感じ、特に海岸端にあるこのレストランは潮風が肌に気持ち良い。対



岸の造船所のドックには大型自衛艦やタンカーが見える絶好のロケーションである。

まず、内田幹事の司会で始まり遠藤会長は「今もまた十日会の納涼会に大勢の方に参加頂きありがとうございました。この所、納涼会は銀座方面が多いが、今年もまた銀座の近く、ベイエリアの晴海に企画した。ご覧の通りシーフードを売り物にしている店で、大変雰囲気のあるところで生ビール、ワインなどを味わい楽しい一時を過ごして頂きたい。十日会も、このような慰安会、毎月の勉強会、そして日本鍍金協会の一員として大阪の青研会、名古屋の名鍍会と協力しながら活動をしている。そして来年創立五十周年を迎えるとしている。五十年といえば半世紀で長い歴史を感じる。十日会ではこれまで節目節目には記念行事を行ってきた。いよいよ五十周年という大きな節目に、業界内外に十日会ここにありとアピールできるような記念行事を行いたいと思う。先日記念事業の実行委員長に山田英佐夫元会長、記念誌の編集委員長に繩田敏治前会長に決まった。皆様の協力をお願いする。後ほどゲーム、クイズなども用意している。今宵一時お楽しみ頂きたい」と挨拶をした。小林邦雄元会長の乾杯の音頭で、シーフードにビール、ゲームなど楽しい一時を過ごした。

#### 9年9月8日 9月例会

会 場 めっきセンター4階会議室

参加者 30名

講演会 「人事考課と助成金」

社会保険労務士、中小企業診断士

堀之内克彦氏

多くの中堅・中小企業の人事・賃金制度のコンサルティングをされている堀之内先生に、会社の経営計画達成のしくみとしての人事考課制度についてお話をいただいた。また、国や都道府県からの助成金の有効な活用のために、そのガイドラインをお聞きした。

#### 9年9月21日 第45回記念ゴルフコンペ

会 場 メイフラワーゴルフクラブ（栃木県）

参加者 22名

優 勝 大沢 俊孝（大沢鍍金工業所）

第2位 上野 啓司（荏原ユージライト）

第3位 小島 一浩（小島鍍金工業所）



記念大会は5開催ごとに行われ、優勝者はめっきセンターにある記念プレートに名前が刻まれる非常に価値の高い大会である。参加者は優勝を目指し、コンペに合わせ調整したり、前日入りしてコース下見まで行う者もいた。メイフラワーゴルフクラブは美しくゴージャスなクラブハウスと、池とバンカーそして、うねったフェアウェーが配置され高い戦略性を要求されるゴルフ場である。この素晴らしいコースで記念大会を制したのは、大沢俊孝氏でグロス86・ハンデ18・ネット68の4アンダーという見事なスコアの優勝であった。

#### 9年10月22日 10月例会

会 場 めっきセンター4階会議室

参加者 32名

講演会 「金属加工と鍍金は産業の要」

高知県商工労働副部長 中西 穂高氏

工業技術院、産業政策局、基礎産業局、資源エネルギー庁、環境立地局などの要職を歴任され現在、高知県商工労働副部長の中西先生に、金属製品製造業の一部悲観論がある中、われわれめっき業を担っている者に自信を与え、励ましてくれるような話をしていただいた。



講演する中西氏

### 9年11月7日 日本鍍金協会秋季大会

会場 KKRホテル大阪

参加者 67名（十日会 12名）

日本鍍金協会は、第34回秋季大会を大阪ガス工業フェア'97と㈱太洋工作所堺工場を見学のあと午後4時から来賓及び十日会、青研会、名鍍会とオブザーバーとして鍍秀会（京都）、九青会（九州）、四青会（四国）の代表が多数出席して開かれ、第37回年次大会を明年3月28日、29日に神戸で行うことを決定した。秋季大会は、開会の辞で始まり、国歌「君が代」斉唱、物故者会員・会員家族・業界諸先輩の靈に対する黙とう、来賓紹介のあと、緒方会長が挨拶した。このあと綱領宣言の斉唱があった。

緒方会長を議長に議事に入り、①事業経過報告及び第37回年次大会開催計画、②各会事業報告及び現況報告、③経営分析調査、④やさしいめっき読本'97の発刊の議案を原案通り承認した。

このあと来賓祝辞に移り、全国鍍金工業組合連合会副会长渡邊正勝氏、大阪府鍍金工業組合理事長仁里福男氏から秋季大会を祝う挨拶があり、閉会の辞で大会を終了、懇親会に入った。

### 9年12月9日 忘年会

会場 豆腐料理“五右エ門”

参加者 38名

文京区本駒込の豆腐料理店“五右エ門”で会員

多数が参加して忘年会を開催した。

菊地利博幹事の司会により遠藤会長は「今年2月の例会で成人病の講演を行ったが食べ物の中で豆腐は健康に良いと言う話であった。今日はその豆腐料理が次々と出てくるのでご賞味頂きたい。

年初めに今年こそはと景気回復を願ったが期待もむなしく終わった。こんな大変な年は今までになかったのではないかと思う。そんな中で4月に会長になり活発な会活動を心がけてきた。そうした活動のなかで特に力を入れてきたのが工場見学会である。工場見学は工場を見るのも勉強になるが、その経営トップの話を直に拝聴できるところにも大変得がたいものがある。秋季大会で見学させて頂いた太洋工作所の志方会長の話はたいへん個性的で我々を圧倒した。商売の基本であるお客様第一主義の大切さをあらためて教えて頂いた。それによりこの不況の中でも売上げ、利益が大きく伸びているという。見習っていきたいと思う。

今日は忘年会ということでお互い良き刺激剤、栄養剤となるよう進めていきたい」と挨拶した。

八幡順一元会長の乾杯の発声により懇親会に入った。和やかな歓談の中、遠藤会長から十日会50周年記念式典を平成10年11月8日新橋の第一ホテルで開催することが発表され、山田英佐夫50周年実行委員長が実行委員会の検討結果報告、繩田敏治記念誌編集委員長が半世紀の節目の年であり立派なものを作りたいと編集方針を説明するとともに、資料提供など協力を要請した。

続いて菊池忠男、永田一雄、神谷博行、石川雅



一各氏と黒須吉雄本所支部長から過去の周年行事の思い出が披露され、大沢俊孝城南第3支部長から城南青年部の忘年会でアトラクションとしてテンディーズが出演するので大勢参加してほしいと要請があった。

来年の記念行事に向けて話が尽きない中、小林邦雄元会長が中締めを行い終了した。

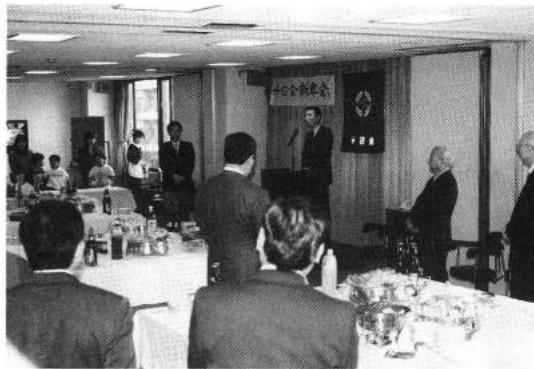
## 10年1月25日 新年会

会場 めっきセンター

参加者 40名

家族交歓会を兼ねた新年会を会員及び家族等が多数参加してなごやかに開催した。

まず、遠藤会長が「21世紀まであと3年。すでにカウントダウンが始まっている。医学分野、エネルギー分野、コンピューター分野等の科学が、今後どのように進歩するのか大変興味のあるところである。百年前に、20世紀を予言した新聞記事によると、広く一般の人も自動車が乗れる。暑い時には冷たい空気、寒い時には暖かい空気ができる機械が開発される。東京、大阪間が2時間半で行ける列車ができるなど23項目にわたって予言しており7~8割が的中している。そこで私も21世紀を予言してみたい。宇宙関連の分野が飛躍的発展し21世紀の中ほどには宇宙旅行ができると思う。我々は無理かもしれないが、今日ここにいる子供達にはこの美しい地球を宇宙から見てもらいたい。そういう夢を見ると大変厳しい時でも、気持ちが明るくなる。さて、十日会は今年50周年を迎えるので、半世紀に一度の一大イベントとして色々な



記念事業を計画している。まず記念式典を11月8日に第一ホテル東京で開催する。また、第7次アメリカ視察団を6月20日から28日まで派遣する。そのほか記念誌の発刊等も計画しているので今年は大いに盛り上がりていきたい」と新年の挨拶があった。

つづいて東京都鍍金工業組合理事長瀬田新二氏、相談役吉川弘二氏の来賓祝辞があり、元会長八幡順一氏の乾杯で懇親会に入り、家族とともにわきあいあいの交流を深め、bingoゲームなどを楽しんだ。

## 10年2月9日 2月例会

会場 めっきセンター4階会議室

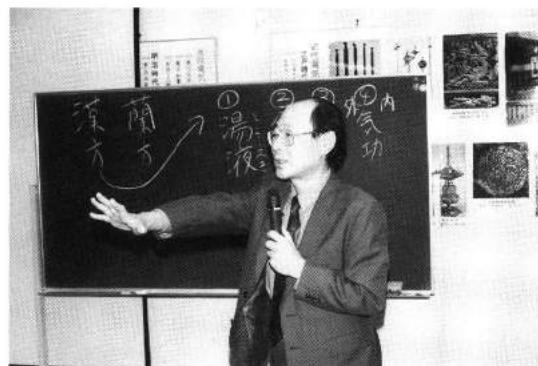
参加者 26名

講演会 「漢方で治す」

日本橋芍薬医院、アレルギー友の会顧問、

NHK文化センター講師 梁 哲宗氏

漢方医学の歴史は古いが、西洋医学の発達とともに昭和初期から停滞しあはじめたが、昭和三十年代から再び注目されはじめた。漢方医学は、湯液、針灸(按摩)、薬膳、気功の四つに分類される。また、漢方薬とひと口にいっても、煎じ薬、散剤、丸剤、エキス剤とさまざままで、木の皮、草の根や葉など天然の生薬を数多く組み合わせて処方しているので副作用がないのが大きな特長である。たとえば、かぜ薬として有名な葛根湯には、葛根、麻黄、桂皮、芍薬、大そう、生姜、甘草の七種類が入っている。漢方医学は、患者の自覚症状を最

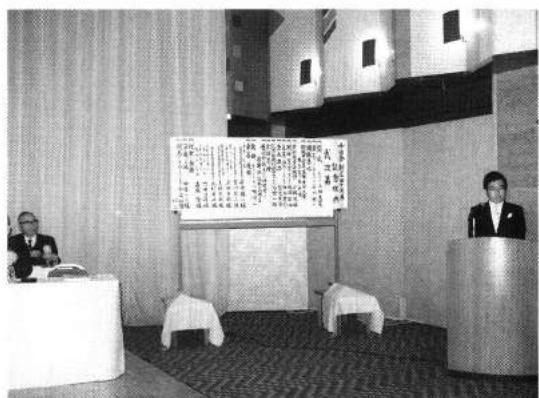
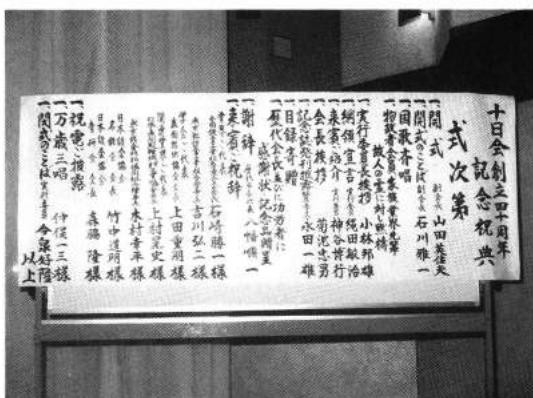


講演する梁哲宗氏

も重視するので、よく対話問診を行う。次に望診、脈診、舌診、腹診を行い他覚症状を確認する。これらを総合して診断を立て、適した処方をする。漢方医学は、かぜ、下痢、頭痛などありふれた日常の病気から、不定愁訴群、更年期障害、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、リウマチなどの難病まできわめて広い範囲でなおすことができる。中国には、食事で健康を管理する「食医」という医者がいた。食医は、多くの食物が持っている漢方的薬効を巧妙に活用したうえで、おいしくしか

も健康向上に益する薬膳メニューの作成に当たっていたという。たとえば、しょうがや長葱は全身を温める、大根や米酢は消化作用、梅ぼしは解毒、山芋や里芋は老化防止、納豆や米は整腸、梨や西瓜はほてりさましなどに利くといわれているので、皆さんの家庭でもこれらの効能を生かした料理を食べて健康増進に心掛けるべきである。なお、長生きするには、す（酢）、こ（胡麻）、や（野菜）、か（海産物）、だ（大豆）を沢山食べるといいといわれている。

# 40周年



司会の山田氏





菊池会長



小林実行委員長



永田編集委員長



記念講演



菊池会長から吉川理事長へ目録贈呈



綱領宣言



来賓



感謝状授与







シルビアオンステージ司会の黒須氏



シルビアと長坂氏



シルビアと伊藤氏



40  
*th*



# 寄 稿 文



## 創立当時の会員の一人として

福井電化工業株

福井 通祐



十日会創立50周年御目出度うございます。半世紀にわたり引きつづき発展させて頂いた歴代の役員の方々に感謝致します。50年前の事は会員諸兄の大半は生まれていなかった事と思われます。この様に次世代まで引継がれ活発に活動されている十日会のすばらしさは、創立者高浜二郎先生があの敗戦の焼け野原の中で立上れるのは君達若人の奮起にあると力説されあのモンペ姿で東奔西走され10人の若人を後楽園の涵徳亭にて初会合を開いたのが始まりでした。

初めに高浜二郎先生は戦前朝日新聞の記者として宇都宮に勤務。蒲生軍兵の研究家として知られ、戦時中東京鍍金組合の専務理事として奉職し敗戦後は鍍金と云う業界紙を発行され、十日会創設につくされ半生を業界発展につくされました。無欲で頑固で一生を他人の為につくされた方です。第

1回目の会合でこの難局をのり切るのは君達若人しかない、これから若人はお互いに手を取り合って業界を建直してくれと夜行列車に乗って大阪業界との交流のため鶴橋の駅から歩いてナショナル鍍金を訪問した事、そして先代の佐藤さん、伊藤さんと夜をあかして語り合った事を思い出されます。

話をもどしあの名前をどうするかと云うことになりオシャカの会ときました。初会合は10名でしたので10日に集ろうときまり組合の事務室をおかりして毎月10日に集い吉田先生、田島先生、鵜飼先生（創立会員の一人）等により大いに勉強しました。いつの間にかおしゃかの会から十日会になりました。会員もどんどんふえて会場がせまくなり我々の集る場所がほしいと云う話がもち上がり湯島新花町に上下2階建約50坪の東京鍍金会館



福井通祐氏と井上喜夫氏

が出来上りました。何年に出来たか忘れましたがその時代は自転車で手分けして募金集めをした事を思い出します。東京鍍金組合の300米ぐらい前に若者達十数人で会館を建てたので組合の年配の方々の中にはあまり良い印象ではなかった様です。十数年後組合会館建設の話が出ました時なんのことだわりもなく東京鍍金会館を売却し其のお金をすべて組合に寄付させて頂き其の歴史は一枚の銅板にきざまれ後世に伝えられています。

50周年を迎えた今日十日会で我々と共に勉強し

た仲間が組合理事長としてこのむつかしい時代の舵取として御活躍下さるのも十日会の誇りであり名誉であります。十日会会員として十日会が何世代かの世代にうけつがれこの様に50年もつづき発展出来たのも限りなき技術の研鑽団体として取組む其の真面目さにあります。之も高浜二郎先生の教えです。これからもうつり変る時代の流れに勝って業界発展の先達者となって下さい。

終りに十日会と業界の発展をお祈り致します。

# 十日会50周年に想う

株中央メタル

仲俣 一三



十日会創立50周年誠におめでとうございます。会員の皆様と共に衷心よりお慶び申し上げます。『継続は力なり』の諺がありますが、半世紀にわたり永々と弛みなく活躍し、存続していることは誠に大きな意義があります。このように存続できたのは、十日会の創立者である高濱二郎先生の名言『吾々は二度と通れない道を歩みつつある、吾々はもっとしっかりと歩まねばならない』この言葉を根底とした、十日会創立の精神『公私の行動において、お互いに討論し、それを巧みに司会し、決まったことはみんなで協力する。この習練を常にさりげなく実施する』というこの精神を基本として、同業種団体、異業種団体或いは会員が互に刺激し合い、お互いに切磋琢磨して努力してきた賜であると思う。

高濱先生のこの名言、そして十日会創立の精神は時代の変化、業種に関係なく、いつの世代でも変わらない素晴らしい教えの一つであろう。

## ★十日会例会初参加して

私が、この十日会への入会がかない会員となつたのが昭和41年6月、福井通祐さんが会長の時であった。同月10日私にとって初めての会合、遅刻してはいけないと少し緊張ぎみに早めに到着してしまったので、1階の実験室と建物の外観をじっくりと眺めることが出来た。その赤い屋根の東京鍍金会館の建物は今でもはっきりと目に浮かぶ。その日の議題は急遽変更されたようで、終始、会館の処分問題と高濱先生の処遇関係の討議で、新入会員の私には何のことか十分理解できなかつたことが初日の印象として残っている。

それからの1年間、高濱先生のご逝去、新進氣

銳の若手石川進会長の誕生、東京鍍金会館とのお別れ、会館売却金を東京都鍍金工業組合に全額寄贈、めっきセンター会議室を例会場にする等種々のことがあり、十日会の転換期を迎えた時期であったと思う。

## ★十日会会報を担当して

私が十日会に入会して9か月、昭和42年3月10日の総会で石川進会長のもとで運営委員の総務を担当することになった。任務は主として会報の作成である、毎月10日の例会と中旬に開催される研究部会の講演の内容或いは会議の内容等をテープレコーダーに録音し、それを再生しながら出来る限り詳細に原稿を作り、製本屋（謄写版刷り）に依頼して翌月の例会に会員に配布するのが私の仕事、ものを書くことの苦手な私にとって慣れるまでは可成厳しかったが、自分の机の上に10冊、20冊とその会報が積み重なる頃には原稿作りも慣れ、楽しみになって来たことを記憶している。当時、今は亡き阿部先生に、『この様な会報は内容もさることながら、なかなか長続きしないことが多いので頑張るように』と励まされながら2年間担当し、昭和44年に庶務担当となった中井国彰さんにバトンタッチした。

## ★服部先生の叙勲祝賀行事に参加して

昭和48年4月29日、十日会名誉会員の服部久一郎先生が鍍金業界の基盤を築く先駆者として業界に貢献した功績により、勲五等双光旭日章を受章された。

当時、会長であった私は先輩諸氏の協力を仰ぎ、服部先生の叙勲祝賀について協議を重ねた結果、先生ご夫妻ご高齢のため祝賀会を取りやめ、記念

品としてご夫妻の肖像画と金一封を贈呈する。また、その募金運動は十日会が主体となり、日本鍍金協会・全国鍍金工業連合会・東京都鍍金工業組合の三者共催にて推進する。目標額を70万円位とすること等が決まり、至急趣意書を作成し広く協力をお願いしたところ、先生のご人徳により目標を遥かに上回るご芳志を頂いた。

同年11月20日東京都鍍金工業組合由田理事長他十日会先輩諸氏と共に服部先生宅を訪問、叙勲記念のご夫妻の肖像画と金一封を贈呈し、先生と共にしばし歓談した。その時の先生の喜びの笑顔を拝し、ご協力下さった方々に感謝すると共に、大変輝かしい行事に会長として参加できた幸せを感じた。

#### ★ありがとう十日会

学校を卒業し、すぐ家業を継いだため、社外の人との交流も少なく、組合や種々の会合にも参加する機会の少なかった私にとって、十日会はめっき技術や経営技術のみでなく、人とのふれあいの大切さ、その場、その時に応じた気くばりの重要

さ等、人間関係についての様々なことを学ばせてくれた。そして、すばらしい先輩と出会い、多くの友を得ることができ、何物にも変え難い大きな財産を与えてくれた十日会に深く感謝している。

今は世代も代わり、当社でも息子が殆ど会合に参加しているが、私も共に十日会とのつながりを永く保ち続けて行きたいと考えています。最後になりましたが、十日会の益々の発展を心よりお祈り致します。



'79新年会 次男猛君と

## 創立50周年に向けて

デグサジャパン(株)

村楨 利弘



十日会の皆様、創立50周年、心よりお喜び申し上げます。一口に50年と申しましても、一世紀、100年の半分になる訳ですし、織田信長曰く、「人生五十年」即ち、一人の人間の一生涯に相当する訳で、その様に考えますと、大変な事と存じます。学協会及び組合等の50周年は、そう珍しいことではありませんが、任意団体としての、どちらかと申しますと、勉強会及び親睦を主となさっている様な団体が50年も活動していると言う事は、大変なことです。その意味でも、戦後の混乱期に苦労され、企業としての基礎づくり及び発展に寄与されましたメッキ業界の大先達の偉大さもさる事ながら、後を引継ぎ、毎年の企画・運営に努力なされている現役の会員の皆様に心から敬意を表したく存じます。

私、個人的には、会社にても、ここ10年来めっき業界に関係する仕事は、直接しておりませんし、東京から離れているにも係わらず、機に応じて、会のご案内を、ありがたい事に頂いております。残念ながら、例会には、ほとんど出席しておりませんが、それでも、少なくとも年に1、2回はお会いするようにしております。この会が、かくも長く続いている理由の一つには、先代からの業界のメンバーで知り合いと言う事もあるでしょうし、又、家族ぐるみの親睦もあるでしょう。しかし、長い間にわたる、会員の“興味”を引くものがなければ、そう長く続くものではありません。その点からも、歴代の幹事の皆様の努力、及び過去の経験者のサポートが、あってこそと、存する次第です。

先日、当時頂いた、「JES第4次海外（欧州）

視察報告書」を開いてみたところ、ドイツにて十日会のメンバーの方々にお会いしてから、早いもので、すでに18年になることになるのに、気がつきました。私が居りました研究所の見学も含め、たった2日の付き合いでは、ありましたが、今もって、当時のメンバーの小林邦雄氏はじめ、八幡、永田氏等と十日会にてお会いでき、かつ談笑できるのは、嬉しいかぎりです。又、縁があり、1996年には、東京都鍍金工業組合のドイツめっき業視察団のコーディネーターとして参加する機会があり、再び十日会のメンバーの小林氏はじめ半田氏等と再び協力出来る機会があったことも良き思い出となっております。さらに、当時見学させて頂きました、メンバーの方が一番興味を持たれた、亜鉛めっき専業のRiesmetall社の社長、Mr. Ramischが来日されたときも、十日会の例会にお呼び頂き、かつ、歓迎夕食会にご招待頂いた事も記憶に新しい事です。

十日会の今後の発展を、当然のことながら期待している訳ですが、すでにご承知の様に、ビッグバンを始め、眞の国際競争が既に始まっております。今まで、国際化、国際化と言われて久しい訳ですが、これは我々が外に向かっての“国際化”的意味と思っていたわけですが、これからは、日本国内での“国際競争”に、もろに晒されるわけです。世界一に相当すると言われる人件費等を考えれば、採算面での競争力を、物作りの中で考えて行くのは、大変な事です。物を製造する事が少なくなるとすると、金融関係や第3次産業の発展のみで、一億二千万の国民が職を得るのは、極めて難しくなると容易に想像出来る訳です。例えば、

自動車一台作るのにいくつの関連会社、及び、何人の労働者が関係しているかを、考えてみれば想像がつきます。これが、国内から海外にシフトしてしまえば、労働力が当然余るわけで、結果として、いまのヨーロッパと同じ様に、恒常に失業者が12~13%になる時は、そう遠くない事と考えなければいけないと思われます。これは、将来の日本の構造的な社会問題になるわけですが、めっき専業者も、この影響は避けて通れない様に思われますし、その仕事量の確保への対応は容易ではありません。一つは、より付加価値のある技術への対応、更には、コストダウンと言うのは容易ですが、仕事量そのものが、少なくなっては、如何ともしようがありません。この様に考えますと、十日会の活動も、今後、今まで以上に運営が難しくなるかと存じます。さらに、第二世代から、近いうちに、第三世代に引き継がれるときも、そう遠くない事でしょう。後継者の悩みは、この時、今まで以上に深刻になるかと存じます。

とは言え、十日会の皆様が、会員の英知を集め、

お互いに刺激しあい、会の活動の活性化をはかり、会員にとって、色々な問題にたいしても、有意義な刺激のある会として、今後も継続発展してやまないことを、心からお祈りする次第です。私も、個人的には、十日会の皆様と今後とも接することが出来、かつ協力出来る事がありましたら、何らかのお役にたつことを念じてやみません。

それにしても、「50周年」とは、立派なことと存じます。



'97 忘年会にて

## さまざまな50年

東京都立産業技術研究所

土井 正



十日会創立50周年と相も変わらずの活発なご活動に対しましておめでとうございます。戦後間もなく落ち着き始めたころと思いますが、復興とともに様々なことが芽生え、また、ベビーブームといわれたころに産声をあげた者達は皆、50歳をむかえたことになる訳で、私自身も今年で50、全鍍連の発足よりちょうど1ヶ月早い7月の23日生まれです。何という巡り合わせかと、いいように仕事にこじつけてみたりもする一方で、それだけ縁があるならもっとお役に立てなくてはとの思いもあります。

会の存続は歴史を積み重ね充実し、メンバーは若返り益々発展していくのに比べ、自身は年をとるばかりで、情けないことに先が見えはじめ衰えを感じるこのごろです。

40周年を迎えてから10年、こここのところ例会への参加の機会が少なくなりましたが、出席しないまでも例会の開催案内や業界誌など拝見し、また、他の機会に会員の皆様とお会いした時など業界のリーダー的立場にいる十日会の皆様方を絶えず意識し刺激を受けています。十日会の良い活動のなかでも私にとっては、特に、40周年記念からもう10年になるのかと感慨深い思いがあります。この10年のめっき技術動向を振り返ると、電子部品や半導体関連のめっきや複合めっきなどの機能めっきといわれる技術も定着し成熟したように思われます。一方ではフロン・エタン、ニッケルアレルギー、鉛、クロムなどの環境関連の課題が大きくクローズアップされ、更に、近い将来ニッケルやほう素の規制の動きなど、まさに環境に対応しためっき技術が求められるようになりました。多く

の先人たちが築いてきた技術が根拠が曖昧なままに規制の網を被せようとしているご時世になり、これも時代のながれなのかとやりきれない思いもします。

私自身のこの10年は、この間に都庁での2年間の行政経験や、韓国や北京での技術指導などいろいろな変化がありました。また、技術支援の施設として城東地域や城南地域の中小企業振興センターの設立、そして、昨年、都政リストラの煽りを受け、工業技術センターから産業技術研究所へと名称と組織の改正がありました。ただ、仕事の内容自体に変化はなく、相も変わらずのめっきの相談・試験・指導が多く、めっきの需要の多さと重要性故と改めて感じています。仕事のやり方自体はここ10年は実験研究から遠ざかり、若い者の研究指導や技術相談に対しては経験をもとにめっきのメカニズムを考えた対応の仕方が多くなりました。これも立場上仕方ないことと言い訳がましいのですが、自分なりにめっき技術の考え方をイメージできるようになったこともあります。この根っこには、昔、めっき学校の講師の諸先生方達と勉強会をしていました頃、ある先生に支部の技術講習会でめっきの「勘どころ」の話をしたらと指示を受けたことがあります。それまでめっき技術を知識として身につけようとしていた自分にめっきの本質を考えよとのご指導だったと解釈し、この頃から常に勘どころを意識してめっきを考えてみるようになりました。めっきは、水溶液中の金属イオンを電気エネルギーや還元剤の還元力によって一つ一つ金属に変えて、物の表面に超高速で積み重ねていく原子レベルでの製膜治

金技術であるといえます。この原子の積み重ね技術をパチンコ玉に置き換えてみたり、製膜速度を時速に換算してみると恐ろしいほどの速度で陰極界面でめっきの作業が行われていることがわかります。のことからも将来に渡って、金属の特性を必要とする微細加工技術にめっきは欠かせないし、従来からの防錆や金属の特性を活かした装飾、また、新しい可能性が期待される金属化合物めっきなど様々な用途に必要な技術として今後とも重要な技術である思います。

最近、組合で実施したアンケート調査の結果では、めっき業界の将来に期待する企業が多いとのことは喜ばしいかぎりです。十日会の皆様方もめっきの将来に期待されているものと思います。社長自ら積極的に新しい技術に挑戦する企業、理屈はともかく客先の要望に応えるめっきを即日仕上げる工場、公的機関に一切頼らず独立独歩で行く企

業、些細なことでも気軽に相談してくれる企業、難しい相談を持ち込んでくれる企業、大型の自動機を導入して将来に向けて活動する企業、それぞれに、めっき技術の勘どころを握っておられるから将来に期待されているものと思います。

今後とも十日会および会員の皆様方の益々のご活躍をお祈りいたします。



40周年にて

# 十日会五十周年

八幡鍍金工業株

八幡 順一



創立50周年おめでとうございます。そして担当幹事の皆様、大変ご苦労様でございます。私がこの十日会を初めて知ったのは、まだ学生の頃、春休み恒例の家族揃っての年次大会の参加で、おいしいご馳走をいくらでも飲み食い出来た楽しい旅行でした。その後、家業を継いでから、会員として出席する様になったその頃は、公害問題が始まつた時でした。小島会長のもと、石川進さんを講師に迎え、月2回約1年間程勉強会を行ないました。

当時は身近で公害について勉強する所がなく、シアン、クロムの除去と言っても「チンプン、カンプン」だったのを、基本的な事も含めてこの時に、学びました。同業者の中には、大した人がいるものだなーと感心したものです。この時の資料をまとめた「十日会会報」は、今でも公害の大切な参考書であります。

やがて幹事として会の運営に参画する様になってから、創立30周年事業の年が、一番記憶に残って居ります。今は亡き直海会長を中心に、1年程前より30周年の準備に入ったわけですが、実行するに当つての準備資金が全くないところから、質素をモットーに計画案が練られました。しかし進行するにつれ規模が拡大し、それに伴い予算も上廻っていき、資金調達のため、先輩諸兄に根廻しをし臨時総会を何度も開催するとともに会員より臨時会費参萬円、その上壱萬円、さらに、歴代会長には、貳萬円の寄附を頂いた事を思い出します。この事で後日、私の所へ国税庁より電話があり、「おたくの会では会費として年間十万円近くの計

上がりますが事実ですか」という問い合わせがあつた事もありました。今振り返って見ると、先輩諸兄をはじめ、会員の方々も、良くお金を出して下さったものだと感謝致して居ります。

又、記念誌編集も大変な作業で、毎晩遅くまで、追い込み時には、夜中11時12時過ぎまでかかった事を憶えております。

30周年は直海さんが現役の会長として、全ての段取りを練り、取り仕切ってきたので当然直海会長の元で、周年行事がなされるものと思っておりました。しかしその3月定例総会で会長留任のはずが、いつになく、選考委員会が長びき、その内私に呼び出しがかかりました。委員の方より、「直海さんが4月の30周年事業終了後、すぐに臨時総会を開き会長を退会したいとの意向だが、今まで途中交代はなかったので、ここで会長を交代し、直海さんは30周年事業実行委員長に就任して頂いたので、次期会長はたのむ」との事から、急遽、会長の大役をおひき受けしました。それからあわただしく1ヶ月が過ぎ創立30周年式典の日を迎えました。

式典の中で、東京都鍍金工業組合に十日会より記念品目録の贈呈を、当時理事長であった私の父に手渡した時、緊張の中にも、うれしそうな父の顔が、今でも脳裏に焼きついております。

本日創立50周年を迎えるにあたって、複雑多岐にわたる問題をかかえる社会状況の中にあって、十日会とそれをささえる会員の皆様の、益々のご発展を心から祈念し、筆を置きます。



'95納涼大会 奥様と

## 十日会と青春

トキワ株

小林 邦雄



私がこの世に生を受けて2年後に十日会が発足し創立した。50年か！まるで私の人生そのものである。50年前の若き先輩達のめっき業に対する同志としての熱い行動に対して改めて、敬意を表します。

赤本（20年の回顧）、緑本（30年の歩み）、黄本（40年の足跡）の記念誌を久し振りに目を通しました。赤本の時代の会員数は62社が載っています。その中で現在も会員で残っておられるのが8社となっているのには驚きました。時代の移り変わっているという事がわかります。私の所も先代が載っております（久し振りに父の名前を見ました）。一つほっとしている事は住所と電話番号が変わっていないと言う事でした。緑本では昭和51年（1976年）に役員として名前が出て来ました。当時私は30才でした。故直海和夫会長の元で右も左も理解できないめっき業界の中に入っていた頃です。今、思えば直海さん、八幡さんと一週間に3日や4日は会っていた様な気が致します。ものすごいバイタリティーと行動力があった時だったとも思います。会員の減少と例会の出席率の低さに「これからの中十日会、これで良いの？」と自問自答に悩み続けていた頃だと思います。

直海和夫氏。十代会長で私にとっては恩師であり友人であり又、良き仲間であり、良き相談相手にもなってくれた素晴らしい人でした。奇しくも直海さんは大阪の佐藤仙十郎工業所（現 サトーセン）に見習い奉公に行った大先輩でもあり私の人生の中でも一番に尊敬していた人物でした。低迷していた十日会を見事に立ち奮い起こし、現在の十日会の継続の基礎を作ったのは他の人でない、

直海さんだったと私は思います。残念ながら49才という若さで病魔におかされてこの世を去ってしまいましたが、今でも直海さんの行動力と物事に対する信念は私の心の中に脈々と受け継がれています。又、因縁と言いましょうか！私が十日会会長の職を受け継いで頑張っていた時に直海さんは私の目の前から去ってしまいました。残念で残念で仕方がありません。

創立30周年を契機に先輩先達者が受け継がせてくれた「十日会」の役割を、めっき業の仲間に再確認をして頂き原点に戻りながら再復活した時代だった様な気がいたします。昭和57年（1982年）第12代の会長に任命され（会長制が出てから）、2年間、素晴らしい役員（仲間）と共に一生懸命に働かせて頂きました。本当に楽しかった2年間でもありました。黄本を読んで見ると48年の第1次石油ショックから10年が経過していましたが、相も変わらず国内の不景気が深刻化していた時代だったのです。その様な時にJES第5次海外（米国）視察を挙行しました（10日間）。会員17名と共にAESF大会参加を目的としてロサンゼルス・ラスベガス・インディアナポリス・シカゴ、4都市を回っていました。不況のまっただ中にあるアメリカ経済の一部を見て回って来た事は非常に意義のある旅行でした。又、平成元年（1989年）3月に第29代、JESの会長に任命されJES第6次海外視察としてボストン・クリーブランド（AESF大会参加）・トロント（カナダ）・ニューヨーク・ワシントン・サンフランシスコの6都市を回って來ました。10年間の内に仲間とアメリカ視察を2回も行って來たのも私の人生の中でも忘

れられない事の一つであった。また J E S 会長の時の思い出は内務規約（各会の上納金）の変更の件で、名古屋、大阪、東京の会長さんに説得、納得して頂くのに幾度か足を運んだ事か！ 今になって見れば本当によく動いていた自分に感心しております。まさしく、私のめっき業界に入っての青春そのものだった様な気がいたします。

今の会員さん、役員さん、又、これから役員になられる方々は、十日会の基本である「討論する」「司会する」「協力する」の精神を忘れずに会員同志で研鑽し友情を深めて素晴らしい人間形成を作り、そして私のように数十年後に自分達が十日会に足跡を残せたと言う充実感と満足感を後輩達に

話せる様になって下さい。十日会創立50周年、心の底よりお喜び申し上げます。



'96 目黒雅叙園にて

# 十日会で出会った人々

株梅田鍍金工業所

永田 一雄



早いもので今年で十日会も創立50周年を迎えます。私自身の十日会も24年にもなります。どの会でも入会したての頃は、居心地が悪いもので、会の雰囲気に慣れるのに随分と時間がかかりました。そんななか、それとなく声を掛けてくれたのが直海和夫さんでした。よく上野の倶楽部へ連れていって貰いました。直海さんが会長に就任し、直海さんとお父さんが当社に来て、役員のお誘いを受けました。それがつい昨日の事のように感じます。

会に興味が湧くようになったのは30周年を控え、菊池さん、神谷さん、石川さん、今泉さんなどその後の会を背負ってたつ同世代の人たちが入会するようになってからです。30周年行事で記念誌の原稿を寄稿したところ編集委員長である石川進さんに徹底的に直され、原稿が赤字だらけになったのを覚えています。30周年の実行委員の経験は貴重でした。石川さんにはその後、技術的なことを含めて随分いろいろ教えて頂きました。

会長になって嬉しく思うことは例会に大勢の人が参加することと、会が盛り上がることでした。会の出席者に井上喜夫さん、石川進さん、中井俊晴さん、山田茂さんら、技術的にうるさい人が来ていると、今日は助かったとホッとしたものです。井上さんは人一倍、十日会に愛着を持っておられる方でした。ある例会で、質疑応答のとき井上さんより、ある薬品メーカーへの厳しい叱責があり、そのメーカーがその後、暫く会に来なくなったのを覚えています。そんな訳で会の雰囲気はピーンと張り詰めっていました。

三河島の寿司屋で行なった忘年会で井上さんと石川さんに挨拶を頂きました。石川さんは「めっ

きが天職というより、この変化の激しい時代は場合によっては、もっと柔軟に違う道を求めていいのではないか。」という趣旨の発言でした。井上さんは唯一言「我々の天職はめっきだ。」とだけきっぱりと言いました。井上さんは10年位前に亡くなられましたが、奥さんを中心にして、今でも従業員の方が神技のような素晴らしいロジウムめっきを付けています。

田島栄先生は電気化学の権威で、著作「電気化学通論」は電気化学を志す学生のバイブルでした。また、戦後まもなくブラウントさんを十日会に紹介した方で、めっき業界の恩人です。あの先生が愛車オペルに乗って十日会の例会に来ていました。会にとっては大変な名誉だと思いました。ある時、先生が「十日会の会員のなかで小篠氏の開発した常温クローム法をやっているものがいるとのことだが、誰かね。」と尋ねられ、私ですと答えました。すると先生は私に藁半紙に書かれた小篠氏の常温クローム法の古い文献をくれました。ある時、ドイツ風レストランでの納涼会で、先生から私の家内へプレゼントがありました。マダムなんとかという高い香水でした。ついでに先生のかぶっている帽子を希望したところ、「君、これはダメだよ。」と断られました。粹でモダンな先生でした。

日本鍍金協会にも随分と古くから参加しました。日本鍍金協会は息抜きと観光気分で参加していましたが、惰性を感じる部分もあったので、それとなく、青研会の寺内さんに話してみると「永田さん、日本鍍金協会は参加してどうこうという訳ではなく、参加出来るような自分にしておくこと、参加することを目標とすることが大事なんだよ。」

と教えられました。今思うと寺内さんの言うことは正解であると思います。日本鍍金協会に参加するには時間、健康、金銭的な余裕と、会社がしっかりしていなければ出られません。今後も出来る限り日本鍍金協会の活動には参加していきたいと思っています。

十日会や日本鍍金協会に長く参加していると、気心が知れた友人、言いにくいくことを忠告してくれる人が出来てきます。そういう人を多く持てたのは幸運なことだと思います。工場を改築した後、私の工場を見学した事のある大阪の塚本寛六さんが、難工事であったことを察して、「永田君、よーやったな。」と一言、自分のことのように喜んでくれ、大変嬉しく思いました。

小林さんとは同期の入会で、いろいろな思い出があります。小林さんが工場を改築したとき、私も何時か工場を直したいと思いました。暫くの間、十日会と疎遠になったとき、ある会で小林さんに会いました。綾瀬の場末の倶楽部に夜遅くまで付き合ってくれました。後にその時、小林さんのお

母さんが危篤状態だったと聞いて、申し訳なかったと同時に、変わらぬ友情に感謝しました。ある時、上野の夜のネオン街を八幡さん、神谷さんとほろ酔いかげんで歩いていたら「厭なことから逃げては駄目だ。厭な事を克服するとき本当の喜びがある。」と何げなく八幡さんが言いました。私と神谷さんはふっと歩みを止め「そうだなー。そうかもしれないなー。」と二人で頷きました。その時、八幡さんが凄い人に見えました。

私には十日会と共に歩んできたという実感があります。十日会がなかったら、多くの友人にも会えず、会社を改善したりすることはなかったと思います。良い仲間と知り合ってお互いに刺激しあい、共に良くなろうというのが会の設立の精神でないかと思います。十日会は私自身にとって、良い時も悪い時も支えあえる暖かい会であったと思います。いつまでもそんな会であってくれたらと思います。

十日会で知り合った多くの皆様に深甚なる感謝の意を表します。

## 想いで

光陽鍍金(株)

菊池 忠男



十日会創立50周年心からお祝申上げます。

50年という半世紀もの間、任意団体である十日会が参加したい人が相集いよくもつづいてきたものだと感激と敬意を表します。創立者の高浜二郎氏にそして諸先輩及びご指導ご鞭撻を戴いた大勢の方々に心から感謝申上げたい想いで一杯です。十日会は名古屋の名鍍会、大阪の青研会とともに日本鍍金協会を組織している訳ですが年に数度の会合時に良き人間関係が得られ刺激し合い情報交換等で互いに切磋琢磨をさりげなく実行してきた賜物なのでしょう。

私が十日会に入会を許されたのは、今から20年前、創立30周年記念祝典が当時の八幡会長のもと芝の東京プリンスホテルで開催された少し前でした。故直海和夫氏が会長のころ当社に来社され直々に入会を誘われたわけです。当時十日会という会が存在している事は折にふれ知ってはいましたが、ハイレベルの会で有り入会にはそれなりの資格が必要では等と、また事業規模が大きな事業所でなくては入会は不可などと想像をしていたのですが、直海氏の熱心な勧誘に、またその熱意に個人

的にも直海氏に魅力を感じ入会させて戴いたものです。入会直後より創立30周年祝典の準備委員となりそのおかげで会員の皆様と早くから親しくして戴き大変であったが嬉しさで一杯でした。

その後小林邦雄氏が会長に就任された時にいきなり会計を命ぜられ、その1年後には永田一雄氏と共に副会長を命じられました。そして入会から10年めぐり合わせと言いますか廻り合わせと申しますか、十日会創立40周年の節目に名誉ある15代会長を仰せつかることと成った訳です。

何と言っても想いで深いものは、創立40周年記念事業です。実行委員長に小林邦雄氏、記念誌編集委員長に永田一雄氏、役員全員及び役員経験者が実行委員となり、昭和62年11月10日に第1回実行委員会が開催されました。当初記念祝典の日取りを昭和63年11月20日に取り行う予定で62年12月9日には祝典会場と決めた東京会館に出向き会場の下見と共に予約を済ませ準備は着々と進められて行きましたが昭和天皇のご病状の悪化に伴い予定通り強行するか延期をするか大変苦慮致しました。昭和天皇がお亡くなりになったわけでもなし



'89 めずらしい写真

強行との考え方の委員も居ましたが祝典の直近に崩御されたら如何がするか何度も東京会館にも出向き如何に取り計らったら良いものか、実際その時期に行われている宴会の様子を伺うと東京会館が皇居の前に位置するので暗幕を張りめぐり拍手は控え目に歌や踊りは一切行わず静かに取り行っているとお話で有りました。それでは挙行する意味が無いと考えいっそ祝典会場を変更して他の地域即ち皇居をはなれたらの案も出ましたが、しかし色々と面倒を掛けた東京会館に対しキャンセルというのは忍びなく思い、あくまで東京会館にお世話をなろうと考えたのです。実行委員の皆様にはその旨をお話しして延期する事と決定をしたのですがそれでは何時に取り行うのか、さりとてあまり長い間隔も問題であろうし昭和天皇の病状を心配しつつ昭和64年4月2日に延期決定をしたのです。(昭和天皇は64・1・7に崩御され元号は平成となる)

記念誌の発刊は当初予定の昭和63年11月20日を目標に着々と進められ実行委員のまったくの手作りで、永田編集委員長の作成したスケジュール表にのっとりゲラ校正、割り付け、写真の選定等々馴れない作業で大変であったが将来につながる良い経験であったと思う。そのころ私は病でしばらく入院をするはめとなり、退院後も体調をもどす間、実行委員の皆さんには大変なご苦労をお掛け私のやらなければならない部分の多くを皆さんに

カバーして戴き慚愧に耐えがたく感謝で一杯でした。このようにして後世にのこる立派な「十日会40年の足跡」が完成したのです。

当時の会長としてしみじみと幸せをかみ締めたものです。

想い出にどうしても書き添えておきたい事があります。十日会の相談役として元東京都鍍金工業組合の理事長でありました吉川弘二様には、十日会に一方ならぬご理解をいただきご指導を賜った経緯もあり5期10年の長年にわたり努められた理事長を退任された時、十日会の有志による「吉川弘二氏慰労と感謝の夕べ」を上野のタカラホテルにて開催しました。その時の吉川さんの挨拶の中に、「理事長退任後各方面より数々のご苦労さん会なる宴を開いていただいたが十日会の皆さんのお慰労会がもっとも暖かく本当に嬉しく思う」とのお話があり、そして我々の大先輩である福井通祐氏が「吉川さん十日会の精神に報恩と言うのがあります。これが十日会の真髄です」と話された事。今でもあの時の情景が目に映り目頭が熱くなります。

想い出話はまだまだ数かぎりなくありますが紙面のこととも有り割愛します。

最後に何時の世に於ても難問山積みの私たちの業界ですが、日本鍍金協会の綱領にあるように誇りと開拓者の精神を以て業界の推進力となって戴きたい。創立50周年おめでとうございます。

# 十日会と自分への反省

株)三恵工業所

石川 雅一



昭和23年11月15日、「おしゃかの会」の発足より、実に半世紀が経過した、業界の任意団体である。

発足当時より、例会に集まる大先輩の方々は、意を一つにし、年齢の隔たりもなく、会社の規模を問わず、戦後の不十分な資材に知恵を出し合い、技術追及に明け暮れ、湯島の学び舎で研鑽に励んだ。

十日会50年の歴史は、有機的に織り成された偉大なる財産である。

私はその学び舎へ、先輩の一言を基に入会させて頂き20年が経った。入会後は執行部の一員として活動し、その間先輩、会員諸氏の方々より多くの指導を仰ぎ、広範囲な勉強と共に会の重みを認識させられ、特に40周年の記念行事遂行後には、感銘し、深く学ぶものがあった。

会を存続させるためには、会の歴史を振り、創立時の初心の意気を十分に理解し、後世に伝える事が常でなくてはならない。

十日会40周年の年、丁度10年前、折しも時代は昭和から平成に変わり、バブル経済も破綻を期し崩壊の一途をたどり始め、すでにその第一波が日本経済に襲いかかって来た時でもあった。

その時期に、不肖の私が、平成2年度、平成3年度の2年間を名誉ある16代会長として任命を受けた。就任時は十日会に対し、私なりに訴えたいものは持っていたが、結局は引かれていたレールの上に乗り、安易な運営を流れのままにしてしまった。会には何一つ残すことなく、2年間の大好きな時間を無意味に過ごしてしまった感があり実に反省している次第である。しかしながらも、JES

の年次大会には会員家族との触れ合いや、又工場見学などと、役員は恒例である共同作業のため、互いが東西を行き來した。それらは一つの息抜きと楽しみでもあり、英知を養う場であったように思えた。

JES三会の役員会を、濟州島で行った事は思い出の一つにあり、往路の釜山から乗った飛行機が悪天候のために機体が激しく揺れ、平静を保てなかつた事を覚えている。

十日会の行事も多彩であった。中でも、海外研修でのAES大会には2度参加させてもらった。海外研修での第一目的は、まず好奇心を持ち、身の回りの目新しいものを探す事に思う。地域で触れる雰囲気や、同じ品物でも、その場でしか作られない製品などは、そのプロセスなどを重視し探究しなくては意味がなく思った。

例会に於いてはその都度、新旧の役員に無理をお願いし手伝って頂いた。数有った例会の中でも、特に印象深く残り今でも脳裏に焼き付いている例会があった。平成2年6月の例会であり、講師の矢部賢先生に「明日もあるか」(東京のめっき屋はだめだ)のテーマで講演を頂いた。開口一番に(あえて十日会会員の我々に)「君達のめっき業に対する姿勢がなっていない! プロとしての意識がない! ユーザーからのめんどうな品質要求や納期、コストに対し企業努力をしていない! 営業もせず客が持つて来た仕事だけしかやっていない! 長期間のそれらの態度が発端で、大手メーカー等は素材の変更を余儀なくされ、コスト面で海外生産に踏み切り、結果国内のめっき製品が少なくなったと言っても過言ではない!」との叱咤

であった。たしかに言われる通りであり、反省させられる点は多々有りすぎた。自分自身言われた通りで、若干のノウハウは有るにしろ、材料商から資材を調達し、未だ代り映えしない方法で電解液の管理も数値化せず程々で、技術向上のための勉強を怠ってきた。確かに「明日もあるか」である。

平成の10年間で不景気に慣らされてしまった感はあるが、技術の進歩は止まらない。今後益々ユーザーからの要求が高度になる事は間違いない。そのためには今までの、めっきに対する概念を一時捨て、カソードとアノードの世界を掘り下げ、探究し直し、来たる新素材等への新処理技術を少しづつでも確立しないと「業界の進路がなくなる」

ぐらいの気持を持ちたい。

十日会の中に又、「おしゃかの会」を発足させ、高度な技術勉強をしたくも思う。発足当時と中身は変わるが、意は受け継ぎ、高浜先生にお答えしたい。私の個人的な思いは「おしゃかの会」を現代風にCATHODE（陰極）にER（屋）とS（達）を付け（陰極屋達の集まり）＝「カソーダーズ」などと命名したりして？

いずれにしろ今までにも、同業他社の優良工場見学等で学んできた、経営哲学や品質管理の長所を取り入れ、さらには異業種からも学び、50年目の節目としても自分に鞭打ち、業界のレベルアップが必須課題であると、不景気ながらも思う。

## 私と十日会

株式会社 大沢鍍金工業所

大沢 俊孝



私は現在十日会の副会長という大役を仰せつかっております、十日会内でもかなり大きな顔をしておりますが、実は入会6年目の新人なのであります。

私が入会したいきさつは、鍍金工業組合の情報化委員会の委員として、現副理事長の内藤氏と共に、1992年7月6日城東支部のMKOS説明会に出席した事から始まります。

説明会終了後、八幡支部長より食事の接待を受けました。その席に現中央支部長小林氏が同席されており、いろいろお話をうかがっている時に、「十日会という会があるが知っているか」という話になりました。はっきり言って何も知らなかつたのですが、「活発な活動をしていて大変すばらしい会だと聞いております。」と答えました。

そうかそれならぜひ入会しろと、お2人から強くすすめられ、ちょうど10日後の7月16日に、名古屋への工場見学が予定されていたので、急遽参加させていただくことになりました。というよりも食事をご馳走になった手前おことわりできなかつたというのが正直なところでした。

気が乗らないまま工場見学が終了し、宿泊先の蒲郡三谷温泉に到着し、入浴の後宴会となりました。

しかし、ここで私は長年忘れていた光景を目にすることができました。

傍若無人、厚顔無恥、羞恥心欠如、桃色疑似遊戯等、種々様々、諸々雑多、千差万別、多種多様、

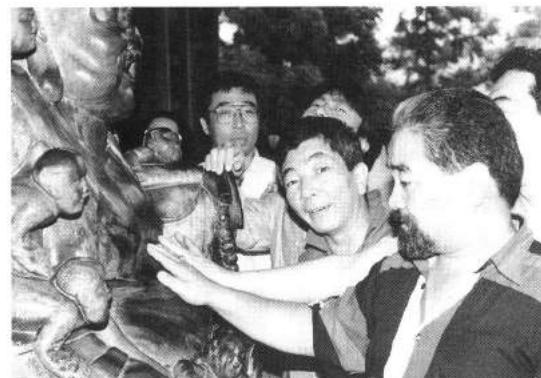
な行為が惜し気もなくというより恥かし気もなく披露され、一般人には入り込めない世界が繰り広げられました。

この世界こそ私の本性を發揮できる場であるのですが、業界内ではそれまで控えていました。しかしこの光景を目にしたとたん、アズ、スーン、アズ、今までの義理掛けの様な気持ちが一挙に飛散し、水を得た魚、エサをもらったブタになりました。

以後十日会の活動に積極的に参加させていただいて、今日に至っております。

積極的に参加することによって得たものは数えきれない程ありますが、中で一番のものは人との出会いでした。この出会った人々は今の私にとって最大の財産となっています。

50年前十日会を創設された先輩方、その後今日まで十日会を引き継いでこられた先輩方に感謝申し上げます。



# 十日会との出会い

株中央メタル

仲俣 雅行



私がまだ小さい頃、夕方出かけようとする父に「どこへ行くの？」と尋ねると「十日会へ行って来る」という返事が返ってきたのを記憶している。いまだにその記憶が残っているということは多分何度もそういう返事を聞いていたからだろう。

それから10年程たって私が車の免許を取るようになると、「十日会へ行くから乗っけて行ってくれ」と頼まれ、又、組合本部の前に着くと「10時頃終るから迎えに来てくれ」と言われ教習所の費用を出してもらっていた私は断るに断りきれずしばしば十日会への送り迎えをさせられたことを覚えている。

それからまた数年後、私がめっきの訓練校に通っていた頃である。たまたま講義が早く終ったので4階へ行ってみると（父が十日会に出席しているのを知っていたので）私を見つけた父に入ってこいと目配せをされた。中に入ってみると50人位の会員の方々が出席されていて非常に熱の入った論議が交わされていた。何か私がそこにいることが場違いの様な気がする程であった。これが十日会との最初の出会いである。

その出会いからさらに数年後の1989年6月のことである。十日会でアメリカへの研修旅行が企画され、それに私も参加することになった。その時の主力メンバーがMr.十日会（恐らく自他共に認める）の小林さん、元会長の石川さん、現会長の遠藤さん、現役員の志田さん、二木さんという顔ぶれでその個性の強烈さ（もちろんいい意味での）にはびっくりした。と同時に何て楽しい会なんだろうとも思った。十日会との最初の出会いから数年後、十日会の人達との最初の出会いである。そ

して当然の成り行きで帰国後すぐに入会した。

その後1990年4月、当時の会長の石川さんより「役員をやってみないか」というお誘いをいただき自信はないながらも快諾させていただいた。その年1年間はとにかく見習いのつもりで例会、役員会は休まず出席し役員としての色々な勉強をさせていただいた。中でも役員会における先輩役員の方々の知識のキャパの広さや、成程と思わせる発言には感心させられた。と同時に自分はこの人達の中で役員としてやって行けるのかと不安だった時期もある。

そんな中で翌年1991年の4月、二人の素晴らしい仲間と知り合う事になる。菊地利博氏と齊藤晴久氏である。同世代の彼らが役員として加わり以前にも増して会が楽しくなったし、なにより心強かった。彼らとは会や仕事のことはもちろんプライベートを通じても交流を深め現在に至っている。こんな生涯付き合える友人を得たことだけでも十日会に入会した価値は十分にあった。

だらだらと思い付くままに書いてしまったが50年もの長い間、何人もの会員の方々がさまざまな思いを募らせ、又さまざまな経験を積むステージとなった十日会に対し深い尊敬の念を抱くと同時に、この先60年、70年……100年とさらに大きなステージへと成長してほしいと思う。

ある日の夕方、9才になる私の息子が「どこへ行くの？」と尋ねた。私は彼にこう答えた。「十日会」と…………。



3? トリオ

## 更なる自己啓発を誓う

シルバーメッキ工業株

齊藤 晴久



戦後間もない混乱期から今日まで、日本経済が大きく変化して行くとともにめっきり業界も様々な環境の変化を経験してきました。その中で、十日会が50年の歳月を経た今日、さらに活発的な活動を続けていけることは、本当に凄いことだと思います。私は、十日会の会員として創立50周年を迎えたことに對し、とてもうれしく思います。これも、十日会と会員企業の発展のために常に考え、前向きに行動し、様々な苦労を乗り越え、各時代を乗り越えてきた、歴代会長、役員各位並びに諸先輩の皆様のおかげと、深く感謝をしております。

私が十日会に入会したのは、今から8年前、当時の会長の石川雅一氏に「業界の任意団体で、業界に関係する様々なメーカーも会員として集まっており、月に一度の勉強会が例会としてタイムリーな内容で開かれ、皆、積極的に勉強している。ゴルフ会、飲み会、と遊びにも積極的で、非常に活気のある会なので入会しなさい。楽しいぞ。」と勧誘されました。入会を決めたのは、最後の言葉の「遊びにも積極的で、楽しいぞ。」という言葉が決め手だったように思います。つまり、とても気楽な気持ちで入会したのでありました。

初めての例会に出席した日は、知らない大先輩たちが大勢いて、緊張しながら挨拶をしました。講演が始まると真剣に聞き、質問をし、前向きに取り組む姿を見ました。そして、二次会に行くと、飲めや、歌えやの大騒ぎが始まりました。しばらくその調子で盛り上がり、私も楽しくなってきました。すると、今度は仕事の話で大討論大会が始まり、凄い熱気で圧倒されていました。終わったのは、深夜一時半でした。

これが十日会の伝統であることに気がついたのは暫らくしてからのことでした。同業者同士で共に学び、情報を交換し、仲間として活動ができる。「よく学び、よく遊ぶ」この伝統を継承していることが、十日会が50年も続いてきた最大の要因であると思います。

また、十日会は、JES（日本鍍金協会）に所属していて、大阪の青研会、名古屋の名鍍会と交流があり、JESの活動として、工場見学会や、年次大会での情報交換会などがあることを入会後知りました。JESの活動に参加してみると、青研会も名鍍会も十日会に似た雰囲気を持っており、友好的で、仕事にも前向きな人たちとの交流は大きな刺激を受けました。

私が十日会に入会して良かったと思うことは、同業者でありながら仕事の相談ができること。他地域の方と交流がもてたこと。良い仲間ができたことです。そして、その活動の中で受ける刺激は、自己啓発へつながりました。当時、鍍金業界に入って間もない私は、経験上で得たわずかな知識と笑顔だけで仕事をしていました。何一つ方向性も示せない社員だったと思います。しかし、8年間における十日会の活動の中で、数々の方から指導を受け、刺激を受け、また、遊びの中でも感じとれるものが、事業活動の指針となり、戦略として生まれ変わり、私自身の活力になりました。

現在の十日会の運営は、今の日本の景気と同様で厳しい状況であります。十年前の四十周年時は良い状況だったのではと思います。会員企業各社の業績が良ければ積極的に会活動に参加できるものです。今は、景気が悪いために会活動への参加

も消極的になっている会員も多いような気がします。十日会は任意団体であり、会員によって運営されているわけですから、十日会の存続繁栄に一番必要な条件とは各会員企業が順調に運営されることです。担当会員の所属企業が健全で、順調な状態で初めて会への参加意欲が湧くことはごく当たり前のことです。そして、企業運営に対して良い効果がなければ参加者はいないでしょう。つまり、企業を順調に運営するために十日会に入会し、各会員企業が順調ならば十日会も順調に運営できるわけです。今後の十日会に必要なことは、会員

企業にとって十日会活動の価値対効果が非常に高く、今よりも更に企業運営に良い効果を与えられるような会になることだと思います。

先輩諸氏が築いてきた十日会、50年という長い時を経て今があるのです。今があるから未来もあり、その未来を創るのは私たちです。私は、これからもすばらしい仲間のいる十日会の存続、繁栄を強く望みます。そのために、十日会を通じて更なる自己啓発を誓い、我が社への効果を引き出し、堂々と、十年後の六十周年を会員の一人として迎えたいと思います。



# おいしい十日会

菊地鍍金工業

菊地 利博



今からちょうど8年前のある朝のこと。いつも  
の様に始業の段取りを終えてちょっとお茶でも飲  
もうとした私に、社長である父から「今日6時半  
からめっきセンターで十日会の勉強会があるから  
出席するように。ネクタイくらい締めて行け。小  
林さんにお願いしてあるからな」と一言。どうや  
ら父は前日組合の会合でトキワ(株)の小林邦雄氏に  
お会いした折、私を十日会に入会させていただき  
たいとお願いしたらしい。まったくいつものこと  
ながら強引な父にあきれながらも、めっき業界の  
錚々たる人々が集まって、よく遊びよく学んでい  
るというウワサの十日会に興味のあった私は、仕  
事を早じまいして、3年前めっき学校で加瀬敬年  
先生に怒鳴られた想い出のめっきセンターへ向かっ  
た。

この日は7月例会で、初めてお会いする会長よ  
り頂いた名刺を見ると、なんと私と同じ苗字（字  
はちがうのですが）ではないですか。でもちょっと  
と恐そななかただなァと思いつつ志の田寿司のい  
なりずしをほおばり、いよいよ例会開始。会長挨  
拶のあと自己紹介をさせていただくも、緊張のあ  
まり何を言ったか記憶にない状態で、その後記憶  
も残っていません。

次の例会が納涼会。六本木でしゃぶしゃぶを楽し  
むとのこと。練馬区に住み板橋区の会社にかよう  
私にとっては憧れの六本木、しかも味もボリューム  
も満点、大満足。

10月例会に出席してみると何と私の大好物“ま  
い泉のかつサンド”が用意されているではありませんか。

この他にも、九州へ工場見学を兼ねてフグを食

べに行ったり、大阪では、たこ焼き、名古屋では  
山本屋の味噌煮込みうどん……。

こうしておいしいものに目のない私は、十日会  
の世界にどんどん入ってゆくのであります。も  
ちろん十日会のおいしさは味覚だけではありません。  
勉強会では、時には難かしい学術的な講演で  
日頃怠けている脳みそに刺激を与え、また会社の  
オーナーとして役立つ経営問題に関する講演では、  
会社の5年先、10年先の事を考え、工場見学会では、  
日頃なかなか見せてもらえない他社の設備や  
作業の工夫などを見学させていただくだけでなく、  
優良工場の社長（良い意味でユニークな方が多い）  
の話が直接聞く事ができる。これらは様々な規模  
のめっき業者と薬品メーカー、設備メーカー、材  
料商の方々、そして名鍍会と青研会を加えたネット  
ワークを持つ十日会ならではのおいしさです。

また、仕事を離れたところでも、十日会は人生  
を豊かに、おいしくしてくれるところでもあります。  
ゴルフコンペや、年次大会といった旅行はも  
とより、テンディーズの音楽活動はまさにちょ  
としたミュージシャン気分を味わう事が出来、ス  
タジオで大音量で演奏した時など最高の気分転換、  
ストレス解消になります。（注 時に、ストレス  
がたまってしまうメンバーもいる様です。）

また平成8年度に行なわれた書道教室では深遠  
なる書の世界を探究、ほんの入口をかすめた程度  
かも知れませんが、高尚な気分の一時を味わう事  
が出来ました。

そして、十日会で最もおいしいもの。それは、  
ここで得られた多くの友人と、先輩方との交流で  
す。十日会の活動は非常に活発です。特に役員は

行事が重なる時期などには、週に3回、4回と顔を合わせる事もあり、家族というより十日会の仲間と会っている方が多いなどという時があったりします。また、納涼会や新年会、年次大会では家族も交えた行事なので奥様方や子供達ともお付き合い出来ることもあり自然と親交が深まってゆくのではないでしょうか。私も十日会役員をさせていただいて以来、仲俣雅行君、斎藤晴久君と共に3？トリオとして活動しております。彼らとは同業者としてのかけひきなど全くなく付き合える貴重な同業の友人です。

また歴代会長はじめ諸先輩方が御多忙な中、例会等に出席してくださり、我々役員を応援して下さいます。

この様に私にとって十日会は、「技術の十日会」はもちろんのこと、様々な形でメリットを与えてくれる「おいしい十日会」なのです。今後とも、益々会が発展してゆくことを祈念いたします。

最後に、歴史ある十日会の記念すべきこの50周年記念に実行委員として参加させていただける事を心より御礼申し上げます。



# 五十周年に思う五十年後

(有)大森広尾鍍金工場

志田 和陽



十日会の創立50周年記念式典に現役役員の一人として参加出来て大変に光栄です。50年、半世紀の間、鍍金業界発展の為に休まず活動を続けた伝統ある団体を心より祝福したいと思います。振り返りますと私がこの会に入ったきっかけとなりましたのは平成元年（1989年）に実施されました日本鍍金協会第6次海外（米国）視察団に部外者として参加させて頂いた際に会員の方々の経営、技術に対する向上心そしてその知識をどのように仕事に役立てようかとする前向きな姿勢に感銘を受け平成2年3月の総会より入会致しました。以来、現在迄多くの例会、見学会等の催しに出席致しましたがその都度に学ぶことも沢山あり優秀な方達との出会いや交流も増えまだ未熟な小生にとっては欠くこと出来ない修練、鞭撻の場となっていますしそれにも増して十日会の朗らかな仲間達との

親交は非常に有意義な事となっています。実は、入会以前より工業組合の集まりや仕事で十日会の何人かの方々とは御懇意にさせて頂いておりました。その関係で昭和63年に挙行された十日会40周年記念行事に私も招待され出席させて頂く事になっておりました。ところが其日の数日前に当社と取引のある得意先からゴルフコンペに出てくれないかと誘いがありどちらにしようか色々迷い悩み熟考した上で十日会の記念行事を断念せざるをえなかった苦い経験がありました。当時の弊社を取りまく情勢を鑑みると致し方無かったとしても大変に失礼なことをしたと今でも想い出します。しかも、その時の実行委員、役員の先輩方には現在も変わりなくお付き合い頂いており、お世話になりっぱなしで本当に感謝しています。

その為にも代々受け継がれた十日会の精神を



絶やすこと無く次の世代に反映させるよう微力であります。お手伝いして行きたいと考えています。時代は、確実に変化していくものです。我々の業界、会社、仕事のやり方、商売の在り方、そして社会全体が形を変えて行くでしょう。経済の動向を見極め時代は何を要求して来るのか将来を予測し考え行動しなくてはなりません。数多くの表面処理がありますがその中で鍍金には現在施されている防錆、装飾、機能等以外にどのような役割を持たせ、新たな技術革新が出来るのか。それから又、鍍金事業を営む為には安定した受注確保、めっき液の管理、設備、排水、工場の立地条件、労働力、賃金、資金から大きく言えば地球環境の問題まで総ての事項を考慮して行かなくてはなりません。本当に困難な道のりですが成し遂げなければいけません。十日会会員の皆さんと共に知恵や力を出し合えば絶対に大丈夫でしょう。成功出来る未来は明るく光輝いていると信じたいものです。

50年後社会の各分野では現在の子供達やこれから誕生してくる人達が重要な役割を担って活躍して

いるだろう。十日会も本年が創立50周年だと当然50年後は100周年。その時、私は97歳になる。100周年の記念式典に列席でき祝辞でも述べさせて頂ければそんな栄誉なことはない。夢のような話だが決して不可能な事ではないだろうと思う。一人で出席するのでは面白くないので今居るメンバーも全員で参加出来れば此は素晴らしいことだ。平均寿命も伸びていることだし50年後の世界をこの眼で見られたらと考えるだけで愉快になる。このことを人生の目標のひとつにしてみたいと思う。今年は、長野で冬季オリンピック、サッカーのワールドカップ、十日会50周年、これで巨人軍が優勝すれば最高だし私もいまひとつ飛躍してみようと思いついたい。尚、50周年記念事業の一環として海外（米国）視察団が結成され私も参加させて頂くが記念誌の原稿締切日が出発日より以前なので視察の内容に関しては終了後に発行される報告書を読んで頂ければ幸いです。

最後に、十日会の益々の発展、会員の皆様の御健勝と事業の御隆盛を心より願う次第です。

# 十日会、偉大なる五十周年とこれから

光鍍金工業株

内田 悅美



## — 責任感を持って生きる —

十日会、50周年、誠におめでとうございます。

実は、私も現在、役員を務めさせていただく身であります。このような偉業には、先輩方の功績に対し、素直にお祝いの言葉を述べさせていただくしか、敬意を表する手段が見当りません。

なんといっても50年です。半世紀です。

50年もの永きにわたり、毎月のように講習会を開催し、また、工場見学会をはじめとし、たくさんの方々の有益なる事業を実施したりと、本当にすばらしい会だと、改めて心服させられています。

私は、十日会に入会して5年目、役員の末席に加えていただいて4年目の“かけだし”です。しかしそれでも、さまざまな事業を企画、実施し、そして続けてゆくことの大変さは、骨身にしみて実感しております。それを50年もの間、継続されてこられたのです。創設以来の先輩方のご努力には、本当に尊敬の念をいだかざるをえません。

さて、このような永きにわたり、しかも密度の濃い活動を継続させられた秘訣は、いったい何だったのでしょうか。せん越ながら、私なりに推測させていただきますと、それは十日会運営に携ってこられた先輩方の“使命感”“責任感”に集約されているのではないでしょうか。

有益な事業を実施しようとする“責任感”。

業界に貢献しようとする“責任感”。

そして、それらを継続させようとする“責任感”です。

なにを行うにしても、それが成功するか否か、継続するか否かは、当事者の“責任感”にかかっていると言っても過言ではないと思います。

近年は、日本人に、特に私のような若い世代に、この“責任感”が希薄になってきていると言われています。戦後50余年、平和の国日本では、人々は“自由”だ、“権利”だと、民主主義の“おいしい部分”のみを謳歌し、その対極に必ず存在しなければバランスのとれないはずの、“責任”や“義務”といったものを、置き忘れてきているようと思えてなりません。

現在、日本は、まれにみる厳しい、難しい時代を迎えております。長引く経済不況、さまざまな不正事件、凶悪犯罪の低年齢化、などなど。これら、日本の根底をも揺るがすような深刻な事件も、その原因の元を正せば、各自の“責任感”的欠如に由来しているように思えてなりません。

今ここで、日本の明るい未来のために起死回生を図るには、その忘れかけていた“義務感”“責任感”を、各自が持ち直すことが必須であると感じます。一人々々が日々の生活の中で、常に“責任感”を感じながらすごしてゆく。これさえ思い出されれば、明るい未来、そしてその永きにわたる継続が期待できるのではないでしょうか。

ちょうど、先輩方の“責任感”に支えられて50年間輝き続けている“十日会”的ように……。

私も、今日より改めてこの気持ちを持ち直し、仕事に、家庭に、そして十日会活動に頑張ってゆこうと、決意を新たにしているところです。“責任感”を生きるパワーに変えて！

明るい未来、そして10年後の十日会60周年を明るく迎えられるように、“責任感”とともに、前向きに生きてゆこうではありませんか。

# 私にとっての十日会

(有)小島鍍金工業所

小島 一浩



十日会50周年おめでとうございます。

まだ40歳にも満たない私が、半世紀の歴史を誇る十日会の一員であることを誇りに思うと同時に、多少なりとも重圧を感じてしまうのは、私が未熟すぎるからでしょうか。

私が十日会を初めて知ったのは今から13年前、当時の十日会会長であり、私と同じ足立支部の永田一雄氏から十日会入会の誘いがあった時でした。直接弊社まで出向いてくださり、月1回勉強会があるということを説明していただいたのを覚えております。しかし当時の私は東京都鍍金工業組合高等職業訓練校に通っていたこともあり、たとえ月1回の勉強会としても、月・火・木・金と週4回の講義がある訓練校と重なることが多々あるためにお断りてしまいました。

その後、組合広報等を通じて十日会の具体的な活動内容を知り、入会を断ったことを残念に思っていたところ、今から5年前に、やはり同じ足立支部で当時十日会の役員でありました長谷川一郎氏より入会の要請がありまして、お世話になることに致しました。

このような経緯で入会した十日会ですが、いざ月例会に出席してみると、諸先輩方の真剣な眼差し、活発な意見交換にただ圧倒されるばかりで、とんでもない次元の違う会に入ってしまったものだと思ったものでした。しかし、例会への出席が増すたびに会の雰囲気に慣れ、また、諸先輩方のあたたかい歓迎・気配りのおかげですぐにうち解けることができました。今では、なかなか他に例を見ないこのようなすばらしい会に在籍していることが私自身の励みにもなっています。

さて、月例会・新年会・納涼会・忘年会・ゴルフコンペ等十日会の活動の中での一番の思い出といいますと、平成7年5月例会において、私自身が講師として『広大な宇宙の話』という演題で講演したことあります。

これも同じ足立支部であり、当時の十日会会長の繩田敏治氏より要請がありまして、引き受けることになったのでした。実は、私には趣味の一つとして天体観測がありまして、このことを以前より繩田氏が知っていたためにこの話が出てきたのでした。繩田氏は「たまには例会もめっきりすることばかりではなく、日頃の憂さを忘れるような宇宙の話をしてくれないか」ということで引き受けことになりました。当時、私はまだ入会3年目になったばかりで、より多くの人に私の顔と名前を覚えていただくには絶好の機会だと思いました。しかし、引き受けたはみたもののどのように話をていいたらよいのか考えれば考えるほど行き詰まってしまいそうになりましたが、話だけではなく、過去に自分で撮った天体写真のスライドやビデオを上映すればきっとみんなが喜んでくれるだろうと考え実行することにしました。

このようにして、例会は無事終了しましたが、諸先輩方を相手に2時間講演したことによっていろいろな人に私の顔と名前を覚えていただいたこと、みなさんに喜んでいただけたこと、また、なかなかできない貴重な経験をさせていただいたことによって、自分自身が少しあは成長したような気がしました。

このように、私にとって同じ足立支部の気心の知れた3人の先輩に恵まれたことによってほと

んど不安を感じることなく現在に至っています。その他にも、面倒見の良い先輩方、年齢の近い仲間に囲まれとても幸運であると思います。あとは、後継者不足のこの業界ではありますが、さらに若い人材の入会を期待いたします。

本年度からではありますが、役員に任命されたことにより、今度は私が若い人たちを一人でも多

く十日会に入会させることもひとつの仕事だと思います。もちろん、他にもやらなければならないことがたくさんありますが諸先輩方の功績を汚さぬように、どのようにしたらさらにこの十日会が発展するかということをよく考えて行動して行きたいと思います。

# 十日会と私

ミナモト電機株

梅田 高広



十日会創立50周年を迎えるにあたりまして、心からのお喜びの気持ちを申し上げたいと思います。一口に50周年と言いますが、これまでの力強い会の運営、また飛躍を続けて来ていることは、諸先輩方々のご苦労や試行錯誤の積み重ねの結果であることは言うまでも無いことだと思います。そして、会員の皆さまの十日会に対する思い、十日会を我が子のように愛する気持ちが歴代会長や歴代役員の大きな支えとなり、このようなすばらしい会に育てあげたのだと感じています。

今回、十日会50周年記念事業の委員を仰せつかりまして、十日会の多くを語る事のできない私にとって40周年記念当時の「十日会40年の足跡」を熟読して十日会の歴史を勉強したのが正直なところです。

昭和23年、敗戦の混沌とした社会の中で、わずか10名で十日会を創立し数々の苦境の中での活動実績には敬意の気持ちでいっぱいです。中でも青研会、名鍍会、十日会の3団体による日本鍍金協会の活動は、私自身も何度か参加させて頂いているので身近に素晴らしいを感じています。この日本鍍金協会は昭和36年に結成されたそうで、今からさかのぼる事37年前の事です。こんなに早くから他団体との情報交換を行い業界全体の発展を願う団体なのです。現在に至ってもその伝説どおり大阪・名古屋・東京と距離は離れていますが3つ

の会が1つになって年次大会や合同役員会などを開催し、その地域の特色や仕事内容・景気動向などの生きた情報交換が活発に行われています。また、そのような仕事上の交流を通じてより密接な関係を保ち同業者同士の付き合いを超えた相互関係、友情と呼ぶに匹敵する信頼関係には感心しました。また、十日会単独の活動でも時節に合ったテーマを取り上げ会員の指針になるような内容の濃い講演会（月例会）を開くなど、常に前向きな活動には私にとって大いに参考になっています。このような、歴史と実績のある十日会の50周年記念事業の役員を仰せつかり大変恐縮しておりますが、諸先輩方々のご指導を仰ぎ十日会の益々の発展のために微力を尽くして行きたいと思っています。



'97 ロベクラブにて



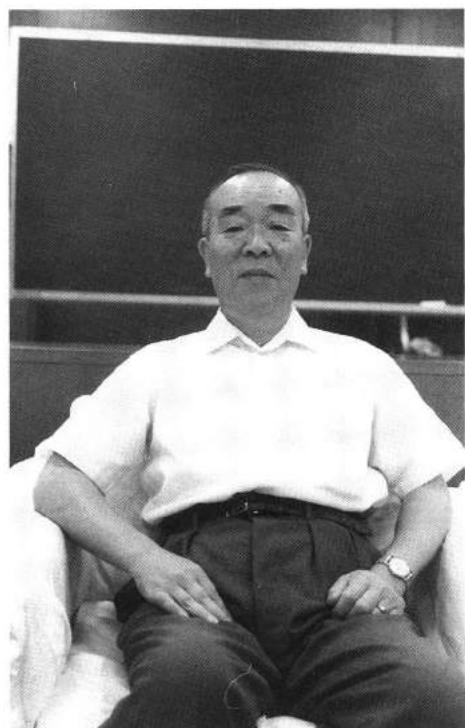
# ● 思い出のスナップ

50<sup>th</sup>





高浜 二郎氏



小嶋 政夫氏



八幡 健氏



井上 喜夫氏



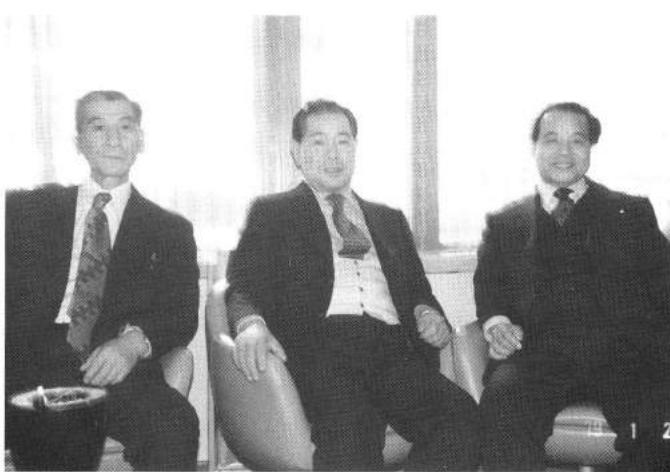
直海 和夫氏



細井 肇氏



左より鵜飼氏、井上氏、小嶋氏、後藤氏  
八幡氏、木下氏



‘79 新年会にて  
左より 小林 憲氏  
八幡 健氏  
木下 健治氏

1 2



'78. 1月

琴風より酌をうける井上氏



ブラウント氏と



'81. 3月 ブラウント氏を囲む会



'79. 10月 弥彦にて



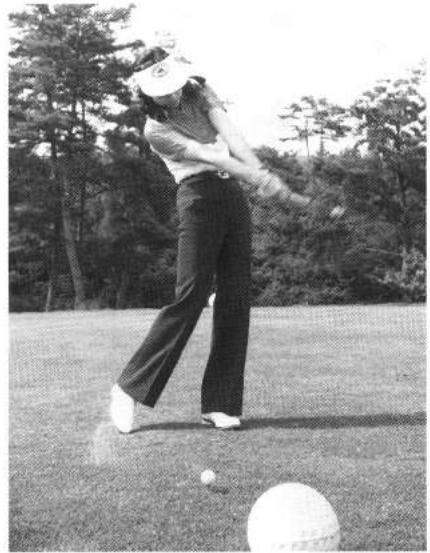


‘79 新年会にて





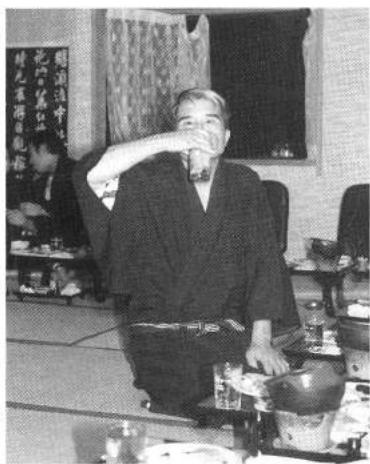
'80. 6月 烏山城C.Cにて



ナイスショット？の上村女史



'81. 11月 忘年会にて



'83 新年会にて



小林 憲氏





'83 グランドキャニオンにて



'84 忘年会

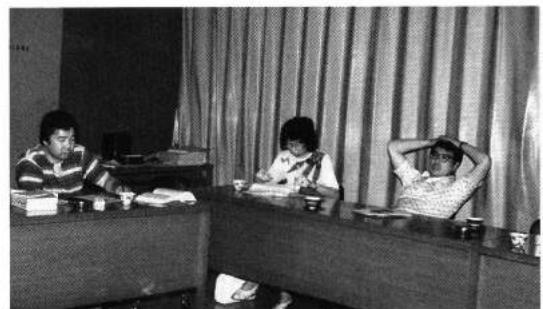


## '87 納涼会 アルテリーベにて



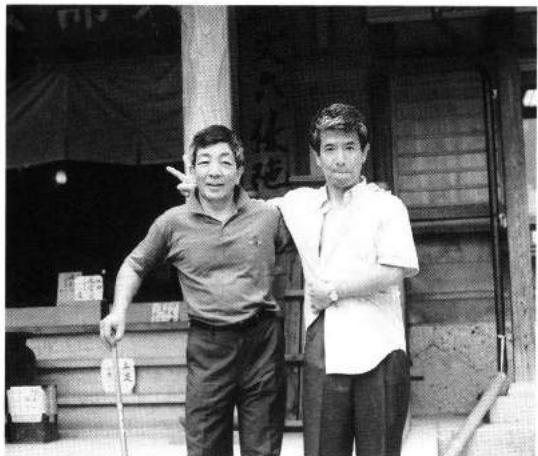


40周年  
実行委員会



'89. 12  
飯山温泉にて

'95. 7 山寺にて



'96 湯沢にて役員慰労会



'97 湯沢にて役員慰労会

## ● THE TENDEES

テンディーズ、その名の由来は？、「十日会」の十日、ten days、それをもじっただけの事。もう少しかっこいい名前をと思ったがあっさり決まってしまった。でも慣れてしまえばナカナカの名前という気がしないでもない。

事の起りは、平成5年十日会納涼大会を銀座にあるライブハウス「ケネディハウス」で行なった事にあるのではないかと思う。80名近い会員、会員御家族の方々が参加して下さり、食事をしながらオールディーズの名曲の生演奏を楽しんだ。そして翌年、納涼大会を評判のよかった「ケネディハウス」でもう一度という意見、いや2年続けて同じ場所は、別の処でという意見、それでは下見といろいろ捜したが適当な場所がない。そして6月のある日、役員同志同じく銀座にある「ケントス」という店を下見に行った時の事、仲々いいけれどどうも箱が大きい、貸切るには120名位集めなければならない。それは無理、それではどこかのホテルの一室を借りてプロのバンドを呼ぼうか、という意見、そんなのおもしろくない、自分達でバンドをつくったら、という意見。このとんでもない意見がその場で受けた。しかし練習場所は？墨田区の施設の中小企業センターの中にある音楽室が使える。でも教えてくれるひとがいなくては。



十日会の新年会でデビュー

十日会の会員である籠利さんが昔「ポニーズ」という名のグループサウンズでドラムをやっていた、とトントン拍子に話が進み、7月、現役役員、歴代会長に話しを持ちかけ集合してもらった。出席者の中にはそんな事出来るはずないだろうという意見もでたが、のちに練習が始まった時にわかった事だが、「ケントス」で話しが出た次の日から内緒でドラム教室に通いはじめた気の早い人がいたりして、とにかくやってみようという事になり8月から練習が始まった。

最初は「想い出の渚」をマスターしようと、来る日も来る日もこの曲の練習ばかり。でも楽しかったなあ。指導役の籠利さんもよく匙をなげなかつたと思う。そして10月のある日、「想い出の渚」もまともに演奏できないでいるのに、先述の気の早い人が我々のデビューの場所と日にちを決めて



'96.12 目黒雅叙園にて

きてしまったのである。銀座にある「シグナス」という名の店、平成7年1月22日と。それから曲をふやさなければと猛特訓の日々が続く。そして男性ボーカルだけではと、小林さんのお嬢さんにお願いする。小林希代美さん、そして友達の大橋玲子さん、小林奈津子さん。グループ名「トキーズ」、名前の由来はただ“トキワ”をもじっただけの事。そして十日会の新年会という場を借りて1月22日、「シグナス」でテンディーズのデビューとなった。

メンバーは、（敬称略、順不同）山田英佐夫（キーボード）、小林邦雄（ドラム）、菊池忠男（タンバリン）、仲俣雅行（リードギター）、繩田敏治（リズムギター）、菊地利博（ベースギター）、二木一郎（ベースギター）、大沢俊孝（キーボード）、籠利達郎（ドラム）、ボーカル担当は、神谷博行、小原俊幸、トキーズ。曲目は「想い出の渚」、「いつまでも いつまでも」、「亜麻色の髪の乙女」、「ロコモーション」、「ヴァケイション」、「ブルーシャトウ」、演奏が終ったあと、大沢さんが撮ってくれたビデオに映っているメンバーの顔、みんな最高にいい顔している。皆さんにおみせしたいです。

この年の6月、近藤澄男さん（リズムギター）、トキーズに代わりボーカルとして、向山政江さん、三浦明子さんが加わり活動を続ける。途中三浦さんに代わり斎藤英三子さんが加わるなど多少メンバーの変更があったが、目黒雅叙園における城南連合青年部会の忘年パーティーに3年連続出演させていただくななど現在も活動を続けている。



トキーズ



千葉で合宿



十日会ゴルフコンペ成績表

	優勝者	2位	3位	B B	B G
第1回	宮田	金田留雄	木下健治	小松	木下文良
第2回	大沢秀夫	繩田忠治	小林邦雄	八幡順一	大沢秀夫
第3回	直海和夫	後藤哲夫	仲俣一三	狐塚保之	岩崎俊男
第4回	大沢章二	直海和夫	中井久二	八幡順一	大沢章二
第5回	上村福子	今泉好隆	直海和夫	大場槌寅	直海和夫
第6回	小林邦雄	狐塚保之	小松国浩	西矣田邦夫	繩田敏治
第7回	小松国浩	今泉好隆	中井久二	黒須吉雄	繩田敏治
第8回	細井肇	伊藤英正	仲俣一三	富田康祐	大沢章二
第9回	狐塚保之	仲俣一三	直海和夫	長島紘太郎	直海和夫
第10回	八幡順一	仲俣一三	黒須吉雄	石川雅一	仲俣一三
第11回	木下健治	近藤澄男	今泉好隆	井上喜夫	近藤澄男
第12回	中井久二	上村福子	金田留雄	永田一雄	大沢章二
第13回	近藤澄男	伊藤英正	細井肇	狐塚保之	大沢章二
第14回	小松国浩	繩田忠治	大沢章二	大沢秀夫	大沢章二
第15回	上村福子	仲俣一三	繩田敏治	柳下和彦	大沢章二
第16回	細井肇	小林邦雄	柳下和彦	大場槌寅	細井肇
第17回	小松国浩	繩田忠治	柳下和彦	堀米清	大沢章二
第18回	遠藤清孝	今泉好隆	保坂晃一	仲俣一三	高倉利守
第19回	青木弘	今泉好隆	小室昭進	小林邦雄	青木弘
第20回	清村進之	上村福子	繩田敏治	永田一雄	高倉利守
第21回	鶴見文雄	繩田忠治	小倉攻一	小室昭進	小倉攻一
第22回	神谷博行	上村福子	小倉攻一	遠藤清孝	小倉攻一
第23回	小室昭進	小林邦雄	黒須吉雄	神谷博行	高倉利守
第24回	太田多一	中村強	台大五郎	岩倉文明	高倉利守
第25回	仲俣一三	竹ヶ原攻	高倉利守	太田多一	高倉利守

	優勝者	2位	3位	B B	B G
第26回	上野啓司	繩田忠治	保坂晃一	小室昭進	繩田敏治
第27回	小林邦雄	八幡順一	上野啓司	小室昭進	小林邦雄
第28回	仲俣一三	内藤隆夫	中井俊晴	小室昭進	仲俣一三
第29回	上野啓司	大村公二	清村進之	堀米清	繩田敏治
第30回	小林邦雄	近藤澄男	繩田敏治	堀米清	高倉利守
第31回	仲俣一三	今泉好隆	小室昭進	長橋久雄	高倉利守
第32回	八幡順一	小松国浩	小林邦雄	山田英佐夫	齊藤晴久
第33回	清村進之	長橋久雄	繩田敏治	石川雅一	繩田敏治
第34回	内藤隆夫	八幡義一	森克夫	山田英佐夫	内藤隆夫
第35回	山田英佐夫	小倉攻一	中川士郎	菊地利博	小倉攻一
第36回	梅田高広	今泉好隆	遠藤清孝	森克夫	小林邦雄
第37回	中川士郎	今泉勇	二木一郎	小室昭進	中川士郎
第38回	山田英佐夫	竹ヶ原攻	小倉攻一	上野啓司	小倉攻一
第39回	二木一郎	大沢俊孝	遠藤清孝	森克夫	大沢俊孝
第40回	遠藤清孝	内藤隆夫	小林邦雄	山田英佐夫	小林邦雄
第41回	二木一郎	齊藤晴久	内藤隆夫	菊地利博	内藤隆夫
第42回	遠藤清孝	上村福子	清村進之	今泉勇	小林邦雄
第43回	小室昭進	笠井正夫	今泉勇	岡田茂	小林邦雄
第44回	梅田高広	竹ヶ原攻	繩田敏治	齊藤晴久	岡田茂
第45回	大沢俊孝	上野啓司	小島一浩	森克夫	小島一浩
第46回	内田悦美	二木一郎	高倉利守	小室昭進	内田悦美
第47回					
第48回					
第49回					

十日会賞  
十日会会則  
十日会会員名簿



# 十日会賞

## 十日会賞設定の経過

十日会は昭和23年11月めっき業界の2世達が故高浜二郎氏の推進力により技術の研究団体として発足した。発足当時は僅かに10名内外であった同志も急速に増し、会合の場所が必要となったので昭和25年6月文京区湯島新花町18番地に「東京鍍金会館」を建設した。

以来、この会館を拠点として常に業界の開拓者としての誇りと固い団結をもって活動を続けてきた。その間、東西技術交流の先鞭をつけ、また先進諸国との交歓を計って我が国のめっき技術の向上に寄与してきた。

しかし、昭和42年4月東京都鍍金工業組合の「めっきセンター」が新しく完成し、十日会として今後どうあるべきか議論百出した結果、東京都鍍金工業組合に大同団結し業界の発展のため協力していくことになった。昭和42年6月10日、思い出多い東京鍍金会館で最後の例会を開いた。

その後、十日会は東京鍍金会館を売却し、会館売却代金より諸経費を差し引いた6,500,000円をめっきセンターの教育資材購入費として寄贈した。

昭和42年4月13日十日会は創立20周年を迎える事業として記念祝賀会がホテルニューオータニで盛大に行われた。その席で会館売却の一部で定期預金としていた2,000,000円を「十日会創立20周年基金」として東京都鍍金工業組合に寄贈し、その運営については組合に委託した。昭和44年10月13日東京都鍍金工業組合では十日会があの懐かしい東京鍍金会館売却した意図を永遠に誌すため「道標」(井上喜夫氏執筆)をめっきセンター4階会議室に掲額した。

昭和46年6月10日東京都鍍金工業組合に運営を委託した「十日会創立20周年基金」についての運営方法が当時の東京都鍍金工業組合、由田繁太郎

理事長より十日会小島一郎会長に文書による回答があった。それによると本基金による表彰を「十日会賞」と呼び、規程を設け毎年、金属表面技術の向上に寄与した技術、又はめっき業界の進歩発展に寄与した功績に対して授賞することになった。

## 十日会賞表彰規定

### (目的)

第1条 この規定は日本鍍金協会十日会の本組合に対する多大の功績を記念して設定したものでめっき業界に貢献した功績が顕著である者を表彰し、もって表面処理技術に関する学術及び技術の向上を図ることを目的とする。

2. 前項の表彰は次の基金によって運営する。
  - (1) 十日会創立20周年記念基金
  - (2) この表彰の趣旨に賛同し寄せられた寄附金

### (表彰の基金)

第2条 理事長は被表彰者が次の各号の一に該当し、その功績が顕著であると認めるときは十日会賞表彰委員会にはかって表彰する。

上記の表彰は理事長が十日会賞表彰選考委員会にはかって決定する。

- (1) 金属表面処理の研磨工程、前後処理工程、表面処理工程における工程改善および省力化に寄与したもの。
- (2) 金属表面処理における高速化、高能率化、高級化、無公害化等処理方法の普及に寄与した功績顕著なるもの。
- (3) 騒音、悪臭、大気汚染、水質汚濁等の公害防止技術の開発による功績大なるもの。
- (4) 工程管理、品質管理等生産管理技術の向上、品質向上、または公害防止管理技術の向上、普及に著しく寄与したもの。
- (5) 前各号のほか、めっき業界の健全なる組合

運営に寄与し、その功績が顕著であるもの。

#### (表彰の方法)

- 第3条 前条によって表彰されるものに対しては、理事長が賞状並びに副賞を贈ってこれを表し、業績を公表する。
2. 被表彰者が死亡した場合には、その遺族にたいして贈呈することができる。

#### (委員会)

- 第4条 表彰の適正を期するため、十日会賞選考委員会を置く。

#### (所管事項)

- 第5条 選考委員会は理事長の諮問に応じ、この規定により表彰すべき者の適否を審査し理事長に答申する。

#### (組織)

- 第6条 選考委員会は、次に掲げる委員にて構成し、委員長は理事長が指名し、委員は理事会で選任し理事長が委託する。

委員長 1名

工業組合側委員 6名

十日会側委員 3名（前会長、現会長、副会長）

学識経験者 3名

2. 委員の任期は委員長を含め2年とし、副委員長を置くことができる。
3. 副委員長は、教育委員長をもって充て、委員長事故有るときは之を代行する。
4. 委員長は委員会を招集し、会務を報告し、委員会を代表する。

#### (定数及び表決)

- 第7条 委員会は委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。
2. 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

#### (委員の義務)

- 第8条 委員長及び委員は、その任務上知りえた秘密は漏らしてはならない。

#### (細則)

- 第9条 この規定の取り扱いに関する必要な事項は理事長が別に定める。

- 付 則 この規定は昭和46年6月7日から施行する。

#### 年度別十日会賞受彰者名簿

	表彰年月日	受彰者氏名	業績内容
第1期	昭和47年5月25日	永井淑晴	めっき専業工場における排水処理対策に多大な貢献ほか。
2	48年5月28日	持田有信	永年の毒劇物取扱者試験準備講習会講師としての功績ほか。
3	49年5月29日	加瀬敬年	永年の高等職業訓練校講師としての功績を高く評価。
4	50年5月30日	中村実	光沢銅めっき法・濃厚シアン廃液処理法。クローズドリサイクルシステム研究ほか。
5	51年5月27日	古川茂	城南処理センター初代所長として濃厚廃液の処理に対する運営管理に専念された功績。
6	52年5月18日	押切芳之	永年の高等職業訓練校講師としての功績を高く評価。

	表彰年月日	受彰者氏名	業績内容
第7期	昭和53年5月27日	足立支部	公害防止の徹底と省資源化を目標とした足立方式、近年のクロム排水のクローズド化。イオン交換再生作業の共同化及び教育映画の編集などの功績。
8	54年5月26日	江原猛二	昭和45年法改正により排水基準が強化されたとき除害後における排水中のシアン・クロム濃度の正確かつ簡易な測定方法として簡易比色分析器を開発し東京をはじめ広く全国に普及を図った功績。
9	55年5月24日	矢部 賢	電気めっき業における公害源の除害技術を改良しつつ技術開発に努力され組合員に公害防止の重要性と防止意識の高揚に多大なる貢献をされた。
10	56年5月26日	石川 進	めっき業界に公害問題が発生した当初から指導的立場にたち公害防止技術の開発、普及に尽力された功績。 当組合の委員を多年にわたり歴任し後継者の育成に献身的努力された功績ほか。
11	57年5月26日	鈴木昭一	職業訓練校、毒劇物講習、各講師、技能検定委員等の役職を永年にわたり在職され、めっき技能向上に多大なる貢献をされた功績。
12	58年5月26日	横山一男	粉じん作業特別教育指導員としての功績、公害防止実態調査に貢献された功績、訓練校講師としてめっき技能向上に多大なる貢献をされた功績。
13	59年5月26日	柴文人	11年の永きに亘り、技能検定委員としてめっき業界の技術振興に寄与された功績ほか。
14	60年5月25日	細井義一	技能検定委員及び委員長を努め、めっき技能者の技術水準の向上と人材育成に尽力し、業界の振興に寄与した。また、本部委員、役員等を努め、組合の健全な発展と組織運営に寄与した等の功績による。
15		該当者なし	
16	62年5月23日	米倉茂男	13年の永きに亘り、東京通産局主催の電気めっき排水巡回指導の指導員として、業界の無公害化・作業環境改善等に貢献された。また、永年に亘り組合主催の研修会等において、講師を務めるなどの組合の事業運営に積極的に貢献し、電気めっき業界の健全なる発展に寄与された功績による。
17	63年5月25日	佐藤二郎	永年に亘り、組合役員として、業界に貢献。 とくに教員委員会委員長として、組合員師弟、従業員の人材養成の要である高等職業訓練校の充実に多大の貢献をした功績による。
18	平成元年5月26日	小橋秀寿	永年に亘り組合役員として業界に貢献。特に環境委員長として、公害防止管理規約の立案、成立等、今日の公害防止事業の基礎を作ってこられた功績による。

	表彰年月日	受彰者氏名	業績内容
第19期	平成2年5月26日	西原一夫	永年に亘り組合役員として業界に貢献。とりわけ副理事長時代広報委員会を担当、組合事業のPRに尽力され、又、百周年記念誌編纂委員長としての功績ほか。
20	3年5月26日	下浦岩夫	東京鍍金公害防止協同組合の技術委員会委員として協同組合の技術的な運営に献身的に尽力されたことによる。
21	4年5月26日	遠藤雅夫	城南処理センター副所長として公害防止協同組合の事業に協力し、20年にわたる無災害記録の維持に大きく貢献されたことによる。
22	5年5月26日	和田勝	城南処理センターのシアン無公害化施設の建設における献身的な尽力による。
23	6年5月26日	板橋利次	昭和60年から4期にわたり広報委員長として活躍。広報発行の基盤をつくられた功績による。
24	7年5月26日	青木正	組合員事業所からの有害産業廃棄物の収集運搬業務を今日事故もなく円滑に遂行してこられた事による。
25	8年5月26日	瀬田新二	教育委員会副委員長、環境委員会副委員長、環境担当副理事長などを歴任され、組合及び業界発展のため鋭意努力され、組合運営に有形、無形の多大な貢献をされた事による。
26	9年5月26日	葛飾支部	昭和60年から毎年葛飾区産業展に参加し、地場産業としてのめっき産業を地域住民にPR。又組合常設展示場における趣向を凝らした展示物を具現化された努力と行動力による。

# 十日会会則

## (名称及び組織)

第1条 本会は十日会と称する。

第2条 本会は鍍金業並びに鍍金に関係あるもので組織する。

第3条 本会の事務所は東京都文京区湯島1-11-10東京都鍍金工業組合内におく。

役員会の推薦によるものとする。

4. 特別会員は本会の趣旨に賛同し、本会の活動に積極的助言を与える者で、役員会の推薦のあった者とする。

第8条 本会に入会しようとする者は、正会員2名以上の紹介により、住所、氏名、生年月日を記入し、入会金壱万円をそえて会長に申し込むものとする。会長は役員会に諮り入会を承認する。

## (目的及び事業)

第4条 本会は会員相互の親睦を基調として鍍金技術、経営技術の研究発達を図り、日本鍍金協会及び関係諸団体と連携し、業界の発展向上を期するを目的とする。

第5条 本会は目的を達成するため次の事業を行なう。

1. 技術の研究及び普及
2. 工場設備の改善並びに経営合理化の研究
3. 講習会及び講演会の開催
4. 諸文書の翻訳並びに紹介
5. 製品展示会の開催
6. 優良工場の見学
7. 材料製造工場の見学並びに優良製品製造の奨励
8. 技術会員の育成
9. 会員並びにその家族の吉凶に対する慶弔
10. その他本会の目的を達するのに必要な事項

## (会員)

第6条 本会の会員は正会員、技術会員、名誉会員、特別会員の4種とする。

第7条 1. 正会員は鍍金業及び鍍金に関係ある業務を営む企業の経営者、もしくはそれに準ずる者とし、正会員は日本鍍金協会の会員となる。  
2. 技術会員は会員企業内の技術指導の責任的地位にある者で、正会員の推薦のあった者とする。  
3. 名誉会員は特に本会の趣旨に賛同するもので、

## (退会)

第9条 本会を退会しようとする者は、退会届を会長に提出するものとする。

## (除名)

第10条 会員は次の各項に該当する時、役員会の決議により除名されることがある。

1. 本会の事業をさまたげると認められる行ないがあった場合
2. 会員相互の利益に反するような行ないがあると認められる場合
3. 3ヶ月以上理由なく欠席し、本会の趣旨に賛同しない者。

## (休会)

第11条 本会を休会しようとする者は、休会理由を明記して、その旨を会長に届け出ることを要する。

## (役員)

第12条 本会に次の役員をおく。

1. 会長 1名
2. 副会長 2名
3. 運営委員 若干名
4. 日本鍍金協会役員 若干名

第13条 会長は最高責任者にして、本会を代表し、会務を掌理する。

第14条 副会長1名は会長を補佐し、会長事故ある時はその職務を代行するものとする。副会長1名は運営委員長として、運営委員を掌握し、本会の運営に当たる。

第15条 運営委員中に涉外、会計、編集担当をおく。

1. 涉外委員は官公庁並びに諸団体との交渉連絡を司る。
2. 会計委員は本会の財務を司る。
3. 編集委員は本会の編集記録を司る。

第16条 役員は総会において選挙により選出し、互選を以って担当を決定する。

第17条 役員の任期は4月1日より1ヶ年とし再選を妨げない。補欠者の任期は前任者の任期とする。

第18条 本会に顧問及び相談役をおくことができる。

1. 顧問は業界の長老または技術、経営、経理の専門家及び本会の功労者を委嘱する。
2. 相談役は業界の先輩にして有識者を委嘱する。

### (会議)

第19条 本会の会議は定期総会、臨時総会、月例会、役員会の4種とする。

第20条 定期総会は毎年度終わりに開き、事業報告、決算報告を審査し、役員の改選を行なう。臨時総会は役員会が必要と認めた時に随時開催するものとする。

第21条 月例会は毎月10日に開く。

第22条 役員会は会長が必要と認めた時に開催する。

第23条 会議は出席会員の半数以上の同意によって決議を行なうものとする。

### (財務)

第24条 本会の経費は会費及び寄附金その他の収

入を以ってこれにあてる。

第25条 会費は年額4万円也とし、日本鍍金協会年会費6千円也を含む。

休会中の会員の会費は正会員の半額を納入するものとする。

納入した入会金及び会費はいかなる事情があつても返還しない。

第26条 本会の会計年度は毎年3月1日に始まり、翌年2月末日をもって終る。

第27条 本会則の改正は総会出席会員の半数以上の同意によるものとする。

### 付 則

第28条 本会会則は昭和42年9月11日より施行する。

昭和48年4月10日 会費改正

昭和63年4月11日 会費ほか一部改正

# 十日会会員名簿

## 名誉会員

氏名	役職名	連絡先住所	電話・FAX
Ezra A. Blount	M.S.F.A顧問		
田島 栄	東京都立大学 名誉教授	世田谷区経堂 4-2-10 (自宅)	Tel 03-3420-2918

## 相談役

氏名	役職名	連絡先住所	電話・FAX
瀬田 新二	東京都鍍金工業組合 理事長	足立区本木 2-4-14 セテック株	Tel 03-3849-1155 Fax 03-3849-1177
吉川 弘二	東京都鍍金工業組合 名誉顧問	大田区東糀谷 6-3-1 (株)大崎金属	Tel 03-3744-8200 Fax 03-3745-4841

## 特別会員

氏名	会社名	連絡先住所	電話・FAX
村楨 利弘	デグサジャパン(株)	茨城県土浦市常名 4016-39 (自宅)	Tel 0298-23-6918
土井 正	東京都立産業技術研究所	北区西ヶ丘 3-13-10	Tel 03-3909-2151 Fax 03-3909-2270

## 報道

氏名	会社名	連絡先住所	電話・FAX
佐藤 陽二 浅川 元伸	表面技術ジャーナル社	千代田区神田佐久間町 河岸70	Tel 03-3851-0695 Fax 03-3851-0695
小野 俊行	産業通信(株) 『日本鍍金新報』	中央区日本橋小伝馬町 19-2	Tel 03-3662-8736 Fax 03-3661-7317
佐藤 英男	日本表面処理工業新聞社	埼玉県越谷市西方 3440-1-2-108	Tel 0489-66-0901 Fax 0489-66-0901
伊藤 卓夫 関 久司	東京鍍金材料協同組合 『鍍金の世界』	中央区日本橋茅場町 2-13-8	Tel 03-3666-2416 Fax 03-3666-3114
須崎 秀喜	スザキ企画 『組合広報』	千葉県市川市柏井町 2-1419-4	Tel 0473-38-1222 Fax 0473-38-1222

# 正会員

会社名 (有)朝日鍍金工場

代表者 遠藤 清

住所 〒132-0025 江戸川区松江4-20-11

TEL 03-3653-3431 FAX 03-3652-2225

会員名 専務取締役 遠藤 清孝

趣味 ゴルフ, 旅行, 書道, 将棋

業種 めっき加工業

営業種目 電気亜鉛めっき, 溶融亜鉛めっき, ステンレス酸洗処理

営業品目 建築部品, 自動車部品, 電気部品

特色 電気亜鉛めっき, 長尺物 7mまで, 重量物 1tぐらいのものまでできます。

会社名 (株)東電工舎

代表者 山田英佐夫

住所 〒130-0001 墨田区吾妻橋3-10-9

TEL 03-3622-8111 FAX 03-3622-8107

会員名 代表取締役 山田英佐夫

趣味 囲碁, おじさんバンド

業種 電気めっき業

営業種目 銅, ニッケル, クロムめっき

営業品目 工業用クロムめっき

特色 量産不可。銅, クロムの厚付け。

会社名 足立工業(株)

代表者 石川 和男

住所 〒120-0023 足立区千住曙町22-8

TEL 03-3881-6138 FAX 03-3800-6130

会員名 代表取締役 石川 和男

趣味 猎猟, 釣り

業種 電気めっき加工業

営業種目 銅, ニッケル, クローム, 黒クローム, サチライト, トワエライト, 貴金属, ブロンズ, プラスチック, ベロア, 銅・錫半田めっき

特色 1. 亜鉛およびアルミダイカスト上の電気メッキに独特の技術を有しており, また取扱品も多岐にわたっている。2. 大型, 中型建築用部品の塗装およびフープ自動メッキで精度良好なメッキを得意としている。

会社名 (株)アベックスワールド 代表者 森 克夫  
住所 〒341-0035 埼玉県三郷市鷹野4-31-6  
TEL 0489-55-1131 FAX 0489-55-1135

会員名 代表取締役社長 森 克夫 趣味 読書, ゴルフ  
業種 ケミカルポンプ総合販売会社  
営業種目 一般ポンプ, ケミカルポンプの販売  
ワールドケミカル東日本総販売会社  
特色 電子産業に関するプリント基板製造工程に於けるスプレーポンプは約80~90%のシェアを持つ。又、関連して化学薬品を使用する装置、廃水処理など多業種にも使用。特に自吸式ポンプに特長がある。

---

会社名 有いわき製作所 代表者 新井 英士  
住所 〒134-0084 江戸川区東葛西9-23-1(株)新井鉄工所内  
TEL 03-3680-6171 FAX 03-3687-3010

会員名 工場長 新井嘉喜雄 趣味 ハイキング, 釣り, ゴルフ  
業種 電気めっき業  
営業種目 亜鉛, 銅  
営業品目 油井管継手のめっき

---

会社名 上村工業(株) 代表者 上村 寛也  
住所 〒111-0054 台東区鳥越1-1-2  
TEL 03-3862-7431 FAX 03-3864-6340

会員名 営業部次長 阿保 裕 趣味 ゴルフ, キャンプ  
業種 表面処理薬品、装置の製造販売  
営業種目 研磨材料、装飾機能前後処理剤、電子PWB処理薬品  
営業品目 表面処理用添加剤、表面処理装置  
特色 表面処理用薬品、装置のトータルコーディネーターを目指す。

---

会社名 (株)上村正商店 代表者 上村 正  
住所 〒114-0001 北区東十条3-8-13  
TEL 03-5390-2871 FAX 03-5390-2875

会員名 取締役副社長 上村 福子 趣味 ゴルフ、長唄(三味線)  
業種 表面処理材料商  
営業種目 研磨材料、化学工業薬品、鍍金用非鉄金属  
営業品目 鍍金用機械器具設備一式

---

会社名 株梅田鍍金工業所 代表者 永田 一雄  
住所 〒123-0851 足立区梅田3-16-1  
TEL 03-3880-1271 FAX 03-3889-8530

会員名 代表取締役 永田 一雄 趣味 パソコン, 車, カメラ  
業種 電気めっき業  
営業種目 亜鉛, 亜鉛-鉄合金, 銅, ニッケル, 代用クローム, 真鍮, 黒ニッケル, ブロンズ処理, ガラスセラミックス処理, ベーキング処理  
営業品目 自動車部品, 弱電, 建築, 雑貨  
特色 防錆用亜鉛の高耐食化, 装飾カラー着色処理

---

会社名 荘原ユージライト(株) 代表者 追川 三蔵  
住所 〒110-0015 台東区東上野2-18-8  
TEL 03-3833-0321 FAX 03-3833-5075

会員名 東京支店課長 上野 啓司 趣味 ゴルフ  
業種 表面処理薬品・装置及び関連器材の製造販売  
営業種目 前後処理剤, 銅・ニッケル・クロム・亜鉛めっき薬品, 合金めっき・無電解めっき薬品, カチオン電着塗装薬品, 半導体・電子部品用めっき薬品, プリント基盤用めっき薬品, 電磁波シールド薬品, 全自動めっき装置・省力化機器  
特色 各種処理プロセスと処理設備の総合表面処理機材メーカー。

---

会社名 株大沢鍍金工業所 代表者 大沢 俊孝  
住所 〒144-0033 大田区東糀谷6-3-1  
TEL 03-3744-6751 FAX 03-3744-6753

会員名 代表取締役 大沢 俊孝 趣味 スポーツ全般, ナイフ収集  
業種 電気めっき業  
営業種目 亜鉛めっき, ハンダめっき  
特色 ウイスカーの出ない亜鉛めっきを得意としています。

---

会社名 太田鍍金工業(株) 代表者 太田 孜一  
住所 〒124-0014 葛飾区東四ツ木2-10-17  
TEL 03-3692-4560 FAX 03-3693-0020

会員名 代表取締役, 取締役 太田 孜一, 幸一 趣味 ゴルフ, 釣り  
業種 電気めっき業  
営業種目 亜鉛メッキ(回転・引掛), ユニクロ・クロメート・クロ・オリーブ  
特色 小物~大物 短尺~長尺出来ます。

---

会社名 大戸鍍研薬品(株) 代表者 大戸 勝博  
住所 〒116-0012 荒川区東尾久4-11-16  
TEL 03-3893-9521 FAX 03-3893-9475

会員名 大戸 勝博  
業種 金属表面処理資材の専門商社  
営業種目 1. めっき薬品と関連設備 2. 工場廃水処理工事, 設計施行請負 3. 産業廃棄物(汚泥)  
収集運搬処分  
特色 めっきの事なら何でも、一貫した強み!

---

会社名 (有)大森広尾鍍金工場 代表者 志田 逸作  
住所 〒143-0014 大田区大森中1-11-5  
TEL 03-3761-4946 FAX 03-3761-4991

会員名 専務取締役 志田 和陽 趣味 読書, 散歩  
業種 電気めっき業  
営業種目 亜鉛, 銅, ニッケル, クローム, 黒ニッケル, アルマイ特, ステンレスの酸洗, 研磨  
営業品目 廉房機器, 通信機器, 電気部品, 機械部品等  
特色 少量多品種の加工, 管理から量産品まで対応致します。

---

会社名 (株)オカダテックス 代表者 岡田 茂  
住所 〒278-0013 千葉県野田市上三ヶ尾261-9  
TEL 0471-24-4151 FAX 0471-25-6684

会員名 代表取締役 岡田 茂 趣味 ゴルフ  
業種 表面処理装置設計・製作  
営業種目 各種鍍金装置, 排ガス洗浄装置, 省力化機械

---

会社名 岡本金属工業(株) 代表者 岡本 博司  
住所 〒130-0002 墨田区業平1-5-12  
TEL 03-3622-1388 FAX 03-3622-8727

会員名 代表取締役 岡本 博司  
業種 電気めっき, 電着塗装(アニオン, カチオン)  
営業種目 ニッケル, クローム, 黒クローム, カチオン電着塗装(黒), 金色アニオン電着塗装, 白色  
アニオン電着塗装  
営業品目 自動車部品, 家庭事務機, アクセサリー, 建築金物, 機械部品, 弱電気部品  
特色 1. 数がこなせる。(クローム, 黒クローム, 電着塗装) 2. 耐食性を必要とする物ができる。  
3. 確実な納期と機動力による即配体制

---

会社名 奥野製薬工業(株) 代表者 奥野 和義  
住所 〒120-0865 足立区新田3-8-17  
TEL 03-3912-9244 FAX 03-3914-9241  
会員名 営業三課課長 糸井 喜一 趣味 ハイキング  
業種 鍍金工業薬品製造・販売  
営業種目 表面処理薬品 無電解ニッケルめっき, アルミニウム用処理薬品, プリント配線板処理薬品,  
電気めっき用薬品, プラスチックめっき用薬品 食品部門 無機質材料薬品

---

会社名 (有)籠利鍍金工業所 代表者 篠利 達郎  
住所 〒131-0045 墨田区押上3-40-7  
TEL 03-3612-4294 FAX 03-3612-7382  
会員名 代表取締役 篠利 達郎 趣味 音楽, テニス  
業種 アルマイド加工業  
営業種目 染色アルマイド加工一般  
営業品目 電子部品, 歯科医療器部品, 時計部品, etc  
特色 黒, ゴールドを始めとする十数色に及ぶ色調に対応。

---

会社名 神谷電化工業(株) 代表者 神谷 博行  
住所 〒124-0012 葛飾区立石2-18-8  
TEL 03-3695-1304 FAX 03-3695-1346  
会員名 代表取締役 神谷 博行 趣味 ソフトテニス, 釣り  
業種 電気めっき業  
営業種目 銅, ニッケル, クロム, 黒クロム, 代用金, 金  
特色 鉄, 真鍮, ステン, アルミ素材に鍍金する。重量物, 長尺物

---

会社名 (株)川本物産 代表者 中川 土郎  
住所 〒113-0021 文京区本駒込1-10-25  
TEL 03-3946-3201 FAX 03-3946-3210  
会員名 営業部次長 柳原 実  
業種 環境機械卸売業  
営業種目 測定器, ケミカルポンプ, 水処理関連機器

---

会社名 菊地鍍金工業 代表者 菊地 利夫  
住所 〒173-0013 板橋区氷川町20-1  
TEL 03-3962-9635 FAX 03-3962-9893  
会員名 菊地 利博 趣味 楽器、車  
業種 電気めっき業  
営業種目 銅、ニッケル、クロム、金、銀、錫、黒ニッケル、真鍮  
営業品目 コネクター、ガス配管用継手・カラン、徽章、メタル類、電源装置用部品、他  
特色 誠実と信頼をモットーに、お客様のニーズに応えてまいります。よろしくお願ひいたします。

---

会社名 キクヤピーエム(株) 代表者 小松 康宏  
住所 〒110-0015 台東区東上野1-28-9  
TEL 03-3832-6281 FAX 03-3832-1607  
会員名 営業部課長 小松田信雄 趣味 読書  
業種 表面処理、設備資材専門商社  
営業種目 研磨材料、化学工業薬品、非鉄金属  
営業品目 貴金属薬品、宝石化工資材、工具関係  
特色 省力機器、設備全般

---

会社名 木下電化工業(株) 代表者 木下 健次  
住所 〒131-0043 墨田区立花4-34-8  
TEL 03-3613-0646 FAX 03-3613-0648  
会員名 代表取締役 木下 健次 趣味 ゴルフ、釣り  
業種 電気めっき業  
営業種目 回転 銅、ニッケル、黒ニッケル、代用金、真中メッキ、銅ブロンズ、真中ブロンズ、代用クローム

---

会社名 (株)栗田商店 代表者 栗田 光章  
住所 〒130-0025 墨田区千歳1-3-5  
TEL 03-3631-9101 FAX 03-3633-3811  
会員名 取締役社長 栗田 光章、二木 一郎  
業種 化学工業薬品卸売業  
営業種目 1. 化学工業薬品の製造販売 2. 鍍金用薬品の製造販売 3. 医薬品の販売 4. 化粧品の製造販売 5. 前各号に付帯する一切の業務

---

会社名 株黒須メッキ 代表者 黒須 吉雄  
住所 〒130-0024 墨田区本所2-1-22 TEL 03-3622-7215 FAX 03-3623-1741  
会員名 代表取締役 黒須 吉雄  
業種 電気めっき業  
営業種目 ニッケル、クローム、金属研磨一式  
営業品目 機械部品、自動車部品、ディスプレー  
特色 大物、小物なんでも相談に応じます。

---

会社名 光陽鍍金株 代表者 菊池 忠男  
住所 〒124-0001 葛飾区小菅3-15-11 TEL 03-3602-6815 FAX 03-3603-1718  
会員名 代表取締役 菊池 忠男 趣味 旅行、園芸、アウトドアースポーツ  
業種 電気めっき業  
営業種目 亜鉛めっき専門、ユニクロ、有色クロメート、黒クロメート、グリーンクロメート  
営業品目 自動車部品、電気部品、小型ポンベ、スプリング、事務機他

---

会社名 (株)コサク 代表者 小西 陽夫  
住所 〒120-0033 足立区千住寿町9-11 TEL 03-3882-6111 FAX 03-3881-1310  
会員名 代表取締役社長 小西 陽夫  
業種 表面処理関連薬品及び設備の販売  
営業種目 各種めっき液、めっき設備、めっき前後処理設備、めっき公害設備、非鉄金属、貴金属、工業薬品の販売、銅張積層板、ドライフィルム他プリント基盤製造用関連薬品  
特色 エレクトロニクスと表面処理の材料並びに設備の総合コンバーター

---

会社名 株小嶋メッキ工業所 代表者 小嶋喜代治  
住所 〒111-0053 台東区浅草橋5-10-10 TEL 03-3851-5870 FAX 03-3851-5882  
会員名 専務取締役 小嶋 摂郎 趣味 テニス、将棋、パソコン  
業種 電気めっき業  
営業種目 金、銀、ロジウム、パラジウム、ニッケル他  
営業品目 洋食器、アクセサリー、ボタン他

---

会社名	(有)小島鍍金工業所	代表者	小島 君男
住所	〒120-0041 足立区千住元町27-16		
	TEL 03-3881-2858 FAX 03-3881-2863		
会員名	小島 一浩	趣味	ゴルフ, 天体観測
業種	電気めっき業		
営業種目	めっき種類—ロジウム, 金, 銀, 銅, ニッケル		
営業品目	主な加工品—優勝カップ		
会社名	近藤耐酸槽(株)	代表者	近藤 澄男
住所	〒116-0014 荒川区東日暮里1-11-8		
	TEL 03-3806-1711 FAX 03-3806-1714		
会員名	代表取締役社長 近藤 澄男	趣味	乗馬, 山歩き, 料理
業種	鍍金設備製造		
営業種目	自動鍍金設備, 表面処理関連設備, 鍍金用付属機器, 小型バレル(コンプレーター)		
会社名	(株)三共	代表者	山田 茂
住所	〒114-0024 北区西ヶ原4-49-7		
	TEL 03-3949-7741 FAX 03-3949-7909		
会員名	代表取締役 山田 茂	趣味	旅行
業種	卸売及びメンテナンス業務		
営業種目	各種ポンプ, アノードパック, カートリッヂチューブ, 濾過機, 排水処理装置 等		
会社名	(株)三恵工業所	代表者	石川 潔
住所	〒116-0013 荒川区西日暮里5-1-18		
	TEL 03-3891-6718 FAX 03-3807-6244		
会員名	専務取締役 石川 雅一	趣味	ヨット, オーディオ
業種	アルマイ特表面処理加工		
営業種目	工業用硬質アルマイ特(JIS・H・8603) 工業用一般アルマイ特(JIS・H・8601)		
営業品目	半導体製造装置部品, 精密機器部品, 光学部品, 油圧・空圧機部品, 自動車部品他		
会社名	(株)三進製作所	代表者	青山 奉枝
住所	〒170-0002 豊島区巣鴨1-9-11		
	TEL 03-3942-0251 FAX 03-3947-8291		
会員名	支店長 安藤 彰彦		
業種	排水クローズド設備全般, 濾過機全般		
営業種目	排水処理設備一式, イオン交換装置一式, 節水クローズド化システム, 濾過機各種, 化学用, 工業用, 食品用, 水用他, イオン交換樹脂引取り用システム一式		

会社名 (株)サンシンメンテナンス 代表者 斎藤 英夫  
住所 〒170-0002 豊島区巣鴨1-9-11  
TEL 03-3947-1551 FAX 03-3947-1770  
会員名 取締役社長 斎藤 英夫  
業種 ろ過機及び部品販売修理、改造工事施工

---

会社名 サンライト(株) 代表者 伊藤 賴夫  
住所 〒335-0005 埼玉県蕨市錦町1-13-12  
TEL 048-442-3810 FAX 048-445-5704  
会員名 営業部主任 笹川 孝司 趣味 サッカー、スキー  
業種 化学工業薬品製造  
営業種目 各種工業用洗剤製造  
特色 特に鍍金前処理剤に実績あり。

---

会社名 四国電機(株) 代表者 中井 俊晴  
住所 〒110-0005 台東区上野5-3-4  
TEL 03-3834-4596 FAX 03-3834-4598  
会員名 代表取締役 中井 俊晴 趣味 ゴルフ、コーラス、書道  
業種 金属表面処理設備、電源・計測器の製造販売  
営業種目 ○S E C方式直流電源 ○特殊波形用電圧・電流計 ○局部電流密度計

---

会社名 (株)シブヤ電機 代表者 渋谷 均  
住所 〒174-0065 板橋区若木1-9-15  
TEL 03-3935-7511 FAX 03-3550-5784  
会員名 代表取締役 渋谷 均 趣味 旅行、読書  
業種 鍍金設備、直流電源の設計・製造  
営業種目 鍍金装置、整流器、金属表面処理装置及びその周辺機器（自動制御盤）  
特色 時計、眼鏡フレーム等の貴金属多層めっき及びTi上めっき装置では最高の実績と評価あり。  
少量多品種混合生産装置等の自動制御に多数の実績を有する。

---

会社名 シルバーメッキ工業(株) 代表者 斎藤 和久  
住所 〒116-0011 荒川区西尾久7-16-7  
TEL 03-3800-3166 FAX 03-3800-3548  
会員名 専務取締役 斎藤 晴久 趣味 スキー、スノーボード、カーレース  
業種 電気めっき業  
営業種目 銅、ニッケル、クロム、金、銀、亜鉛、アロジン、Sn-Co  
営業品目 各種ダイカスト素地上表面処理（弱電、通信機器、光学機器、その他）  
特色 ダイカスト～加工～表面処理迄応じます。小物部品の寸法公差管理を得意としています。

---

会社名 新日本機械工業(株) 代表者 和沢 作平  
住所 〒162-0815 新宿区築土八幡町6-3  
TEL 03-3269-6681 FAX 03-3268-8564  
会員名 代表取締役 和沢 作平 趣味 ゴルフ  
業種 機械器具製造  
営業種目 金属・プラスチック表面処理装置、塗装装置、フープ鍍金装置、洗浄機、乾燥機

---

会社名 セテック(株) 代表者 瀬田 新二  
住所 〒123 足立区本木2-4-14  
TEL 03-3849-1155 FAX 03-3849-1177  
会員名 専務取締役 瀬田 保 趣味 スキー  
業種 電気めっき業  
営業種目 銅、ニッケルクロム、金色、ブロンズ、焼付塗装、硬質クロム  
営業品目 建築金物、精密機械部品  
特色 亜鉛ダイカスト素地への直接硬質クロムめっき

---

会社名 大日工業(株) 代表者 小倉 攻一  
住所 〒124-0011 葛飾区四ツ木5-16-11  
TEL 03-3691-9501 FAX 03-3691-9504  
会員名 代表取締役社長 小倉 攻一 趣味 ゴルフ  
業種 メッキ加工  
営業種目 ニッケル、金、プリント基板、無電解メッキ、エッチング金メッキ(無電解)

---

会社名 (株)タイホー 代表者 山口 勝治  
住所 〒332-0033 埼玉県川口市東領家2-37-18  
TEL 048-223-6786 FAX 048-223-7714  
会員名 営業部次長 今泉 勇 趣味 ゴルフ、音楽、ドライブ  
業種 金属表面処理剤製造販売  
営業種目 亜鉛めっき用前処理剤、光沢剤、後処理剤

---

会社名 高橋メッキ工業(有) 代表者 高橋 奎一  
住所 〒174-0051 板橋区小豆沢2-20-11  
TEL 03-3969-5481 FAX 03-3969-6165  
会員名 取締役 小林 俊明 趣味 つり  
業種 電気メッキ業  
営業種目 銅、ニッケル、クロム、金  
特色 真中、鉄、亜鉛ダイカストの素材を研磨、バレル、サンドブラスト後メッキ加工

---

会社名 立石電化(株) 代表者 狐塚 保之  
住所 〒124-0013 葛飾区東立石2-15-17  
TEL 03-3691-6285 FAX 03-3694-3406  
会員名 代表取締役 狐塚 保之  
業種 電気めっき業  
営業種目 無電解ニッケル, 黒ニッケル, 代用金, 錫, ニッケル, 合金, スズーコバルト・ニッケル・スズ合金  
営業品目 精密部品, 弱電部品, 玩具部品, 通信機  
特色 ベリリウム銅上Yカット(銅チタン合金)の無電解めっき, 又は電解ニッケルめっき

---

会社名 谷口ヒーターズ(株) 代表者 谷口 和美  
住所 〒141-0033 品川区西品川2-18-14  
TEL 03-3493-0450 FAX 03-3495-6965  
会員名 常務取締役 谷口 正実 趣味 野球観戦  
業種 電熱器具製造販売業  
営業種目 鍍金用ヒーター, 温度調節器, 乾燥機, ベーキング炉

---

会社名 (株)中央製作所 代表者 後藤 安邦  
住所 〒142-0041 品川区戸越3-1-18 第百生命ビル5F  
TEL 03-3788-1571 FAX 03-3788-5481  
会員名 営業部副主査 水谷 利勝 趣味 旅行, 他  
業種 電気機器製造販売  
営業種目 直流電源装置, 表面処理装置, 総合排水処理設備(環境機器), 抵抗溶接機, 電解バリ取り機  
特色 直流電源に於いては小容量から大容量までニーズに対応できます。

---

会社名 (株)中央メタル 代表者 仲俣 一三  
住所 〒131-0046 墨田区京島2-9-19  
TEL 03-3617-6000 FAX 03-3612-2144  
会員名 専務取締役 仲俣 雅行 趣味 ギター, 野球, スキー  
業種 電気めっき業  
営業種目 銅, ニッケル, 金色, クロム, 黒ニッケル, 各種ブロンズ, 研磨, 遠赤外線焼付塗装  
営業品目 照明器具, ディスプレー  
特色 ビス1本~長尺物マテめっき可

---

会社名 (株)綱島鍍金工場 代表者 綱島 清隆  
住所 〒141-0001 品川区北品川5-9-23  
TEL 03-3441-3697 FAX 03-3449-3697 (兼)  
会員名 代表取締役 綱島 清隆 趣味 切手集め、マジック  
業種 電気めっき業  
営業種目 ニッケル、クロム、銅、亜鉛、錫、パーカライジング、黒染  
営業品目 電鉄軌道部品、通信機工作機械試験機、遠心分離機  
特色 ステンレスのバシペーション及び大物ステンレス部品の酸洗い。少量・多種が可。

---

会社名 ディップソール(株) 代表者 五十嵐英郷  
住所 〒124-0025 葛飾区西新小岩3-22-2  
TEL 03-3694-2251 FAX 03-3694-3275  
会員名 E.Sセンター東京担当責任者 井原 保雄 趣味 山歩き、ゴルフ  
業種 表面処理薬品(製造販売)メーカー  
営業種目 表面処理薬品全般

---

会社名 (有)東京鍍金資材 代表者 笹 亘男  
住所 〒188-0004 田無市西原町3-7B-315  
TEL 0424-67-8455 FAX 0424-64-1718  
会員名 代表取締役 笹 亘男 趣味 写真、釣り  
業種 鍍金装置、廃水処理装置設備業  
営業種目 ○鍍金設備、廃ガス・廃水処理装置及び各種化学機械装置の設計及び設置工事 ○めっき技術及び汚水処理技術の指導 ○産業廃棄物の収集運搬及び処分

---

会社名 (株)トーテック 代表者 小谷野英勝  
住所 〒153-0064 目黒区下目黒2-13-7  
TEL 03-3493-0231 FAX 03-3779-5296  
会員名 専務取締役 坂手 保弘 趣味 バイクツーリング、スキー<sup>一</sup>  
業種 電気めっき業  
営業種目 錫、半田、金等  
営業品目 電子部品関係のコネクタなど。バレルめっき、引掛、フープ

---

会社名 トキワ(株) 代表者 小林 邦雄  
住所 〒110-0015 台東区東上野4-14-3  
TEL 03-3845-5811 FAX 03-3843-0909  
会員名 代表取締役 小林邦雄 趣味 旅行, ゴルフ  
業種 電気めっき業  
営業種目 ニッケル, クロム, 金色, 焼付塗装, 無電解ニッケル  
営業品目 時計枠, 照明器具部品, プリンター部品, プリンターシャフト, ビス・ナット部品  
特色 自社オリジナル金色色調, 徹底した品質管理。

---

会社名 内外ハイグラス(株) 代表者 竹ヶ原 攻  
住所 〒101-0044 千代田区鍛冶町1-6-17  
TEL 03-3256-4055 FAX 03-3256-4063  
会員名 代表取締役 竹ヶ原 攻 趣味 釣り, ゴルフ  
業種 鍍金設備製造業  
営業種目 鍍金槽(F・R・P), スクラバー(F・R・P), 排水設備全般

---

会社名 直海工業(株) 代表者 直海 弘明  
住所 〒125-0063 葛飾区白鳥1-4-10  
TEL 03-3693-3821 FAX 03-3694-6477  
会員名 代表取締役 直海 弘明 趣味 車, テニス, 麻雀  
業種 電気鍍金業  
営業種目 銅, ニッケル, クロム, 黒ニッケル, 金, 銀, ソフトニッケル, 白色すず合金めっき等  
営業品目 服飾用品(ベルトのバックル, 帆型, タイ止め等)  
特色 研磨から塗装まで, 多種類のめっきで応じます。

---

会社名 (有)繩田鍍金工業所 代表者 繩田 忠治  
住所 〒123-0851 足立区梅田5-11-5  
TEL 03-3887-1301 FAX 03-3852-1095  
会員名 専務取締役 繩田 敏治 趣味 ゴルフ, 書道  
業種 電気めっき  
営業種目 銅, ニッケル, クロム, 金色, 各種めっき  
営業品目 照明器具, ディスプレイ  
特色 大物(3m位)~小物まで。

---

会社名 日本パーカライジング(株) 代表者 里見 豊

住所 〒103-0027 中央区日本橋1-15-1

TEL 03-3278-4409 FAX 03-3278-4422

会員名 環境開発部課長 河合 昭彦 趣味 読書, 音楽鑑賞

業種 金属表面処理剤製造・販売

営業種目 1. 金属表面処理剤 2. 環境関連事業 3. 防錆, 热処理加工

---

会社名 日本表面化学(株) 代表者 柳川 司行

住所 〒162-0845 新宿区市谷本村町2-11 外濠スカイビル

TEL 03-3268-6881 FAX 03-3268-6646

会員名 課長 北浦 一元 趣味 旅行, 登山

業種 表面処理薬剤製造販売

営業種目 表面処理薬剤全般 廃水処理薬剤全般 廃水処理システム設計施工

---

会社名 日本プラント工業(株) 代表者 畠山 博之

住所 〒120-0015 足立区足立2-40-16

TEL 03-3852-1161 FAX 03-3852-1165

会員名 代表取締役会長 小室 昭進 趣味 麻雀, 皐月盆栽, 仕事

業種 表面処理設備トータルプランナー

営業種目 無電解めっき装置, 電気めっき装置, 塗装設備, アルマイド装置

特色 最高の技術, 最低の価格。362日, 24時間営業。

---

会社名 野上化学工業(株) 代表者 野上 榮一

住所 〒114-0012 北区田端新町1-11-13

TEL 03-3894-5195 FAX 03-3800-5195

会員名 野上 榮一

業種 電気めっき業

営業種目 ニッケルクローム, 黒クローム, 硬質クローム, 亜鉛, 合金亜鉛, 各種クロメート処理他

営業品目 自動車部品, 音響部品, 自転車部品, 雑貨

特色 かしめ用品多く物性高いニッケルクロームめっきに定評あり

---

会社名 長谷川鍍研資材(株) 代表者 長谷川達男

住所 〒110-0013 台東区入谷2-30-7

TEL 03-3872-1191 FAX 03-3872-1193

会員名 常務取締役 長谷川 徹 趣味 メタルキット作成, 釣り

業種 材料商

営業種目 メッキ・研磨材料設備一式

特色 御客様の利益を第一に考え, どの様な御要望にもお応えで来る様に日々努力しております。  
長年の経験と実績。

会社名	(有)ハルナ鍍研材	代表者	小松 克好
住所	〒125-0062 葛飾区青戸5-30-14		
	TEL 03-3601-2138 FAX 03-3601-4546		
会員名	代表取締役 小松 克好		
業種	表面処理資材販売業		
営業種目	メッキ薬品販売、研磨材料販売、メッキ装置販売、公害防止装置販売		
会社名	光鍍金工業(株)	代表者	内田サカエ
住所	〒179-0081 練馬区北町1-8-7		
	TEL 03-3934-0334 FAX 03-3931-7125		
会員名	常務取締役 内田 悅美	趣味	野球、サッカー観戦、ゴルフ
業種	電気めっき業		
営業種目	ニッケル、金、銀、銅、ロヂューム、パラジウム、銀古美、銅ブロンズ、他		
営業品目	アクセサリー、バッヂ、記章、ボタン、他装飾小物		
特色	めっきはもちろんのこと、図面さえいただければ、製作から完成品まで承っております。		
会社名	(株)ヒキフネ	代表者	石川 輝夫
住所	〒124-0014 葛飾区東四ツ木2-4-12		
	TEL 03-3696-1981 FAX 03-3696-4511		
会員名	取締役工場長 笠井 正夫	趣味	ゴルフ
業種	めっき加工		
営業種目	①銅、ニッケル、金、金色、黒ニッケル、ロジウム、代用ニッケル、代用ロジウム、等の装 飾めっき、②無電解ニッケル、テフロン複合めっき ③電鋳(ニッケル、金)		
会社名	福井精鍍工業(株)	代表者	大村 公二
住所	〒130-0011 墨田区石原2-8-13		
	TEL 03-3624-2751 FAX 03-3624-2754		
会員名	代表取締役 大村 公二	趣味	旅行、ドライブ、ゴルフ
業種	電気めっき業		
営業種目	各種回転めっき：電気Ni(光沢、半光沢、無光沢)、無電解Ni、すず(光沢、半光沢)、は んだ(半光沢)(Sn90%－Pb10%)、銅		

**会社名** 福井電化工業(株) **代表者** 福井 通祐  
**住所** 〒272-0126 千葉県市川市千鳥町11  
TEL 047-396-2331 FAX 047-396-2338

**会員名** 取締役副社長 福井 順子 **趣味** 読書, 音楽鑑賞  
**業種** 電気めっき業

**営業種目** 塗装, アルマイ特加工, スクリーン印刷, 転写印刷, 銅, ニッケルメッキ, 金めっき, 無電解ニッケルメッキ, 真鍮めっき, プロンズ加工, ニッケルアレルギー対策めっき, キリンス処理, マグネシウムの表面処理など

**営業品目** スポーツ用品部門(スキーポール, 金属バット) ボタン部門(金属ボタン) 新製品開発部門(事務用品金具, 鍵, 各種バルブ, 精密モールド類, 精密機械部品) その他(真鍮製品)

---

**会社名** 富士電機工業(株) **代表者** 三谷 隆昭  
**住所** 〒160 新宿区西新宿6-11-26桑野ビル3F  
TEL 03-3348-2811 FAX 03-3348-2708

**会員名** 取締役専務 内野 孝 **趣味** 車, 旅行  
**業種** 電気機器製造業

**営業種目** 整流器製造販売 超音波 節水器 直流積算計

---

**会社名** 平和工業(株) **代表者** 内藤 雅文  
**住所** 〒143-0003 大田区京浜島2-2-4  
TEL 03-3790-1031 FAX 03-3790-2828

**会員名** 専務取締役 内藤 隆夫 **趣味** 読書  
**業種** プラスチック成形品へのめっき, プラスチック射出成形

**営業種目** 銅, ニッケル, クロム, 金, 錫コバルト, 錫ニッケル

**営業品目** 自動車外装品, 家電部品, 電子部品, アミューズメント部品等

**特色** 金型製作, 射出成形, めっき等表面処理, 細付け等プラスチック製品の一貫生産体制を有する。

---

**会社名** 保坂鍍金(有) **代表者** 保坂 清文  
**住所** 〒340-0013 埼玉県草加市松江町413  
TEL 0489-31-5444 FAX 0489-35-7444

**会員名** 専務取締役 保坂 晃一 **趣味** ゴルフ  
**業種** 電気めっき業

**営業種目** バレル専門 ニッケル, 銅, 真鍮, 黒ニッケル, スズコバルト, 代用金, 各種プロンズ

---

**会社名** (株)三ツ矢 米沢工場 **代表者** 草間 英一  
**住所** 〒992-1128 山形県米沢市八幡原1-1-14  
TEL 0238-28-7191 FAX 0238-28-7197  
**会員名** 取締役工場長 草間誠一郎  
**業種** 電気めっき業  
**営業種目** 金, 銀, ニッケル(光沢, 無光沢), パラジウム, ロジウム, 亜鉛, 半田(光沢, 無光沢),  
錫, 無電解ニッケル, アルミニウム, 銅合金の酸化皮膜生成, パッシベート処理, フープ  
(金, 銀)めっき, フープ(半田)めっき, アルマイド  
**特色** 五反田工場, 八王子工場, 甲府工場, 米沢工場にて多種多様のめつきに対応いたします。  
(本社・五反田工場〒141 品川区西五反田3-8-11 TEL 03-3492-7191 FAX 03-3490-7508)

---

**会社名** ミナモト電機株 **代表者** 梅田源次郎  
**住所** 〒134-0003 江戸川区春江町4-19-49  
TEL 03-3652-8866 FAX 03-3652-8893  
**会員名** 梅田 高広  
**業種** 工業用電熱器製造  
**営業種目** 液中用各種ヒーター(石英ガラス, ステンレス, チタン, テフロン等)自動温度調節器 乾燥機(箱型, コンベア式等)熱風発生器 温度測定センサ

---

**会社名** (株)三宅静男商店 **代表者** 三宅 博  
**住所** 〒130-0023 墨田区立川2-3-7  
TEL 03-3631-7681 FAX 03-3631-9307  
**会員名** 三宅 直  
**業種** 化学工業薬品と非鉄金属の販売, 材料商  
**営業種目** 化学工業薬品の製造及び販売, 非鉄金属の販売

---

**会社名** (有)都鍍金工業所 **代表者** 堀米 伸一  
**住所** 〒111-0622 台東区清川1-9-11  
TEL 03-3872-3494 FAX 03-3872-4296  
**会員名** 取締役 堀米 伸一  
**業種** 電気めっき  
**営業種目** 錫, ニッケル, 亜鉛, クローム  
**営業品目** 包装機械部品, 電源装置部品  
**特色** 錫めっき槽1800リットル

---

会社名 明盛鍍金工業(株) 代表者 高倉 利守  
住所 〒141-0033 品川区西品川1-10-14  
TEL 03-3491-5954 FAX 03-3779-2671  
会員名 代表取締役 高倉 利守  
業種 電気めっき業  
営業種目 銅ニッケルクロム、亜鉛〔無色有色(黒、オリーブ)クロメート〕銀、金、無電解めっき  
営業品目 強電部品、電子電気部品、機械部品  
特色 金、銀と無電解で又アルミ上ステンレス上のメッキ。ニッケルボロンとニッケルテフロンの  
メッキ。

---

会社名 メルテックス(株) 代表者 川島 利夫  
住所 〒103-0004 中央区東日本橋2-28-5協和ビル6F  
TEL 03-3865-0151 FAX 03-3865-2105  
会員名 東京営業所所長 小林 理一  
業種 めっき関連薬品製造メーカー  
営業種目 プリント配線板処理薬品、無電解ニッケルめっき、電磁波シールドプロセス、各種ハクリ剤、  
その他  
特色 めっき薬品総合メーカー

---

会社名 八幡鍍金工業(株) 代表者 八幡 順一  
住所 〒132-0035 江戸川区平井5-20-9  
TEL 03-3617-7707 FAX 03-3617-7709  
会員名 代表取締役 八幡 順一 趣味 馬券収集  
業種 電気めっき業  
営業種目 銅、ニッケル、クロム、金色、黒ニッケル、銅ブロンズ、真中ブロンズ、黒クロム、無電解  
ニッケル、テフロン複合ニッケル、金めっき、焼付塗装  
営業品目 文房具、ディスプレー、袋物、雑貨  
特色 短納期

---

会社名 株山晴 代表者 今泉 好隆  
住所 〒116-0014 荒川区東日暮里1-37-5  
TEL 03-3801-2012 FAX 03-3801-2190  
会員名 代表取締役 今泉 好隆 趣味 スキー、ゴルフ、ダンス、旅行  
業種 電気めっき業  
営業種目 ニッケル、クロム、スズ、ハンダ、ステンレス処理  
営業品目 パソコン部品、通信機部品、OA機器部品

---

**会社名** ユケン工業株                   **代表者** 大塚 昌夫  
**住所** 〒146-0095 大田区多摩川1-18-3  
            TEL 03-3759-5291   FAX 03-3759-5297  
**会員名** 東京営業所所長 小島 憲和                   **趣味** 野球  
**業種** 鍍金薬品製造メーカー  
**営業種目** 脱脂剤(パクナシリーズ), 光沢剤(メタスシリーズ) 製造販売

---

**会社名** (有)横井電気メッキ工場                   **代表者** 横井香代子  
**住所** 〒111-0042 台東区寿2-8-13  
            TEL 03-3841-1514   FAX 03-3841-4058  
**会員名** 専務取締役 横井 紀一                   **趣味** 音楽, 競馬, 等  
**業種** 電気めっき業  
**営業種目** 金, 銀, ロジウム, 古美, 黒ニッケル他, 各種表面処理  
**営業品目** 神仏具, 装身具, 装飾品, 医療器, 雑貨など  
**特色** 少量多品種の品物等, 受けたまわります。

---

**会社名** 吉野電化工業株                   **代表者** 吉野 寛治  
**住所** 〒343-0813 埼玉県越谷市越ヶ谷5-1-19  
            TEL 0489-66-1111   FAX 0489-65-9999  
**会員名** 代表取締役 吉野 寛治                   **趣味** ゴルフ, クラシック音楽  
**業種** 電気めっき業  
**営業種目** 各種樹脂めっき, 電磁波シールドめっき, 硬質クロムめっき, アルミ上の無電解めっき, クロムめっき, 貴金属めっき, ガラスセラミック上のめっき, 高周波熱処理, イオン窒化処理, 研磨, 塗装, スクリーン印刷

## 編集後記

「学歴なんかきれいに棄ててしまって真黒になつて働いている戦後の業界の青年層の総けつ起は全くすばらしい。にも拘わらず、その努力が自家営業の線に膠着して業界の問題から遊離している。それは斯業にクラスメートが皆無なために依るのである。

だからメッキを愛する熱意の同志としての会合が要望されることも久しかったところ、機運遂に熟して11月15日正午を期し、小石川後楽園の涵徳亭旧水戸藩中屋敷のビードロ茶屋に於て快活な同志の顔合せが行なわれた。…………」創立20周年記念誌「十日会20年の回顧」の第1ページ目の文章の一部であります。くしくも我の大先輩である福井さん、吉川さんが寄稿文の中で創立時の事を書かれておられます。何の基盤も持たない任意の団体が50年もの長い間活動を継続してきた要因はいろいろあると思いますが、諸先輩方々が、この十日会の第一歩を忘れずに活動してきた事も一つの要因であると思われます。現在では会員の大部分は当時の事情を記念誌を通じてしか知る術がありません。「温故知新」—故きを温ねて新しきを知るー。この言葉の示すように、十日会がこれからも発展、継続していくために記念誌を発行するという事は重要な意義を持ちます。50周年記念誌を発行するに当たりこの事を念頭に努力してきたつもりであります。そして将来、60周年記念誌を編さんするに際し、この50周年記念誌が「温故知新」の礎となる事を期待してやみません。

今までの記念誌と同様、この記念誌も印刷、製本を除いて全て編集委員の手造りによるものです。不備な点は多々あるかと思いますが、委員の熱意と努力に免じてご容赦の程お願い申し上げます。

最後になりましたが、十日会の事を暖かい目で見守って下さっている事がひしひしと感じてくる寄稿文を書いて下さった業界諸先輩の方々、十日会の将来は安泰と思わせる寄稿を寄せて下さった現役役員の方々、そして貴重な資料や写真を貸与して下さった会員並びに報道関係の方々に深甚なる感謝の意を表し編集後記とさせていただきます。

### ●十日会創立50周年記念誌編集委員会

委員長 繩田 敏治  
副委員長 菊地 利博  
委員 山田英佐夫  
遠藤 清孝  
大沢 俊孝  
仲俣 雅行  
斎藤 晴久  
保坂 晃一  
上村 福子  
志田 和陽  
内田 悅美  
梅田 高広  
小島 一浩  
二木 一郎

事務局 志賀 孝作





## **十日会創立五十周年記念誌**

非売品

平成10年10月15日 印刷

平成10年11月8日 発行

発行所 東京都文京区湯島1-11-10

**日本鍍金協会 十日会**

題字 福井通祐氏揮毫

印刷所 株式会社 東神堂









